日野市気候市民会議
実施の記録

2024年3月

－ 目 次 －

I 日野市気候市民会議の概要 1

1 背景・目的 1
2 実施体制 2
3 実施状況 2
4 参加者の選定方法 4
5 グループの編成方法 8
6 連絡や情報共有の方法 8

II 各回の会議の概要とグループワークの結果 9

1 第1回会議 9
2 第2回会議 20
3 第3回会議 34
4 第4回会議 46
5 第5回会議 57

III 提言書の作成過程 59

1 提言書の構成と作成方法の基本的な考え方 59
2 提言書の作成の流れ 60
3 提言書（素案）をもとにした投票の概要 61
4 提言書（案）に対する意見の募集の概要 63
5 提言書の内容の変遷 65

IV アンケートの概要と結果 98

1 アンケートの概要 98
2 アンケートの結果 99

V 日野市気候市民会議からの提言 118

1 日野市気候市民会議の提言を受けた日野市の動き 118
2 日野市気候市民会議からの提言（提言書より） 118

Ⅰ 日野市気候市民会議の概要

1 背景・目的

近年、世界中で地球温暖化が原因とみられる極端な気象現象や様々な災害が確認されるようになりました。日野市に大きな被害をもたらした令和元年東日本台風（台風第 19 号）についても、強い勢力を保ったまま北上した要因のひとつとして、地球温暖化による海水温の上昇があげられています。このように、地球温暖化の脅威は身近なところまで迫っているといえます。

このようななか、2015 年にフランスで開催された国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）において「パリ協定」が採択され、今世紀後半までに地球全体での温室効果ガスの排出を実質ゼロとする目標が共有されました。

日野市においても、身近に迫る地球温暖化の影響を少しでも軽減し、市民が快適な生活を享受できる環境を作るため、2050 年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロとすることを 2022 年に表明しました。この目標は、地域の活動の総体として二酸化炭素の排出を実質ゼロ（カーボンニュートラル）とするものであり、市民、事業者、行政それぞれが課題や目標を共有し、協調する地域体制を作らなければ、実現し得ないものです。

日野市には、「諸力融合」※1という言葉があります。この言葉には、日野市の未来への責任を共有するすべての人や団体【諸力】が、互いの立場を尊重しながら協力し、それぞれが持つ力をつなげていく【融合】ことで、1 つの大きな力となって困難を乗り越え「可能性に満ちた未来を切り拓いていきたい」という想いが込められています。

日野市気候市民会議は、この「諸力融合」のひとつとして、カーボンニュートラルシティ HINO の実現に向けた市民、事業者、行政それぞれの取り組みをとりまとめるために開催しました。この会議でとりまとめられた取り組みをもとに、カーボンニュートラルシティ HINO の実現に向けた政策を進めていきたいと考えています。

【気候市民会議とは】

気候市民会議とは、ランダム（無作為）に選ばれた市民が複数回の会議に参加し、科学的知見を得ながら議論を重ね、気候変動対策をとりまとめるものです。2019 年以降、欧州を中心に世界各地の国や地方自治体で開催されています。

参加者を無作為に選ぶことで、その地域の社会の縮図を作って議論を重ねることができ、特定の業界や利害関係者の影響を受けずに、多様な市民の意見を反映した、広く受け入れられやすく効果が大きい気候変動対策をとりまとめることができると考えられています。

※1 諸力融合：大坪市長が 2014 年度の所信表明で使用した造語

2 実施体制

参加者：無作為に選ばれた 40 名の日野市民

アドバイザー：

江守 正多 氏（東京大学 未来ビジョン研究センター 教授／（国研）国立環境研究所 上級主席研究員）

三上 直之 氏（名古屋大学 大学院 環境学研究科 教授）（登壇当時　北海道大学　高等教育推進機構高等教育研究部　准教授）

主　催：日野市 環境共生部 環境保全課

事務局：アオイ環境株式会社

グループファシリテーター：日野市職員

グループサブファシリテーター：実践女子大学学生、インターン生

3 実施状況

(1) 各回のテーマ

日野市気候市民会議は、5 回に分けて行いました。第 1 回は、会議の進め方などを共有するためのオリエンテーションとして位置づけました。第 2 回から第 4 回にかけては、モノ、モビリティ、エネルギーという 3 つのテーマを設け、取り組みの現状を学び、市民、事業者、行政の取り組みを議論する回として位置づけました。第 5 回は、第 1 回から第 4 回までの議論の結果を振り返り、提言書の内容をまとめるための回として位置づけました。

各回のテーマを以下に示します。

各回のテーマ

回	テーマ	趣　旨
第 1 回	オリエンテーション	・日野市気候市民会議の進め方を共有する ・気候変動の現状を学ぶ ・参加者同士で意見を共有する ・参加者の疑問点を解消する
第 2 回	モノに関わる カーボンニュートラル	3 つのテーマに分けて以下を行う ・カーボンニュートラルの取り組みの現状を学ぶ ・カーボンニュートラルに向けた市民、事業者、行政の取り組みを議論する
第 3 回	モビリティに関わる カーボンニュートラル	
第 4 回	エネルギーに関わる カーボンニュートラル	
第 5 回	提言書の内容のまとめ	・第 1 回から第 4 回までの議論の結果を振り返る ・提言書の内容をまとめる

(2) 各回の日時・場所、協力者

日野市気候市民会議の各回の日時・場所、協力者を以下に示します。

各回の日時・場所、協力者の情報

回	日時・場所	協力者（アドバイザー・情報提供者）
第１回	2023 年 ８月６日（日） 13:15～17:15 イオンモール 多摩平の森	【アドバイザー】 江守 正多 氏 東京大学 未来ビジョン研究センター 教授 （国研）国立環境研究所 上級主席研究員 三上 直之 氏 北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部 准教授 （現在：名古屋大学 大学院 環境学研究科 教授）
第２回	2023 年 ９月３日（日） 13:15～17:15 日野市役所	【情報提供者（専門家）】 山口 真奈美 氏 （一社）日本サステナブル・ラベル協会 代表理事 【情報提供者（地域の事業者）】 （株）セブン－イレブン・ジャパン 日野市資源リサイクル事業協同組合
第３回	2023 年 10 月１日（日） 13:15～17:15 日野市役所	【情報提供者（専門家）】 井原 雄人 氏 早稲田大学 スマート社会技術融合研究機構 電動車両研究所 研究院客員准教授 【情報提供者（地域の事業者）】 日野自動車（株） 佐川急便（株）
第４回	2023 年 11 月５日（日） 13:45～17:45 多摩動物公園	【情報提供者（専門家）】 磐田 朋子 氏 芝浦工業大学 副学長（システム理工学部 環境システム学科 教授） 【情報提供者（地域の事業者）】 東京ガス（株） 富士電機（株）
第５回	2023 年 12月10日(日) 13:15～17:15 日野市役所	【情報提供者（専門家）】 山本 良一 氏 東京都公立大学法人　理事長 東京大学名誉教授

4 参加者の選定方法

(1) 参加候補者の選出

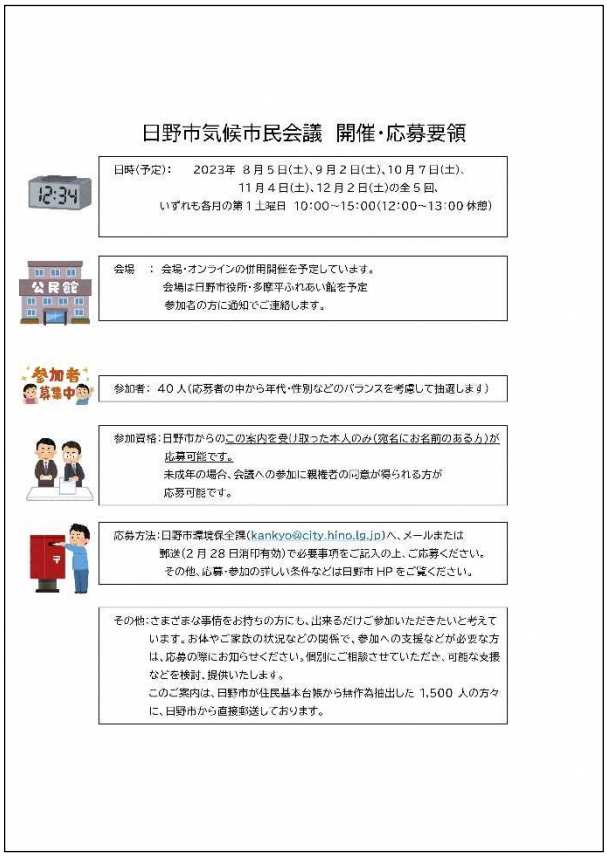
日野市気候市民会議の参加候補者は、日野市住民基本台帳から無作為抽出をした後、抽出した方へ参加希望を確認する方法により選出しました。その際、気候変動問題に関心がない方も参加者に含まれるようにすることを狙い、会議1回当たり3,000円（クオカード）の謝礼を提示しました。

なお、1回目の選出では定員40名に達しなかったため、候補者の選出は計2回行いました。

参加候補者の選出の過程を以下に示します。

参加候補者の選出の過程

回	無作為抽出の方法	参加希望の確認方法	参加候補者の選出結果
1回目	・2022年11月15日時点で市内在住、2023年4月1日時点で満16歳以上となる1,500名を抽出 ・年代・性別構成は、日野市住民基本台帳を用いて、市の人口統計に合わせた構成となるように設定 ・また、15歳以下の人口分は16～19歳と20～25歳に半数ずつ振り分け	抽出した方全員へ、2023年1月18日に会議の概要を示したリーフレットを郵送し、参加希望を郵送で確認	回答があった9名を候補者として選出
2回目	・2022年11月15日時点で市内在住、2023年4月1日時点で満16歳以上となる3,000名を抽出 ・年代・性別構成は、日野市住民基本台帳を用いて、市の人口統計に合わせた構成となるように設定 ・ただし、1回目で選出した候補者の年代・性別区分ごとの人数を差し引いて割合を調整 ・また、15歳以下の人口分は16～19歳と20～25歳に半数ずつ振り分け	抽出した方全員へ、2023年3月17日に会議の概要を示したリーフレットを郵送し、参加希望を郵送とWEBフォームで確認	回答があった145名を候補者として選出



日野市気候市民会議　開催・応募要領

日時(予定)：　2023年 8月5日(土)、9月2日(土)、10月7日(土)、
11月4日(土)、12月2日(土)の全5回、
いずれも各月の第1土曜日 10:00~15:00(12:00~13:00 休憩)

会場　：会場・オンラインの併用開催を予定しています。
会場は日野市役所・多摩平ふれあい館を予定
参加者の方に追知でご連絡します。

参加者：40人(応募者の中から年代・性別などのバランスを考慮して抽選します)

参加資格：日野市からのこの案内を受け取った本人のみ(宛名にお名前のある方)が応募可能です。
未成年の場合、会議への参加に親権者の同意が得られる方が応募可能です。

応募方法：日野市環境保全課(kankyo@city.hino.lg.jp)へ、メールまたは
郵送(2月28日消印有効)で必要事項をご記入の上、ご応募ください。
その他、応募・参加の詳しい条件などは日野市HPをご覧ください。

その他：さまざまな事情をお持ちの方にも、出来るだけご参加いただきたいと考えています。お体やご家族の状況などの関係で、参加への支援などが必要な方は、応募の際にお知らせください。個別にご相談させていただき、可能な支援などを検討、提供いたします。
このご案内は、日野市が住民基本台帳から無作為抽出した 1,500 人の方々に、日野市から直接郵送しております。

日野市気候市民会議

今、地球は気候危機にあるといわれています。

なにが起こっているのか
私たちは何をすべきか
こうなってほしいという願いを
学び、考え、話し合いませんか？

残された時間は、あとわずかです

1回目に送付したリーフレット

TRANSFORMING OUR WORLD
SDGs IN ACTION HINO

日野市は2050年までにCO2カーボンの暮らしができる地域の実現を目指しています

8月～12月
全5回の会議です
※1回ごとに3000円分のQUOカードを参加頂いた方にお渡しします

日野市
気候市民会議
参加者募集

日野市の未来をいっしょに創ろう

気候市民会議
ランダムに選ばれた市民の皆さんが、地球温暖化に対して何ができるか話し合う会議です。ヨーロッパで広がっている取り組みであり、所沢市や武蔵野市で行われるなど日本国内でも広まりつつあります。日野市でも、気候変動に詳しい大学の先生などのお話を聞きながら、市民一人ひとりの意識や行動を変えていくため、何ができるかを考え、話し合います。

フランス気候市民会議（Convention Citoyenne pour le Climat）より

いま地球は〝持続できる未来〟への分岐点
地球温暖化は今この瞬間も進み続けています。
このままだと、地域の自然や生態系も維持できず、我々の健康的な生活、生命や財産を脅かすような危機の状況に至ります。
地球は今、人間が暮らしていける環境を維持できるかの分岐点にあります。
緑豊かな地域、地球に住み続けたいと思うなら、気候市民会議に参加しませんか？

あなたの声が
日野市の政策に！

参加を希望される方・申し込みの方法について
スマートフォンからの申し込みは右のQRコードから、その他の方法は裏面をご参照ください。
(注意)　※メンバーは参加希望者のうち各世代・性別ごとに抽選で選ばれます。
抽選結果は5月末までにご連絡させていただきます。

申し込みはこちらから

▲申込メール作成

問い合わせ先：日野市環境保全課 気候市民会議担当　大平
電話番号：042-514-8294　FAX:042-581-2516
Eメール：kankyo@city.hino.lg.jp

【締め切り】
5/8日まで

詳細は裏面をご参照ください

日野市気候市民会議の詳細について

会議日程と会議の流れについて

会議日程（全5回開催）は以下のとおりです。
2023年 8月6日(日)、9月3日(日)、10月1日(日)、11月5日(日)、12月10日(日)（予定）
各日3～4時間（1時間ごとに休憩予定）
※午前～午後に係るときもございます。お昼休憩1時間
なるべく全ての会議にご参加可能な方のご応募をお待ちしております。

会場と参加方法について

会場での参加とオンライン参加の併用開催を予定します
会場は**日野市役所**および**多摩平ふれあい館**ほか、市内の公共施設を中心に開催する予定です。
・参加者の方には個別に通知でご連絡いたします。
・事前にどちらかを選択する必要はありません、ご都合に合う方法でご参加ください。

参加メンバーについて

日野市から送るこの通知の宛名ご本人様のみが応募可能です。
・宛名以外のご家族の方等の応募はできません。
・未成年（18歳未満）の方は、会議の参加について親権者の同意を得られれば応募が可能です。（同意書等は必要ありません）
・参加メンバーは40名で性別、年齢等により参加枠が設定されています。応募のあった方の中から、条件・バランスなどを考慮し、抽選いたします。
・特に、気候や環境に関する知識などは参加条件ではありません。

謝礼（QUOカード）について

1回の参加毎に**3000円分のQUOカード**を謝礼として進呈致します。
・オンライン参加の方にも謝礼はお渡しいたします。
・1回の参加ごとに3000円分、5回の会議全てに出席した場合、総額15,000円分のQUOカードになります。
・途中参加、途中退席された方には、お渡しできない場合がございます。
・参加にあたっての交通費、食事代等は支給できません。

応募方法について　（スマートフォンからのお申し込みは裏面のQRコードからお願いします。）
参加を希望される方は、メールまたは郵送（5月8日消印有効）で必要事項をご記入の上、ご応募ください。
kankyo@city.hino.lg.jp　上記の日野市環境保全課のメールアドレスへ**メールまたは住所へ郵送**
〒 191-8686　（5月8日消印有効）で必要事項をご記入の上、ご応募ください。
日野市神明1－12－1
日野市役所　環境保全課　※その他、応募・参加の詳しい条件などは日野市HPをご覧ください。

※さまざまな事情をお持ちの方にも、出来る限りご参加いただきたいと考えています。
お体やご家族の状況などの関係で、参加への支援が必要な方は、応募の際にお知らせください。個別にご相談させていただき、可能な支援などを検討、提供いたします。
※この案内は、日野市が住民基本台帳から無作為抽出した4,500人の方に、日野市から直接郵送しております。

1910　1930　1950　1970　1990　2010

2回目に送付したリーフレット

リーフレットの送付数

属　性		1回目	2回目
16～19歳	男性	78	202
	女性	73	0
20～24歳	男性	93	161
	女性	87	152
25～29歳	男性	45	116
	女性	41	107
30～34歳	男性	43	113
	女性	40	104
35～39歳	男性	48	0
	女性	44	115
40～44歳	男性	52	137
	女性	48	126
45～49歳	男性	61	158
	女性	56	147
50～54歳	男性	66	173
	女性	60	156
55～59歳	男性	56	0
	女性	50	129
60～64歳	男性	41	0
	女性	39	101
65歳以上	男性	166	434
	女性	213	369
合計		1,500	3,000

（２）参加者の選定

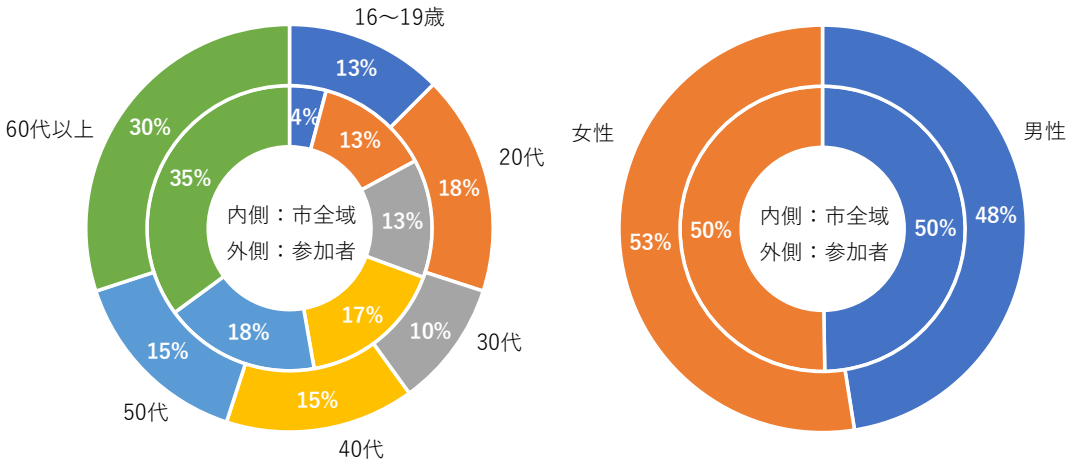
日野市気候市民会議の参加者の選定に当たっては、あらかじめ、市の人口統計に合わせた年代・性別構成となるような定員 40 名の理想的な内訳（各年代・性別の人数配分）を算出しておきました。ただし、15 歳以下の人口分は 16～19 歳と 20～25 歳に半数ずつ振り分けています。

次に、参加候補者計 154 名を各年代・性別に分け、それぞれ定員 40 名の内訳に近づくように無作為に人数を絞り込み、参加者を選定しました。

参加者の選定の過程を以下に示します。

参加者の選定の過程

属　性		参加候補者の内訳	定員 40 名の理想的な内訳	選定した参加者の内訳
16～19 歳	男性	12	3.4	3
	女性	2	3.2	2
20 代	男性	3	2.4	3
	女性	11	2.2	4
30 代	男性	6	2.4	2
	女性	9	2.2	2
40 代	男性	21	3.0	3
	女性	20	2.8	3
50 代	男性	9	3.3	3
	女性	18	2.9	3
60 代以上	男性	25	5.5	5
	女性	18	6.7	7
合計		154	40.0	40



※構成比は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても 100%とならない場合がある。

市全域の構成と選定した参加者の構成の比較（左：世代構成、右：男女比）

5 グループの編成方法

日野市気候市民会議では、参加者ひとり一人の発言時間を十分確保できるようにするために、参加者 40 名を 6～7 名ずつのグループに分けて議論を進めました。

グループ編成に当たっては、各グループのなかで多様な意見が出てくるように、同じグループ内にできるだけ多様な年代・性別の参加者が含まれるように留意しました。また、参加者同士が打ち解け合い、議論が活発になるように、第 1 回から第 4 回までを同じグループ編成で進めました。

なお、第 5 回はボリュームのある提言書の内容を効率的にまとめることができるように、各参加者に議論したいテーマの希望を聞いたうえで、グループ編成を変更しました。

6 連絡や情報共有の方法

日野市気候市民会議の参加者に対する連絡や情報共有の方法は、①クラウドサービス「BOX」、②メール、③電話と郵送という 3 つを用意し、各参加者に選択していただきました。その結果、40 名の参加者のうち、32 名が BOX、4 名がメール、4 名が電話や郵送を選択しました。

BOX では、以下に示すように参加者が自由にアクセスできるフォルダを作成したうえで、それぞれのフォルダ内に「会議の日時、場所等の情報」、「会議資料」、「グループワーク記録」、「作成中の提言書」などを格納することとし、ファイルを格納した際に各参加者が登録したメールアドレスに自動的に通知が届くように設定しました。

クラウドサービス「BOX」の利用者画面

II 各回の会議の概要とグループワークの結果

1 第 1 回会議

(1) 会議の概要

日　　時：2023 年 8 月 6 日（日）　13:15～17:15
場　　所：イオンモール多摩平の森（東京都日野市多摩平 2-4-1）　イオンホール
参加者数：31 名
テ ー マ：オリエンテーション
協 力 者：
　江守 正多 氏
　　東京大学 未来ビジョン研究センター 教授
　　（国研）国立環境研究所 上級主席研究員
　三上 直之 氏
　　北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部 准教授
　　（現在：名古屋大学 大学院 環境学研究科 教授）

(2) 会議のプログラム

第 1 回会議のプログラムを以下に示します。なお、会議資料は WEB 上に公開しました。

第 1 回会議のプログラム

時刻	時間	プログラム	担当
13:15～	5 分	開会	日野市
13:20～	3 分	日野市長によるオープニングメッセージ	
13:23～	2 分	実施体制、本日の流れ	日野市、事務局
13:25～	15 分	日野市が取り組む気候市民会議について	日野市
13:40～	15 分	全5回の気候市民会議と提言書作成までの流れなど	事務局
13:55～	10 分	質疑応答	日野市、事務局
14:05～	20 分	気候市民会議の意義	三上 直之 氏
14:25～	30 分	参加者同士の自己紹介など	事務局、ファシリテーター
14:55～	10 分	休憩	
15:05～	40 分	気候変動の現状とこれからの社会	江守 正多 氏
15:45～	40 分	グループワーク ここまでの感想と疑問点の共有	事務局、ファシリテーター
16:25～	40 分	感想と疑問点の発表、疑問点に対する回答	日野市、アドバイザー、事務局
17:05～ 17:15	10 分	閉会、事務連絡	日野市

(3) 講義等に対する質問と回答の内容

第 1 回会議の講義等に対して参加者からあがった質問とそれに対する回答の内容を以下に示します。なお、参加者からあがった質問には、会議終了後に行ったアンケートに記載された質問も含みます。また、この質問と回答は、後日参加者全員に開示するとともに、第 2 回会議の際に一部を紹介しました。

第 1 回会議の講義等に対する質問と回答の内容（1/10）

【気候と影響の予測に関すること】

No.	質問	回答	回答者
1	気候変動は人間が解決できることなのか。それとも人間がいなくても、このような問題は起きていたのか。	既に、産業革命以前と比較して世界平均気温が 1.1℃上昇している。その要因を分解すると、人間が温室効果ガスを排出したことによる影響、大気汚染物質などを排出して日射を遮っていることによる影響を差し引きして +1.1℃となる。それ以外の太陽活動や火山噴火、気候の内部変動などの要因は 0℃前後であり、人間活動によって温暖化が起きていることは疑う余地がないと結論されている。人間が原因となっている現象であれば人間の努力で食い止めることができる。（第 1 回動画③5 分 15 秒～）	江守氏
2	このまま何もせずにいると、地球はどうなるか。これからもずっと暑いのか。	このまま何も取り組みをしないと 2100 年に産業革命前と比較して世界平均気温が 5℃上昇すると予測されている。（第 1 回動画③9 分 15 秒～）	江守氏
3	今後、四季がなくなっていくのか。	今後、夏は暑くなるが、冬は平均的に暖かくなるものの、寒い冬の気象パターンが増えるという予測がある。また、冬に気温が低い年が多くなると、春と秋の期間が狭まっていくという議論がある。ある程度そのような傾向はあるかもしれないが、春と秋がなくなることはないと思う。春は早く、秋は遅くなるイメージだと思う。（第 1 回動画③14 分 05 秒～）	江守氏
4	最近の台風の進路はなぜおかしいのか（沖縄で U ターンした台風 6 号など）。	台風の進路はその時々の気圧配置とその変化に大きく影響を受け、非常に不規則である。近年ほど異常な進路が多いという傾向があるといえるかはわからない。	江守氏
5	気候変動の予測において、北極近辺の温暖化が激しくなっているのはなぜか。	様々な要因が働いているが、一番大きな要因は氷が減ることである。北極近辺では、海に氷が浮いており、太陽の光をたくさん反射している。気温が上昇すると、それらの氷が減って海面が出てくることになり、太陽の光をたくさん吸収するようになる。このように、気温が上昇すると太陽の光の吸収が増えさらに温まるという悪循環が起こってしまう。陸上でも、積雪が減ることで同じような悪循環が起こってしまう。（第 1 回に口頭で回答）	江守氏
6	気候変動により永久凍土はどうなるのか。	永久凍土の融解が始まっている。これが進むと、凍土に閉じ込められていたメタンが放出され、メタンの温室効果によって温暖化が増幅されることが心配されている。	江守氏

第１回会議の講義等に対する質問と回答の内容（2/10）

No.	質問	回答	回答者
7	過去（例えば2000年代に入ってから）の段階で環境、気候変動への策を案出し、実践出来ていたら、現代の気候はどのように変わっていたのか。また、その環境はいわゆる”理想的な”状態だったのだろうか。	2000年ごろに世界平均気温は産業革命前を基準に既に0.6℃程度上がっていた。そこから急激に温室効果ガスの排出量を減らしたとしても、さらにもう少しは温暖化が進むことは避けられなかっただろう。だから”理想的”とはいえず、ある程度の悪影響が生じている状態である。しかし、本格的な対策が早く始まっているほど、1.5℃で温暖化を止めることは容易になっていたはずといえる。	江守氏
8	大気中のCO_2を何%ぐらい削減すれば気温は下がるのか。	大気中CO_2濃度を減少させることができれば、それに応じて気温は下がり始めると考えられる（ただし、海の熱容量の効果で、気温の応答は遅れる）。しかし、大気中CO_2濃度を減少させるためには、人間活動によるCO_2排出量を正味ゼロかマイナスにする必要がある。つまり、大気中CO_2濃度でいえば、何%でもよいから減ればよいのだが、CO_2排出量でいうと、100%以上の削減が必要ということである。	江守氏
9	世界中で異常気象による影響が出はじめているが、100年後まで日本で生活し続けることができるのか。	100年後にどのぐらい気候変動が進行しているのかは、我々がどのぐらい取り組みを進めるのかにかかっている。仮に、世界の平均気温が4℃上昇するとしたら、夏は今年より暑く、大雨が降り、食糧危機などが起こる可能性がある。生活できないことはないと思うが、大変にはなると思う。また、世界中で水や食料をめぐる紛争が起き、難民が大量に発生し、世界全体が混乱することも考えられる。このように、日本の気象条件以外の要因でも、日本での生活が難しくなる可能性もある。いろいろなことがあり得る。（第１回に口頭で回答）	江守氏
10	気候変動により日本は水没しないか。	将来的に（来世紀以降も含めて）海面水位が何メートルも上昇すれば、沿岸部の低地や埋め立て地は水没の心配がある。また、水没しないまでも、現状でも高潮リスクの増加や砂浜の浸食という形で影響を受け始めている。	江守氏
11	気候変動によって新たな疫病が発生する可能性はあるか。	熱帯の感染症（デング熱など）を媒介する蚊の生息範囲の北上によって、そのような病気のリスクが増える心配がある。また、永久凍土の融解によって、凍土に閉じ込められていたウイルス等が新たな病気の原因になる可能性も指摘されている。	江守氏
12	地球温暖化によるメリットはあるか。	一部の分野と地域ではメリットもある。たとえば北極海の海氷が無くなり航路として利用できる。高緯度の寒冷地では健康や農業に好影響があると考えられる。	江守氏
13	今年、オゾン層が回復する見込みであるというニュースがあった。人間による取り組みの効果があったのか。	オゾン層は人間が使用したフロンガス等の化学物質によって破壊が進んだが、それらの物質の利用が規制されたため、その効果により回復に向かっている。	江守氏

第１回会議の講義等に対する質問と回答の内容（3/10）

【現状の取り組みに関すること】

No.	質問	回答	回答者
14	世界各国（特に、中国やアメリカなど影響力が大きい国）では、どのような気候変動対策があるのか、どのような環境に対する教育があるのか。	世界中で再生可能エネルギーの導入と電気自動車の導入が進んでおり、近年加速している。例えば中国は、世界で一番太陽光パネルを輸出している。また、電気自動車やバッテリーの輸出も非常に多い。このように、産業の変化が進み、それが原動力となって気候変動対策が進んでいるという側面があると思う。また、アメリカでは、インフレ抑制法という法律で再生可能エネルギーや電気自動車に対して補助金を出し、導入を加速していると聞いている。（第１回に口頭で回答） 教育については、No.16 参照。	江守氏
15	現状の日野市の気候変動対策にはどのようなものがあるのか。また、企業の理解度はどの程度か。	日野市は、平成 20 年度から「ふだん着で CO_2 を減らそう」という取り組みを始めるなど早い段階からこの問題に取り組んでいる。ただ、このような啓発だけではどうにもならない状況になってきているため、具体的な取り組みにつなげていく必要がある。脱炭素化の目標も定めているが、環境セクションのみで取り組むものと認識されてしまっており、交通やまちづくり、教育など、すべてのセクションで脱炭素化に向けた取り組みを進める体制はまだできていないと思っている。この気候市民会議で広い視点から意見をいただき、それを生かしていくことが地域再生にもつながると期待している。また、この気候市民会議を起点に、日野市を脱炭素先進地域にしていきたい。（第１回に口頭で回答）	日野市

第１回会議の講義等に対する質問と回答の内容（4/10）

【気候変動に対する意識に関すること】

No.	質問	回答	回答者
16	日本では、環境対策は我慢するものという考え方があったり、今の生活を変えることへの抵抗があったりすると言っていたが、海外ではなぜ日本のようなマイナスイメージがないのか。文化的なものなのか、政策や教育によってイメージの転換が進められたのか。	ヨーロッパの国々では、学校での教育以外に大人が参加して議論できる機会がいろいろある。もちろん子供が参加して議論できる機会もある。それらの一つの形態が気候市民会議である。そのなかで多くの人が支持できる取り組み、納得できる取り組みというのはどういうものなのかという議論が行われており、社会全体の意識の向上につながっている。（第１回に口頭で回答）	三上氏

第１回会議の講義等に対する質問と回答の内容（5/10）

No.	質問	回答	回答者
17	取り組まなければいけないことが確定しているのに、なぜできない、なぜやらないのかという疑問がある。できない理由を突き詰めて、そこをできるようにしていくことが一つの回答になると思う。	非常に本質的な問題で、ぜひ皆さんにもこの気候市民会議を通して考えていただきたい問題であるが、いくつか自明な答えがある。例えば、建物の断熱化や太陽光パネルの設置には初期投資が必要である。ただし、これを使い続けていくと 10 年やもっと短い期間で元が取れて、そこから先は得になる。そういうことをわかっていても、初期投資が必要なことには二の足を踏んでしまうという心理的な問題がある。また、太陽光発電や風力発電のデメリットに関する回答の際にも話したが、現在は、地域住民との合意形成を図りながら進めるように変わってきている。この合意形成に時間かかってしまうという問題がある。その他、太陽光発電や電気自動車を急いで増やそうとしても、産業の育成や転換に時間がかかり、すぐには生産が追い付かないという問題がある。産業の転換には、既存の産業に従事している人の雇用の問題など、複雑な問題も絡むため長い時間がかかる。さらに別の視点でアメリカの例を紹介する。アメリカでは、保守とリベラルの考え方の違いが大きい。リベラルの考え方を支持する人たちのなかには、気候変動のことを正しく理解していて、取り組みを進めなくてはいけないと考えている人が多い。一方で、保守の考え方を支持する人たちのなかには、気候変動自体がウソであり、気候変動していたとしてもそれは人間活動が原因ではないと思っている人もいる。気候変動の問題にはこのような難しさもある。日本でも、アメリカほど顕著ではないが両方の考え方があり、様々な利害関係を持った人もいる。そのなかで取り組みを進めていかなくてはいけないという難しさもある。（第１回に口頭で回答）	江守氏

第１回会議の講義等に対する質問と回答の内容（6/10）

【取り組みの考え方に関すること】

No.	質問	回答	回答者
18	多くの人が納得できる対策というのはどのような対策なのか。苦痛を伴う対策をトップダウンで押し付けられるのは嫌、ボトムアップが重要だと思う。民主主義のプロセスを通して、多くの人が賛同、理解する策を作ることが重要だと思う。	この気候市民会議には、様々な経験や背景を持った人が集まっている。そのため、同じような取り組みについて議論していても、その取り組みは自分にとっては進めづらい、その取り組みが進むと自分にとっては不便になる、困ったことになるという意見がでてくることになる。自分の考えを率直に言い合い、お互いにそれをよく聞いていただくことで、自分の考えを少し振り返ったりしながら、一つの意見にまとめていくというプロセスが生まれる。このようにして、多くの人が納得できる解決策の種ができると考えている。ぜひ、この気候市民会議をそのような機会にして頂きたい。（第１回に口頭で回答）	三上氏

第１回会議の講義等に対する質問と回答の内容（7/10）

No.	質問	回答	回答者
19	脱炭素化への敗者を生まないように進めるとあったが、この問題が急を要する問題なのであればある程度の犠牲は仕方が無いのではないか。レジ袋有料化のように無理矢理気候変動対策を進めることはできないのか。	敗者を生まないようにというのは、対策によって極端に理不尽な不利益を被る人がいないようにするという意味で、たとえば対策に必要な投資コストのしわ寄せが低所得者に行かないなど。個人的意見としては、レジ袋有料化のようなレベルの規制はたいした不利益を生じさせないので、どんどんやった方がよいと思う。新築住宅の高断熱の義務化や太陽光パネル設置の義務化（日当たりの悪い場合など除き）も同様。おっしゃるとおり、急を要するので。	江守氏
20	経済成長すればエネルギー消費量が増えるためデメリットになるが、経済成長に伴って CO_2 排出量を減らすための技術のレベルも上がるためメリットにもなる。何をするにしても良い面、悪い面の両面がある。それらを踏まえながら、取り組みを進めていく必要があるのではないか。	一般論としては、おっしゃるとおり、何事も良い面、悪い面（課題）をよく把握して取り組みを選択するなり進めるなりすることが重要と思う。経済成長に関していえば、おおまかにはおっしゃる通りだが、エネルギー消費量の増加のうち過剰生産、過剰消費に伴う部分は減らすことに合理性があるかもしれない。また、経済成長した分、CO_2 排出量を減らすための技術に投資が回るならよいが、そうとも限らない。経済成長の中身をよく見ていく必要があると思う。	江守氏
21	日本では少子化の問題があり、経済成長のためにこの対策が優先されていると感じている。人口が増えれば CO_2 排出量も増えるが、CO_2 排出量を減らすことも同じように重要な問題である。そのため、国のレベルでも日野市のレベルでも、両方の問題の大きさを同等に扱って解決策を検討していく必要があるのではないか。	とても面白い問題提起である。一般に、気候変動対策を考える際に、我々の社会が直面している他の問題と併せて考えることは重要である。気候変動問題と人口減少問題など他の問題との相互関係をいろいろ考えてみると議論が深まるだろう。また、複数の問題をどのような優先度で扱うかは自明ではなく（同等がよいとは限らない）、それ自体が皆で話し合うべき重要なテーマである。	江守氏
22	様々な気候変動対策を様々な人に知っていただくための PR が重要ではないか。例えば、電気自動車にどのようなメリット、デメリットがあるのか。環境対策はどのように行われるのか、それに必要な金額はどの程度か。レジ袋有料化の費用対効果はどの程度か。ごみの焼却方法の違いによりどの程度 CO_2 排出量が変わるのか。緑化にはどの程度の効果があるのかなど。	重要なご指摘だと思う。現状では、そのような情報は関心を持った人がネットで調べればある程度得られるだろうが、調べる人は少ない。一方で、たとえば行政がこれらの情報を発信したとしても、関心がない人に届く率は低いだろう。日野市の施策としてどのように PR するのがよいか、ぜひ議論してほしい。	江守氏

第１回会議の講義等に対する質問と回答の内容（8/10）

No.	質問	回答	回答者
23	政府はなぜ環境問題や必要な取り組みをアピールすることをしないのか。	政府はそれなりにアピールしているが（たとえば「デコ活」って知っていますか？）、あまり国民に届いていないというのが実態ではないか。	江守氏
24	地球環境が悪化していき、急を要する事態になっているなかで、世界中で同じ危機感を持って同じ方向を向くために何ができるのか。	世界規模では、国連の条約交渉やさまざまな国際フォーラム（たとえばダボス会議）などの場で、危機感の共有や真剣な議論が行われているだろう。日本では政治家や行政やメディアがそのような状況を国民に伝えることがあまりできていない（他国もある程度同様かもしれないが）。国民に関心がないので伝わってこないという面もあるので、関心を持つ人が増えることは重要。	江守氏

第１回会議の講義等に対する質問と回答の内容（9/10）

【具体的な取り組みに関すること】

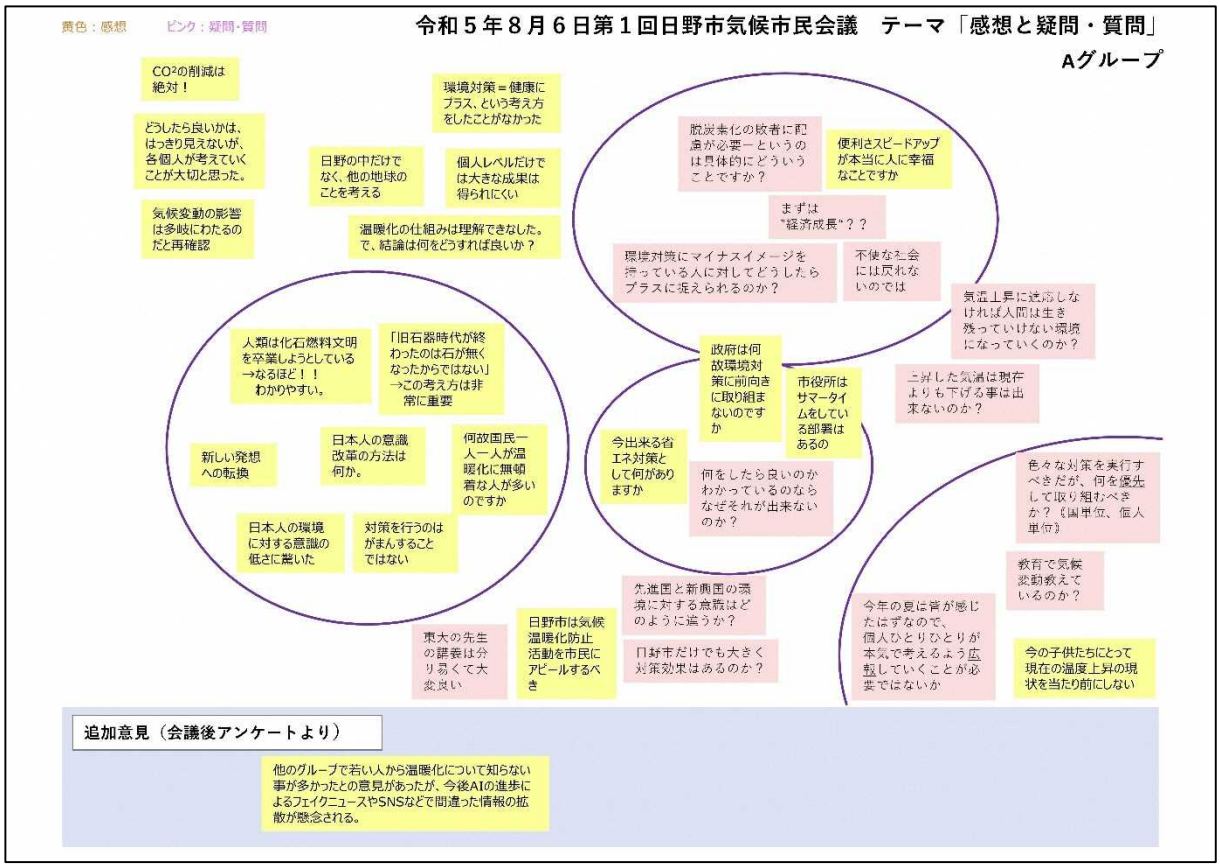
No.	質問	回答	回答者
25	今できる取り組みで効果的なものはなにか。	第２回以降、モノ、モビリティ、エネルギーに分けて情報提供したうえで検討する。	－
26	世界で一番CO_2排出量が少ない国はどこか。真似できる取り組み、有効な取り組みを知りたい。	一番排出量が少ない国はわからないが、ブータンはもともとCO_2を排出する産業が少なく、森林吸収が増えているため、既にカーボンニュートラルを達成した。国により、人口や産業、気象条件等が異なるため、そのまま取り組みを真似できる訳ではないが、最初にカーボンニュートラルを達成したと思われるため紹介した。（第１回動画③42 分 53 秒～）	江守氏
27	専門家から見て、一番効果があると思われる取り組みはなにか。	第２回以降、モノ、モビリティ、エネルギーに分けて情報提供する。	－
28	各方面で、どのような終着点を目指して取り組んでいるのか。	第２回以降、モノ、モビリティ、エネルギーに分けて情報提供する。	－
29	気候変動対策として必要な個人としての行動目標はあるか。	第２回以降、モノ、モビリティ、エネルギーに分けて情報提供したうえで検討する。	－
30	エアコンのつけっぱなしは、どの程度環境に影響があるのか。	第４回のエネルギーをテーマにした回で情報提供する。	－
31	東京都は太陽光パネルの設置を義務化しているが、太陽光発電に対する考えや実際にどのくらいの効果があるのか。	第４回のエネルギーをテーマにした回で情報提供する。	－
32	日本中の町、都市の建物（特に公共施設、大型ビルなど）の屋上、壁に太陽光パネルの設置を義務づけたらどうか。	第４回のエネルギーをテーマにした回で情報提供したうえで検討する。	－
33	なぜ太陽光パネルの価格がなかなか下がらないのか。	第４回のエネルギーをテーマにした回で情報提供する。	－

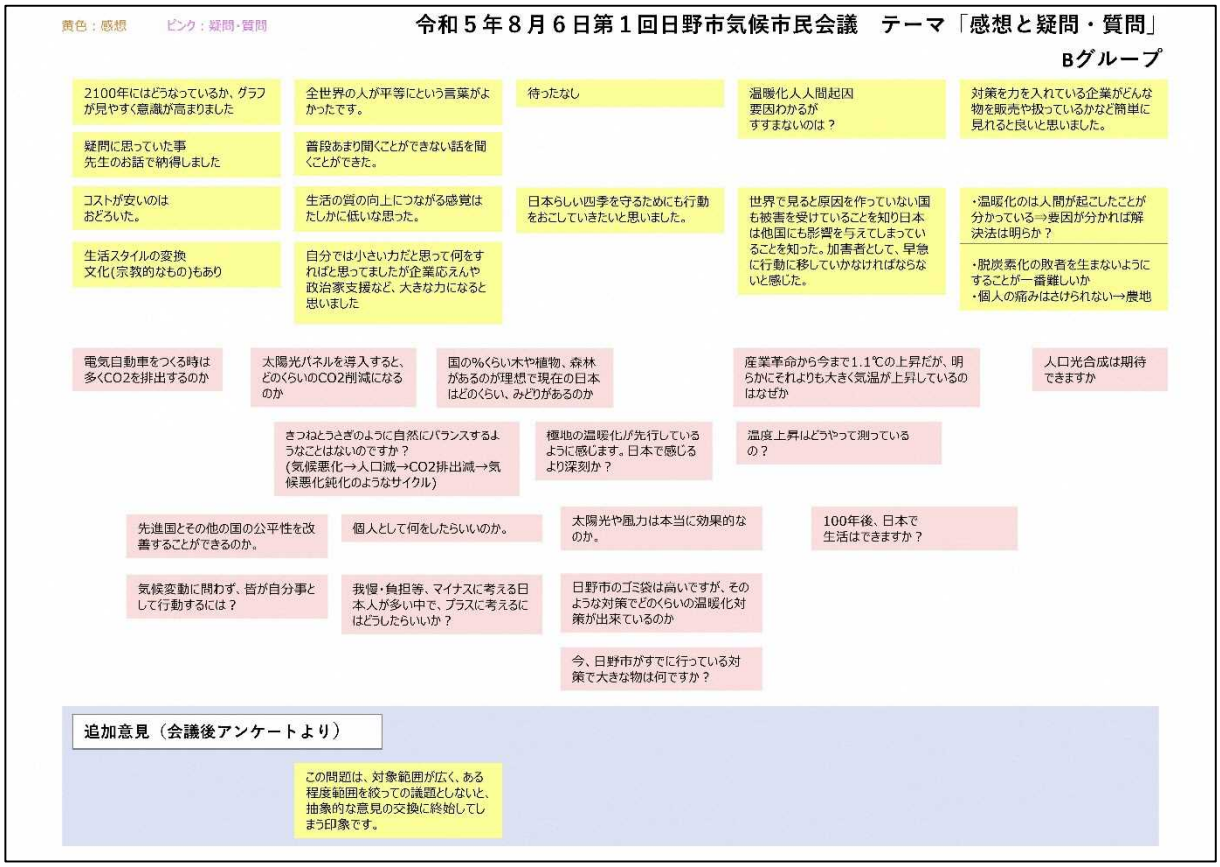
第１回会議の講義等に対する質問と回答の内容（10/10）

No.	質問	回答	回答者
34	講義のなかで、太陽光発電や風力発電が効果的であるという話があった。発電機を作る際の資源の採掘や、太陽光パネルの劣化、発電所を作る際の土地の改変などを考えると、逆に環境への悪影響が生じることはないか。また、トータルで見たときにプラスの効果が得られないということはないか。	特に太陽光発電は、日本で固定価格買取制度が始まったときに乱開発が進んだ。この時には、都会の業者が地方に入り、山や土地を改変して太陽光パネルを並べ、儲けは全部都会に吸い上げていくということが起きた。それではいけないということで、現在は制度が見直されつつある。開発していい場所、してはいけない場所をしっかり決めておくことや、事業者は地域住民にしっかり説明すること、撤去費用を積み立てることなどが行われている。また、リサイクルの方法についても、今後整備されていく見込みである。このように、現在は、地域の人たちにも納得してもらえる形で太陽光発電を増やしていくという流れになっていると理解している。風力発電についても同じような流れになっていると理解している。（第１回に口頭で回答）	江守氏
35	電気自動車のメリット、デメリットを知りたい。電気自動車を造る時、壊す時にどのくらいの CO_2 が排出されるか。	第３回のモビリティをテーマにした回で情報提供する。	－
36	原発は CO_2 の削減につながるのか。	第４回のエネルギーをテーマにした回で情報提供する。	－
37	紙ストローの普及や、レジ袋有料化は実際にどの程度の効果があるのか。	第２回のモノをテーマにした回で情報提供したうえで検討する。	－
38	日本では、なぜサマータイム制が採用されないのか。	近年あまり活発な議論がないようだが、デメリットを調べると、健康への悪影響、交通機関等の混乱の可能性などが指摘されている。また、照明機器の高効率化により省エネの効果もそれほど期待できないとのこと。	江守氏
39	周りを巻き込んで行動するためにはどのような方法、宣伝、広報が有効か。	第２回以降、モノ、モビリティ、エネルギーに分けて情報提供したうえで検討する。	－
40	CO_2 を削減する以外に気候変動を緩和する方法はないか。	まったく別の手段としては、上空の大気に微粒子をまくなどの方法で、日射を弱めて温暖化を止めること（太陽放射改変）が理論的には可能であり、研究もされている。しかし、未知の副作用、倫理的な問題、国際的な統制の難しさなどがあり、実施を前提とせずに慎重に議論されている印象である。	江守氏
41	CO_2 を削減するため、植樹などの吸収源対策は効果的か。	植林による大気からの CO_2 吸収は、大規模に行えばもちろん効果がある。ただし、たとえば外来種の単一樹種を広い面積に植えるようなやり方では生物多様性に悪影響があるので、その場所の生態系に合った植樹をする必要があるなど、注意が必要である。	江守氏
42	CO_2 そのものを除去する画期的な方法（装置）は開発できるか。	化学反応によって大気中の CO_2 を吸収し、地中に封じ込める方法（直接空気回収貯留）は研究開発されている。原理的には現在でも可能であるが、大規模に実用化するためにはコスト等の課題がある。また、化学反応を回すなどのためにエネルギーが必要であり、そのエネルギーを作るときに CO_2 が出たら意味がないので、再生可能エネルギーを使う必要がある。再生可能エネルギーが大量に余るようにならないと大規模な実用化は難しいかもしれない。	江守氏

(4) グループワークの結果

第１回会議のグループワークの結果を以下に示します。

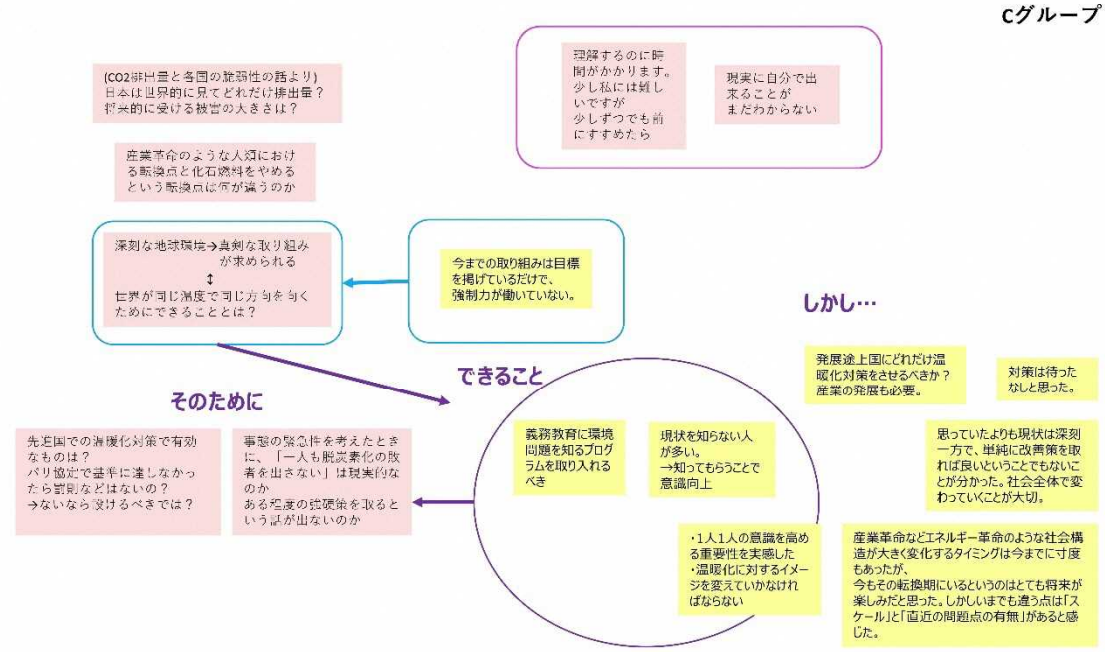




黄色：感想　　ピンク：疑問・質問

令和５年８月６日第１回日野市気候市民会議　テーマ「感想と疑問・質問」

Cグループ

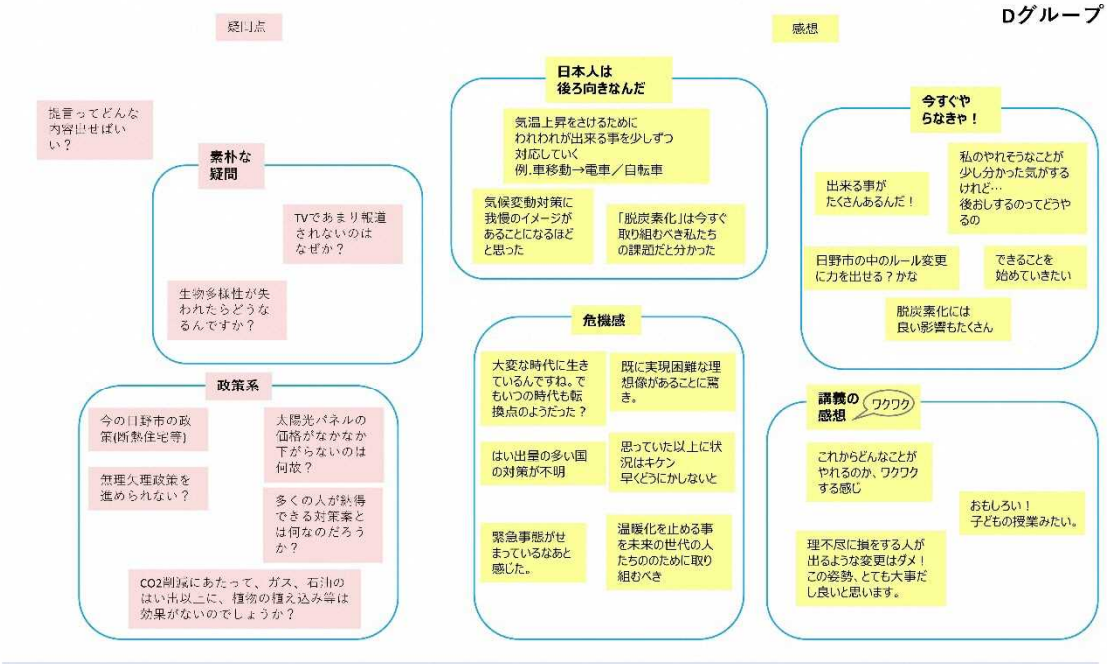


追加意見（会議後アンケートより）

黄色：感想　　ピンク：疑問・質問

令和５年８月６日第１回日野市気候市民会議　テーマ「感想と疑問・質問」

Dグループ



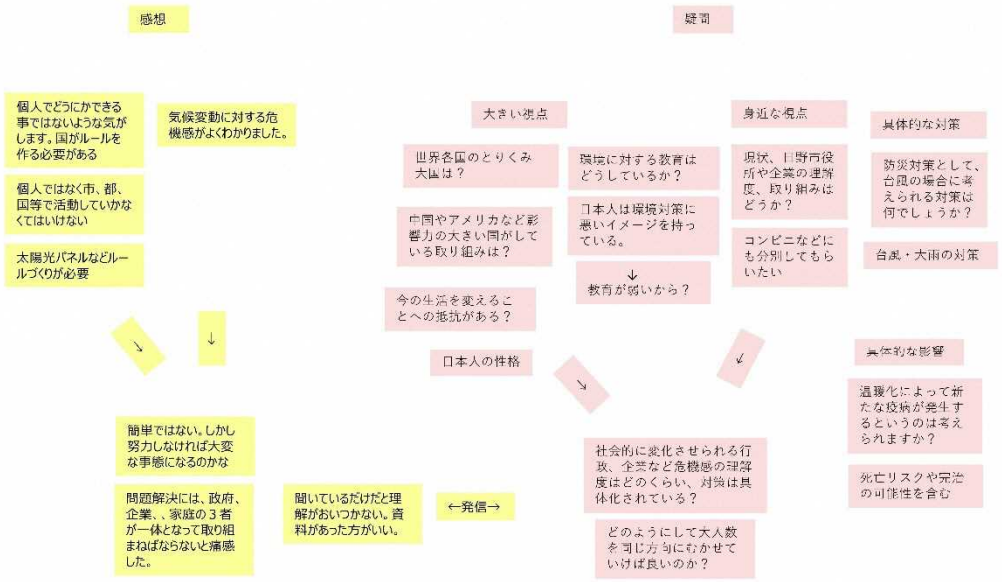
追加意見（会議後アンケートより）

- グループで話す時間が不足
- 政治・経済いろいろ複雑で、やっぱりすすめるのがたいへんなんだなと思いました。
- 他の人の感想・疑問を知れるのはおもしろい
- 皆さんのそれぞれの考えが聞けて、充実してたと思います。

黄色：感想　　ピンク：疑問・質問

令和５年８月６日第１回日野市気候市民会議　テーマ「感想と疑問・質問」

Eグループ

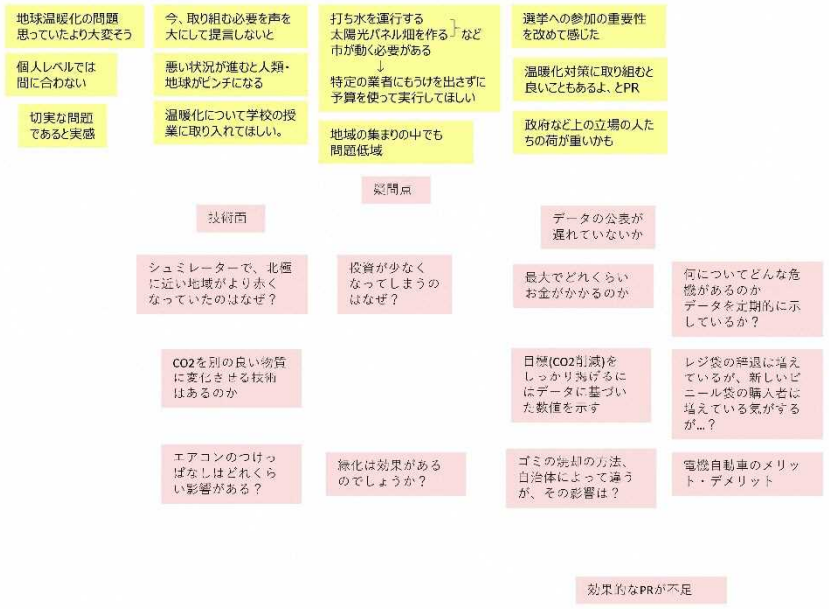


追加意見（会議後アンケートより）

黄色：感想　　ピンク：疑問・質問

令和５年８月６日第１回日野市気候市民会議　テーマ「感想と疑問・質問」

Fグループ



追加意見（会議後アンケートより）

やはり個人単位での転換では間に合わないと思いました。ある程度は予算を使って思いきった対策をしていただきたいです。

日本だけでなく、海外とも協力して実行していく必要があると感じた。

2 第 2 回会議

(1) 会議の概要

日　　時：2023 年 9 月 3 日（日）　13:15～17:15
場　　所：日野市役所（東京都日野市神明 1-12-1）　505 会議室
参加者数：33 名
テ ー マ：モノに関わるカーボンニュートラル
協 力 者：
山口 真奈美 氏
一般社団法人日本サステナブル・ラベル協会 代表理事
株式会社セブン-イレブン・ジャパン
日野市資源リサイクル事業協同組合

(2) 会議のプログラム

第 2 回会議のプログラムを以下に示します。なお、会議資料は WEB 上に公開しました。

第 2 回会議のプログラム

時刻	時間	プログラム		担当
13:15～	20 分	開会、第 1 回の振り返り等		日野市、事務局
13:35～	5 分	質疑応答		
13:40～	30 分	モノに関する情報提供		山口 真奈美 氏
14:10～	5 分	質疑応答		
14:15～	5 分	休憩		
14:20～	20 分	モノに関する情報提供		（株）セブン-イレブン・ジャパン
14:40～	20 分	モノに関する情報提供		日野市資源リサイクル事業協同組合
15:00～	10 分	休憩		
15:10～	5 分	モノに関する情報提供のまとめ		山口 真奈美 氏
15:15～	5 分	質疑応答		山口 真奈美 氏、事業者
15:20～	5 分	グループワーク	進め方の説明	事務局 ファシリテーター
15:25～	30 分		モノに関する市民の取り組み	
15:55～	25 分		モノに関する事業者の取り組み	
16:20～	25 分		モノに関する行政の取り組み	
16:45～	20 分	グループワークの結果の発表		
17:05～	5 分	まとめと講評		山口 真奈美 氏
17:10～ 17:15	5 分	閉会、事務連絡		日野市

(3) 情報提供等に対する質問と回答の内容

第 2 回会議の情報提供等に対して参加者からあがった質問とそれに対する回答の内容を以下に示します。なお、参加者からあがった質問には、会議終了後に行ったアンケートに記載された質問も含みます。また、この質問と回答は、後日参加者全員に開示するとともに、第３回会議の際に一部を紹介しました。

第２回会議の講義等に対する質問と回答の内容（1/9）

【サステナブルラベルに関すること】

No.	質問	回答	回答者
1	自然由来、植物由来の製品を作る過程で、森林伐採等の自然破壊が行われているという話があったが、サステナブルラベルが貼ってある製品は、そういった自然破壊をせずに作られているという認識でよいか。	例えば、FSC という認証制度の場合は、森林の管理や伐採が環境や地域社会に配慮して行なわれているかどうか、という視点で基準化されている。また、パーム油を生産する際に、森林を破壊したプランテーションで生産されていないか、人権の問題はないか、という視点で基準化された RSPO という認証制度もある。 よく、木は使ってください、紙は国産の間伐材でできたものを使いましょうと言われるが、子どもから「木を使うと森林破壊になるのではないか？どちらが正しいのか？」と質問を受けることがある。私たち人間は、こういった素材を使わないと生きていけないというところもあるため、自然の循環やバランスを逸脱しないような管理がされているかという視点で基準化されたものを選ぶことが大事である。 また、化石燃料由来の地下資源に依存せず、植物など再生可能な地上の資源に切り替えていこうという流れがある。一方で、一つの資源だけに依存すると、ほかの環境問題を引き起こしかねないというトレードオフの関係もあるため、全体を俯瞰して判断する必要がある。（第２回の口頭で回答）	山口氏
2	各部門の認定マークを、１つの共通のものにまとめることは難しいのか？	現在はそれぞれが別々に誕生し、組織・基準・運用方法・認証機関なども違う為、そのまま共通や統一したものにまとめるのは難しいだろう。しかしながら、共通したものがないかという要望は良く寄せられる。ISO などで統一化を目指す動きもあったが、現在はまだ共通化はされていない。しかしながら、オーガニック繊維の認証が多数あったものを GOTS というものに統一したり、UTZ がレインフォレストアライアンスと合併したりなど、同じ分野においては共通化する動きもあるため、今後は可能性があるかも知れない。	山口氏

第２回会議の講義等に対する質問と回答の内容（2/9）

【代替素材に関すること】

No.	質問	回答	回答者
3	セブン‐イレブンが、プラスチック製品をできるだけ自然由来、植物由来のものに切り替えているという話があったが、そういった自然破壊をせずに作られた製品に切り替えているという認識でよいか。	その認識の通りで問題ありません。 ・例えば、カトラリー、レジ袋、ペットボトル、各種商品包装パックなど、様々な面で取組みを進めております。 ・容器については、石油由来の着色剤を排除した、リサイクルしやすい容器設計にもチャレンジしています。 ・レジ袋もプラスチック製のものの使用ゼロを目指し取り組んでいます。 詳細については、9/3 にお配りした「サステナビリティアクションブック」や弊社ホームページをぜひご覧ください。 ●参考ページ https://www.7andi.com/group/challenge/42178/3.html https://www.sej.co.jp/csr/resources.html	セブン‐イレブン・ジャパン
4	ペットボトルの代替として、びんや缶は別の部分で CO_2 の排出が増えるとの話でしたが、紙パックはどうですか？結局、どの素材が一番良いのか、一番良い素材を使用して物を販売するよう事業者に促すことを求めます。	紙パックの場合は、その紙の由来が、森林破壊を引き起こしていないか、違法伐採ではないかなど、紙の原材料の調達やサプライチェーンにも配慮する必要があるだろう。つまり、適切に管理された森から伐採された木を使い、紙となった素材であれば、森林破壊に繋がらないような調達が実践されるので、望ましいと言える。さらに、その加工流通過程での工場での生産なども併せて、CO_2 の排出量なども考えると、LCA（ライフサイクルアセスメント）の観点や、使用後が破棄になるのか、リサイクルが可能なのか（張り合わせている素材なども含め）、検討し、循環出来るものであれば、良い素材かも知れない。また、ペットボトル、びん、缶も合わせて、作る過程での CO_2 排出、環境社会的課題の有無、循環できる仕組みなどが構築されていれば、適切に使い分けを行っていけば良いと思われる。事業者に対して、用途に合わせたその時に一番良いと思われる選択を促すことは重要であろう。	山口氏

第２回会議の講義等に対する質問と回答の内容（3/9）

【廃棄、資源循環に関すること】

No.	質問	回答	回答者
5	ごみの分別の重要性はどのくらいなのか。	自治体によって、分別後の回収、リサイクルの仕組みが異なるが、一般的には適切な分別によって、再資源化やごみ焼却場におけるリスクの低減など、重要だと思われる。せっかく分別したのに、それがどのような形で処理されたか、再資源化されたか、されなかった場合にどんなリスクや課題が発生しているのか。これらを比較した時の効果が見える化されることで、より重要性に裏付けがなされると思う。日野市の取組と合わせて、どれだけ重要であったかの可視化がされると良いのではないか。	山口氏

第２回会議の講義等に対する質問と回答の内容（4/9）

No.	質問	回答	回答者
6	日野市では、現在、プラスチックを分別して回収しているが、実際、どの程度リサイクルされているのか。そのまま燃やしているということはないのか。	日野市では原則、プラスチックごみ全量をリサイクルに回しています。令和４年度 実績としては、プラスチックごみ搬入量 3,030ｔに対し、2,658ｔ（87.8%）がリサイクルされております。但し、残りの、汚れてリサイクルできないもの、医療廃棄物、プラスチックごみ以外の不適物等の 372ｔ（12.2%）が残渣として、焼却処分されています。（令和４年度日野市清掃概要より）	日野市
7	ペットボトルを分別して回収しても、ペットボトルからペットボトルへのリサイクルは２割にとどまるという話があったが、残りはすべてサーマルリサイクルなのか。	日野市で処理を行っているペットボトルに関しては、引取量の約 80%が再商品化（リサイクル）されております。再商品化の内訳としては、飲料用ボトル等へのリサイクル率は 45.3%、他にも、シート 30.5%、繊維 20.6%、成形品 3.4%、その他 0.2%にリサイクルされています。（公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会 年次レポート 2023 令和４年度実績報告より）	日野市
8	７＆ｉさんへ　ペットボトルのリサイクル、かなりうまく回っているようですが、全く新しいペット素材から作るのと比してコストはどうなのでしょうか？	リサイクルのペットボトルに関するコストを公表していないので具体的にお答えできませんが、ペットボトルの回収とリサイクルに掛かる諸費用のコントロールが、取組みの持続性のために重要な要素であることはその通りです。	セブン－イレブン・ジャパン
9	アフリカでは、様々な国から古着が集まっていて、ゴミの押しつけになっているという記事を読んだことがある。日野市で集めた古着は、同じような問題を起こしていないか。	日野市で回収された古着は全量、信頼のおける古布専門会社へ納入しています。 納入後、280 種類に手作業で選別され、必要な国に必要な物を提供しています。 いつ選別された物か認識・追跡出来るようになっております。 基本的に日本人の体形に似ている東南アジアの国に提供されています。	資源リサイクル事業協同組合
10	セブン‐イレブンでは、食品ロスをなくす為の方策の一つとして、トヨタの看板方式の様なシステムを採用していますか(採用を考えていますか)	セブン－イレブン独自のさまざまなシステムを構築、運用させていただいております。 ●参考ページ https://www.sej.co.jp/csr/waste.html	セブン－イレブン・ジャパン
11	日野市資源リサイクル共同組合 pdf②の「市民の皆様に伝えたい事」の項目で（可燃ごみの中には資源になる紙類が含まれています）とありますが具体的にどのような物でしょうか？	例えば、住所や名前の入っているハガキや封筒・お子様の解答用紙などが多いようです。資源に出すときに目に触れないように他の紙で包むなどの工夫をして頂ければとおもいます。面倒だから、小さいからと可燃ごみにしてしまいがちな薬の箱やお菓子の箱等です。名刺サイズであれば再生できますのでよろしくお願い致します。	資源リサイクル事業協同組合

第２回会議の講義等に対する質問と回答の内容（5/9）

No.	質問	回答	回答者
12	新聞紙からトイレットペーパーにするには通常よりもコストがかかるのでしょうか？ どの位の割合で加工しているのでしょうか？	新聞紙をトイレットペーパーにする際のコストについては情報が得られませんでしたが、グリーン購入ネットワークの「『トイレットペーパー』購入ガイドライン」（2023 年 6 月 15 日改定）に下記の情報が記載されています。 ・古紙製品の方がパルプ製品よりも一般的に安価 ・もともと古紙 100%でつくられた製品が大半を占めており、1988 年頃までシェアは 80%を超えていたが、木材から直接得られたパルプ 100%でつくられた製品のシェアが徐々に拡大し、現在は古紙製品の 65%程度になっている また、新聞紙のリサイクルに関しては、「日本の紙リサイクル」（2023 年 5 月 公益財団法人古紙再生促進センター）に下記の情報が記載されています。 ・新聞は主として新聞用紙に利用される ・新聞、雑誌、段ボールの資源化率は 90%以上	事務局調べ
13	イオン等でのハイキ回収でも同様に環境に配慮した処理されるのか？	イオンの WEB サイトを確認すると、下記のように記載されています↓ ・貴重な資源を捨てずに再資源化するために、お客様や自治体と協力をしながら店頭で紙パック、食品トレー、アルミ缶、ペットボトル等の回収に取組んでいます。 ・回収したアルミ缶や紙パックの一部は「トップバリュ」の原料の一部に使用し再商品化するなど、循環型社会の構築に向けた取り組みを続けています。 また、日野市では「容器包装　お返し大作戦」を実施し、イオンも含めて市内の様々なスーパーにご参加いただいております。買ったお店にペットボトルやトレーなどの容器包装を返すことで家庭ごみの発生回避を図り、また販売者・生産者も責任をもって処理していただくことで、簡易包装を促しています。	日野市

第２回会議の講義等に対する質問と回答の内容（6/9）

【海洋プラスチック問題に関すること】

No.	質問	回答	回答者
14	プラスチック海洋汚染について、感情的には許容できませんが計量的にはどうなのでしょうか。ペットボトルは魚礁としてプラスに働かないでしょうか。マイクロプラスチックは生物に有害何でしょうか。成分が溶け出さないならば微細な無機物と同じなのでは？	様々な研究がなされているが、まず、海洋生物が餌と間違えてプラスチックを摂食することで、物理的なダメージがある。 それから、一時的には魚礁のような役割を果たすこともあるかも知れないが、プラスチックは、そのままの形状を保ち続けるのではなく、紫外線等によって劣化しマイクロ化する為、生物にとっては異物である他、毒性などで生物組織に炎症が起こったり、プラスチックの添加剤は生殖系、免疫系にも影響を与えるとも言われている。また、汚染物質が染み込み、海流によって長距離移動や漂着などで汚染物質を移動させることもある。 元々海洋の自然界には存在していなかったものを人間が化石燃料を元に創り上げた製品。プラスチックという素材自体は人類に大きな役割を果たしてきたのは事実だが、マクロに全体を見ていった時に、少なからず影響が出始めている現状そして未来への予測に対する対応は必要になるだろう。 環境課題は、冷静に皆が連携し取り組んでいく課題でもある。私は、「科学と感情の融合」の視点も大切だと思っており、客観的且つ適切に多様なステークホルダーと事実を確認し、実践し続けることが重要と考える。	山口氏
15	海洋生物に悪影響を与えないような自然に優しいペットボトルなどの容器は開発されているのでしょうか？	現在、植物由来であったり、多くの技術開発が進められている。また、代替素材として、環境や海洋生物に悪影響を与えない視点、自然との共生に繋がる優しい製品を求める消費者も増えてきており、それに応えるための取り組みを事業者も模索しながらも、挑戦し続けている。これからの開発に期待が出来るだろう。是非そのような開発や事業者を応援し、もしアイデアなどがあれば、共有・協創していくことも良いかも知れない。	山口氏

第２回会議の講義等に対する質問と回答の内容（7/9）

【その他】

No.	質問	回答	回答者
16	コンビニ業界では、24時間営業が常態となっていますが、節電、人件費の削減等を考慮して、深夜営業をやめることは考えていますか（できないとすれば、それは何故ですか）	弊社では、節電の取組としてLED照明や太陽光発電パネルなどの省エネルギー設備の導入を順次進めています。また、省人化の取組としてはお会計セルフレジの導入、商品補充や清掃の負担を軽減する各種什器を導入・改善しております。今後もこのような取り組みを通じて、加盟店の多様な働き方が実現できるようサポートしてまいります。 ※ご参考 省エネについて https://www.sej.co.jp/csr/lowcarbon.html 省人化について https://www.sej.co.jp/csr/labor-saving.html	セブン‐イレブン・ジャパン

第２回会議の講義等に対する質問と回答の内容（8/9）

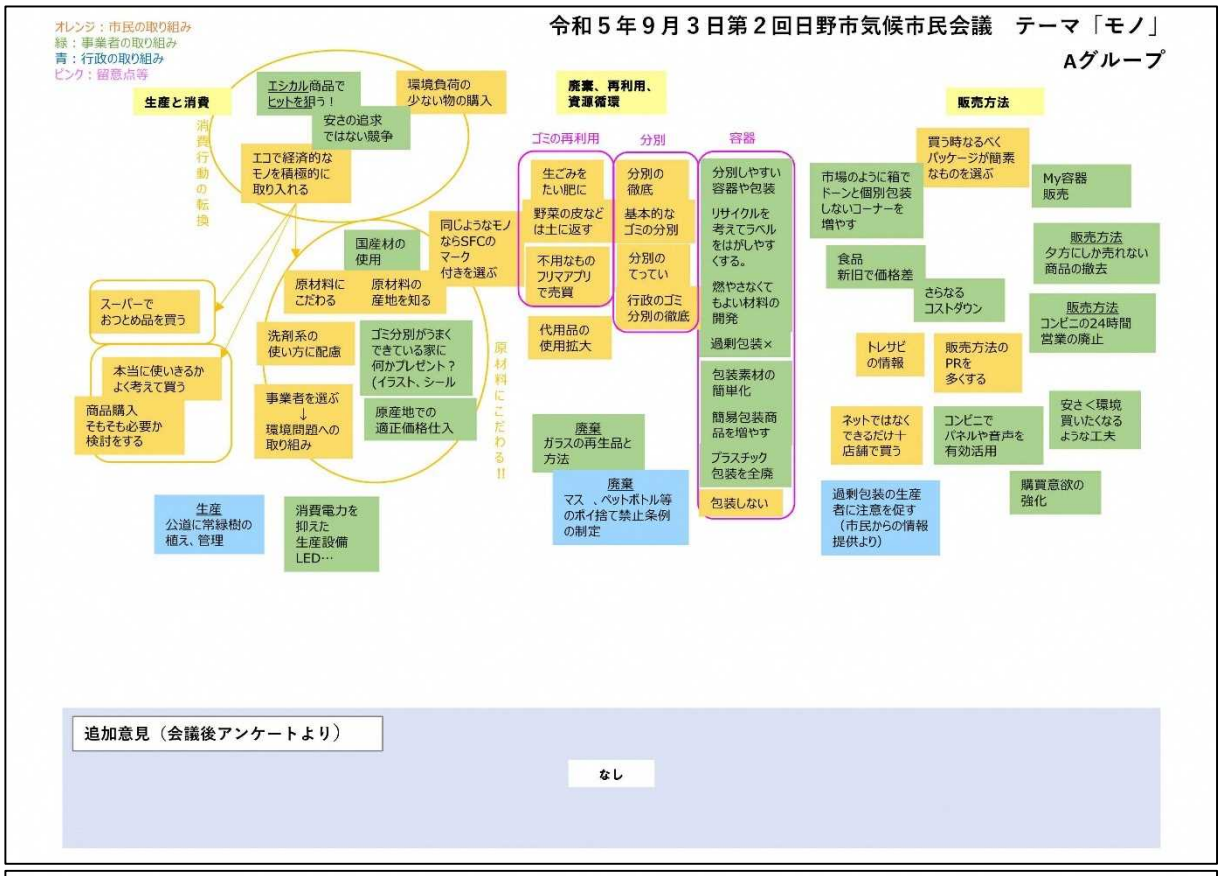
No.	質問	回答	回答者
17	今回、セブン‐イレブン・ジャパンさんの環境への取り組みをご紹介いただきましたが、専門家の方からみて、「これは紹介したい」というような取り組みが他の企業や組織であれば教えていただきたいです。	今回ご紹介のあったセブン‐イレブン・ジャパンを含めたセブン&アイグループの他、イオングループや生活協同組合連合会、ライフコーポレーション、マクドナルドなど、多くの消費者に近い事業者は取り組みを実践している。特に、持続可能な調達方針を掲げ実践し、モノのストーリーを見える化しながら、より環境に配慮した取り組みを挑戦し続けている。他には、実際製造し販売されている事業者の中でも、サステナブルな原材料やモノづくり、海外から調達している場合には、その現地での生産者支援、環境保全やNGOとの連携なども多数事例が見受けられる。 それから、フェアトレード製品や被災地支援、障害者支援など、多くの視点で課題解決に向けた商品を扱っている企業やセレクトショップなども増えて来た。 地域課題を地域の方々と連携しながら新たな取り組みを始めたり、オーガニックなどの農業、林業や漁業など第1次産業の支援、企業やNGO間でのパートナーシップによる連携、エネルギーの循環と地域振興、消費者志向経営を実践されている企業など、様々な事例が数えきれない程ある。ここでは書ききれないので、是非どこかで個々の取り組みを紹介出来る機会があれば有難いと思う。	山口氏
18	セブン‐イレブンさんだけでなく全コンビニで対応するように働き掛けたらもっと大きな力になれるのでは	まさにそうだと思う。環境やサステナビリティに関しては、通常業務では競合他社が、連携しパートナーシップを強化することで、大きな影響力を持ち、課題解決に向けて事業者も利用される消費者も、誰もが社会変革を共に起こすことの出来る機会になるだろう。今後の連携に期待したい。	山口氏
19	サステナブルについて感心の度合いに温度差があるので取り組みや実現していることをPRしてもらう場はありませんか？	確かに感心の度合いに温度差を感じることも多々あるだろう。取り組みをPRすることは、行政や地域の様々な団体がその場を提供されていることもあり、最近ではアワードやメディアでも取り上げられる機会も増えて来た。なのでPR出来る場は必ずあると思われる。実現していることを広く知ってもらうと同時に、仲間を増やし、共に取り組めると良いだろう。 また、関心の無い方も知らないうちに実践できる社会の仕組み作りも必要だと感じる。想いのある人だけではなく、誰もが実践者になれるような選択、事業者はサステナブル製品の販売を当然のことのように実践を進めたり、サステナブルではないのでは？と思うのもが多い現状で、よりサステナブルでなければ実践が難しい社会になっていくことで、誰もが自然と苦労せず楽しみながら、サステナブルライフスタイルを実践出来る仕組みが構築されると嬉しい。	山口氏

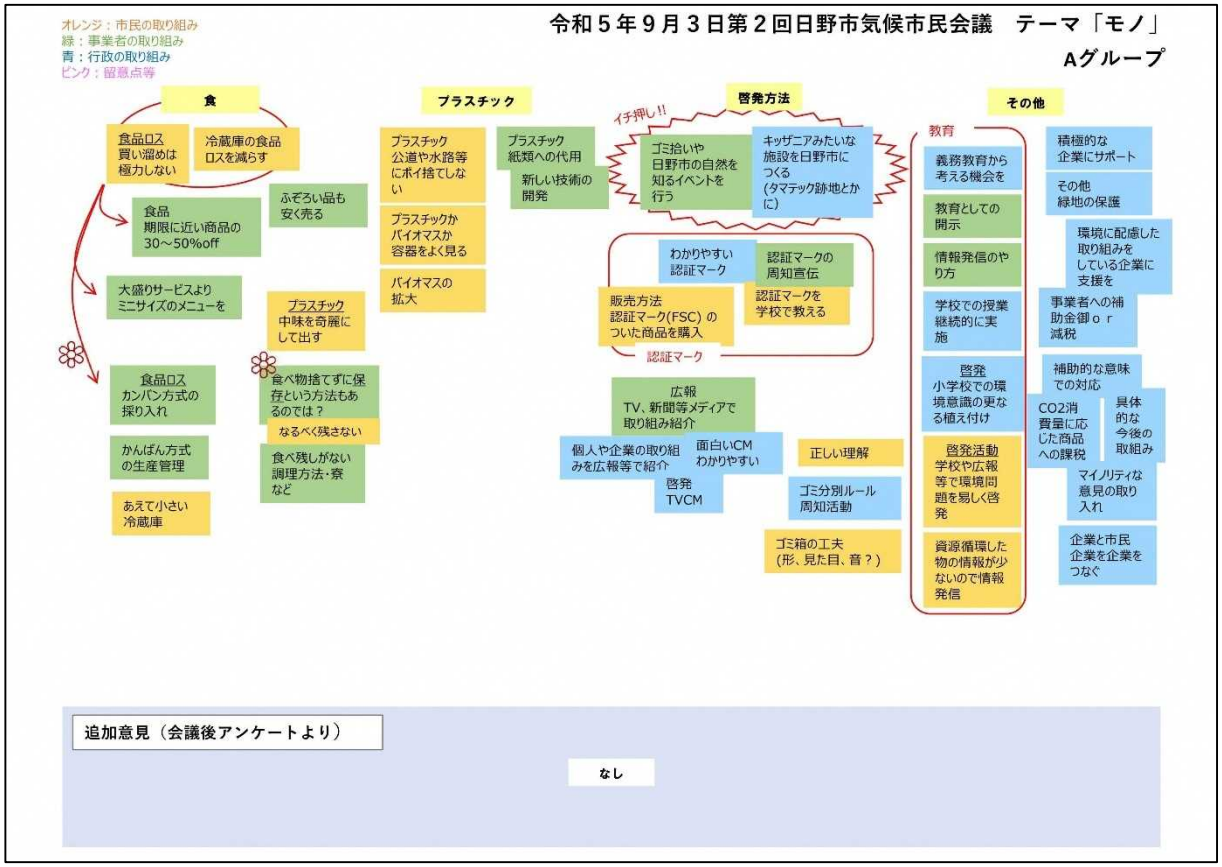
第２回会議の講義等に対する質問と回答の内容（9/9）

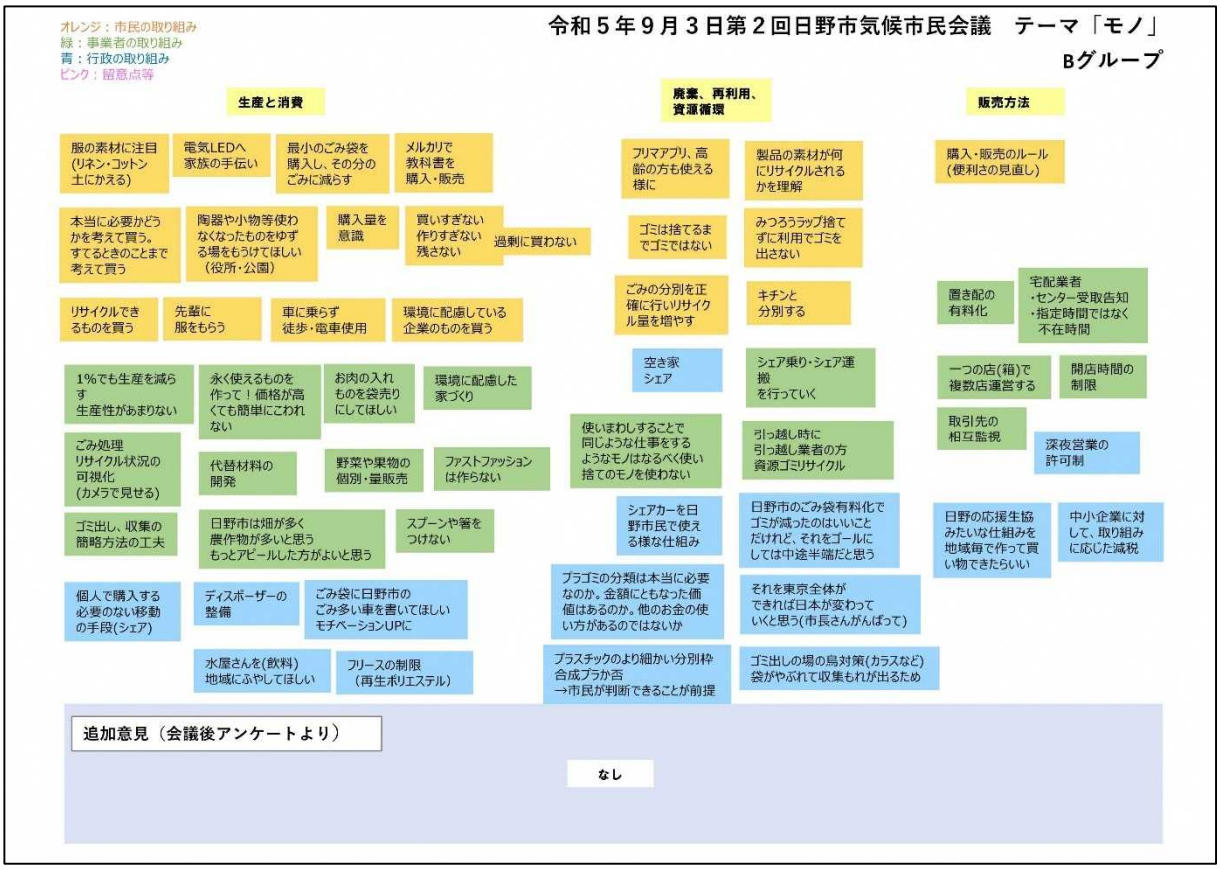
No.	質問	回答	回答者
20	政策提言をどのように活用していくのか。	日野市では、地球温暖化対策実行計画という計画を策定している。このなかに、基本的な考え方を記載しているが、具体的に何をしていくのかというところまではあまり記載できていない。気候市民会議でさまざまな視点、立場から意見をいただき、それを反映していくことによって、脱炭素化が実現できると考えている。 今後、気候市民会議で提言いただく内容については、来年度以降の施策に反映させていくことになるが、いつ、何に取り組んでいくのかということを示したロードマップを作成し、皆さまに示していきたいと考えている。 （第２回の口頭で回答）	日野市

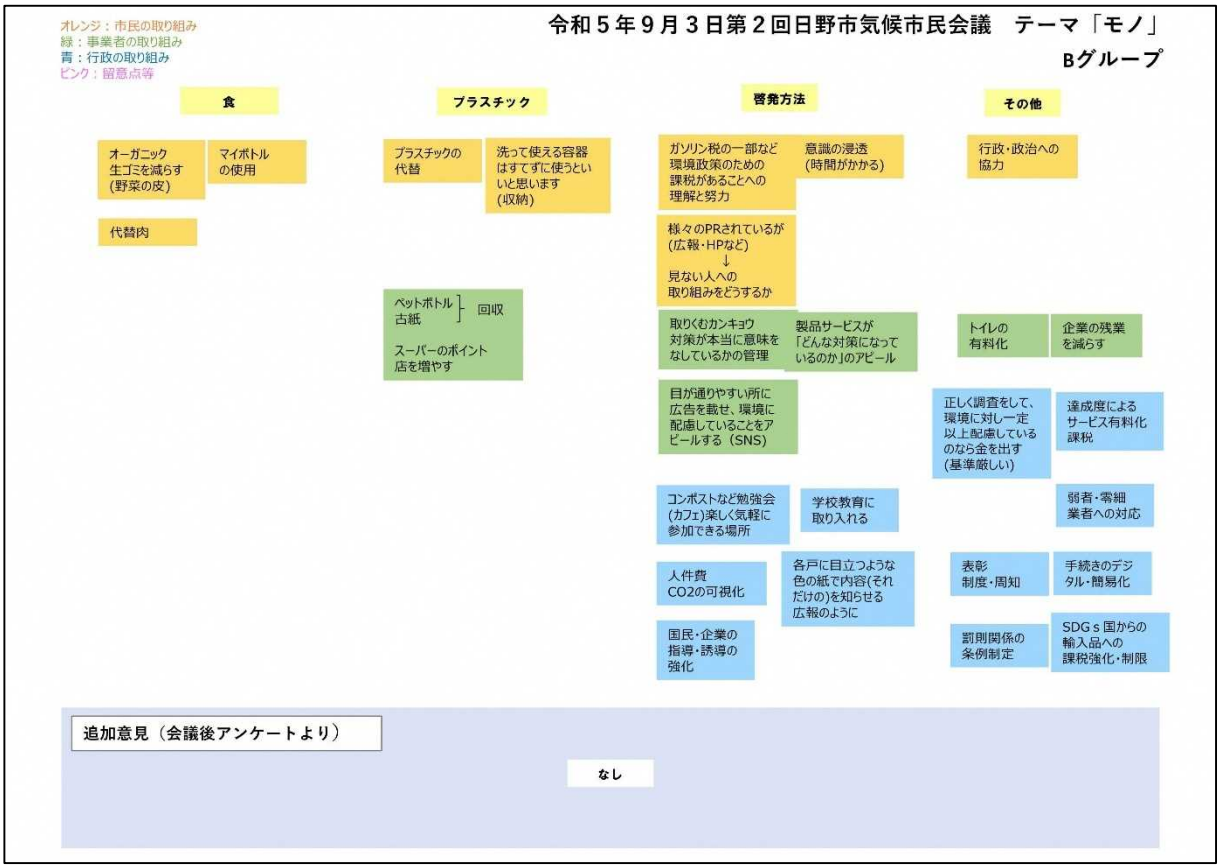
(4) グループワークの結果

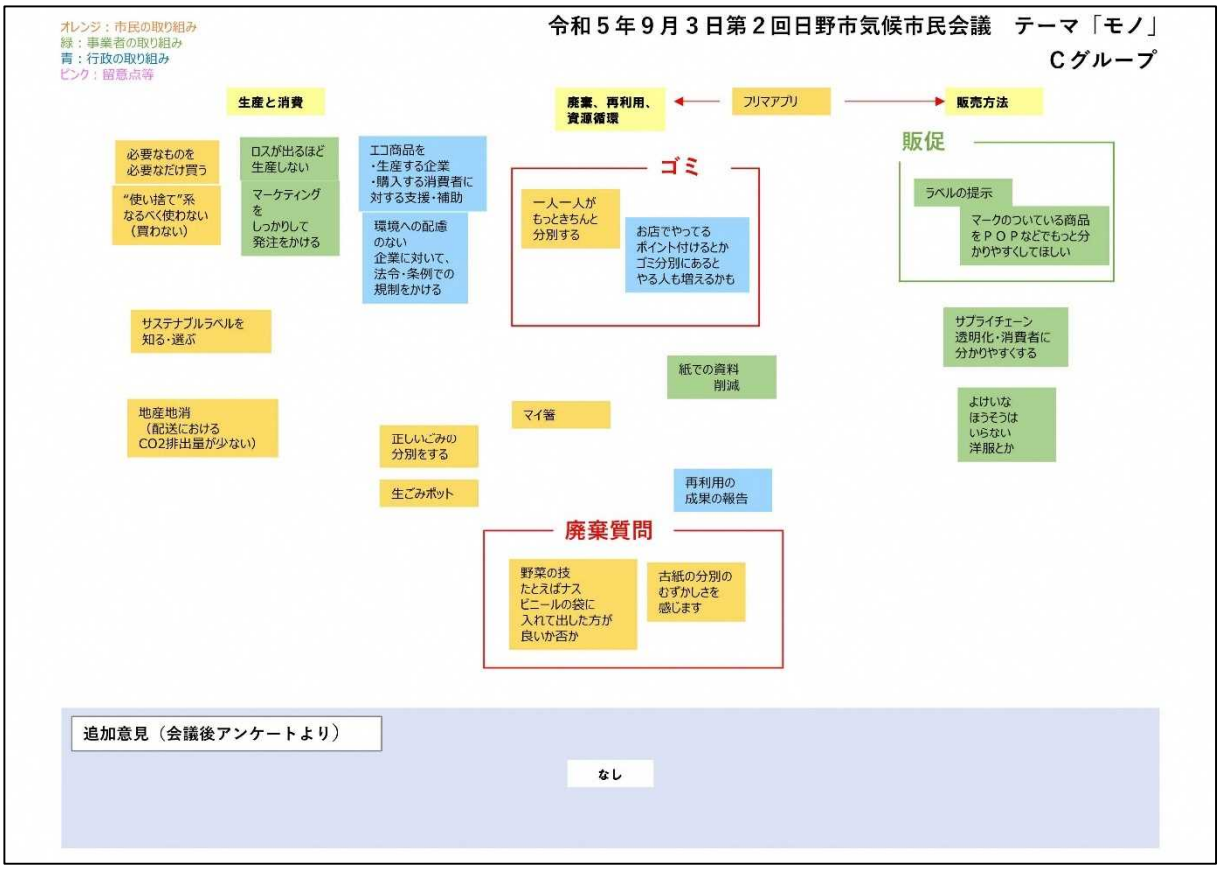
第 2 回会議のグループワークの結果を以下に示します。

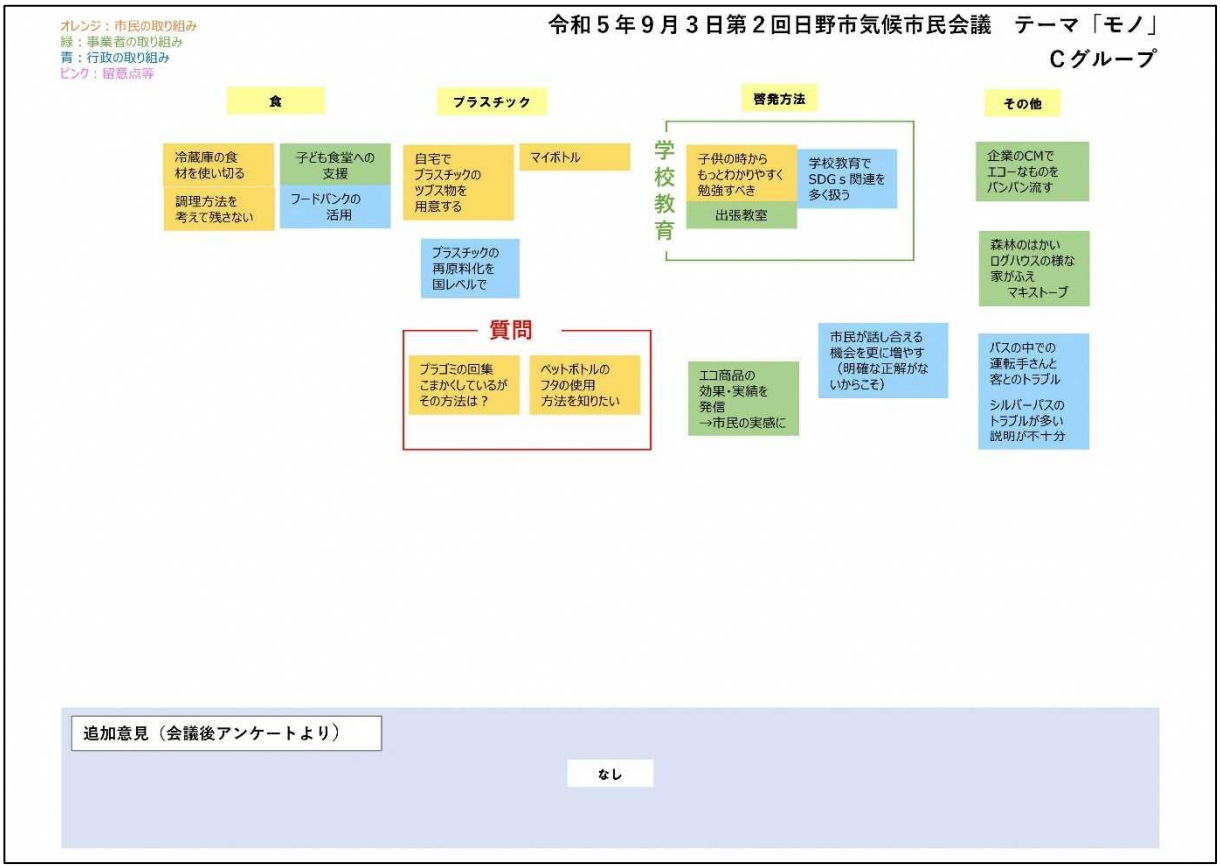


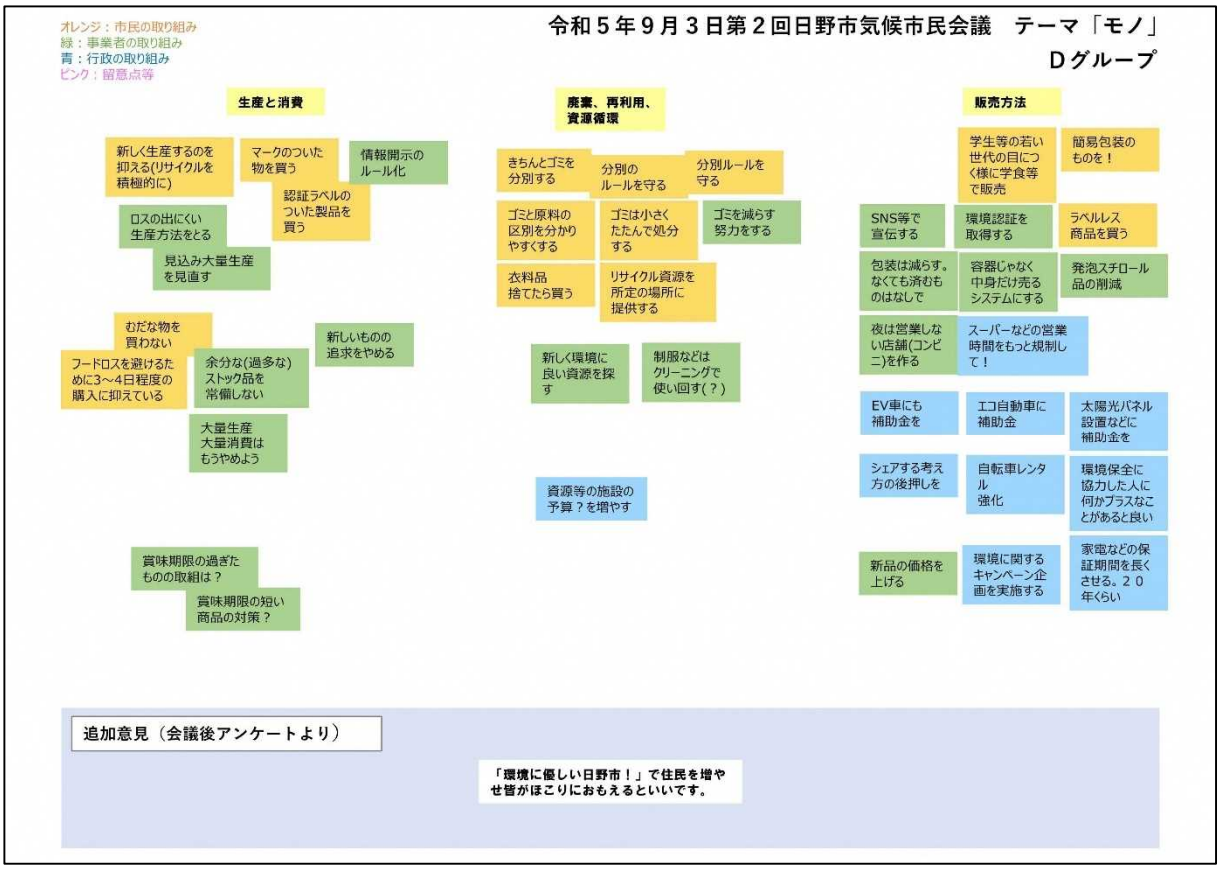


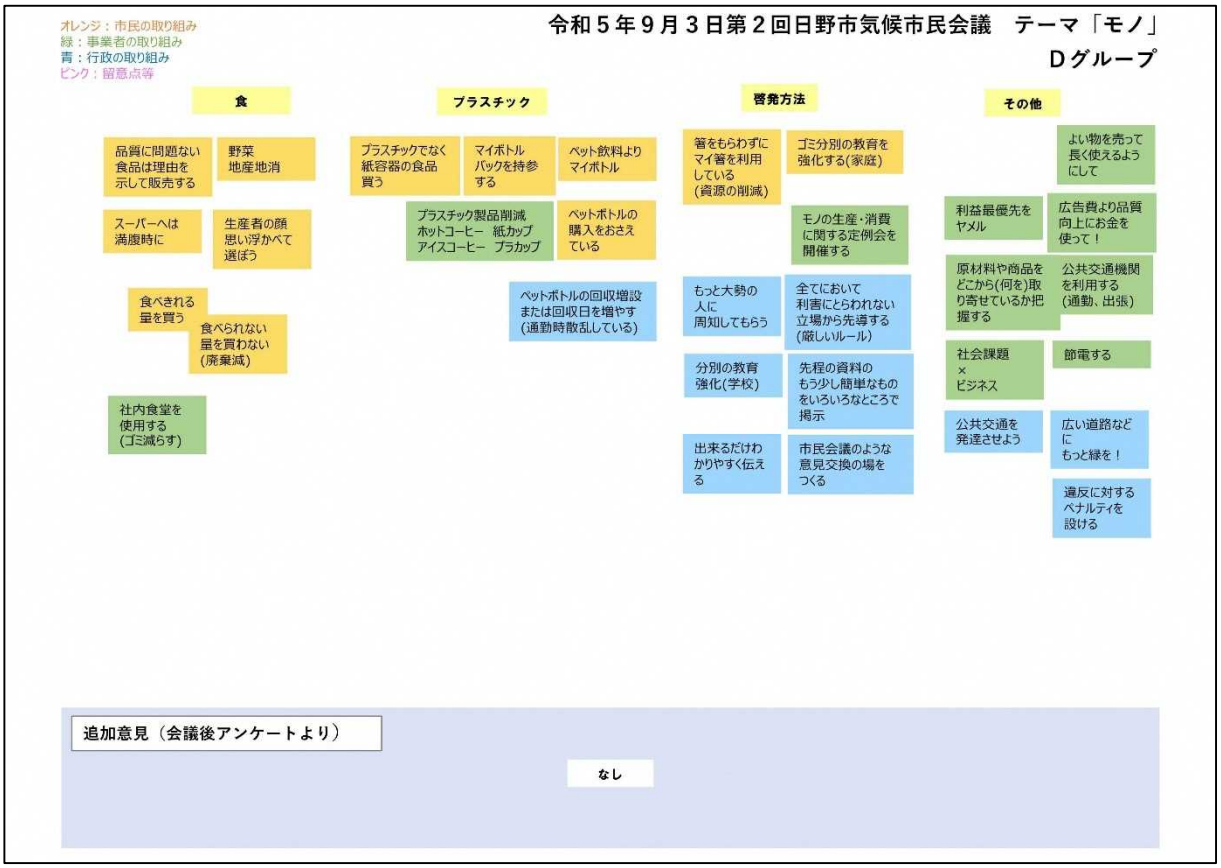

オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年９月３日第２回日野市気候市民会議　テーマ「モノ」
Bグループ
生産と消費
服の素材に注目(リネン・コットン土にかえる)
電気LEDへ家族の手伝い
最小のごみ袋を購入し、その分のごみに減らす
メルカリで教科書を購入・販売
本当に必要かどうかを考えて買う。すてるときのことまで考えて買う
陶器や小物等使わなくなったものをゆずる場をもうけてほしい（役所・公園）
購入量を意識
買いすぎない作りすぎない残さない
過剰に買わない
リサイクルできるものを買う
先輩に服をもらう
車に乗らず徒歩・電車使用
環境に配慮している企業のものを買う
1%でも生産を減らす生産性があまりない
永く使えるものを作って！価格が高くても簡単にこわれない
お肉の入れものを袋売りにしてほしい
環境に配慮した家づくり
ごみ処理リサイクル状況の可視化(カメラで見せる)
代替材料の開発
野菜や果物の個別・量販売
ファストファッションは作らない
ゴミ出し、収集の簡略方法の工夫
日野市は畑が多く農作物が多いと思うもっとアピールした方がよいと思う
スプーンや箸をつけない
個人で購入する必要のない移動の手段(シェア)
ディスポーザーの整備
ごみ袋に日野市のごみ多い車を書いてほしいモチベーションUPに
水屋さんを(飲料)地域にふやしてほしい
フリースの制限（再生ポリエステル）
廃棄、再利用、資源循環
フリマアプリ、高齢の方も使える様に
製品の素材が何にリサイクルされるかを理解
ゴミは捨てるまでゴミではない
みつろうラップ捨てずに利用でゴミを出さない
ごみの分別を正確に行いリサイクル量を増やす
キチンと分別する
空き家シェア
シェア乗り・シェア運搬を行っていく
使いまわしすることで同じような仕事をするようなモノはなるべく使い捨てのモノを使わない
引っ越し時に引っ越し業者の方資源ゴミリサイクル
シェアカーを日野市民で使える様な仕組み
日野市のごみ袋有料化でゴミが減ったのはいいことだけれど、それをゴールにしては中途半端だと思う
プラゴミの分類は本当に必要なのか。金額にともなった価値はあるのか。他のお金の使い方があるのではないか
それを東京全体ができれば日本が変わっていくと思う(市長さんがんばって)
プラスチックのより細かい分別枠合成プラか否→市民が判断できることが前提
ゴミ出しの場の鳥対策(カラスなど)袋がやぶれて収集もれが出るため
販売方法
購入・販売のルール(便利さの見直し)
置き配の有料化
宅配業者・センター受取告知・指定時間ではなく不在時間
一つの店(箱)で複数店運営する
開店時間の制限
取引先の相互監視
深夜営業の許可制
日野の応援生協みたいな仕組みを地域毎で作って買い物できたらいい
中小企業に対して、取り組みに応じた減税
追加意見（会議後アンケートより）
なし


オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年９月３日第２回日野市気候市民会議　テーマ「モノ」
Bグループ
食
オーガニック生ゴミを減らす(野菜の皮)
マイボトルの使用
代替肉
プラスチック
プラスチックの代替
洗って使える容器はすてずに使ういいと思います(収納)
ペットボトル
古紙
回収
スーパーのポイント店を増やす
啓発方法
ガソリン税の一部など環境政策のための課税があることへの理解と努力
意識の浸透(時間がかかる)
様々のPRされているが(広報・HPなど)
↓
見ない人への取り組みをどうするか
取りくむカンキョウ対策が本当に意味をなしているかの管理
製品サービスが「どんな対策になっているのか」のアピール
目が通りやすい所に広告を載せ、環境に配慮していることをアピールする（SNS）
コンポストなど勉強会(カフェ)楽しく気軽に参加できる場所
学校教育に取り入れる
人件費CO2の可視化
各戸に目立つような色の紙で内容(それだけの)を知らせる広報のように
国民・企業の指導・誘導の強化
その他
行政・政治への協力
トイレの有料化
企業の残業を減らす
正しく調査をして、環境に対し一定以上配慮しているのなら金を出す(基準厳しい)
達成度によるサービス有料化課税
弱者・零細業者への対応
表彰制度・周知
手続きのデジタル・簡易化
罰則関係の条例制定
SDGｓ国からの輸入品への課税強化・制限
追加意見（会議後アンケートより）
なし


オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年９月３日第２回日野市気候市民会議　テーマ「モノ」
Ｃグループ
生産と消費
廃棄、再利用、資源循環
フリマアプリ
販売方法
必要なものを必要なだけ買う
ロスが出るほど生産しない
エコ商品を・生産する企業・購入する消費者に対する支援・補助
“使い捨て”系なるべく使わない（買わない）
マーケティングをしっかりして発注をかける
環境への配慮のない企業に対いて、法令・条例での規制をかける
ゴミ
一人一人がもっときちんと分別する
お店でやってるポイント付けるとかゴミ分別にあるとやる人も増えるかも
販促
ラベルの提示
マークのついている商品をＰＯＰなどでもっと分かりやすくしてほしい
サステナブルラベルを知る・選ぶ
サプライチェーン透明化・消費者に分かりやすくする
紙での資料削減
地産地消（配送における CO2排出量が少ない）
マイ箸
よけいなほうそういらない洋服とか
正しいごみの分別をする
生ごみポット
再利用の成果の報告
廃棄質問
野菜の技たとえばナスビニールの袋に入れて出した方が良いか否か
古紙の分別のむずかしさを感じます
追加意見（会議後アンケートより）
なし


オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年９月３日第２回日野市気候市民会議　テーマ「モノ」
Ｃグループ
食
プラスチック
啓発方法
その他
冷蔵庫の食材を使い切る
子ども食堂への支援
自宅でプラスチックのツブス物を用意する
マイボトル
学校教育
子供の時からもっとわかりやすく勉強すべき
学校教育でSDGｓ関連を多く扱う
企業のCMでエコーなものをバンバン流す
調理方法を考えて残さない
フードバンクの活用
出張教室
森林のはかいログハウスの様な家がふえ　マキストーブ
プラスチックの再原料化を国レベルで
質問
プラゴミの回集こまかくしているがその方法は？
ペットボトルのフタの使用方法を知りたい
エコ商品の効果・実績を発信→市民の実感に
市民が話し合える機会を更に増やす（明確な正解がないからこそ）
バスの中での運転手さんと客とのトラブル
シルバーパスのトラブルが多い説明が不十分
追加意見（会議後アンケートより）
なし


オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年９月３日第２回日野市気候市民会議　テーマ「モノ」
Ｄグループ
生産と消費
新しく生産するのを抑える(リサイクルを積極的に)
マークのついた物を買う
情報開示のルール化
認証ラベルのついた製品を買う
ロスの出にくい生産方法をとる
見込み大量生産を見直す
むだな物を買わない
フードロスを避けるために3～4日程度の購入に抑えている
余分な(過多な)ストック品を常備しない
新しいものの追求をやめる
大量生産大量消費はもうやめよう
賞味期限の過ぎたものの取組は？
賞味期限の短い商品の対策？
廃棄、再利用、資源循環
きちんとゴミを分別する
分別のルールを守る
分別ルールを守る
ゴミと原料の区別を分かりやすくする
ゴミは小さくたたんで処分する
ゴミを減らす努力をする
衣料品捨てたら買う
リサイクル資源を所定の場所に提供する
新しく環境に良い資源を探す
制服などはクリーニングで使い回す(？)
資源等の施設の予算？を増やす
販売方法
学生等の若い世代の目につく様に学食等で販売
簡易包装のものを！
SNS等で宣伝する
環境認証を取得する
ラベルレス商品を買う
包装は減らす。なくても済むものはなしで
容器じゃなく中身だけ売るシステムにする
発泡スチロール品の削減
夜は営業しない店舗(コンビニ)を作る
スーパーなどの営業時間をもっと規制して！
EV車にも補助金を
エコ自動車に補助金
太陽光パネル設置などに補助金を
シェアする考え方の後押しを
自転車レンタル強化
環境保全に協力した人に何かプラスなことがあると良い
新品の価格を上げる
環境に関するキャンペーン企画を実施する
家電などの保証期間を長くさせる。２０年くらい
追加意見（会議後アンケートより）
「環境に優しい日野市！」で住民を増やせ皆がほこりにおもえるといいです。


オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年９月３日第２回日野市気候市民会議　テーマ「モノ」
Ｄグループ
食
品質に問題ない食品は理由を示して販売する
野菜地産地消
スーパーへは満腹時に
生産者の顔思い浮かべて選ぼう
食べきれる量を買う
食べられない量を買わない(廃棄減)
社内食堂を使用する(ゴミ減らす)
プラスチック
プラスチックでなく紙容器の食品買う
マイボトルバックを持参する
ペット飲料よりマイボトル
プラスチック製品削減
ホットコーヒー　紙カップ
アイスコーヒー　プラカップ
ペットボトルの購入をおさえている
ペットボトルの回収増設または回収日を増やす(通勤時散乱している)
啓発方法
箸をもらわずにマイ箸を利用している(資源の削減)
ゴミ分別の教育を強化する(家庭)
モノの生産・消費に関する定例会を開催する
もっと大勢の人に周知してもらう
全てにおいて利害にとらわれない立場から先導する(厳しいルール)
分別の教育強化(学校)
先程の資料のもう少し簡単なものをいろいろなところで掲示
出来るだけわかりやすく伝える
市民会議のような意見交換の場をつくる
その他
よい物を売って長く使えるようにして
利益最優先をヤメル
広告費より品質向上にお金を使って！
原材料や商品をどこから(何を)取り寄せているか把握する
公共交通機関を利用する(通勤、出張)
社会課題×ビジネス
節電する
公共交通を発達させよう
広い道路などにもっと緑を！
違反に対するペナルティを設ける
追加意見（会議後アンケートより）
なし

オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等

令和５年９月３日第２回日野市気候市民会議　テーマ「モノ」
Ｅグループ

生産と消費

- 地産地消していく
- 国産にこだわる
- 物流コスト
- 配送車のEV化に取り組む
- ネット購入時はできる限りまとめて行う
- 賞味期限が長い商品を作る
- 物の移動によるCO２削減
- 賞味期限が短いものは値下げして売る
- 環境配慮に取り組む企業の製品を積極的に購入する
- 環境配慮に取り組む企業に補助金をあてる

廃棄、再利用、資源循環

- ごみの分別を徹底する
- ゴミ出しはまとめて行う
- 市民によるバザー
- 資源のリサイクルを行う
- 古着(まだ使用できるものリサイクルは？ショップの普及
- 生ごみを肥料として使う畑を作る市民農園
- 地域センターのリサイクル活用
- リサイクル等にかかる費用の寄付、負担をしてもらう

販売方法

- コンビニ店頭でゴミの分別回収をスーパーのように(もっと細かく)
- プラスチック容器ではなく紙容器に変える
- 容器を使いまわせるような水の販売

追加意見（会議後アンケートより）

なし

オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等

令和５年９月３日第２回日野市気候市民会議　テーマ「モノ」
Ｅグループ

食

- 野菜などはすべて使い切る
- 賞味期限の近いものから消費する
- 水道の安全を保障する
↓
ペットボトルの削減につながる

プラスチック

- パッケージの簡略化

啓発方法

- SNSによる広報(LINE,TicToc など)
- 家族 地域 で話そう
- 興味を持てる広報にする
- 啓発方法の改善
- セミナーを設ける(年齢問わず)
- 学校で教える

その他

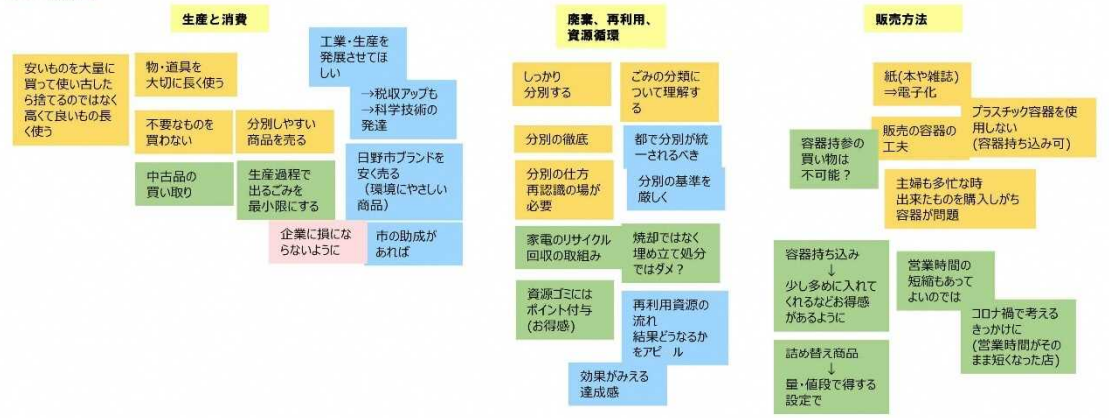
- エコな行動がどのような結果をうむか

追加意見（会議後アンケートより）

なし

オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等

令和５年９月３日第２回日野市気候市民会議　テーマ「モノ」
Ｆグループ



追加意見（会議後アンケートより）

なし

オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等

令和５年９月３日第２回日野市気候市民会議　テーマ「モノ」
Ｆグループ

追加意見（会議後アンケートより）

なし

3 第 3 回会議

(1) 会議の概要

日　　時：2023 年 10 月 1 日（日）　13:15～17:15
場　　所：日野市役所（東京都日野市神明 1-12-1）　505 会議室
参加者数：33 名
テ ー マ：モビリティに関わるカーボンニュートラル
協 力 者：
井原 雄人 氏
早稲田大学 スマート社会技術融合研究機構 電動車両研究所 研究院客員准教授
日野自動車株式会社
佐川急便株式会社

(2) 会議のプログラム

第 3 回会議のプログラムを以下に示します。なお、会議資料は WEB 上に公開しました。

第 3 回会議のプログラム

時刻	時間	プログラム		担当
13:15～	10 分	開会、第 2 回の振り返り等		日野市、事務局
13:25～	5 分	質疑応答		
13:30～	30 分	モビリティに関する情報提供		井原 雄人 氏
14:00～	5 分	質疑応答		
14:05～	5 分	休憩		
14:10～	15 分	モビリティに関する情報提供		日野自動車（株）
14:25～	15 分	モビリティに関する情報提供		佐川急便（株）
14:40～	10 分	休憩		
14:50～	5 分	モビリティに関する情報提供のまとめ		井原 雄人 氏
14:55～	5 分	質疑応答		井原 雄人 氏、事業者
15:00～	5 分	グループワーク	進め方の説明	事務局 ファシリテーター
15:05～	30 分		モビリティに関する市民の取り組み	
15:35～	30 分		モビリティに関する事業者の取り組み	
16:05～	30 分		モビリティに関する行政の取り組み	
16:35～	5 分		モビリティに関する取り組みのまとめ	
16:40～	25 分	グループワークの結果の発表		
17:05～	5 分	まとめと講評		井原 雄人 氏
17:10～ 17:15	5 分	閉会、事務連絡		日野市

(3) 情報提供等に対する質問と回答の内容

第 3 回会議の情報提供等に対して参加者からあがった質問とそれに対する回答の内容を以下に示します。なお、参加者からあがった質問には、会議終了後に行ったアンケートに記載された質問も含みます。また、この質問と回答は、後日参加者全員に開示するとともに、第 4 回会議の際に一部を紹介しました。

第 3 回会議の講義等に対する質問と回答の内容（1/7）

【自家用車に関すること】

No.	質問	回答	回答者
1	”マイカー”の中に原付や電動自転車は含まれるのでしょうか？	マイカーの語源は「乗用車」の拡販のために作った用語ですので、原付や自転車は含まれません。しかし、考え方として「マイ」というところから、自分で所有しているか、シェアリングなどにより共有しているかで、分類して考えるというのも良いと思います。	井原氏
2	井原先生へのご質問で当日のお話しと質問が重複してしまって申し訳ないのですが、ガソリン車なら 10 年以上持てば電気自動車より良いということに関して、もう少し詳しくご説明頂けたら嬉しいです	10 年ではなく、10 万「km」走れば環境に良いということになります。ガソリン車の CO_2 の排出は走る距離に比例して増えていきますが、電気自動車は走行中の排出が 0 で、発電する際の CO_2 を含めてもガソリン車より優れているため、10 万 km のように距離が長くなればなるほど、電気自動車の方が環境に良くなります。	井原氏
3	極論、 ①一斉にガソリン車を一気に次世代型車両へと買い替える ②ガソリン車を寿命まで使い切って次世代型車両へ替える の 2 つだと、どちらの方が環境に良いと言えるのでしょうか。	車両を置き換えた前後の一瞬だけを見れば、一斉に次世代型車両に置き換えた方が良いですが、徐々に置き換えたとしても、全体で必要になる台数は同一ですので（必ずどこかで乗り換える）20～30 年という単位でみればほとんど差がありません。 また、現実的にはコストの問題もありますが、クルマの生産体制の問題から①を行うことは不可能です。	井原氏
4	今、使用している自家用車をそのまま使えるのが一番良いと思いますので、ガソリン(CO_2 を出さない成分など)の方の研究をすすめていただきたいです。各家庭における CO_2 吸収装置を加湿器を置くように手軽に購入できたら良いです。	ガソリンの代替として e-fuel というものの開発が進んでいます。しかし、これはまだまだ開発段階で、700 円/L くらいのコストがかかってしまい、こちらも 2050 年までに現状のガソリンと同等になるようにと開発が進められています。	井原氏

第３回会議の講義等に対する質問と回答の内容（2/7）

【デマンド交通に関すること】

No.	質問	回答	回答者
5	日野自動車さんの智頭町のバスの代替運行について知りたいです。	この地域はバスやタクシーの民間事業者が撤退した交通空白地帯でした。通学のためのスクールバスを自治体で運行（民間に委託）していましたが、便数が限られるなどの理由で自家用車を住民が運転する「自家用有償輸送」（共助交通）が取り入れられました。この運用は防災用として各家庭に備え付けられていた告知端末機、および電話で申し込む「デマンド方式」が採用されています。日野自動車の関わりかたなどはこちらを参照ください。 https://www.hino.co.jp/corp/news/2023/20230703-003527.html https://www.hino.co.jp/corp/hinotopics/interview/007-1.html	日野自動車
6	日野自動車さんではデマンドタクシーの実施開始はいつ頃？ 準備期間はどのくらいかかりましたか？ 初期費用、運営経過及び現状での成果は？	今回ご紹介した共助交通のケースでは、運営母体は自治体（智頭町）となり、この共助交通（自家用有償輸送）全体の準備、費用は智頭町の管理となっています。弊社が担っているのは、自家用有償輸送実施のために法律で定められている日々のドライバーの点呼（始業時・終業時）および帳票管理になります。ご参考：実証段階から実運行までの準備期間は約２年です。運営経過に関しましては従前のスクールバスに混乗（相乗り）と比較すると約 30 名/日の利用者が、現在は約 120 名/日となっており、大幅に「移動する人」が増えています。（500円/回）	日野自動車

第３回会議の講義等に対する質問と回答の内容（3/7）

【物流に関すること】

No.	質問	回答	回答者
7	貨物輸送を自動車から鉄道や船舶に切り替えるモーダルシフトの話があった。国土が広い国ではできるかもしれないが、日本のように国土が狭い国では難しいのではないか。災害への対応や、積み込みの時間の問題、積載量の問題もある。	佐川急便は「CNG（天然ガス）トラックやハイブリッドトラック、電気自動車といった環境対応車の導入」「トラックによる長距離貨物輸送を、大量輸送が可能でCO_2排出量が少ない列車や船の輸送などに切り替えるモーダルシフトの推進」「エコ安全ドライブによる燃料消費の抑制」など、事業活動の合理化・効率化を通じて積極的にCO_2排出量の削減に努め、脱炭素社会の実現に貢献しています。 ※佐川急便の環境活動は弊社 HP でご確認いただけます【佐川急便】環境｜サステナビリティ（sagawa-exp.co.jp）	佐川急便
		トラックで輸送していたものを鉄道に切り替えるというのは大きなことであるが、もっと小さいところでも交通モードを組み合わせるということが始まっています。例えば、帯広市ではバスに乗るお客さんが少ないため、空いている座席を使って野菜を運ぶということをしています。今まではバス１台、トラック１台を走らせてCO_2を排出していたものをバス１台分におさめることができます。このような、小さな交通モードの組み合わせを広げていくことができると良いと考えています。（第３回に口頭で回答）	井原氏

第３回会議の講義等に対する質問と回答の内容（4/7）

No.	質問	回答	回答者
8	良い取り組みをしている会社を選ぶことが大事という話があったが、どの会社がどのような取り組みをしているのかをすぐに判断できる認証マークのようなものはあるか。	エコ認証のようなマークはあります。ただし、そういう質問があるということは、分かりにくいという課題があるのだと思います。そのため、第３回会議のグループワークのなかでも、貨物事業者に対し、どのような取り組みをしているのかを分かるように示して欲しいという提案を挙げていただくと良いと思います。 集荷を依頼する際にどれだけCO_2が排出されるのかを計算することができるようにしている貨物事業者もあり、こういった取り組みを各社がやるようになれば、比較できるようになります。（第３回に口頭で回答）	井原氏
9	ネット注文、物流企業に大いに負荷をかける生活の仕方―いいのでしょうか？	環境面だけいえば、個人がそれぞれ移動をするのに比べて、貨物でまとめて輸送できるため、荷物の量（トンキロ）当たりのCO_2排出量は少なくなります。 一方で、お買い物に行くために自分で移動するというのは、健康にも良いですし、人と交わることでの社会性として良いこともあるので、生活の仕方が「よいか」「よくないか」で言えば、あまり良くないことだと思います。	井原氏

第３回会議の講義等に対する質問と回答の内容（5/7）

【航空産業に関すること】

No.	質問	回答	回答者
10	長距離移動の一手段であり、CO_2を大量に放出する航空機の業界に於けるCO_2削減方策として、現状の取組状況と今後の課題を教えて下さい（講師） 例・・燃料、機体の軽量化、飛行経路、フライト方法、エンジンの改良等 ※国内線・国際線の両面からお願いします。	燃費という考え方において統一的に効いてくるのは軽量化です。そしてフライト方法としては最も効率のよい、速度や高度を利用するというのが基本的な考えですが、速達性や定時性といったものと相反する形になります。 燃料に関しては車両用の e-fuel とは異なり、バイオマス由来の持続可能な航空燃料（SAF）の開発が進められており、徐々に混焼率を増やす形での普及が進んでいます。 また、モーダルシフトと同じ考え方ですが、EU などでは一定の距離以下の運行を行わず、鉄道などで代替するという取り組みも行われています。このように、国内線においてはそもそも使わないというのも選択肢です。	井原氏

第３回会議の講義等に対する質問と回答の内容（6/7）

【その他】

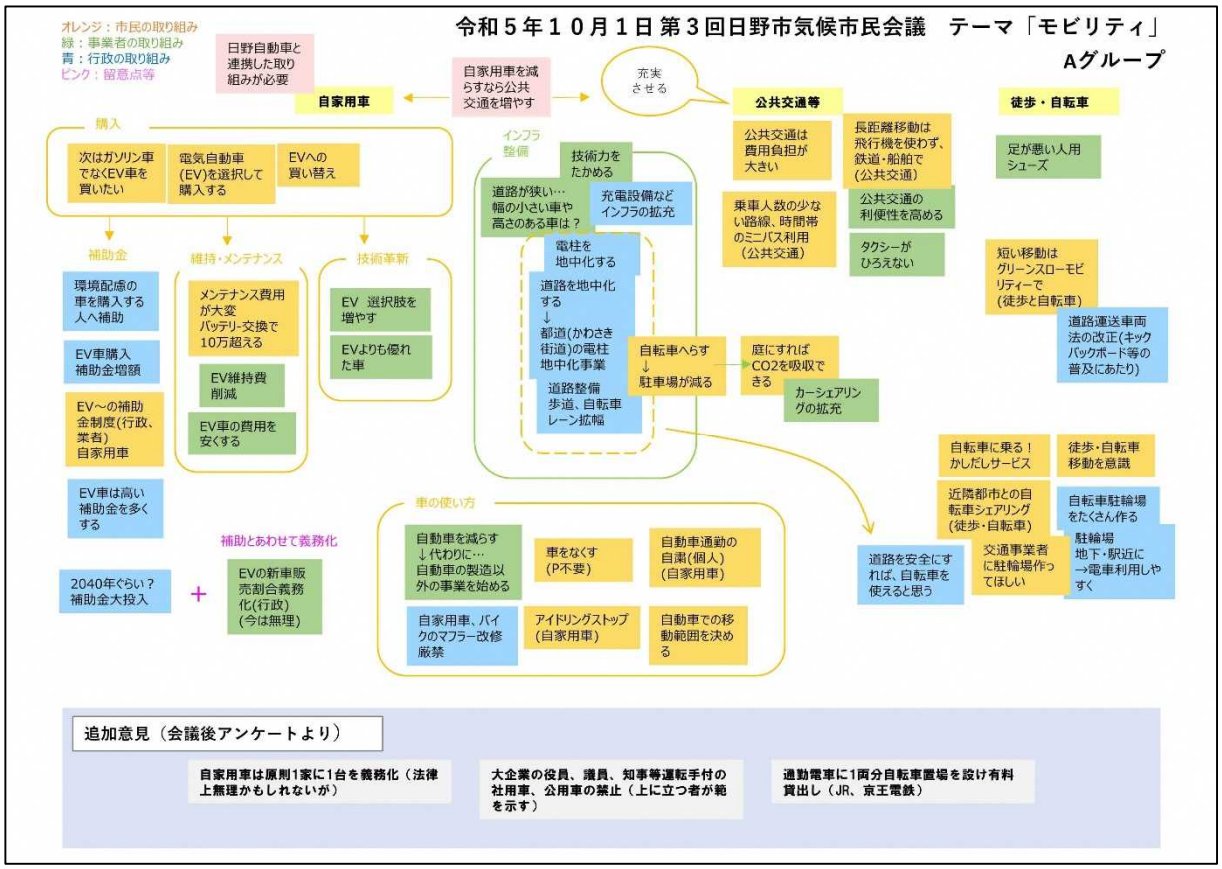
No.	質問	回答	回答者
11	以前、ポスターで「インクカードリッジ回収」ではなく、「インクカードリッジ里山活動」と称してリサイクルを呼びかけている例を見ました。そこで、質問ですが、罰や報酬ではなく、このような言葉の表現方法の工夫で成果が出た事例や研究があれば、教えてください。	ナッジと呼ばれるアプローチもその観点では近いと思います。 行動科学（又は行動経済学・政治理論など）では、ナッジ理論というものがあり、望ましい行動をとれるよう人を後押しするアプローチです。 ご質問のように、罰や報酬ではなく自発的な行動変容を促します。 ※シカゴ大学のリチャード・セイラー教授とハーバード大学のキャス・サンスティーン教授による著書『Nudge: Improving Decisions About Health, Wealth, and Happiness』をきっかけに広まりました。 海外では、バスケットボールに見立てたごみ箱や、スコットランドの大手ブルワリーBrewDog による、空き缶と自社の株式交換「Cans for Equity（缶と引き換えに株）」によるアルミ缶のリサイクル、カナダのスーパーによる、レジ袋を持ち歩きたくないような恥ずかしいデザインにしてエコバック推進など、多くの事例があるようです。 食品ロスに関しては、消費者庁の HP に報告書でいくつかの事例を見ることも出来ます。 https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/efforts/assets/consumer_education_cms201_230519_02_01.pdf 日本でも、徳島県の上勝町ではゼロ・ウェイストを目指し、ゼロ・ウェイストセンターで住民自ら廃棄物を置きにきて、回収がなされていますが、訪問したところ、ゴミではなく資源として認識出来るような、入れるかごへの金額換算の POP や（町がどれだけ収入が増減するかに繋がる）、持参した住民自身がお得になるようなポイント制度などもあります。 上勝町ゼロ・ウェイストセンター（why-kamikatsu.jp） それから、「贈りものに樹を植えよう！」という、プレゼントツリーなど、楽しめる企画も多くあります。 https://presenttree.jp/ 他、日本では、自治体による事例の HP があるので、参考になるかも知れません。 https://nudge-share.jp/ https://nudge-share.jp/area/environment-energy 日本版ナッジユニット https://www.env.go.jp/earth/ondanka/nudge.html などもありますので、参照されてみてください。 表現方法の工夫で楽しく活動出来るといいですね。	山口氏

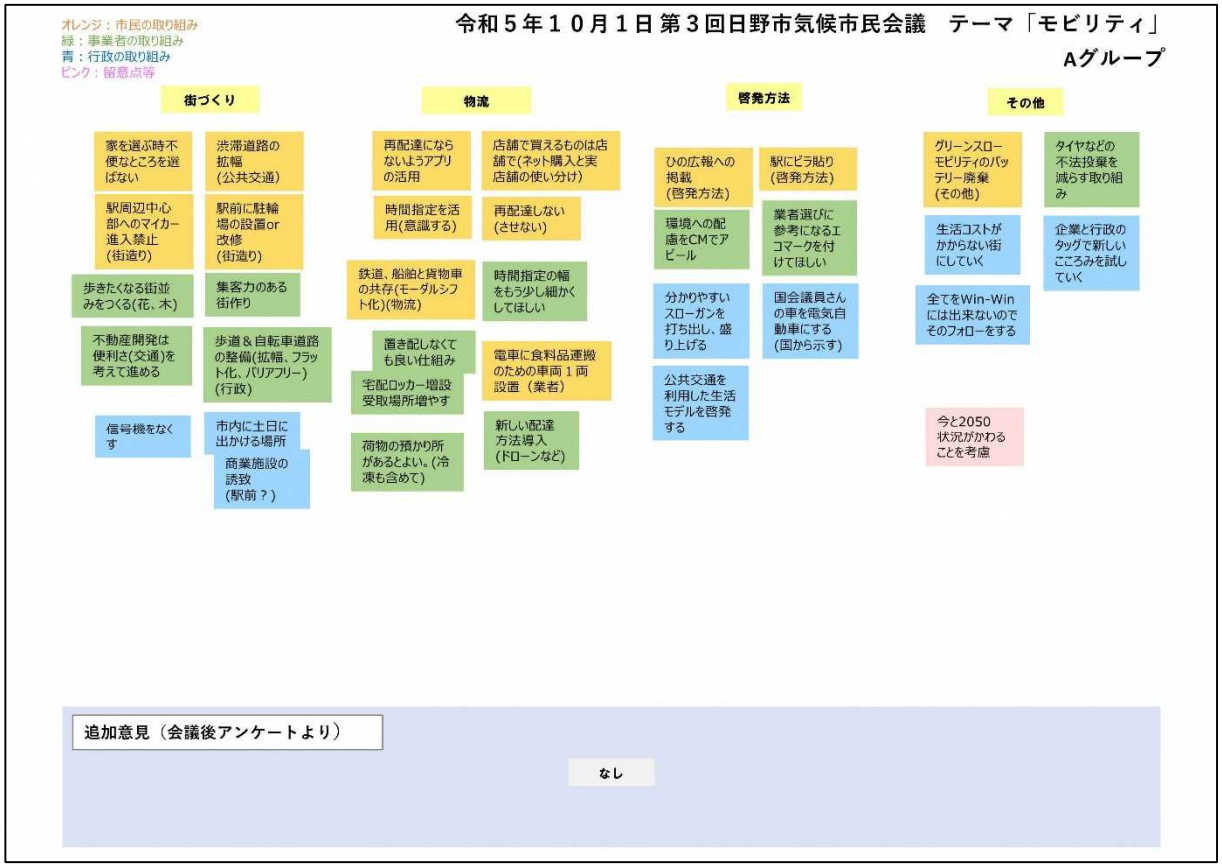
第３回会議の講義等に対する質問と回答の内容（7/7）

No.	質問	回答	回答者
12	今日の話もよく分かりましたが、…この程度のことで間に合うのかなあという不安があります。今年の暑さでさすがのトランプさんも気候変動、ひどいと理解できるのでは…というくらいでした。1.5°C 突破するんじゃないか、何ができるだろうと日々心配しています。考え出すと眠れなくなったりもします。本当にこの調子で間に合うのですか？	世界的に、今のペースの対策では残念ながら 1.5℃で温暖化を止めるのには間に合いません。気候変動対策の常識が世界中でもう一段階変化しなければならないような状況です。しかし、諦めるわけにはいきませんので、世界の対策が進むことを願いつつ日野市で最大限の対策を行う、あるいは日野市から常識の変化を起こしていくつもりで考えて頂きたいです。	江守氏
13	日野市で 2005 年基準として二酸化炭素削減に取り組んでいますが現在の数値の増減を教えていただけますか？	日野市の CO_2 排出量は、現時点の最新データである 2020 年で 546 kt-CO_2 です。 2005 年の 797kt-CO_2 に対し、31.4%の削減となっています。 ※オール東京 62 市区町村共同事業「多摩地域の温室効果ガス排出量」報告書より	日野市

(4) グループワークの結果

第３回会議のグループワークの結果を以下に示します。





オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等

令和５年１０月１日第３回日野市気候市民会議　テーマ「モビリティ」
Bグループ

自家用車

- アイドリングをやめる様に心がける
- 車に乗せているムダな荷物を降ろして燃費をよくする
- EV車の導入を検討する
- 超小型自動車を安く買える様に広めてほしい
- 少しでも燃費のいいものに買い換える
- 外車のようなかわいいデザインのEV車が欲しい(庶民でも手が届くランク)
- EVの充電スポットを増やす
- 駐車場完備として販売アピールしない
- 駐車場附置義務は見直し都条例のみ
- 駐車とりしまり(渋滞を招く駐車)
- grabタクシーのようなものを日本にもつくる

公共交通等

- 可能な限り公共交通機関を利用する
- 出来るだけバスを利用する
- 軌道者(電車)を増やす
- 介護を要しない高齢者の移動手段を増やす
- (組み合わせを考える)不便を許容できる不便に変える努力・工夫
- 免許を返納した方へお礼金(？)を渡す
- ミニバスの本数を増やしてほしい
- 免許返納者には無料(乗車賃)の期間をもうける
- シルバーパスをアプリにしてモバイルスイカと併用できるようにして
- 循環バス(市バス)完全無償化

徒歩・自転車

- そもそも車を持たない生活(用途に合わせてシェア)
- 眠っている自転車を使う様にして車を使う回数を減らす
- リサイクル素材による製品軽量化(紙、pet)
- 歩く、自転車に乗る
- なるべく徒歩・自転車を使う
- 健康のためにも歩く。ポイントとか付与する(あるのかな？)
- 自転車のルール遵守盗難されない見守りや環境
- 交通ポイントアプリを分かりやすく年代を広く使える様に
- シェアサイクルの設置拡充
- 歩いたらポイントがたまって商品を選べるシステムがあったらうれしい
- 自家用車を持たない人には自転車を買うために助成金を出す

追加意見（会議後アンケートより）

なし

オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等

令和５年１０月１日第３回日野市気候市民会議　テーマ「モビリティ」
Bグループ

街づくり

- 近隣住民の顔が見えるまちづくり
- 町の緑化、森林整備の参加
- 高齢者にやさしいまち
- 移動販売
- 道の整備
- 屋上の駐輪場普及
- 自転車ゾーンを作ってほしい(ミュンヘン)
- 歩道と車道の段差は０にしてほしい

物流

- 通販購入方法工夫(まとめ発注)
- 車などを使う時はまとめて同じ時に用を済ませる
- ご近所さんと一緒に買い物
- 置き配BOXの際の割引(BOX購入代にあてたい)
- 受け取れない時間の指定(ルートを作って配達できるように)
- 再配達の有料化
- コンビニ受取などわかりやすい情報提供(Telがないので)
- 宅配の設定変更の柔軟化
- 宅配BOXの義務化
- 宅配を船にすると遅くなる。それを選んだら＋になる仕組みが欲しい(割引き)
- 一度に持っていく量を増やし労働時間とCO2を減らす
- 段ボール以外梱包(簡易)リサイクル材回修
- 水、日用品等スーパー価格でコンビニで販売
- 水の移動販売

啓発方法

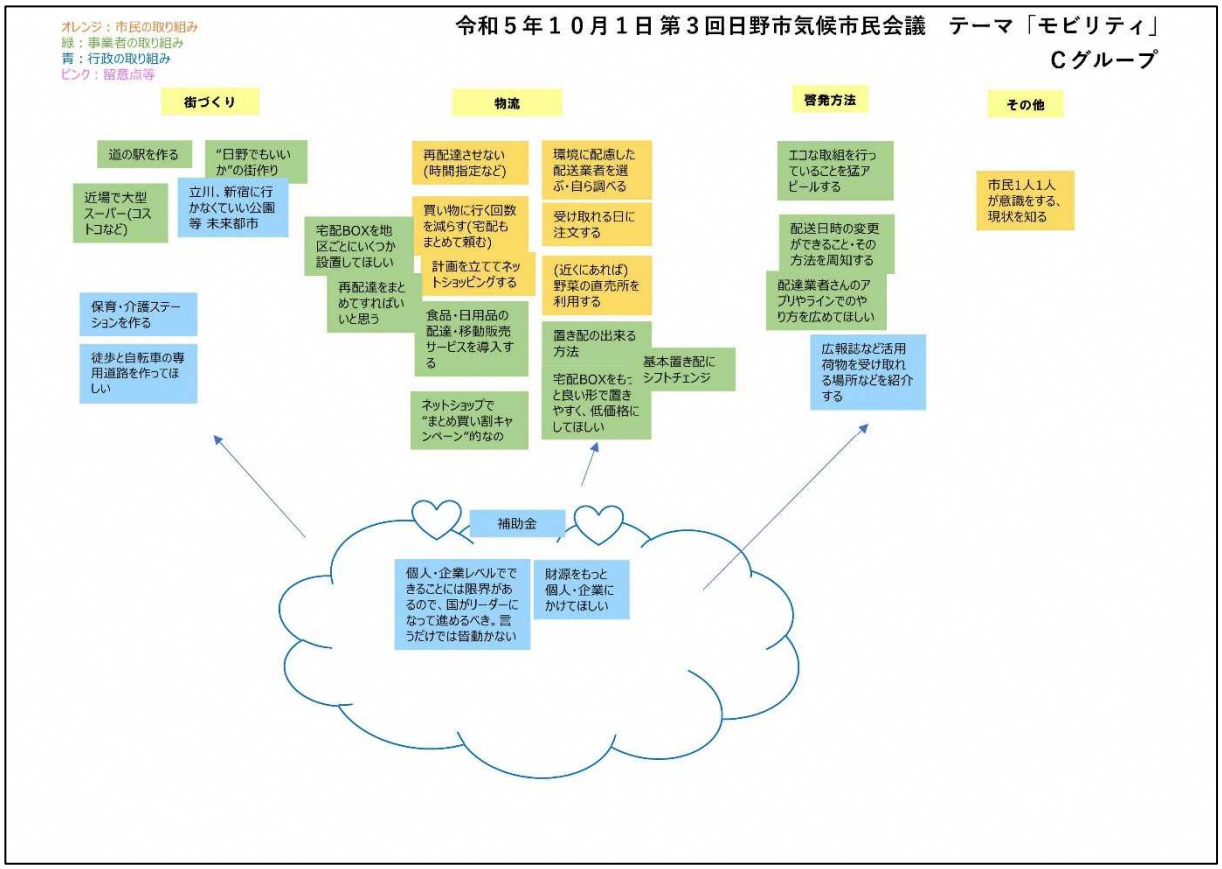
- 環境対策に取り組む団体を選ぶ
- 工夫の共有みんなで進める
- アプリ等の活用によりシェアリングまでのアクセスを容易に
- 高齢者へのICT活用(アプリとか)
- 社会貢献を増やしてほしい
- 企業の取り組みをごみ袋に(みるものにかく)
- 自家発電のテーマパーク、遊園地
  風力
  水力
  太陽光
- ミニバスでも！

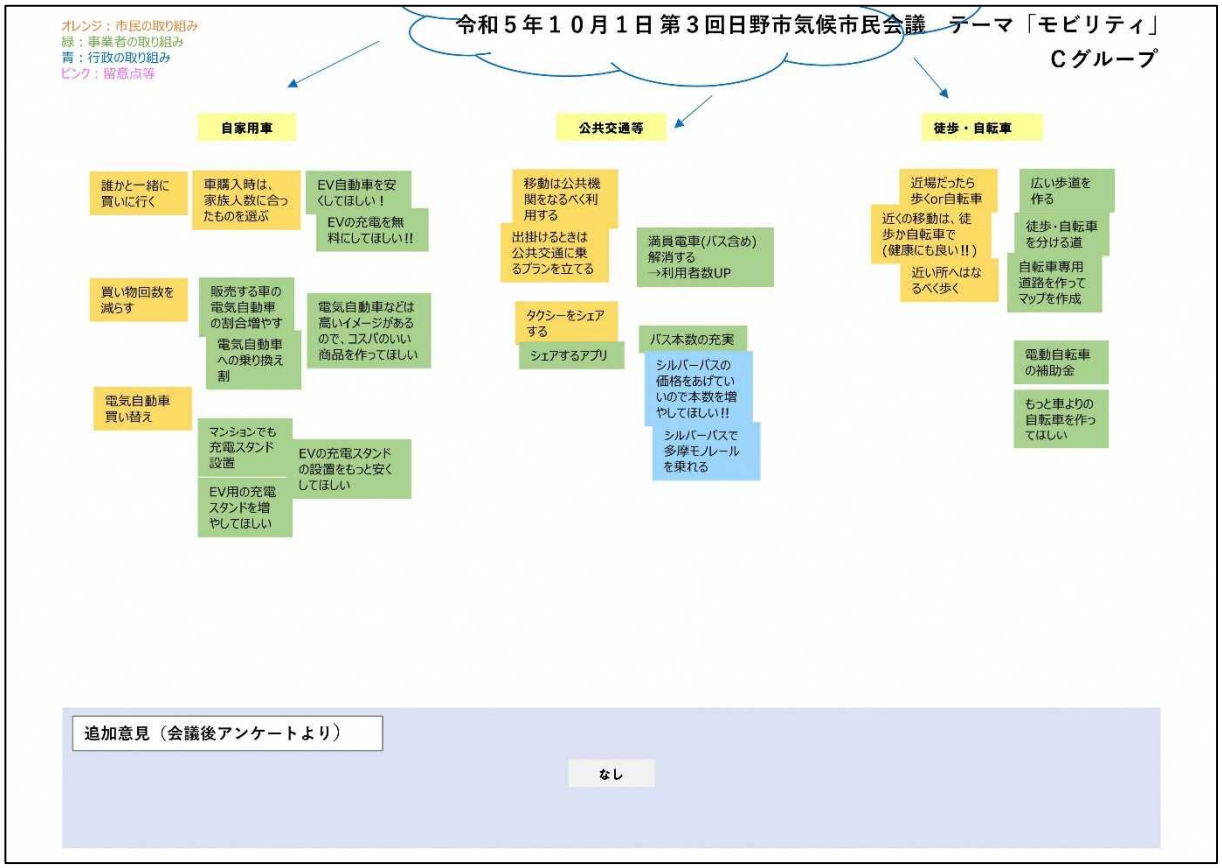
その他

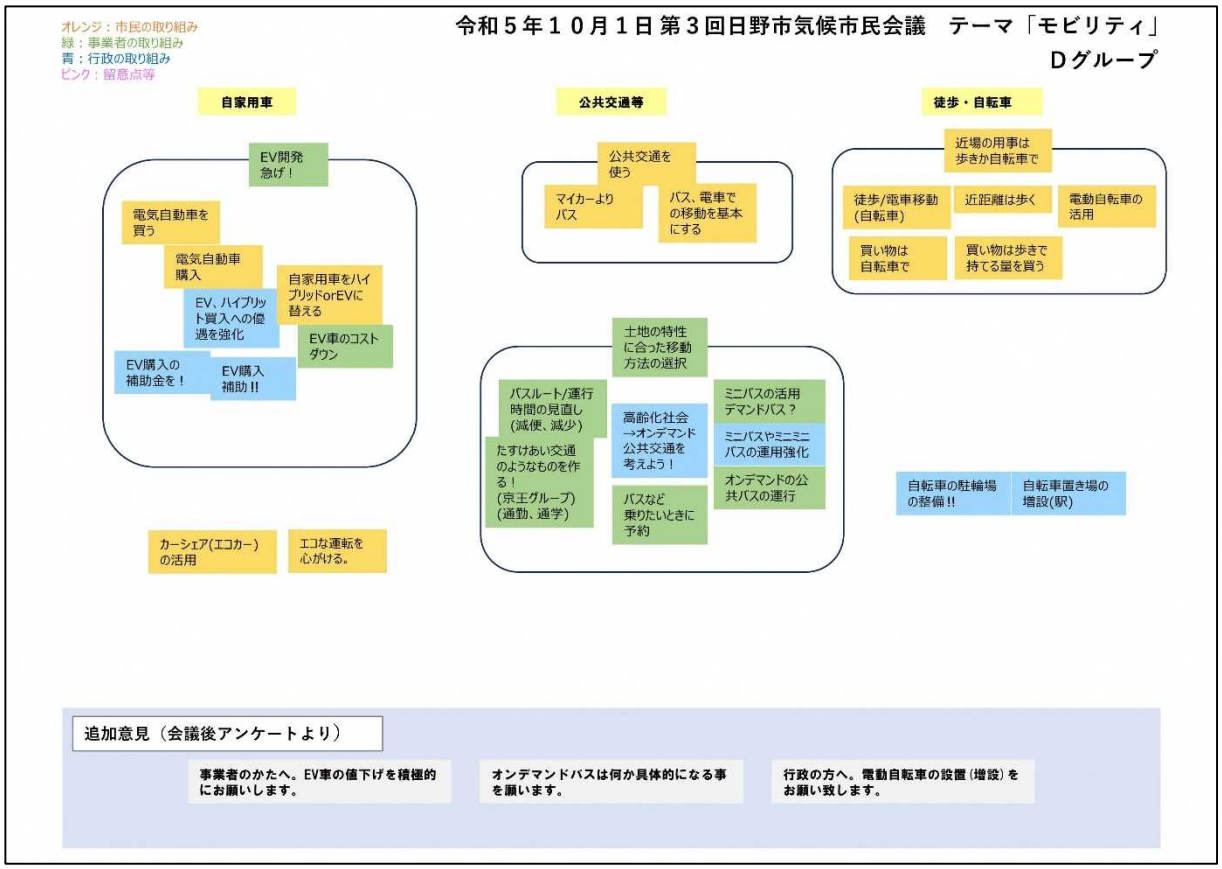
- 消防車等使えなくなった公共交通車のリサイクル
- 最低賃金増加

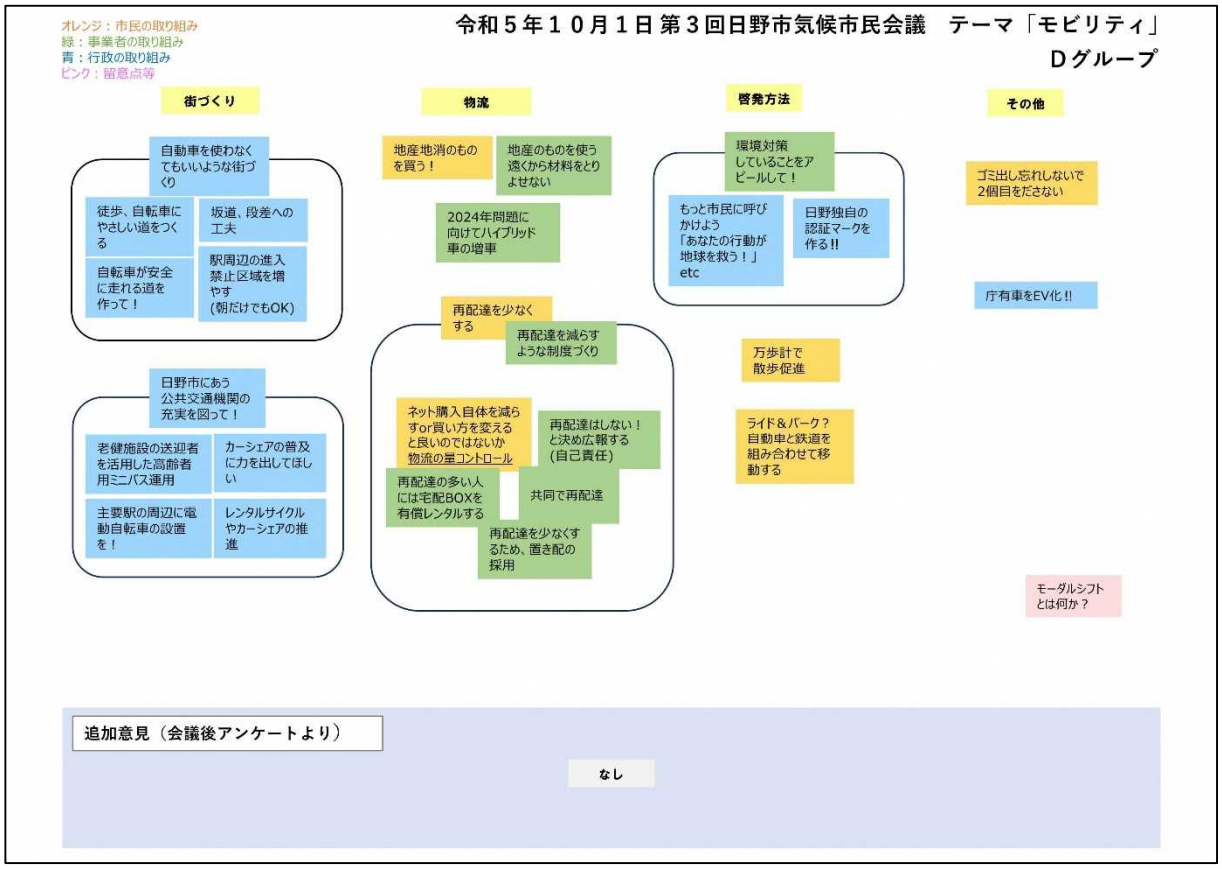
追加意見（会議後アンケートより）

なし

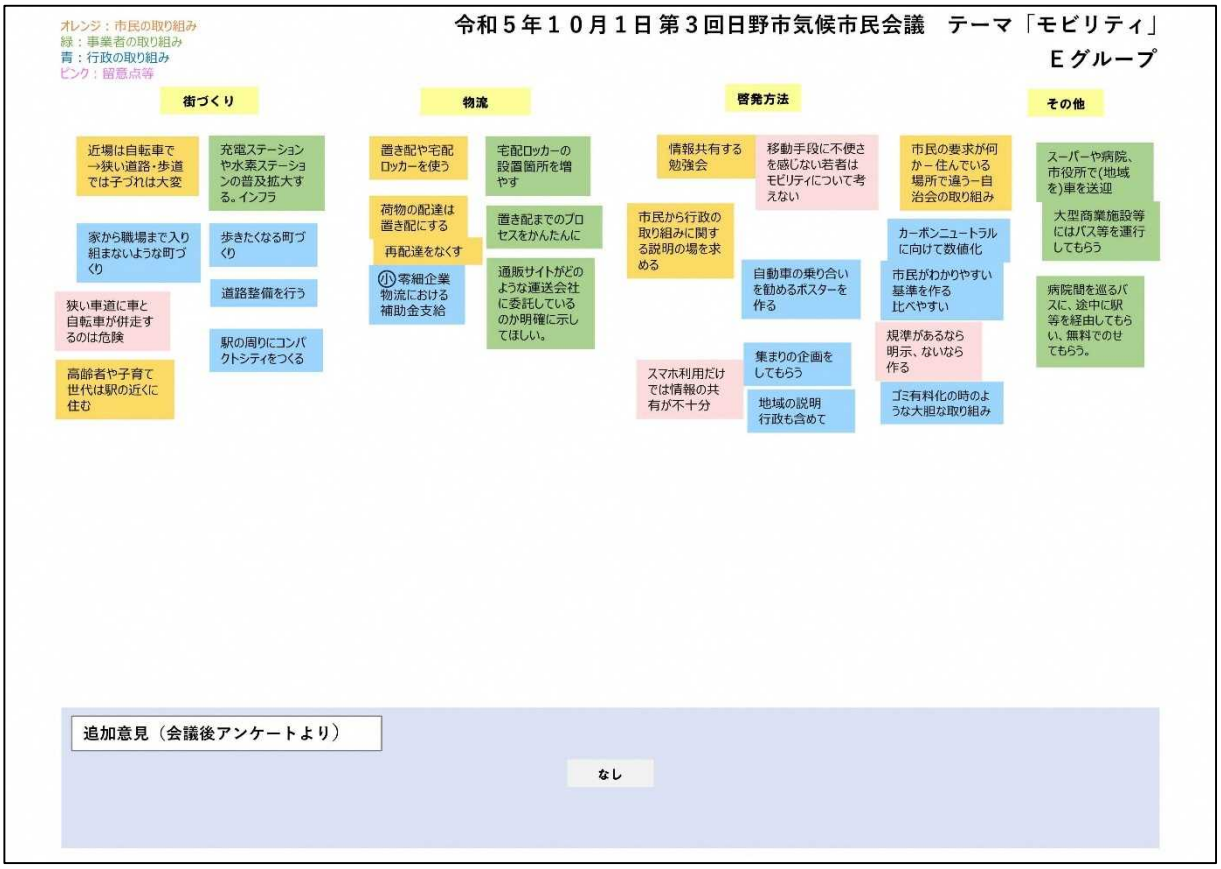

オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１０月１日第３回日野市気候市民会議　テーマ「モビリティ」
Ｃグループ
街づくり
物流
啓発方法
その他
道の駅を作る
“日野でもいいか”の街作り
近場で大型スーパー(コストコなど)
立川、新宿に行かなくていい公園等 未来都市
保育・介護ステーションを作る
徒歩と自転車の専用道路を作ってほしい
再配達させない(時間指定など)
環境に配慮した配送業者を選ぶ・自ら調べる
買い物に行く回数を減らす(宅配もまとめて頼む)
受け取れる日に注文する
宅配BOXを地区ごとにいくつか設置してほしい
計画を立ててネットショッピングする
(近くにあれば)野菜の直売所を利用する
再配達をまとめてすればいいと思う
食品・日用品の配達・移動販売サービスを導入する
置き配の出来る方法
基本置き配にシフトチェンジ
宅配BOXをもっと良い形で置きやすく、低価格にしてほしい
ネットショップで“まとめ買い割キャンペーン”的なの
エコな取組を行っていることを猛アピールする
配送日時の変更ができること・その方法を周知する
配達業者さんのアプリやラインでのやり方を広めてほしい
広報誌など活用荷物を受け取れる場所などを紹介する
市民1人1人が意識をする、現状を知る
補助金
個人・企業レベルでできることには限界があるので、国がリーダーになって進めるべき。言うだけでは皆動かない
財源をもっと個人・企業にかけてほしい

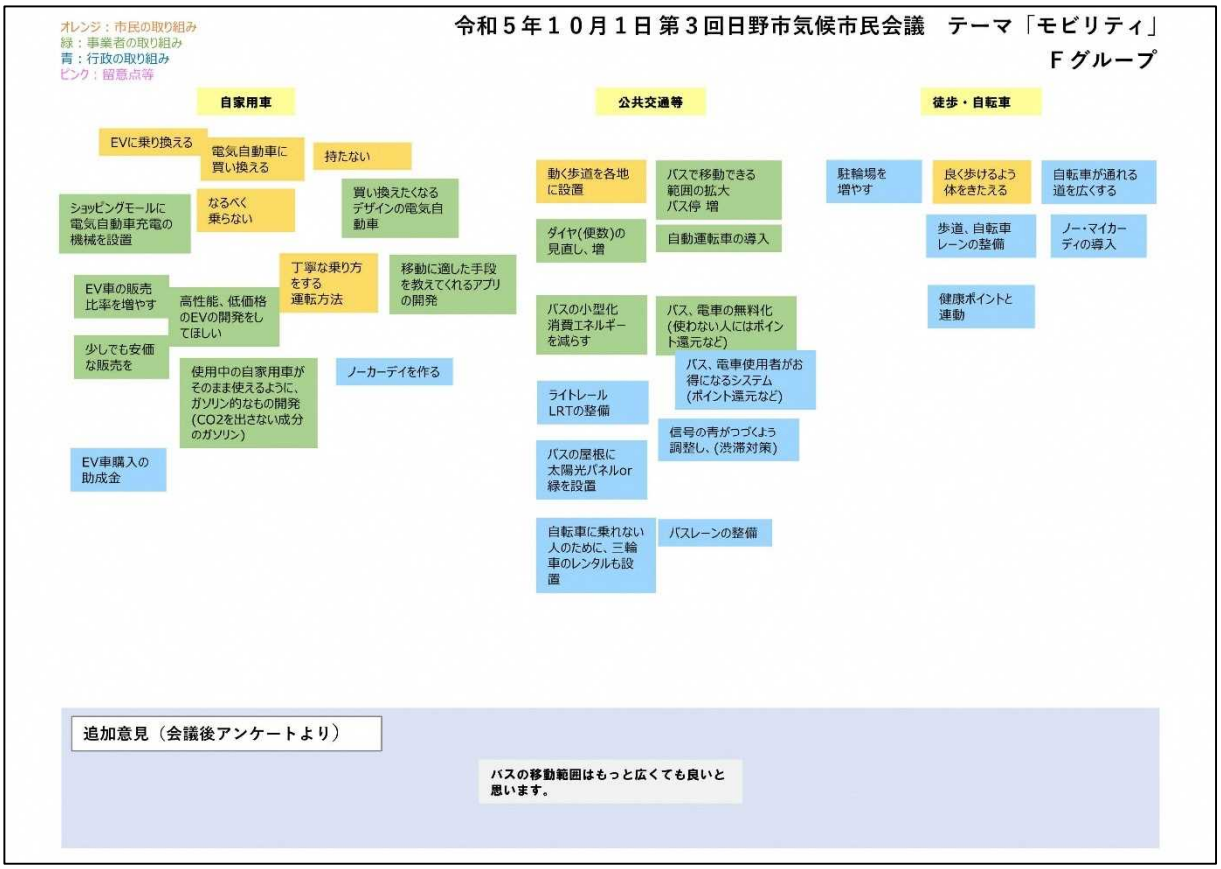

オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１０月１日第３回日野市気候市民会議　テーマ「モビリティ」
Ｃグループ
自家用車
公共交通等
徒歩・自転車
誰かと一緒に買いに行く
車購入時は、家族人数に合ったものを選ぶ
EV自動車を安くしてほしい！
EVの充電を無料にしてほしい!!
買い物回数を減らす
販売する車の電気自動車の割合増やす
電気自動車への乗り換え割
電気自動車などは高いイメージがあるので、コスパのいい商品を作ってほしい
電気自動車買い替え
マンションでも充電スタンド設置
EV用の充電スタンドを増やしてほしい
EVの充電スタンドの設置をもっと安くしてほしい
移動は公共機関をなるべく利用する
出掛けるときは公共交通に乗るプランを立てる
満員電車(バス含め)解消する→利用者数UP
タクシーをシェアする
シェアするアプリ
バス本数の充実
シルバーパスの価格をあげていいので本数を増やしてほしい!!
シルバーパスで多摩モノレールを乗れる
近場だったら歩くor自転車
近くの移動は、徒歩か自転車で(健康にも良い!!)
近い所へはなるべく歩く
広い歩道を作る
徒歩・自転車を分ける道
自転車専用道路を作ってマップを作成
電動自転車の補助金
もっと車よりの自転車を作ってほしい
追加意見（会議後アンケートより）
なし

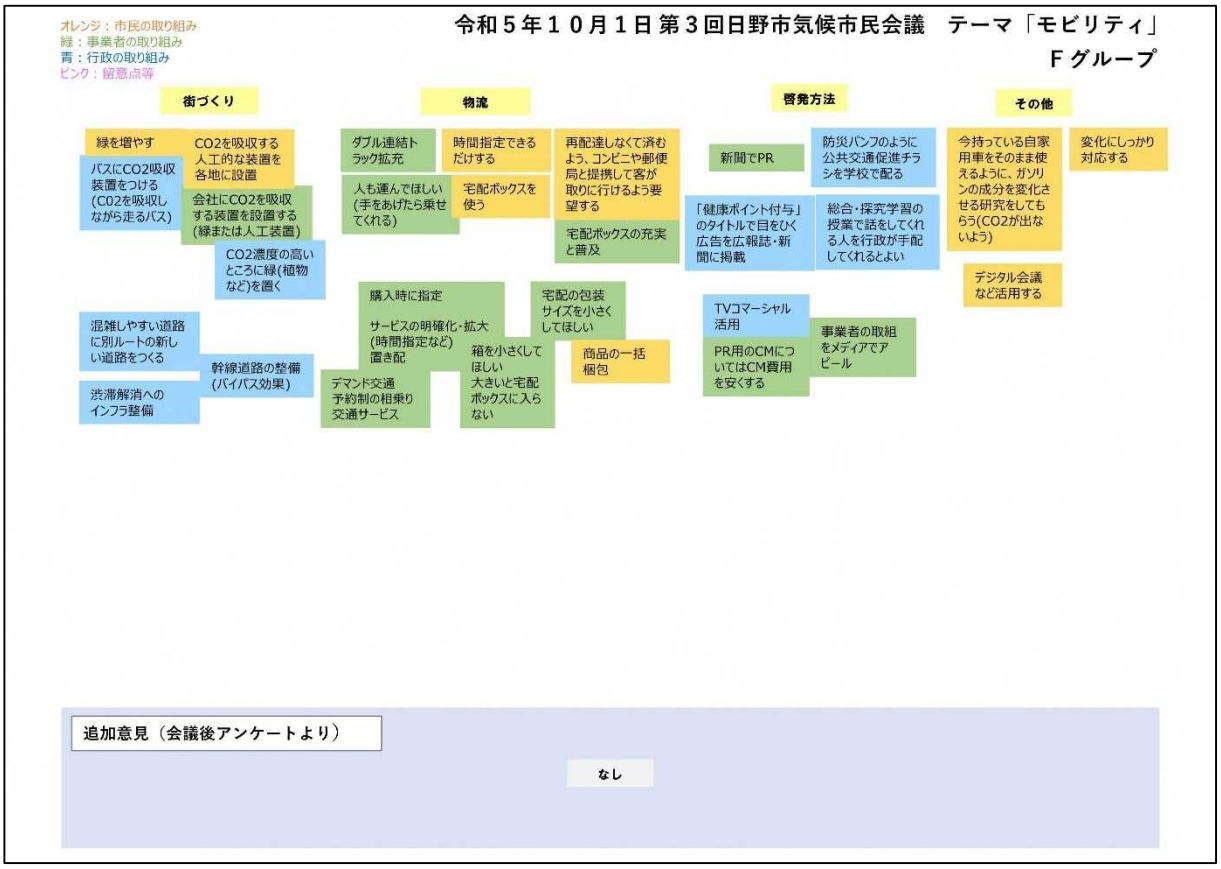

オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１０月１日第３回日野市気候市民会議　テーマ「モビリティ」
Ｄグループ
自家用車
EV開発急げ！
電気自動車を買う
電気自動車購入
EV、ハイブリット買入への優遇を強化
自家用車をハイブリッドorEVに替える
EV車のコストダウン
EV購入の補助金を！
EV購入補助!!
カーシェア(エコカー)の活用
エコな運転を心がける。
公共交通等
公共交通を使う
マイカーよりバス
バス、電車での移動を基本にする
土地の特性に合った移動方法の選択
バスルート/運行時間の見直し(減便、減少)
たすけあい交通のようなものを作る！(京王グループ)(通勤、通学)
高齢化社会→オンデマンド公共交通を考えよう！
バスなど乗りたいときに予約
ミニバスの活用デマンドバス？
ミニバスやミニミニバスの運用強化
オンデマンドの公共バスの運行
徒歩・自転車
近場の用事は歩きか自転車で
徒歩/電車移動(自転車)
近距離は歩く
電動自転車の活用
買い物は自転車で
買い物は歩きで持てる量を買う
自転車の駐輪場の整備!!
自転車置き場の増設(駅)
追加意見（会議後アンケートより）
事業者のかたへ。EV車の値下げを積極的にお願いします。
オンデマンドバスは何か具体的になる事を願います。
行政の方へ。電動自転車の設置（増設）をお願い致します。


オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１０月１日第３回日野市気候市民会議　テーマ「モビリティ」
Ｄグループ
街づくり
自動車を使わなくてもいいような街づくり
徒歩、自転車にやさしい道をつくる
坂道、段差への工夫
自転車が安全に走れる道を作って！
駅周辺の進入禁止区域を増やす(朝だけでもOK)
日野市にある公共交通機関の充実を図って！
老健施設の送迎者を活用した高齢者用ミニバス運用
カーシェアの普及に力を出してほしい
主要駅の周辺に電動自転車の設置を！
レンタルサイクルやカーシェアの推進
物流
地産地消のものを買う！
地産のものを使う遠くから材料をとりよせない
2024年問題に向けてハイブリッド車の増車
再配達を少なくする
再配達を減らすような制度づくり
ネット購入自体を減らすor買い方を変えると良いのではないか
物流の量コントロール
再配達はしない！と決め広報する(自己責任)
再配達の多い人には宅配BOXを有償レンタルする
共同で再配達
再配達を少なくするため、置き配の採用
啓発方法
環境対策していることをアピールして！
もっと市民に呼びかけよう「あなたの行動が地球を救う！」etc
日野独自の認証マークを作る!!
万歩計で散歩促進
ライド＆パーク？自動車と鉄道を組み合わせて移動する
その他
ゴミ出し忘れしないで2個目をださない
庁有車をEV化!!
モーダルシフトとは何か？
追加意見（会議後アンケートより）
なし

オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１０月１日第３回日野市気候市民会議　テーマ「モビリティ」
Ｅグループ
自家用車
混んでない道、時間を選ぶ
車の買い替えはEV車等、CO2排出の少ない車を選ぶ
買物は近所の人といっしょに1台の車で
EV車の販売を促進する
マンションに住んでいる方、EVを充電することができない
コミュニティー内が仲良くないと実現、難
乗り合い条件どこで折り合いを付けるか町単位で決める
EVとガソリン車のスペックの違いについて明示してほしい
↑スタンドで充電できるようになれば普及するかも？
高速道路で充電待ちするのは不便
子育てグループ、高齢者グループ等をつくり、グループごとに送迎を助け合う
レンタカーを置ける場所を増やす（返すのを便利に）
登録が簡単な方がよい
EV車購入に対して補助金をふやす
規準がほしい
公共交通等
なるべく公共交通を使う
公共交通の運賃を定額制にする
↑事業者と行政が一緒に制度を整える
公共バスの本数をふやす
↑市内30分くらい
希望日時を事前に登録し、有料で乗り合いバス
そもそも自動車をやめて他の公共交通機関にするのはデメリットが大きい
公共交通機関を利用する側に合わせた運行計画
モビリティに関して住民の相談にのる
ベビーカーを押している方が利用しやすい車内、構内環境
・乗り合いタクシーへの補助
・地域の交流
徒歩・自転車
短距離の移動では徒歩・自転車を使う
集合住宅にレンタルサイクルなどを置く
シェアサイクルのポイント増やす
モーダルシフトの普及
追加意見（会議後アンケートより）
なし


オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１０月１日第３回日野市気候市民会議　テーマ「モビリティ」
Ｅグループ
街づくり
近場は自転車で→狭い道路・歩道では子づれは大変
充電ステーションや水素ステーションの普及拡大する。インフラ
家から職場まで入り組まないような町づくり
歩きたくなる町づくり
道路整備を行う
狭い車道に車と自転車が併走するのは危険
駅の周りにコンパクトシティをつくる
高齢者や子育て世代は駅の近くに住む
物流
置き配や宅配ロッカーを使う
宅配ロッカーの設置箇所を増やす
荷物の配達は置き配にする
置き配までのプロセスをかんたんに
再配達をなくす
通販サイトがどのような運送会社に委託しているのか明確に示してほしい。
小零細企業物流における補助金支給
啓発方法
情報共有する勉強会
移動手段に不便さを感じない若者はモビリティについて考えない
市民から行政の取り組みに関する説明の場を求める
自動車の乗り合いを勧めるポスターを作る
スマホ利用だけでは情報の共有が不十分
集まりの企画をしてもらう
地域の説明行政も含めて
その他
市民の要求が何か－住んでいる場所で違う－自治会の取り組み
カーボンニュートラルに向けて数値化
市民がわかりやすい基準を作る比べやすい
規準があるなら明示、ないなら作る
ゴミ有料化の時のような大胆な取り組み
スーパーや病院、市役所で（地域を）車を送迎
大型商業施設等にはバス等を運行してもらう
病院間を巡るバスに、途中に駅等を経由してもらい、無料でのせてもらう。
追加意見（会議後アンケートより）
なし


オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１０月１日第３回日野市気候市民会議　テーマ「モビリティ」
Ｆグループ
自家用車
EVに乗り換える
電気自動車に買い換える
持たない
ショッピングモールに電気自動車充電の機械を設置
なるべく乗らない
買い換えたくなるデザインの電気自動車
丁寧な乗り方をする運転方法
移動に適した手段を教えてくれるアプリの開発
EV車の販売比率を増やす
高性能、低価格のEVの開発をしてほしい
少しでも安価な販売を
使用中の自家用車がそのまま使えるように、ガソリン的なもの開発(CO2を出さない成分のガソリン)
ノーカーデイを作る
EV車購入の助成金
公共交通等
動く歩道を各地に設置
バスで移動できる範囲の拡大
バス停 増
ダイヤ(便数)の見直し、増
自動運転車の導入
バスの小型化
消費エネルギーを減らす
バス、電車の無料化(便わない人にはポイント還元など)
バス、電車使用者がお得になるシステム(ポイント還元など)
ライトレール
LRTの整備
信号の青がつづくよう調整し、(渋滞対策)
バスの屋根に太陽光パネルor緑を設置
自転車に乗れない人のために、三輪車のレンタルも設置
バスレーンの整備
徒歩・自転車
駐輪場を増やす
良く歩けるよう体をきたえる
自転車が通れる道を広くする
歩道、自転車レーンの整備
ノー・マイカーディの導入
健康ポイントと連動
追加意見（会議後アンケートより）
バスの移動範囲はもっと広くても良いと思います。


オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１０月１日第３回日野市気候市民会議　テーマ「モビリティ」
Ｆグループ
街づくり
緑を増やす
CO2を吸収する人工的な装置を各地に設置
バスにCO2吸収装置をつける(CO2を吸収しながら走るバス)
会社にCO2を吸収する装置を設置する(緑または人工装置)
CO2濃度の高いところに緑(植物など)を置く
混雑しやすい道路に別ルートの新しい道路をつくる
幹線道路の整備(バイパス効果)
渋滞解消へのインフラ整備
物流
ダブル連結トラック拡充
時間指定できるだけする
人も運んでほしい(手をあげたら乗せてくれる)
宅配ボックスを使う
再配達しなくて済むよう、コンビニや郵便局と提携して客が取りに行けるよう要望する
宅配ボックスの充実と普及
購入時に指定
サービスの明確化・拡大(時間指定など)
置き配
デマンド交通
予約制の相乗り交通サービス
箱を小さくしてほしい
大きいと宅配ボックスに入らない
宅配の包装サイズを小さくしてほしい
商品の一括梱包
啓発方法
新聞でPR
防災パンフのように公共交通促進チラシを学校で配る
「健康ポイント付与」のタイトルで目をひく広告を広報誌・新聞に掲載
総合・探究学習の授業で話をしてくれる人を行政が手配してくれるとよい
TVコマーシャル活用
PR用のCMについてはCM費用を安くする
事業者の取組をメディアでアピール
その他
今持っている自家用車をそのまま使えるように、ガソリンの成分を変化させる研究をしてもらう(CO2が出ないよう)
変化にしっかり対応する
デジタル会議など活用する
追加意見（会議後アンケートより）
なし

4 第 4 回会議

(1) 会議の概要

日　　時：2023 年 11 月 5 日（日）　13:45～17:45
場　　所：多摩動物公園（東京都日野市程久保 7-1-1）　動物ホール
参加者数：30 名
テ ー マ：エネルギーに関わるカーボンニュートラル
協 力 者：
　磐田 朋子 氏
　　芝浦工業大学 副学長（システム理工学部 環境システム学科 教授）
　東京ガス株式会社
　富士電機株式会社

(2) 会議のプログラム

第 4 回会議のプログラムを以下に示します。なお、会議資料は WEB 上に公開しました。

第 4 回会議のプログラム（1/2）

時刻	時間	プログラム		担当
13:45～	1 分	開会		日野市
13:46～	4 分	多摩動物公園からのメッセージ		多摩動物公園
13:50～	5 分	第 3 回の振り返り等		事務局
13:55～	5 分	質疑応答		
14:00～	30 分	エネルギーに関する情報提供		磐田 朋子 氏
14:30～	5 分	質疑応答		
14:35～	5 分	休憩		
14:40～	15 分	エネルギーに関する情報提供		東京ガス（株）
14:55～	15 分	エネルギーに関する情報提供		富士電機（株）
15:10～	10 分	休憩		
15:20～	5 分	エネルギーに関する情報提供のまとめ		磐田 朋子 氏
15:25～	5 分	質疑応答		磐田 朋子 氏、事業者
15:30～	3 分	グループワーク	進め方の説明	事務局 ファシリテーター
15:33～	29 分		エネルギーに関する市民の取り組み	
16:02～	29 分		エネルギーに関する事業者の取り組み	
16:31～	29 分		エネルギーに関する行政の取り組み	
17:00～	5 分		エネルギーに関する取り組みのまとめ	
17:05～	25 分	グループワークの結果の発表		

第 4 回会議のプログラム（2/2）

時刻	時間	プログラム	担当
17:30～	5 分	まとめと講評	磐田 朋子 氏
17:35～	7 分	第 5 回にむけて	事務局
17:42～ 17:45	3 分	閉会、事務連絡	日野市

(3) 情報提供等に対する質問と回答の内容

第 4 回会議の情報提供等に対して参加者からあがった質問とそれに対する回答の内容を以下に示します。なお、参加者からあがった質問には、会議終了後に行ったアンケートに記載された質問も含みます。また、この質問と回答は、後日参加者全員に開示するとともに、第 5 回会議の際に一部を紹介しました。

第 4 回会議の講義等に対する質問と回答の内容（1/7）

【再生可能エネルギー・未利用エネルギーに関すること】

No.	質問	回答	回答者
1	エネルギー効率を上げる対策として下水道利用方法について、もう少し説明してもらいたいと思いました。	ヒートポンプという技術（エアコンや冷蔵庫などで既に利用されている技術です）は、少ない電力で熱をくみ上げることで、空間を暖めたり冷やしたりすることができます。この時、出来るだけ温度差が少ない方が、熱をくみ上げる効率が上がる性質がヒートポンプにはあります。そのため、例えば建物の空調温度（年間 20～26℃くらい）に出来るだけ近い温度を持つ熱源からヒートポンプで熱をくみ上げると、効率が上がるのです。この温度帯に近いのが、下水（年間を通じて 20℃前後）であり、下水管の外側に熱交換パイプを巻き付けることで熱交換をする技術があります。通常の外気（夏は 40℃近く、冬は 0℃近くになる）と比べても下水の方が温度帯が欲しい温度に近いため、下水熱の活用が期待されています。下水と同様に、地中熱も温度帯が適しているため、活用が期待されています。 ※国土交通省の参考資料： https://www.mlit.go.jp/common/000986040.pdf	磐田氏

第 4 回会議の講義等に対する質問と回答の内容（2/7）

No.	質問	回答	回答者
2	太陽光パネルを破棄する際リサイクル出来ず環境に負荷がかかるという問題がある中で、東京都は新築住宅に太陽光パネルの義務化を推奨していて、数十年は良くてもその後の環境問題が気になりました。問題解決の為に何か研究されているのか、持続可能な社会という点で太陽光パネルは本当に良いものなのかという事が気になりました	環境問題は様々です。地球温暖化だけでなく、ご指摘のように化学物質や希少資源の採掘やリサイクル時に排出されるものもあります。どの環境問題をどの程度重視するのかに依って、私たちの選択は変わるかもしれませんが、少なくとも地球温暖化の対策として、化石燃料からの脱却を求められており、太陽光発電は有力なエネルギー資源の一つです。そのため、可能な限り環境負荷の少ない採掘やリサイクル技術とするための検討が進められています。 東京大学の前教授が太陽光発電に関わる様々な疑問について、科学的根拠に基づく回答をまとめておりますので、ご参照ください（下記 URL の「太陽光ファクトチェック」メインページに「太陽光パネルが大量に廃棄されて処分に困るのでは？」といった質問に対する回答が記載されています： https://sites.google.com/view/pv-factcheck/）。	磐田氏

第 4 回会議の講義等に対する質問と回答の内容（3/7）

【メタネーションに関すること】

No.	質問	回答	回答者
3	メタンを生成する設備は将来的に一般家庭で使用できる物にするのか気になります。	メタン合成設備そのものは、工場・事務所・ご家庭を問わずお客様が所有されるわけでは無く、都市ガス会社をはじめエネルギー事業者が国内外で設備を所有し都市ガスと同成分のメタンを製造します。その後、既存の都市ガス工場などの供給元で現状の都市ガス配管の供給元につなぐことになりますので、結果的に全てのお客様のもとに届くこととなります。当然一般ご家庭にもお届けされることになります。	東京ガス
4	水素と二酸化炭素からメタンを合成するメタネーションの話があったが、合成する際にどのぐらいエネルギーを消費するのか。また、そのエネルギーの消費に伴って二酸化炭素を多く排出してしまうことはないか。	水素と二酸化炭素からメタンを合成する技術自体は確立していまして、現在はより効率よくメタン合成が出来る技術開発に実証事業として鋭意取り組んでいます。今の水素製造価格等で合成すると都市ガスのコストが高くなるのですが、水素等の調達方法を含めた水素価格の低減と合成効率を上げてコストを下げる技術開発をしているところです。 合成反応において投入するエネルギー（熱など）については、製造装置自体の合成実証事業確立後の課題として認識しています。製造に要するエネルギーとしては熱（加温、冷却）と電気（水分解）が挙げられますが、東京ガスではメタン合成装置の加温/冷却工程での熱を相互で利用する省エネルギー並びに省 CO_2 を実現する技術の開発にも取り組み始めております。	東京ガス

第 4 回会議の講義等に対する質問と回答の内容（4/7）

【市民の取り組みに関すること】

No.	質問	回答	回答者
5	市民が脱炭素化に向けてできる一番簡単な取り組みはありますか？	例えば電力契約を再生可能エネルギー電力プランに切り替えることが、住宅の種類や環境意識の高さを問わず、誰でも実施できる取り組みではないかと思います。電力会社各社が個人向けのプランを用意しています（例えば東京電力エナジーパートナーの場合は、https://www.tepco.co.jp/ep/eco/plan/private/detail.html）。	磐田氏

第 4 回会議の講義等に対する質問と回答の内容（5/7）

【事業者の取り組みに関すること】

No.	質問	回答	回答者
6	CO_2どうやったら減らせるかービジネスを促すような補助金の出し方を考えようーが具体的に分からなかった。ラストの講評でも触れていましたけれど、なんとなくなので。	従来の市町村が設定する補助金の大部分は、個人が対策を実施する際の補助金（断熱改修や太陽光発電設備設置など）で、市が当初設定した予算額上限に達したら補助は終了となります。そのため、財政規模にも依りますが、例えば人口 20 万人の市で最大 100 件までといった、限られた補助件数となります。これに対して、例えば断熱改修の家庭向けシミュレーションを実施するビジネスや、高断熱住宅のモデルハウスを設置するなど、間接的ではあるものの脱炭素対策行動の実施に人々の気持ちを向けるビジネスを対象に、行政が補助金等（税率軽減でもよい）の施策を実施すれば、予算額に制限されず高い波及効果が期待されます。	磐田氏
7	様々な取り組みを行っていること、企業努力をされていることが分かりました。それでも消費者からは「もっと安く」と言われると思いますが、現実問題として、価格をおさえることについて余裕はまだあるのでしょうか？実はまだまだ余裕があるのか、もう苦しくて仕方がないのか、企業の本音が知りたいです。	エネルギー（電気・ガス）の全面自由化以前より、ガス会社では国の方針やご要望なども受けまして、より低廉な原料調達方式や経費削減など、企業努力としてたゆまぬコストダウンに努めさせて戴きました。 全面自由化後の現在も、価格面でも利便性でもお客様に選ばれ続けるエネルギーもご提供に尽力をしております。更にはカーボンニュートラルに貢献させて戴くべく引き続き努力を行っているところです。	東京ガス
		資材や半導体価格などが値上がりする中で、企業努力を通して、市場に提供する価格の低下に努めています。 過去の太陽光発電設備の価格が示す通り、量産効果と市場への導入が進むことによって、蓄電池の価格も低下していくと予想しています。 量産効果については、蓄電池セルの中国での生産が価格を左右すると考えています。	富士電機

第 4 回会議の講義等に対する質問と回答の内容（6/7）

【その他】

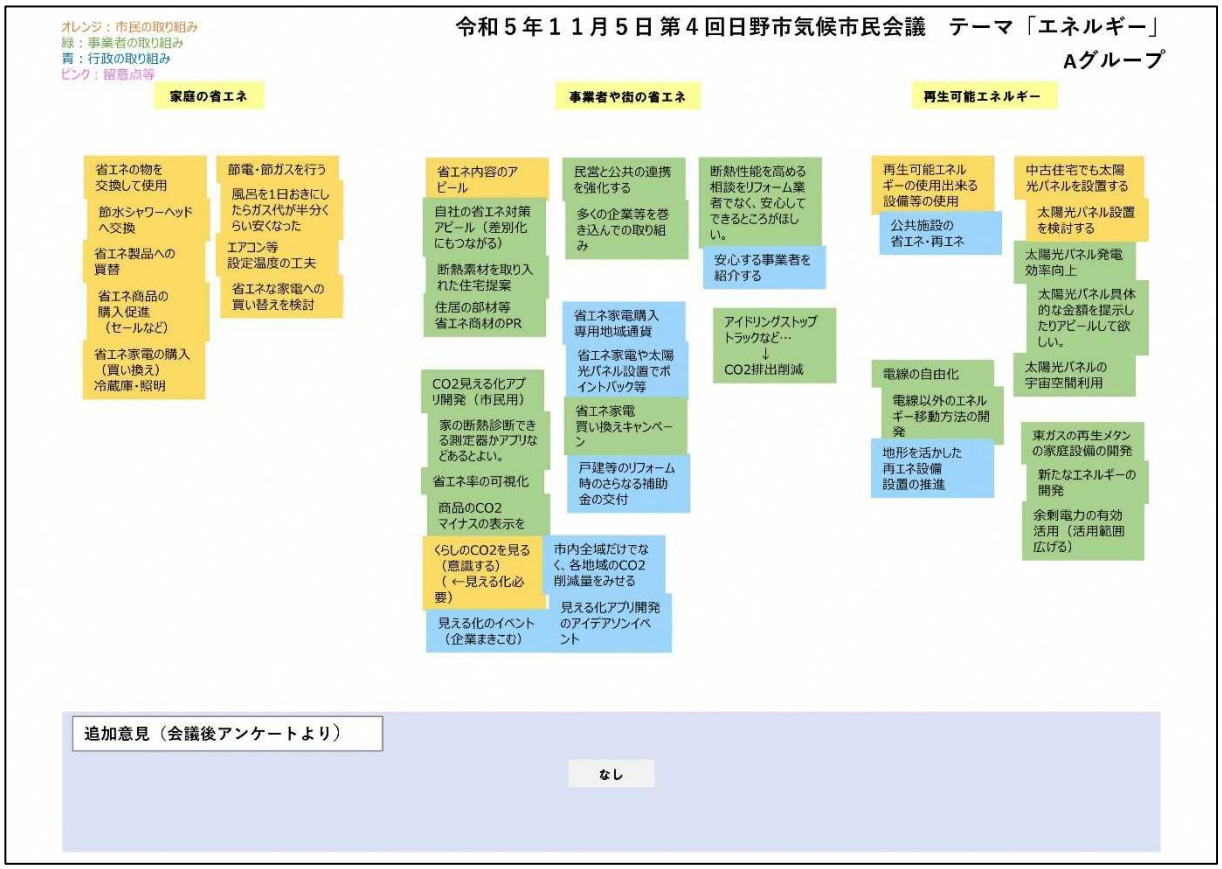
No.	質問	回答	回答者
8	電力を電線で送る方法以外にも送電する方法はあるのでしょうか。	電力は基本的に電線で送電します。スマホや EV 車のように非接触で送電する方法の導入が検討されています。また、蓄電池に電力を蓄電し、運搬する電池船の検討も進んでいます。	富士電機

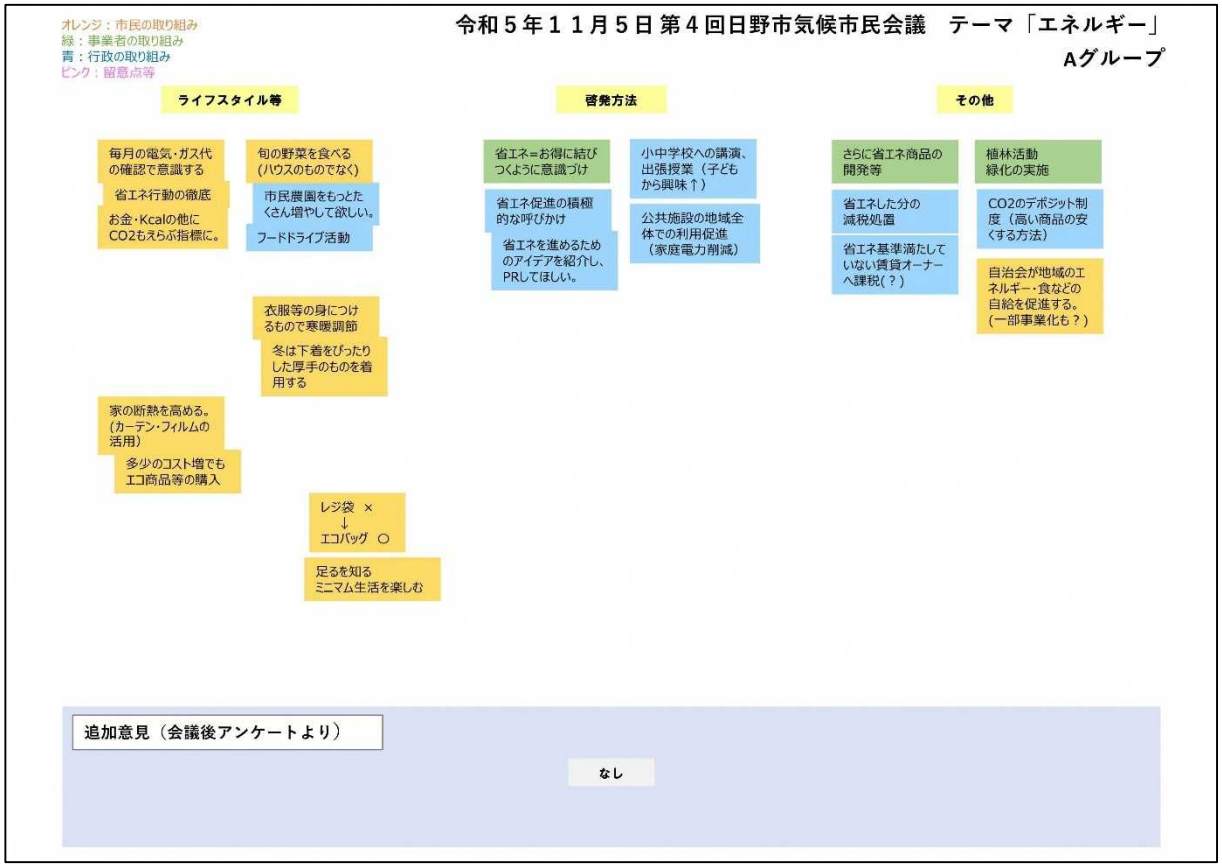
第４回会議の講義等に対する質問と回答の内容（7/7）

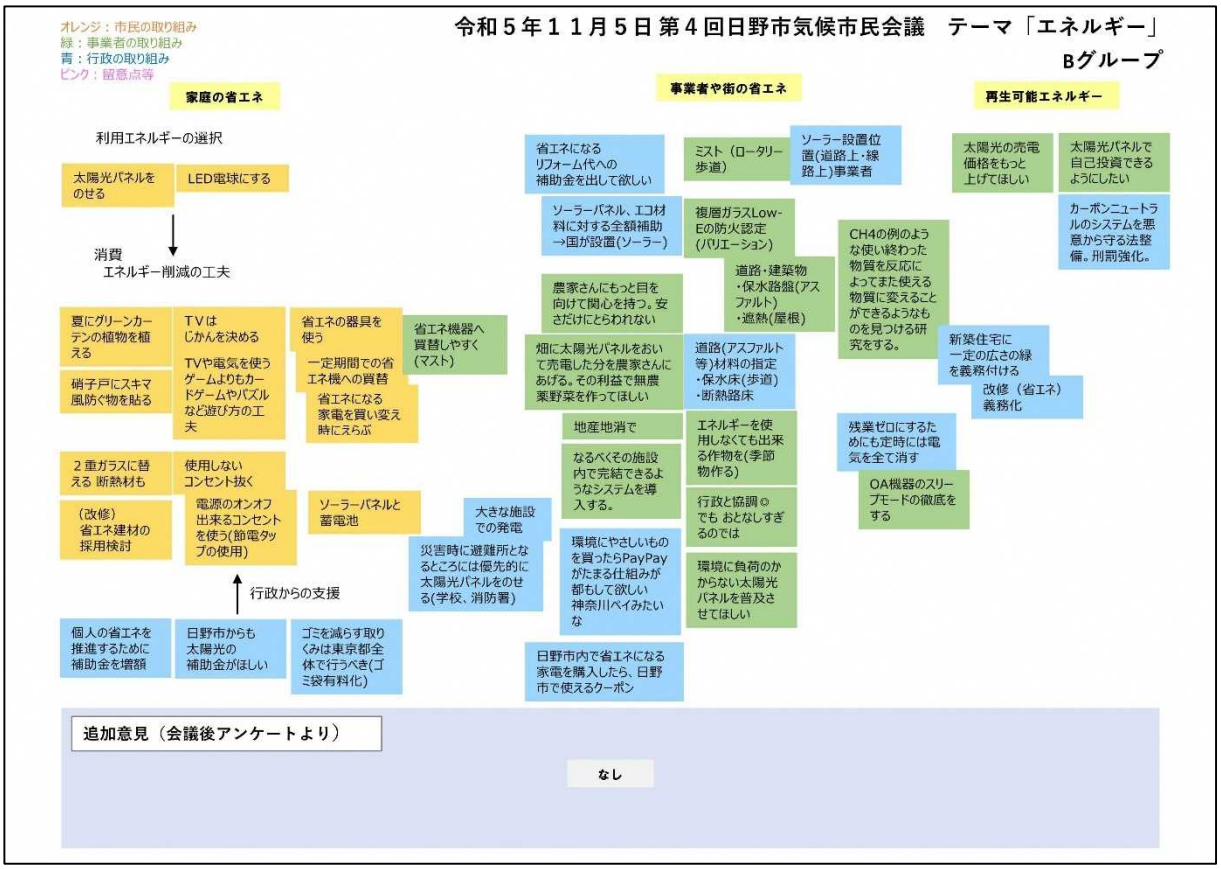
No.	質問	回答	回答者
9	太陽光発電所で導線が頻繁に盗難されていると聞くが、そのあたりのセキュリティの対策はどのようになっているのか。	メガソーラーの場合は、外側にフェンスをとりつけるような決まりがあり、セキュリティ対策はできています。また、ある会社では、さらに防犯カメラを設置したり、フェンスに施錠したりという工夫をしています。その他、発電した直流電力を交流に変換するインバータには、通信機能が付いていますが、セキュリティのためのソフトを入れて対策しています。いたちごっこではありますが、様々な対策をしています。	富士電機
10	IT 技術を利用したより便利な街づくりについて質問です。中には「燃費は悪いけど思い出が詰まっている車」など愛着があって捨てられない、変えられないものもあると思います。このような愛着が詰まったものに対して、何か、IT 技術を使って改革案を提案する際、どのような意識や姿勢が求められると考えますか？	仮想的に思い出をデータとして残せるデジタル技術があったとしても、愛着がある「物」に代わる物はないと思います。そのため、１つの手段として、保有する「対価」を支払う仕組みがあります。例えば、欧州では一般的な「炭素税」はその一つで、燃費の悪い車に乗ってもいいけれどその分の「対価」を燃料費に上乗せされる「炭素税」として支払う仕組みです。日本においても、例えばもったいなくて捨てられない古い冷蔵庫について、既に電気代という形で「対価」を支払っています。一方で、それほど思い入れはないものの、「対価」の大きさに気付かずに使い続けている物の有無を、エネルギー消費量のデータに基づくＩＴ技術で明らかにすることは可能です。日本では家庭や自動車、オフィスなどで本来計測可能なエネルギー消費量のデータがそもそも計測されていなかったり、計測されていても有効活用されていない状況であるため、今後はＩＴ技術を用いたデータの計測と活用が期待されています。	磐田氏

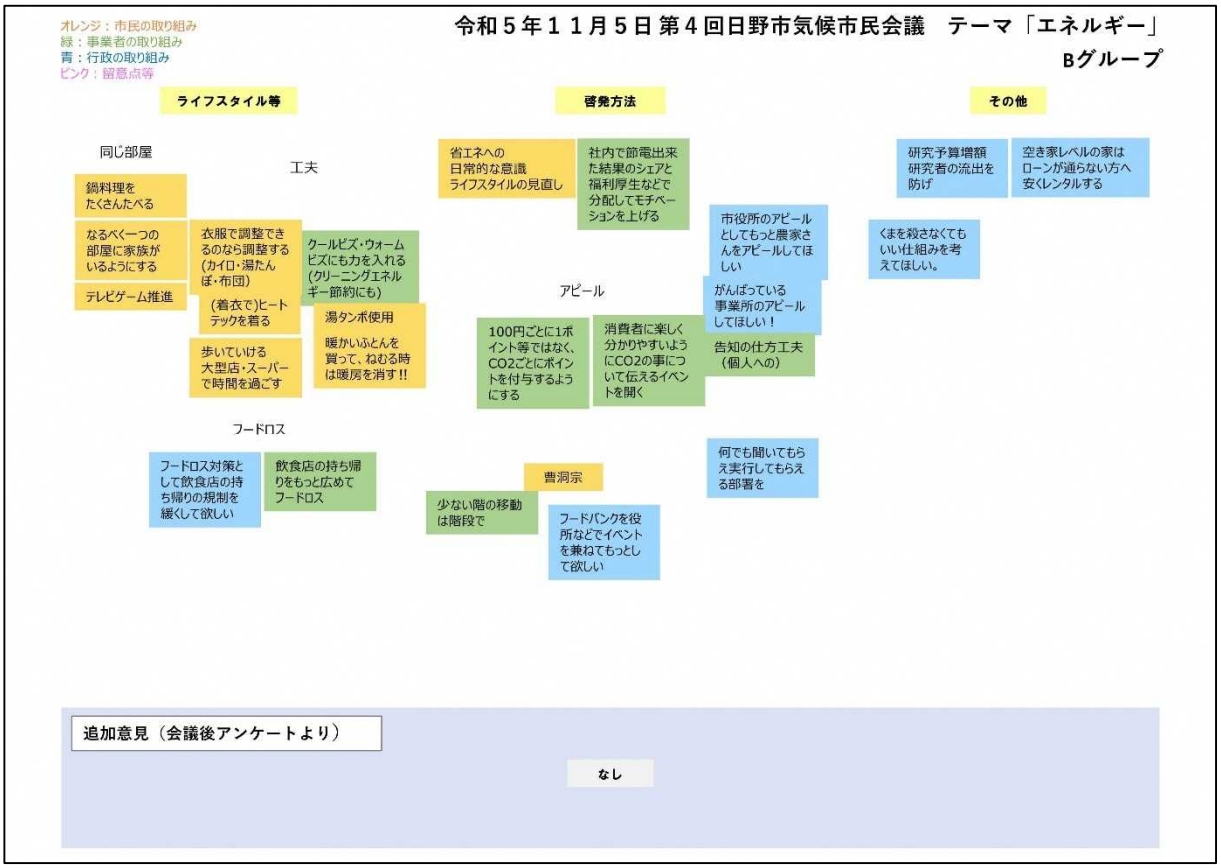
(4) グループワークの結果

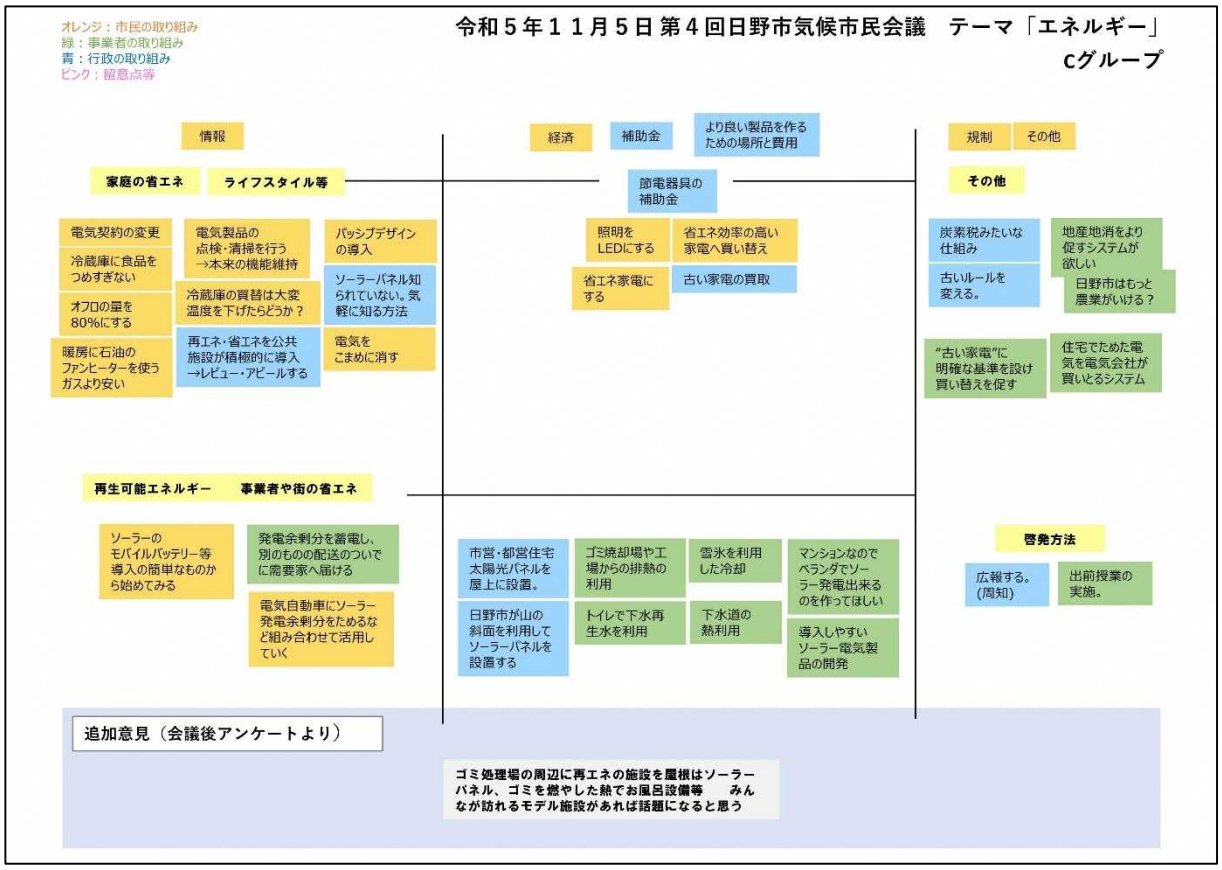
第４回会議のグループワークの結果を以下に示します。

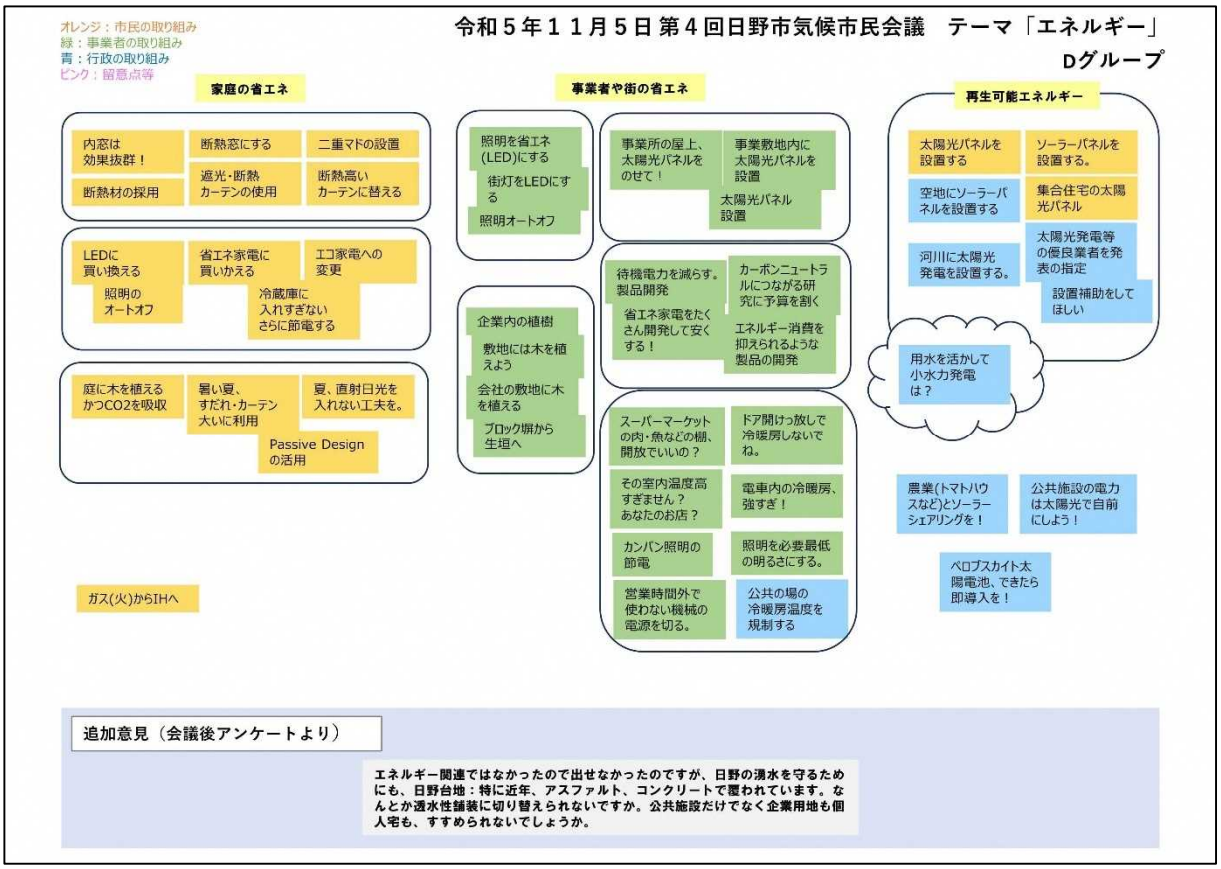


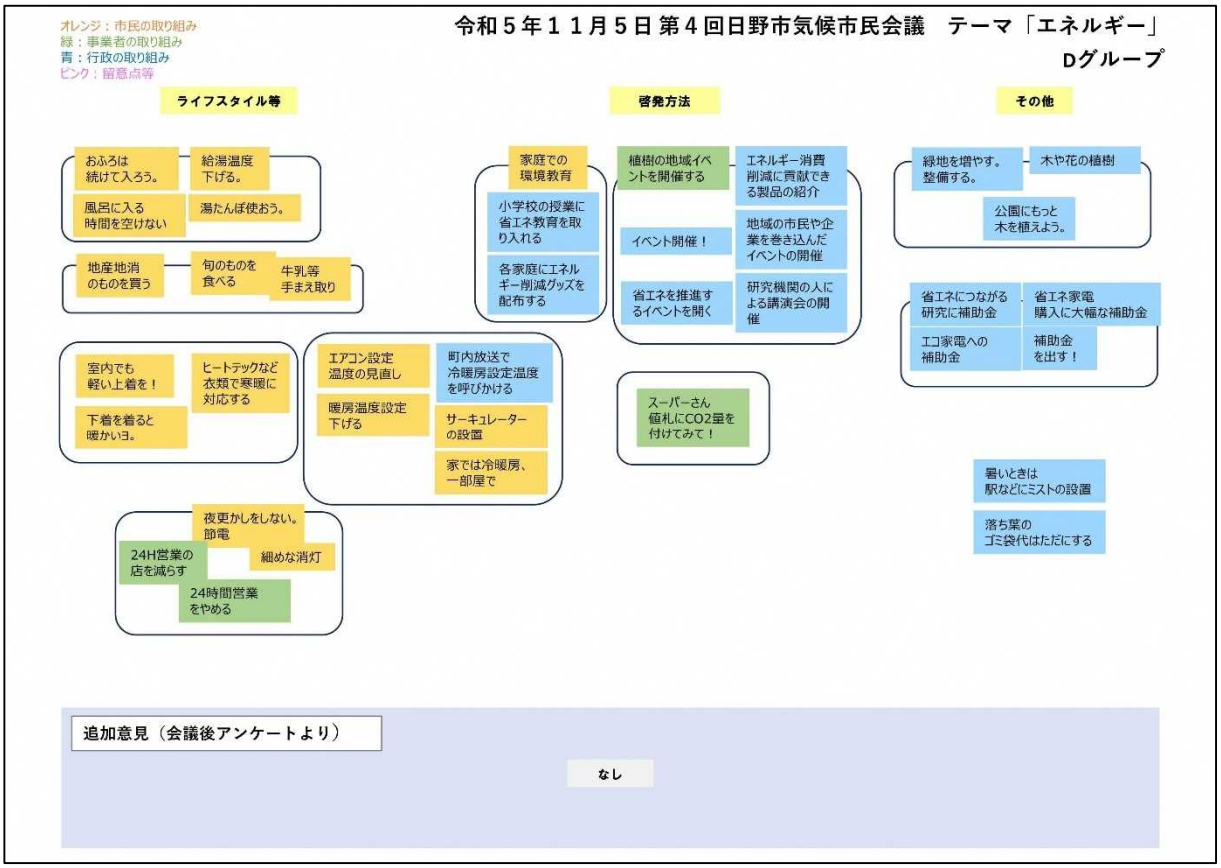


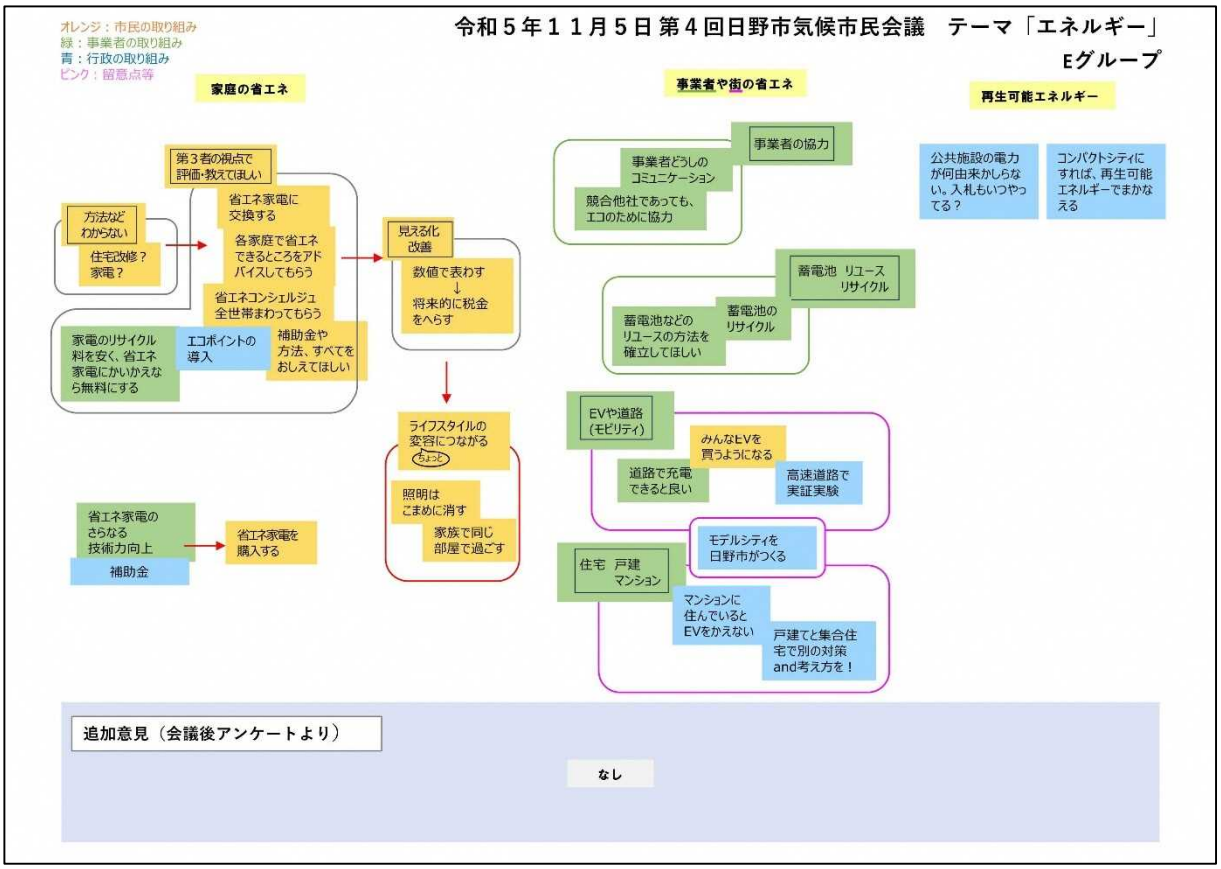

オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１１月５日第４回日野市気候市民会議　テーマ「エネルギー」
Bグループ
家庭の省エネ
利用エネルギーの選択
太陽光パネルをのせる
LED電球にする
消費
エネルギー削減の工夫
夏にグリーンカーテンの植物を植える
TVは じかんを決める
TVや電気を使うゲームよりもカードゲームやパズルなど遊び方の工夫
省エネの器具を使う
一定期間での省エネ機への買替
省エネになる家電を買い変え時にえらぶ
省エネ機器へ買替しやすく(マスト)
硝子戸にスキマ風防ぐ物を貼る
２重ガラスに替える 断熱材も
使用しないコンセント抜く
電源のオンオフ出来るコンセントを使う(節電タップの使用)
(改修)省エネ建材の採用検討
ソーラーパネルと蓄電池
大きな施設での発電
災害時に避難所となるところには優先的に太陽光パネルをのせる(学校、消防署)
行政からの支援
個人の省エネを推進するために補助金を増額
日野市からも太陽光の補助金がほしい
ゴミを減らす取りくみは東京都全体で行うべき(ゴミ袋有料化)
事業者や街の省エネ
省エネになるリフォーム代への補助金を出して欲しい
ミスト（ロータリー歩道）
ソーラー設置位置(道路上・線路上)事業者
ソーラーパネル、エコ材料に対する全額補助→国が設置(ソーラー)
複層ガラスLow-Eの防火認定(バリエーション)
道路・建築物・保水路盤(アスファルト)・遮熱(屋根)
農家さんにもっと目を向けて関心を持つ。安さだけにとらわれない
畑に太陽光パネルをおいて売電した分を農家さんにあげる。その利益で無農薬野菜を作ってほしい
道路(アスファルト等)材料の指定・保水床(歩道)・断熱路床
地産地消で
なるべくその施設内で完結できるようなシステムを導入する。
エネルギーを使用しなくても出来る作物を(季節物作る)
行政と協調◎でも おとなしすぎるのでは
環境にやさしいものを買ったらPayPayがたまる仕組みが都もして欲しい神奈川ペイみたいな
環境に負荷のかからない太陽光パネルを普及させてほしい
日野市内で省エネになる家電を購入したら、日野市で使えるクーポン
再生可能エネルギー
太陽光の売電価格をもっと上げてほしい
太陽光パネルで自己投資できるようにしたい
カーボンニュートラルのシステムを悪意から守る法整備。刑罰強化。
CH4の例のような使い終わった物質を反応によってまた使える物質に変えることができるようなものを見つける研究をする。
新築住宅に一定の広さの緑を義務付ける
改修（省エネ）義務化
残業ゼロにするためにも定時には電気を全て消す
OA機器のスリープモードの徹底をする
追加意見（会議後アンケートより）
なし

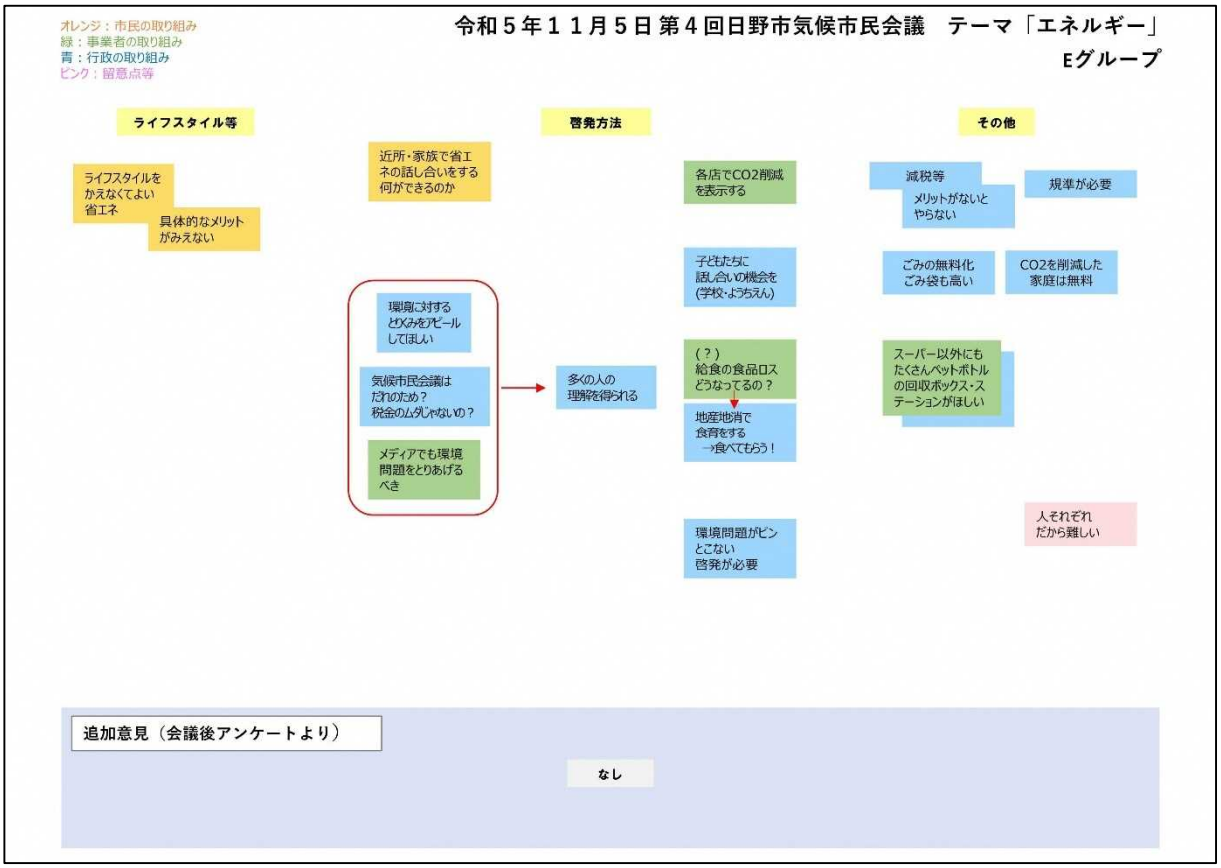

オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１１月５日第４回日野市気候市民会議　テーマ「エネルギー」
Bグループ
ライフスタイル等
同じ部屋
鍋料理をたくさんたべる
なるべく一つの部屋に家族がいるようにする
テレビゲーム推進
工夫
衣服で調整できるのなら調整する(カイロ・湯たんぽ・布団)
クールビズ・ウォームビズにも力を入れる(クリーニングエネルギー節約にも)
(着衣で)ヒートテックを着る
湯タンポ使用
暖かいふとんを買って、ねむる時は暖房を消す!!
歩いていける大型店・スーパーで時間を過ごす
フードロス
フードロス対策として飲食店の持ち帰りの規制を緩くして欲しい
飲食店の持ち帰りをもっと広めてフードロス
啓発方法
省エネへの日常的な意識ライフスタイルの見直し
社内で節電出来た結果のシェアと福利厚生などで分配してモチベーションを上げる
アピール
100円ごとに1ポイント等ではなく、CO2ごとにポイントを付与するようにする
消費者に楽しく分かりやすいようにCO2の事について伝えるイベントを開く
市役所のアピールとしてもっと農家さんをアピールしてほしい
がんばっている事業所のアピールしてほしい！
告知の仕方工夫（個人への）
曹洞宗
少ない階の移動は階段で
フードバンクを役所などでイベントを兼ねてもっとして欲しい
何でも聞いてもらえ実行してもらえる部署を
その他
研究予算増額研究者の流出を防げ
空き家レベルの家はローンが通らない方へ安くレンタルする
くまを殺さなくてもいい仕組みを考えてほしい。
追加意見（会議後アンケートより）
なし


オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１１月５日第４回日野市気候市民会議　テーマ「エネルギー」
Cグループ
情報
経済
補助金
より良い製品を作るための場所と費用
規制
その他
家庭の省エネ
ライフスタイル等
節電器具の補助金
その他
電気契約の変更
冷蔵庫に食品をつめすぎない
オフロの量を80%にする
暖房に石油のファンヒーターを使うガスより安い
電気製品の点検・清掃を行う→本来の機能維持
冷蔵庫の買替は大変温度を下げたらどうか？
再エネ・省エネを公共施設が積極的に導入→レビュー・アピールする
パッシブデザインの導入
ソーラーパネル知られていない。気軽に知る方法
電気をこまめに消す
照明をLEDにする
省エネ効率の高い家電へ買い替え
省エネ家電にする
古い家電の買取
炭素税みたいな仕組み
古いルールを変える。
地産地消をより促すシステムが欲しい
日野市はもっと農業がいける？
“古い家電”に明確な基準を設け買い替えを促す
住宅でためた電気を電気会社が買いとるシステム
再生可能エネルギー
事業者や街の省エネ
啓発方法
ソーラーのモバイルバッテリー等導入の簡単なものから始めてみる
発電余剰分を蓄電し、別のものの配送のついでに需要家へ届ける
電気自動車にソーラー発電余剰分をためるなど組み合わせて活用していく
市営・都営住宅太陽光パネルを屋上に設置。
日野市が山の斜面を利用してソーラーパネルを設置する
ゴミ焼却場や工場からの排熱の利用
トイレで下水再生水を利用
雪氷を利用した冷却
下水道の熱利用
マンションなのでベランダでソーラー発電出来るのを作ってほしい
導入しやすいソーラー電気製品の開発
広報する。(周知)
出前授業の実施。
追加意見（会議後アンケートより）
ゴミ処理場の周辺に再エネの施設を屋根はソーラーパネル、ゴミを燃やした熱でお風呂設備等　みんなが訪れるモデル施設があれば話題になると思う


オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１１月５日第４回日野市気候市民会議　テーマ「エネルギー」
Dグループ
家庭の省エネ
内窓は効果抜群！
断熱窓にする
二重マドの設置
断熱材の採用
遮光・断熱カーテンの使用
断熱高いカーテンに替える
LEDに買い換える
照明のオートオフ
省エネ家電に買いかえる
冷蔵庫に入れすぎないさらに節電する
エコ家電への変更
庭に木を植えるかつCO2を吸収
暑い夏、すだれ・カーテン大いに利用
夏、直射日光を入れない工夫を。
Passive Designの活用
ガス(火)からIHへ
事業者や街の省エネ
照明を省エネ(LED)にする
街灯をLEDにする
照明オートオフ
企業内の植樹
敷地には木を植えよう
会社の敷地に木を植える
ブロック塀から生垣へ
事業所の屋上、太陽光パネルをのせて！
事業敷地内に太陽光パネルを設置
太陽光パネル設置
待機電力を減らす。製品開発
省エネ家電をたくさん開発して安くする！
カーボンニュートラルにつながる研究に予算を割く
エネルギー消費を抑えられるような製品の開発
スーパーマーケットの肉・魚などの棚、開放でいいの？
ドア開け放しで冷暖房しないでね。
その室内温度高すぎません？あなたのお店？
電車内の冷暖房、強すぎ！
カンバン照明の節電
照明を必要最低の明るさにする。
営業時間外で使わない機械の電源を切る。
公共の場の冷暖房温度を規制する
再生可能エネルギー
太陽光パネルを設置する
ソーラーパネルを設置する。
空地にソーラーパネルを設置する
集合住宅の太陽光パネル
河川に太陽光発電を設置する。
太陽光発電等の優良業者を発表の指定
設置補助をしてほしい
用水を活かして小水力発電は？
農業(トマトハウスなど)とソーラーシェアリングを！
公共施設の電力は太陽光で自前にしよう！
ペロブスカイト太陽電池、できたら即導入を！
追加意見（会議後アンケートより）
エネルギー関連ではなかったので出せなかったのですが、日野の湧水を守るためにも、日野台地：特に近年、アスファルト、コンクリートで覆われています。なんとか透水性舗装に切り替えられないですか。公共施設だけでなく企業用地も個人宅も、すすめられないでしょうか。


オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１１月５日第４回日野市気候市民会議　テーマ「エネルギー」
Dグループ
ライフスタイル等
おふろは続けて入ろう。
給湯温度下げる。
風呂に入る時間を空けない
湯たんぽ使おう。
地産地消のものを買う
旬のものを食べる
牛乳等手まえ取り
室内でも軽い上着を！
ヒートテックなど衣類で寒暖に対応する
下着を着ると暖かいヨ。
エアコン設定温度の見直し
暖房温度設定下げる
町内放送で冷暖房設定温度を呼びかける
サーキュレーターの設置
家では冷暖房、一部屋で
夜更かしをしない。節電
24H営業の店を減らす
細めな消灯
24時間営業をやめる
啓発方法
家庭での環境教育
小学校の授業に省エネ教育を取り入れる
各家庭にエネルギー削減グッズを配布する
植樹の地域イベントを開催する
エネルギー消費削減に貢献できる製品の紹介
イベント開催！
地域の市民や企業を巻き込んだイベントの開催
省エネを推進するイベントを開く
研究機関の人による講演会の開催
スーパーさん値札にCO2量を付けてみて！
その他
緑地を増やす。整備する。
木や花の植樹
公園にもっと木を植えよう。
省エネにつながる研究に補助金
省エネ家電購入に大幅な補助金
エコ家電への補助金
補助金を出す！
暑いときは駅などにミストの設置
落ち葉のゴミ袋代はただにする
追加意見（会議後アンケートより）
なし


オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１１月５日第４回日野市気候市民会議　テーマ「エネルギー」
Eグループ
家庭の省エネ
事業者や街の省エネ
再生可能エネルギー
第３者の視点で評価・教えてほしい
方法などわからない
住宅改修？家電？
省エネ家電に交換する
各家庭で省エネできるところをアドバイスしてもらう
省エネコンシェルジュ全世帯まわってもらう
家電のリサイクル料を安く、省エネ家電にかいかえなら無料にする
エコポイントの導入
補助金や方法、すべてをおしえてほしい
見える化改善
数値で表わす
↓
将来的に税金をへらす
ライフスタイルの変容につながる
ちょっと
照明はこまめに消す
家族で同じ部屋で過ごす
省エネ家電のさらなる技術力向上
補助金
省エネ家電を購入する
事業者の協力
事業者どうしのコミュニケーション
競合他社であっても、エコのために協力
蓄電池 リユース リサイクル
蓄電池などのリユースの方法を確立してほしい
蓄電池のリサイクル
EVや道路（モビリティ）
みんなEVを買うようになる
道路で充電できると良い
高速道路で実証実験
モデルシティを日野市がつくる
住宅 戸建 マンション
マンションに住んでいるとEVをかえない
戸建てと集合住宅で別の対策and考え方を！
公共施設の電力が何由来かしらない。入札もいつやってる？
コンパクトシティにすれば、再生可能エネルギーでまかなえる
追加意見（会議後アンケートより）
なし


オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等
令和５年１１月５日第４回日野市気候市民会議　テーマ「エネルギー」
Eグループ
ライフスタイル等
啓発方法
その他
ライフスタイルをかえなくてよい省エネ
具体的なメリットがみえない
近所・家族で省エネの話し合いをする何ができるのか
環境に対するとくみをアピールしてほしい
気候市民会議はだれのため？税金のムダじゃないの？
メディアでも環境問題をとりあげるべき
多くの人の理解を得られる
各店でCO2削減を表示する
子どもたちに話し合いの機会を（学校・ようちえん）
（？）給食の食品ロスどうなってるの？
地産地消で食育をする
→食べてもらう！
環境問題がピンとこない啓発が必要
減税等
メリットがないとやらない
規準が必要
ごみの無料化ごみ袋も高い
CO2を削減した家庭は無料
スーパー以外にもたくさんペットボトルの回収ボックス・ステーションがほしい
人それぞれだから難しい
追加意見（会議後アンケートより）
なし

オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等

令和５年１１月５日第４回日野市気候市民会議　テーマ「エネルギー」
Fグループ

家庭の省エネ

- 省エネ家電を使う
- １つの部屋でみんなで過ごす
- プチプチをまどにはる
- 電化製品を新しくて良いものに変える
- 節電シールをスイッチ類に貼る
- 長時間使わない時は主電源を抜く
- お風呂の入り方。時間手短かに順番を組む
- どれだけお得になっているか分かりやすいように月ごと・年間で数字を示す
- 家電の適切な買い換え時のPR
- 断熱性の高い製品の積極的な導入(カーテンなど)
- 家の建て替え時断熱材等への補助金
- 省エネ家電買い替えの補助(高額)

事業者や街の省エネ

- 意見・提案を積極的に行う市民から事業者へ呼びかけ
- 出先でも節電を心がける(コンセントなど)スマホ充電など
- 省エネ家電の開発に尽力を
- 省エネにつながる便利グッズを考案実現に向けて声を上げつづける
- 省エネグッズプレゼントなどサービスに努める
- CO2を直接減らすような技術研究を進めてほしい
- 家の改修時断熱材料の導入を進める
- よりお得なサービスの紹介を積極的に行う(こちらの方が安くなりますよと教える)
- 補助金を消費者の利益になるように(価格設定を変動させない)→補助金分を利益にしない)
- 消費者の利益にならない補助金をムダに出さない。(補助金分が企業の利益になっているだけのものがある)
- 緑地を増やす

再生可能エネルギー

- 太陽光発電導入時、補助
- 太陽光発電の充電機を使用(スマホ充電など)
- 家の屋根に太陽光パネルを設置する
- 学校、役所など公共施設の太陽光パネル設置をもっと急ぎで
- 企業同士の協力のさらなる推進ガソリン、全固体電池など
- 小さな太陽光パネル(ペラペラのもの)から始める
- 日野には水路が多いので小水力発電を
- ごみ処理場の熱利用はできないか

追加意見（会議後アンケートより）

高齢者、一人暮らしの方々に取り組み易い方法を考案（太陽光発電・省エネ家電等々）

オレンジ：市民の取り組み
緑：事業者の取り組み
青：行政の取り組み
ピンク：留意点等

令和５年１１月５日第４回日野市気候市民会議　テーマ「エネルギー」
Fグループ

ライフスタイル等

- 期限の近い食品を買う
- 早寝早起き一番大切
- 期限の近い食品、近くない食品で販売場所を分けておく
- クールスポットへ出掛け、情報収集(家電,家,補助金)

啓発方法

- 省エネ製品のCO2の減量やコストの情報を出してほしい
- 親から子へ伝えていく(親の価値観が絶対になりやすい)
- 省エネ、CO2排出ゼロへの取り組みをPRする
- 人気キャラクターを使った啓発CMを制作
- 太陽光発電導入のメリット等々説明会を
- テレビCM伝え方工夫「何がどういうふうにECOなのか」
- 省エネポイント導入
- TV番組で取り上げてもらう（省エネ）
- 広報ひのに毎号PRする

その他

- サマータイムの導入
- 草かりを減らす
- 全体的にもっと安く！
- 春・夏・秋・冬の区別のわかりやすい環境に…
- 脱炭素化に向けて努力している企業に積極的な補助を
- 製造過程におけるCO2排出量の基準を設定

追加意見（会議後アンケートより）

なし

5 第 5 回会議

(1) 会議の概要

日　　時：2023 年 12 月 10 日（日）　13:15～17:15
場　　所：日野市役所（東京都日野市神明 1-12-1）　505 会議室
参加者数：24 名
テ ー マ：提言書の内容のまとめ
協 力 者：
　山本 良一 氏
　　東京都公立大学法人　理事長
　　東京大学名誉教授

(2) 会議のプログラム

第 5 回会議のプログラムを以下に示します。なお、会議資料は WEB 上に公開しました。

第 5 回会議のプログラム

時刻	時間	プログラム	担当
13:15～	8 分	開会、第 4 回の振り返り等	日野市、事務局
13:23～	12 分	グループ内での自己紹介	事務局、ファシリテーター
13:35～	10 分	提言書（素案）の内容、完成までの流れ	事務局
13:45～	15 分	情報提供「カーボンニュートラルを急げ 気候転換点を超える前に」	山本 良一 氏
14:00～	45 分	グループワーク 1 カーボンニュートラルシティＨＩＮＯを実現するための前提となる考え方	事務局、ファシリテーター
14:45～	10 分	休憩	
14:55～	100 分	グループワーク 2 （テーマ別）市民、事業者、行政の役割等	事務局、ファシリテーター
16:35～	10 分	休憩	
16:45～	10 分	参加者同士の感想の共有	事務局、ファシリテーター
16:55～	7 分	今後の予定	日野市
17:02～	3 分	日野市長によるクロージングメッセージ	日野市長
17:05～ 17:15	10 分	閉会、記念撮影	日野市、事務局

(３) 情報提供に対する質問と回答の内容

第５回会議は、グループワークの時間をできるだけ長く確保するために、情報提供後の質疑応答の時間を設けませんでした。また、最終回であったことから、会議終了後に行ったアンケートにも質問を記載する欄を設けませんでした。

(４) グループワークの結果

第５回会議のグループワークでは、提言書（素案）と事前に行った投票の結果をもとに提言書の内容をまとめる作業を行いました。この結果は、「Ⅲ 提言書の作成過程 ５ 提言書の内容の変遷」に記載しました。

III 提言書の作成過程

1 提言書の構成と作成方法の基本的な考え方

提言書は、前半の「カーボンニュートラルシティ HINO を実現するための前提となる考え方」と、後半の「カーボンニュートラルシティ HINO を実現するための取り組み（テーマ別）」で構成されています。

提言書の構成と作成方法の基本的な考え方を以下に示します。

提言書の構成と作成方法の基本的な考え方

場所	項目	作成方法の基本的な考え方
前半	カーボンニュートラルシティ HINO を実現するための前提となる考え方	① 第 1 回の講義で「気候市民会議の意義」、「気候変動の現状とこれからの社会」について学ぶ ② 第 1 回のグループワークで、上記の感想と疑問点を共有する ③ このグループワークの結果をもとに、提言書に記載しておくべき重要な「前提となる考え方」を文章化する
後半	カーボンニュートラルシティ HINO を実現するための取り組み（テーマ別）	① 第 2 回から第 4 回までの情報提供で「モノ」、「モビリティ」、「エネルギー」それぞれのカーボンニュートラルの取り組みの現状を学ぶ ② 第 2 回から第 4 回までのグループワークで、「モノ」、「モビリティ」、「エネルギー」それぞれについての市民、事業者、行政の取り組みを議論する ③ このグループワークの結果をもとに、提言書に記載する取り組みを整理する

2 提言書の作成の流れ

提言書の作成に当たっては、「素案作成」、「案作成」、「完成」という３つの段階を設けました。

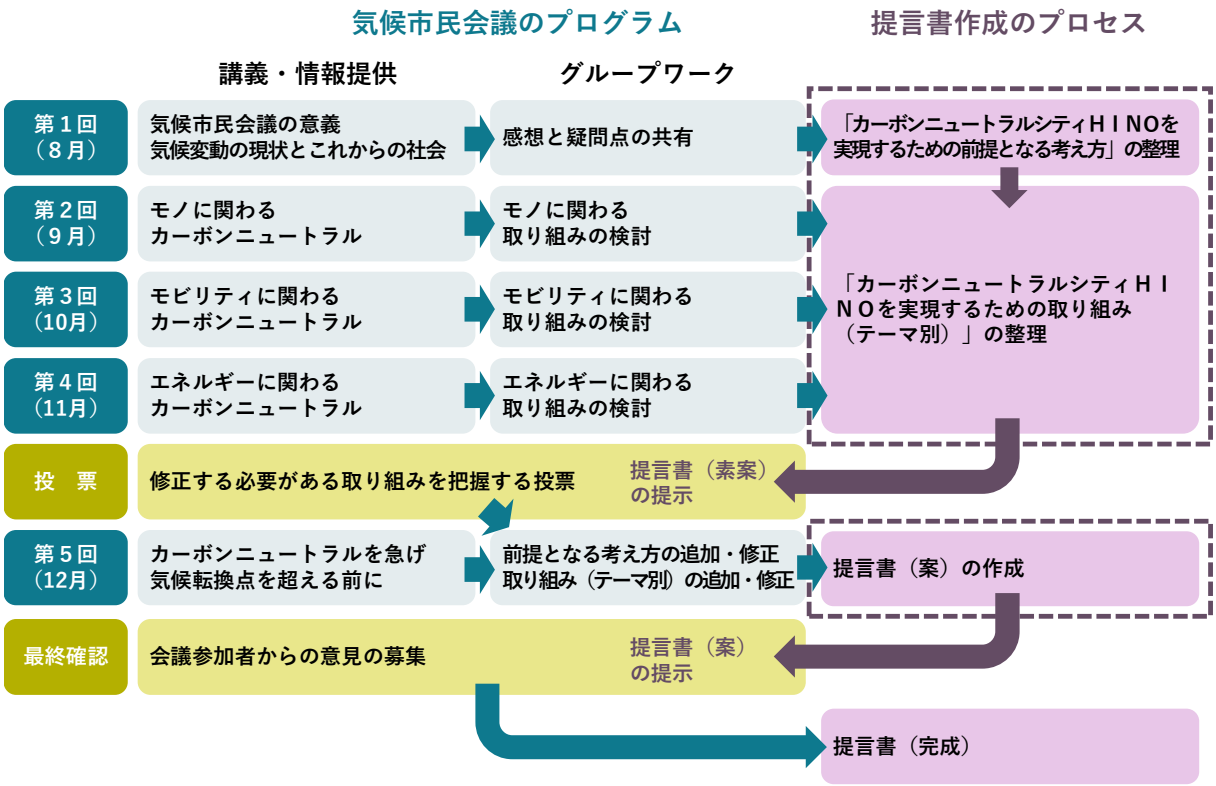
まず、第１回から第４回までのグループワークの結果を踏まえて、事務局が「提言書（素案）」を作成しました。

次に、「提言書（素案）」のなかで、修正する必要がある取り組みを把握するための投票を行いました。この投票の結果を踏まえて第５回で修正の方向性を議論し、その結果をもとに事務局が「提言書（案）」を作成しました。

最後に、「提言書（案）」に対してさらに修正する必要がないかを聞くために、参加者からの意見の募集を行いました。この意見の結果をもとに事務局が「提言書（完成版）」を作成しました。

日野市気候市民会議のプログラムと提言書作成のプロセスを以下に示します。

日野市気候市民会議のプログラムと提言書作成のプロセス



3 提言書（素案）をもとにした投票の概要

「提言書（素案）」には、394 個の取り組みが記載されました。これらの取り組みすべてに対して、下記の選択肢を用意し、参加者全員に投票を依頼しました。

【投票の際の選択肢】

①この取り組みを提言書に残す

②判断がつかない

③この取り組みを提言書に残すには修正が必要（逆に CO_2 排出量が増える可能性がある）

④この取り組みを提言書に残すには修正が必要（暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど）

「提言書（素案）」をもとにした投票の概要を以下に示します。

提言書（素案）をもとにした投票の概要

項目	概要
回答方法	「回答用 WEB フォーム」と「回答用紙（Word 版）」の 2 種類を用意
依頼方法	・メールでの連絡が可能な 36 名に対しては、メールで連絡し、「回答用 WEB フォーム」と「回答用紙（Word 版）」、メール本文での返信のいずれか好きな方で回答するように依頼 ・メールでの連絡が難しい 4 名に対しては、印刷した通知書類と「回答用紙（Word 版）」を郵送し、手書きの回答用紙を返送していただくように依頼
依頼日と投票期限	依 頼 日：2023 年 11 月 28 日（火） 投票期限：2023 年 12 月 6 日（水）※
投票した参加者の数	合計 31 名 （回答用 WEB フォームの利用者 24 名、回答用紙（Word 版）の利用者 7 名）
投票結果	「5 提言書の内容の変遷」参照

※当初の投票期限は 2023 年 12 月 5 日（火）であったが、投票した参加者数の状況を踏まえて期限を 1 日延長した。

投票用紙

日野市気候市民会議　投票

第１回会議から第４回会議までのグループワークの結果、提言書(素案)には37個の提言、394個の取り組みが盛り込まれました。

第５回会議において、これらの提言、取り組みの内容を詰めていくにあたり、394個の取り組みに対する投票を行います。

投票の選択肢は、下記の４つです。

スマートフォンで回答することもできます

①この取り組みを提言書に残す
②判断がつかない
③この取り組みを提言書に残すには修正が必要（逆に CO_2 排出量が増える可能性がある）
④この取り組みを提言書に残すには修正が必要（暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど）

①を選択した人が多い取り組みについては、ほぼそのまま提言書(完成版)に反映される見込みですが、③や④を選択した人が多い取り組みについては、第５回会議のなかで取り組みの文章の修正について検討していただきます（場合によっては取り組みの文章ごと削除することもありえます）。

ご協力くださいますよう、お願いいたします（所要時間：30分程度）。

【投票期限：2023年12月5日（火曜）24時00分】

投票結果は事務局が集計・整理し、第５回会議で報告します（投票者個人の情報などは掲載しません）。

質問１　お名前のイニシャルを記入してください（例：山田 太郎 ⇒ ＴＹ)。

【名】	【姓】
太郎の場合⇒T	山田の場合⇒Y

質問２　第１回から第４回までに所属していたグループに○をつけてください。

Ａグループ　　Ｂグループ　　Ｃグループ
Ｄグループ　　Ｅグループ　　Ｆグループ

質問３　下記の394個の取り組みに対し、当てはまる選択肢１つに✓をつけてください。

【記入例】

主体	役割（取り組み）	提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要	
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど
市　民	① 環境問題について正しい知識、意識を持つ、変化に対応するように努力する	✓			

ゼロカーボンＨＩＮＯを実現するための前提となる考え方

提言１　環境問題を社会に浸透させ、一丸となってこの問題に取り組む

主体	役割（取り組み）	提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要	
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど
市　民	① 環境問題について正しい知識、意識を持つ、変化に対応するように努力する				
	② 環境問題について家庭内で子どもに教える				
	③ 環境問題について地域で話す、勉強会をする、詳しい人に質問する				
	④ 環境に配慮した事業者、環境問題に対して取り組む団体を応援する				
	⑤ 行政や政治に興味を持ち、環境問題に対する取り組みなどに協力する、説明の場を求める				
	⑥ 人は健全な地球環境が保たれていないと生きていけないことを認識し、足るを知るという考えを大切にする				
事業者	① 環境問題の解決につながるビジネスを行う、知見や技術を共有する				
	② 環境問題に対する取り組みの効果を分かりやすく示す				
	③ 環境問題に対する取り組みをメディアやCM、SNS、店舗などで発信する				
	④ 環境問題の周知、啓発につながるCMについては、費用を安く設定する				
	⑤ 環境問題について知る、取り組むためのイベントを行う				
	⑥ 環境問題に対する取り組みのための助成金を正しく活用する（助成金分は利益にせず、社会に還元する）				
行　政	① 環境問題に対する市民や事業者への指導を強化する				
	② 環境問題に対する市民や事業者の取り組みを広報等で紹介する				
	③ 環境問題の現状や取り組みを、広報や掲示物、メディア、CM、SNSなどで分かりやすく伝える				

※3枚目以降は省略

4 提言書（案）に対する意見の募集の概要

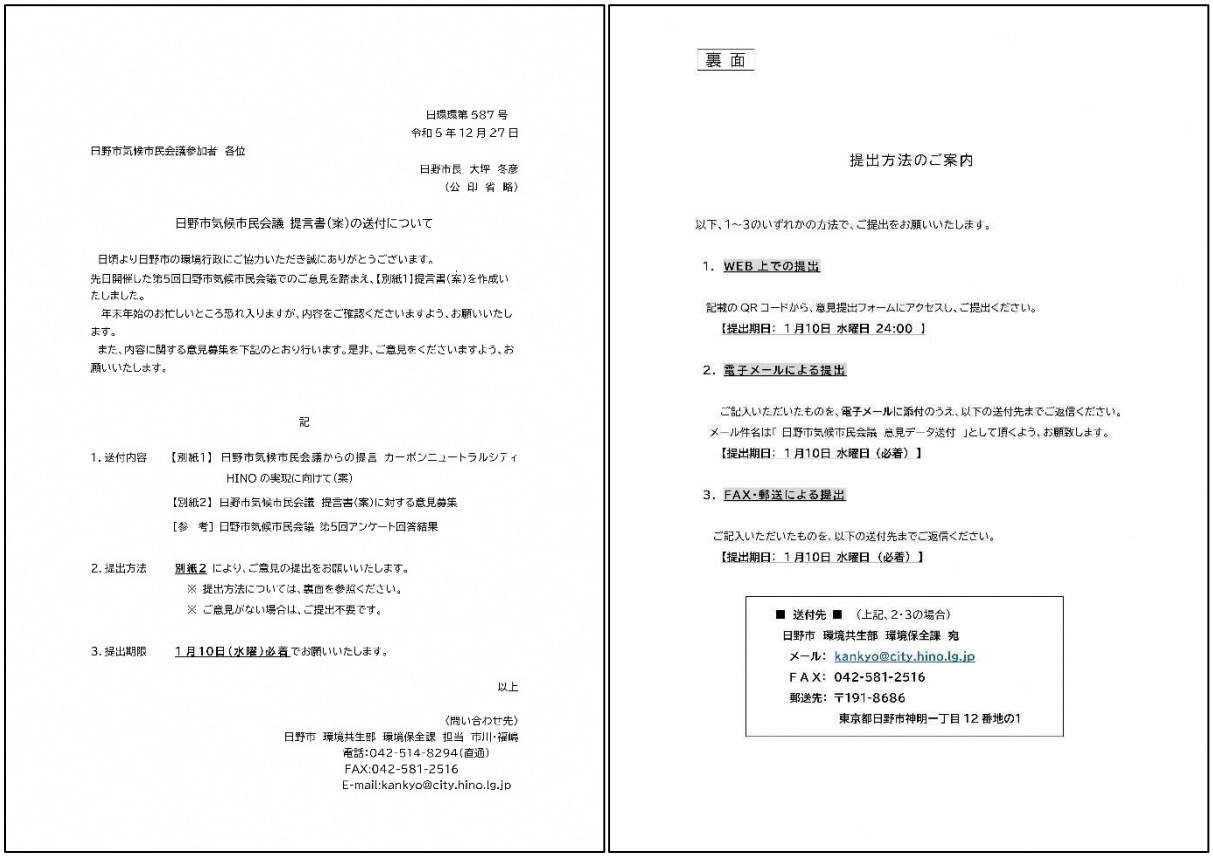
「提言書（案）」を作成し、参加者全員に最終確認の依頼と、さらに修正する必要がないかを聞くための意見の募集を行いました。

「提言書（案）」に対する意見の募集の概要を以下に示します。

提言書（案）に対する意見の募集の概要

項目	概要
回答方法	「回答用 WEB フォーム」と「回答用紙（Word 版）」の 2 種類を用意
依頼方法	・メールでの連絡が可能な 36 名に対しては、メールで通知書類を送付し、「回答用 WEB フォーム」と「回答用紙（Word 版）」、メール本文での返信のいずれか好きな方で回答するように依頼 ・メールでの連絡が難しい 4 名に対しては、印刷した通知書類と「回答用紙（Word 版）」を郵送し、手書きの回答用紙を返送していただくように依頼
依頼日と投票期限	依 頼 日：2023 年 12 月 27 日（水） 投票期限：2024 年 1 月 10 日（水）
意見を提出した参加者の数	1 名（回答用 WEB フォームを利用）
意見の内容	修正箇所：提言 8　事業者④ 元の文章：賞味期限、消費期限が長い食品をつくる 修 正 案：添加物はごく少量で賞味期限、消費期限が少しでも長い食品をつくる

意見の募集の通知書類



日環環第 587 号
令和 5 年 12 月 27 日

日野市気候市民会議参加者 各位

日野市長 大坪 冬彦
（公 印 省 略）

日野市気候市民会議 提言書(案)の送付について

日頃より日野市の環境行政にご協力いただき誠にありがとうございます。
先日開催した第5回日野市気候市民会議でのご意見を踏まえ、【別紙1】提言書(案)を作成いたしました。
年末年始のお忙しいところ恐れ入りますが、内容をご確認くださいますよう、お願いいたします。
また、内容に関する意見募集を下記のとおり行います。是非、ご意見をくださいますよう、お願いいたします。

記

1. 送付内容　【別紙1】日野市気候市民会議からの提言 カーボンニュートラルシティ HINO の実現に向けて(案)
【別紙2】日野市気候市民会議 提言書(案)に対する意見募集
[参 考] 日野市気候市民会議 第5回アンケート回答結果

2. 提出方法　別紙2 により、ご意見の提出をお願いいたします。
※ 提出方法については、裏面を参照ください。
※ ご意見がない場合は、ご提出不要です。

3. 提出期限　1月10日(水曜)必着でお願いいたします。

以上

（問い合わせ先）
日野市 環境共生部 環境保全課 担当 市川・福嶋
電話:042-514-8294(直通)
FAX:042-581-2516
E-mail:kankyo@city.hino.lg.jp

裏 面

提出方法のご案内

以下、1～3のいずれかの方法で、ご提出をお願いいたします。

1. WEB 上での提出

記載の QR コードから、意見提出フォームにアクセスし、ご提出ください。
【提出期日：1月10日 水曜日 24:00 】

2. 電子メールによる提出

ご記入いただいたものを、電子メールに添付のうえ、以下の送付先までご返信ください。
メール件名は「 日野市気候市民会議 意見データ送付 」として頂くよう、お願致します。
【提出期日：1月10日 水曜日（必着）】

3. FAX・郵送による提出

ご記入いただいたものを、以下の送付先までご返信ください。
【提出期日：1月10日 水曜日（必着）】

■ 送付先 ■ （上記、2・3の場合）
日野市 環境共生部 環境保全課 宛
メール：kankyo@city.hino.lg.jp
ＦＡＸ：042-581-2516
郵送先：〒191-8686
東京都日野市神明一丁目 12 番地の1

意見募集の用紙

別紙２

日野市気候市民会議　提言書（案）に対する意見募集

提言書（素案）に第５回会議のグループワークの結果を反映し、提言書（案）を作成しました。

スマートフォンで回答することもできます

提言書（案）をお読みいただき、修正したい点がある方は、この用紙に具体的な修正内容をご記入いただければと思います（修正したい点がない方は、ご提出頂く必要はありません）。

なお、提言書（案）は、６つのグループで別々に話し合われた結果をもとに作成しているため、自分のグループで話し合われた結果がそのまま反映されていない場合もあります。BOX には、参考資料として、第５回会議でご記入いただいた用紙（６グループ分）を格納していますので、他のグループで話し合われた結果をご覧になりたい場合などは、適宜ご覧いただければと思います。

【提出期限：2024 年１月 10 日（水曜）】

この用紙にご記入いただいた修正内容は事務局が集計・整理したうえで、最終的な提言書に反映させます（投票者固有の情報などは掲載しません）。

なお、修正の内容によっては意見が割れそうな内容が出てきた場合には、改めて簡易な投票を行い修正内容を確定させる場合もあります。あらかじめ、ご了承いただければと思います。

質問１　お名前のイニシャルを記入してください（例：山田 太郎 ⇒ ＴＹ）。

【名】	【姓】
太郎の場合→T	山田の場合→Y

質問２　第１回から第４回までに所属していたグループに○をつけてください。

Ａグループ　Ｂグループ　Ｃグループ
Ｄグループ　Ｅグループ　Ｆグループ

質問３　５ページ目までの本文（提言１の表中を除く）で修正したい箇所があれば、具体的な修正内容をお書きください。

【記入欄】

ページ番号	行番号	修正前の文章	修正後の文章

【記入例】

ページ番号	行番号	修正前の文章	修正後の文章
はじめに	５行目	○○○○○○	△△△△△△
１ページ目	８行目	□□□□□□	◇◇◇◇◇◇

質問４　５ページ目以降の提言１から 37 までの取り組みで修正したい箇所があれば、具体的な修正内容をお書きください。

【記入欄】

提言番号	主体　取り組み番号	修正前の文章	修正後の文章

【記入例】

提言番号	主体　取り組み番号	修正前の文章	修正後の文章
提言１	市民　②	○○○○○○	△△△△△△
提言３	事業者　④	□□□□□□	◇◇◇◇◇◇

ご協力いただきありがとうございました。

日野市 環境共生部 環境保全課

５ 提言書の内容の変遷

(Ｉ) カーボンニュートラルシティ HINO を実現するための前提となる考え方の文章

「提言書（素案)」の段階と「提言書（完成版)」の段階での文章の変遷を以下に示します。なお、「提言書（案)」に対する意見はありませんでしたが、「提言書（案)」の段階以降に、事務局側で表記ゆれの統一など、軽微な修正を行いました。

提言書（素案）の「カーボンニュートラルシティ HINO を実現するための前提となる考え方」の文章（1/3）

II 日野市気候市民会議からの提言

Ｉ ゼロカーボンＨＩＮＯを実現するための前提となる考え方

我々は、気候変動をはじめとする環境問題に対し、特別な知識を持っている訳でもなく、特別に意識が高いという訳でもない、一般の日野市民の立場でこの会議に参加しました。

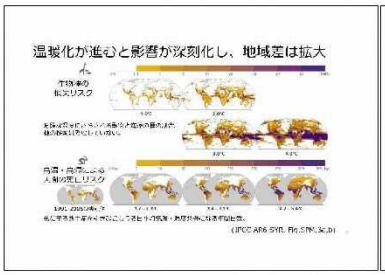
このような一般の日野市民の視点でも、第１回にアドバイザーからの講義を聞くなかで、大変な時代に生きていることを実感し、大きな危機感を抱きました。同時に、未来の世代のために取り組むべきだと強く感じ、今すぐに行動すべきという考えに至りました。

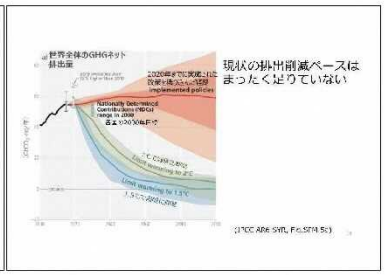
今後必要となる取り組みについては p.5 以降にとりまとめましたが、ゼロカーボン HINO を実現するためには、大前提として下記の考え方が必要だと考えます。

(Ｉ) 環境問題を教育や政治で取り上げる

第１回の講義のなかで知った事実がたくさんあります。例えば、気候変動が進むと様々な分野に影響が及ぶこと、その影響には地域差があり原因に責任のない人たち（新興国・途上国などの人たち）が深刻な影響を受けること、現状の温室効果ガス（二酸化炭素など）の排出削減ペースではまったく足りないことなどです。

我々はこの会議に参加する前までは、このような事実を知りませんでした。そのため、行動に移すことも、声を上げることもできませんでした。このような事実を知らされていなかったこと、知る機会がなかったことに根本的な問題があると考えます。





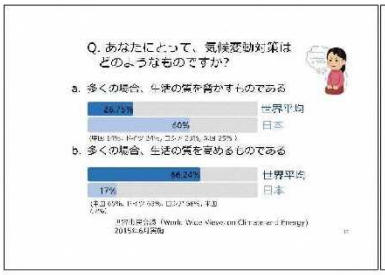
出典：日野市気候市民会議第１回講義資料 気候変動の現状とこれからの社会（江守正多）

また、取り組まなければいけないことが分かっているのに、我々はなぜできない、なぜやらないのかという疑問があります。

日本では、気候変動対策＝我慢しながら取り組むもの、と考える人が多いそうですが、欧米では、気候変動対策＝生活の質を高めるもの、と考える人が多いそうです。アドバイザーからは、ヨーロッパの国々では、学校での教育以外に大人が参加して議論できる機会（気候市民会議など）がいろいろとあり、社会全体の意識の向上につながっている様子を聞きました。

これらのことから日本でも、すべての人が事実を知り、議論しあい、行動に移すために、教育や政治において、もっとこの問題を取り上げることが重要と考えます。

2



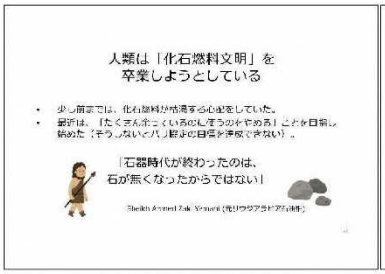
出典：日野市気候市民会議第１回講義資料
気候変動の現状とこれからの社会（江守正多）

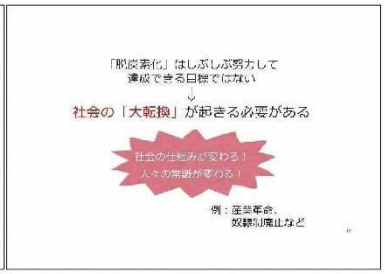
出典：日野市気候市民会議第１回講義資料
気候市民会議の意義これから会議に参加する皆さんへ（三上直之）

（２）社会の「大転換」を起こす

第１回の講義のなかで、「人類は『化石燃料文明』を卒業しようとしている。石器時代が終わったのは、石がなくなったからではない。」という言葉が心にささりました。これは、化石燃料を使いきる前に、我々の意思で『化石燃料文明』を卒業する必要があるという意味です。

ですが、新興国・途上国など、産業や経済との関係から十分な気候変動対策を行うことができない地域もあります。このように、単純に解決できない問題もたくさんあることから、社会全体が変わっていく、つまり「大転換」を起こしていく必要があると考えます。





出典：日野市気候市民会議第１回講義資料 気候変動の現状とこれからの社会（江守正多）

日本では、経済成長のための取り組みが最優先になっていると感じています。経済成長すると二酸化炭素の排出量が増えることにつながりますが、二酸化炭素の排出量を減らすことも同じように重要な問題です。両方の問題の大きさを同等に扱って解決策を検討していく必要があると考えます。一方で、経済成長に伴って二酸化炭素の排出量を減らすための技術レベルも上がる可能性があるため、このことを踏まえながら取り組みを進めていくという視点も必要です。このように、これまでの枠組みにとらわれない社会の「大転換」が必要と考えます。

そのためには、個人レベルだけではなく、日野市、東京都、国、世界のそれぞれのレベルで考えながら、市民、事業者、行政のすべての人がこの問題に向き合い、一丸となって取り組みを始める必要があると考えます。

3

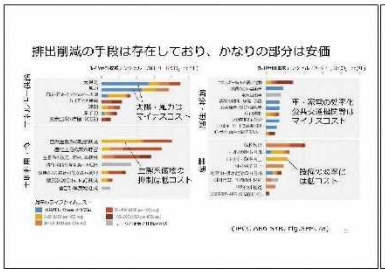
提言書（素案）の「カーボンニュートラルシティ HINO を実現するための前提となる考え方」の文章（3/3）

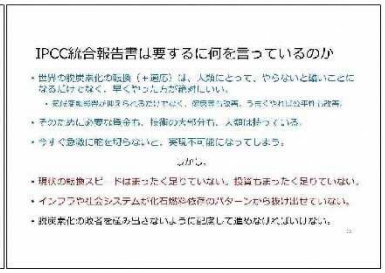
（3）現時点で取り組めることを洗い出し、すぐにでも実行に移す

第１回の講義のなかで、現状よりニ酸化炭素の排出削減ペースを上げていく必要があること、そのためにはすぐにでも取り組みを実行に移す必要があることを知りました。同時に、気候変動対策には、現時点でも取り組めることがたくさんあること、かなりの部分が安価に実行できることを知り、意外に感じました。

前述のとおり、社会の「大転換」を起こすことが大前提となりますが、現時点で取り組めることを洗い出し、すぐにでも実行に移していく必要があると考えます。

また、実行することで、気候変動影響が抑えられるだけでなく、健康などの改善にもつながる、うまくやれば公平性も改善されるというように、良い影響がたくさんあることを知りました。様々な社会課題を解決に近づけるという観点からも、様々な取り組みをすぐにでも実行に移していくことが重要だと考えます。





出典：日野市気候市民会議第１回講義資料 気候変動の現状とこれからの社会（江守正多）

提言書（完成版）の「カーボンニュートラルシティ HINO を実現するための前提となる考え方」の文章（1/3）

II 日野市気候市民会議からの提言

I カーボンニュートラルシティＨＩＮＯを実現するための前提となる考え方

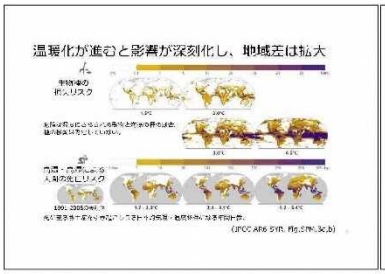
我々は、様々な専門家からの講義を聞くなかで、大変な時代に生きていることを実感し、大きな危機感を抱きました。同時に、未来の世代のために取り組むべきだと強く感じ、今すぐに行動すべきという考えに至りました。

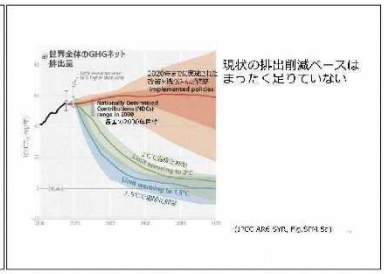
今後必要となる取り組みについては p.5 以降にとりまとめましたが、カーボンニュートラルシティ HINO を実現するためには、前提として下記の考え方が必要です。

(１) 環境問題を教育や家庭、政治、行政で取り上げる

第１回の講義のなかで確認した事実がたくさんあります。例えば、気候変動が進むと様々な分野に影響が及ぶこと、現状の温室効果ガス（二酸化炭素など）の排出削減ペースではまったく足りないことなどです。

これまでの行政やメディアによる発信では、このような事実の一部しか知ることができませんでした。利益や利便性を追求してきた結果、目を背けてきた事実があるのかも知れません。我々も、気候変動の深刻さに気付き始めてはいましたが、深く知ろうとしてきませんでした。また、行動に移すことも、声を上げることもほとんどしてきませんでした。このように、事実を知る機会が少なかったこと、深く知ろうとしてこなかったことに根本的な問題があります。





出典：日野市気候市民会議第１回講義資料 気候変動の現状とこれからの社会（江守正多）

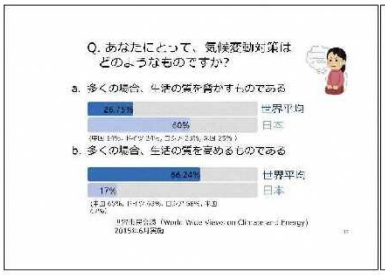
また、たとえ事実を知っていたとしても、なかなか行動に移せないという問題があります。

日本では、気候変動対策＝我慢しながら取り組むもの、と考える人が多いそうですが、欧米では、気候変動対策＝生活の質を高めるもの、と考える人が多いそうです。専門家からは、ヨーロッパの国々では、学校での教育以外に大人が参加して議論できる機会（気候市民会議など）がいろいろとあり、社会全体の意識の向上につながっている様子を聞きました。

これらのことから日本でも、すべての人が事実を知り、議論し、行動に移すために、教育や家庭、政治、行政において、もっとこの問題を取り上げ、興味や関心を持てるようにすることが重要です。

2

提言書（完成版）の「カーボンニュートラルシティ HINO を実現するための前提となる考え方」の文章（2/3）



出典：日野市気候市民会議第１回講義資料
気候変動の現状とこれからの社会（江守正多）

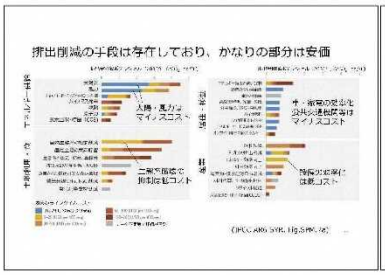
出典：日野市気候市民会議第１回講義資料
気候市民会議の意義これから会議に参加する皆さんへ（三上直之）

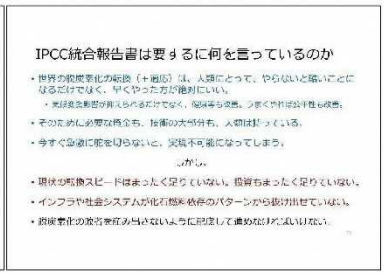
（２）現時点で取り組めることを洗い出し、すぐにでも実行に移す

第１回や第５回の講義のなかで、気候変動の現象には、大気中の温室効果ガスが少しずつ蓄積していった結果、ある時点を境に劇的な変化を起こす転換点（ティッピング・ポイント）があること、その転換点を超える可能性が高いことを知りました。このように待ったなしの状況であるため、現状より温室効果ガスの排出削減ペースを上げていく必要があり、すぐにでも取り組みを実行に移す必要があります。

第１回の講義のなかでは、気候変動対策には、現時点でも取り組めることがたくさんあること、その取り組みの大部分が安価又は容易に実行できることを知りました。そのため、現時点で取り組めることを洗い出し、すぐにでも実行に移していく必要があります。また、国を始めとする行政においても、カーボンニュートラルを実現するための法律や仕組みを整備することが求められます。

その他、気候変動対策を実行することで、気候変動影響が緩和されるだけでなく、健康などの改善にもつながり、さらには公平性を改善できる可能性もあるというように、良い影響がたくさんあることを知りました。SDGs（持続可能な開発目標）が目指す「誰一人取り残さない」という観点や、様々な社会課題を解決に近づけるという観点からも、p.5 以降に示す様々な取り組みなどをすぐにでも実行に移していくことが重要です。





出典：日野市気候市民会議第１回講義資料 気候変動の現状とこれからの社会（江守正多）

4

提言書（完成版）の「カーボンニュートラルシティ HINO を実現するための前提となる考え方」の文章（3/3）

（3）社会と意識の「大転換」を起こす

第１回の講義のなかで、「人類は『化石燃料文明』を卒業しようとしている。石器時代が終わったのは、石がなくなったからではない。」という言葉が心にささりました。これは、化石燃料が枯渇する前に、我々の意思で『化石燃料文明』を卒業する必要があるという意味です。

出典：日野市気候市民会議第１回講義資料 気候変動の現状とこれからの社会（江守正多）

ですが、日本では経済成長のための取り組みが最優先になっていると感じています。経済成長すると二酸化炭素の排出量が増えることにつながりますが、二酸化炭素の排出量を減らすことも同じように重要な課題です。そのため、二酸化炭素の排出を削減した範囲内で機能する経済の仕組みを検討していく必要があります。一方で、経済成長に伴って二酸化炭素の排出量を減らすための技術レベルが上がる可能性があるため、このことを踏まえながら取り組みを進めていくという視点も必要です。このように、これまでの枠組みにとらわれない社会と意識の「大転換」を起こすことが重要です。「社会の仕組みが変わること」、「人々の常識が変わること」により、化石燃料に依存しない社会を築いていく必要があります。

そのためには、個人レベルだけではなく、日野市、東京都、国、世界のそれぞれのレベルで考えながら、市民、事業者、行政のすべての人がこの問題に向き合い、協力し合いながらすぐにでも取り組みを始める必要があります。

（4）本提言書に書かれた取り組みの進み具合を評価する

本提言書には、市民、事業者、行政、それぞれの取り組みが記載されています。本提言書が日野市に提出されたあと、政策にひとつでも多く取り入れられることが重要です。また、それと同じように市民、事業者の取り組みを広く普及させていくという視点も重要です。

そのため、本提言書をもとに啓発資料としてとりまとめたものなどを駅や公共施設、商業施設など、多くの人の目に留まる場所で配布したり、事業者への説明会を開催して周知したりする必要があります。

また、政策や取り組みの進み具合を「見える化」して評価するために、市民又は第三者による評価を実施する必要があります。日野市気候市民会議を継続してこれらの役割を持たせることも考えられます。

5

（２）カーボンニュートラルシティ HINO を実現するための前提となる考え方に記載した取り組み

「提言書（素案）」の段階と「提言書（完成版）」の段階で記載した取り組みの変遷を以下に示します。なお、「提言書（案）」に対する意見はありませんでしたが、「提言書（案）」の段階以降に、事務局側で表記ゆれの統一など、軽微な修正を行いました。

前提となる考え方に記載した取り組みの変遷（1/2）

【提言１　環境問題を社会に浸透させ、協力し合いながらこの問題に取り組む】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 環境問題について正しい知識、意識を持つ、変化に対応するように努力する	97%	0%	0%	3%	① 環境問題について正しい知識、意識を持つ、変化に対応するように努力する
	② 環境問題について家庭内で子どもに教える	81%	10%	0%	10%	② 環境問題について家庭内で子どもと話す
	③ 環境問題について地域で話す、勉強会をする、詳しい人に質問する	84%	10%	0%	6%	③ 環境問題について地域で話す、勉強会をする、詳しい人に質問する
	④ 環境に配慮した事業者、環境問題に対して取り組む団体を応援する	77%	16%	0%	6%	④ 環境に配慮した事業者、環境問題に対して取り組む団体を応援する
	⑤ 行政や政治に興味を持ち、環境問題に対する取り組みなどに協力する、説明の場を求める	84%	13%	0%	3%	⑤ 行政や政治に興味を持ち、環境問題に対する取り組みなどに協力する、説明の場を求める
						⑥ 選挙の際、環境問題に真剣に取り組む国会議員や市議会議員などに投票する
	⑥ 人は健全な地球環境が保たれていないと生きていけないことを認識し、足るを知るという考えを大切にする	74%	10%	3%	13%	⑦ 人は健全な地球環境が保たれていないと生きていけないことを認識し、足るを知るという考えを大切にする
事業者	① 環境問題の解決につながるビジネスを行う、知見や技術を共有する	90%	3%	0%	6%	① 環境問題の解決につながるビジネスを行う、知見や技術を共有する
						② 事業者単位でカーボンニュートラルを実現する
	② 環境問題に対する取り組みの効果を分かりやすく示す	90%	0%	3%	6%	③ 環境問題に対する取り組みの効果を分かりやすく示す
	③ 環境問題に対する取り組みをメディアやCM、SNS、店舗などで発信する	84%	6%	0%	10%	④ 環境問題の周知、啓発や、環境問題に対する取り組みをメディアやCM、SNS、店舗などで発信する
	④ 環境問題の周知、啓発につながるCMについては、費用を安く設定する	45%	35%	3%	16%	（削除）
	⑤ 環境問題について知る、取り組むためのイベントを行う	81%	13%	6%	0%	⑤ 環境問題について知る、取り組むためのイベントを行う
	⑥ 環境問題に対する取り組みのための助成金を正しく活用する（助成金分は利益にせず、社会に還元する）	77%	16%	0%	6%	⑥ 環境問題に対する取り組みのための助成金を正しく活用する（助成金分は利益にせず、社会に還元する）
行　政	① 環境問題に対する市民や事業者への指導を強化する	77%	6%	0%	16%	① 環境問題に対する市民や事業者への指導を強化する
	② 環境問題に対する市民や事業者の取り組みを広報等で紹介する	94%	0%	6%	0%	② 環境問題に対する市民や事業者の取り組みを広報などで紹介する
	③ 環境問題の現状や取り組みを、広報や掲示物、メディア、CM、SNSなどで分かりやすく伝える	97%	3%	0%	0%	③ 環境問題の現状や取り組みを、広報や掲示物、メディア、CM、SNSなどで分かりやすく伝える
	④ 環境問題に対してみんなで取り組めるようなキャンペーンを企画する、スローガンをかかげる	84%	13%	3%	0%	④ 環境問題に対してみんなで取り組めるようなキャンペーンを企画する、スローガンをかかげる
	⑤ 環境問題を学校教育に取り入れる、行政や地域の大人も学校教育に参加する	87%	3%	0%	10%	⑤ 環境問題を学校教育に取り入れる（「環境」という教科を追加する、年何回以上授業を行うなどをルール化する）、行政や地域の大人も学校教育に参加する
	⑥ 子どもが環境問題を学ぶことができる施設をつくる	55%	23%	16%	6%	⑥ 既存の施設（カワセミハウスやクリーンセンターなど）を活用し、子どもが環境問題を学ぶことができるようにする（親子で参加できる場や機会を提供する、体験の機会を提供する）

前提となる考え方に記載した取り組みの変遷（2/2）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
行　政	⑦ 市民が環境問題を学ぶ場（イベント、講演会、セミナー、勉強会など）を増やす、市民や事業者にも企画や開催に協力してもらう	94%	3%	0%	3%	⑦ 市民（全員）が環境問題を学ぶ場（イベント、講演会、セミナー、勉強会、学校などでの授業、事業者の取り組みの見学など）を増やす、市民や事業者にも企画や開催に協力してもらう
	⑧ 市民が環境問題を話し合う場（気候市民会議など）をさらに増やす、少数者、少数派の意見も取り入れる仕組みをつくる	84%	6%	3%	6%	⑧ 市民が環境問題を話し合う場（気候市民会議など）をさらに増やす、少数者、少数派の意見も取り入れる仕組みをつくる
	⑨ 事業者と行政が連携して環境問題に対して取り組む	87%	6%	3%	3%	⑨ 事業者と行政が連携して環境問題に対して取り組む
	⑩ 市民と事業者、事業者と事業者をつないで環境問題に対して取り組む仕組みをつくる	81%	13%	0%	6%	⑩ 市民と事業者、事業者と事業者をつないで環境問題に対して取り組む仕組みをつくる
						⑪ 周辺の自治体と連携、情報交換しながら環境問題に対して取り組む
	⑪ 環境に配慮することが得になる仕組みをつくる	87%	10%	0%	3%	⑫ 環境に配慮することが得になる仕組みをつくる
	⑫ 環境問題に関して市民が分かりやすい基準をつくる、日野市独自の認証マークをつくる	81%	19%	0%	0%	⑬ 環境問題に関して市民が分かりやすい基準をつくる、日野市独自の認証マークをつくる 留意点：認証マークは、何のためのマークであるかを一目でわかるようにする必要がある
						⑭ カーボンニュートラルを実現するプロジェクトチームを作る
	⑬ 環境問題に関して何でも気軽に相談できる窓口を作る、弱者が取り残されない仕組みをつくる	90%	0%	0%	10%	⑮ 環境問題に関して何でも気軽に相談できる窓口を作る、誰一人取り残されない仕組みをつくる
	⑭ 二酸化炭素の排出量を定期的に公表する	77%	16%	3%	3%	⑯ 公共施設の二酸化炭素の排出量とそれに対する評価、その後に必要となる取り組みを定期的に公表する（施設単位でカーボンニュートラルを達成する）
	⑮ 環境問題に対する市民、事業者の取り組みや研究開発を支援する（助成・減税を含む） 留意点：助成による取り組みの成果が社会に還元されるような制度設計とする（助成金分が単に事業者の利益ならないように）	81%	13%	0%	6%	⑰ 環境問題に対する市民、事業者の取り組みや研究開発を支援する（助成・減税を含む）、環境に配慮している事業に優先的に助成する 留意点：助成による取り組みの成果が社会に還元されるような制度設計とする（助成金分が単に事業者の利益とならないように）
	⑯ 議員が環境問題について周知、啓発する	68%	23%	3%	6%	⑱ 議員が環境問題を政策として取り上げ、周知、啓発する
	⑰ 国が中心となって環境問題に対する取り組みを進める	90%	3%	0%	6%	⑲ 国が中心となって環境問題に対する取り組みを進める
	⑱ 古い慣習に縛られずに、ゴミ有料化と同じような大胆な取り組みを行う	74%	10%	0%	16%	⑳ 古い慣習に縛られずに、ゴミ有料化と同じような大胆な政策を立案し、実行する
						㉑ 本提言書をもとに啓発資料としてとりまとめたものなどを駅や公共施設、商業施設など、多くの人の目に留まる場所で配布する、事業者への説明会を開催して周知する
						㉒ 本提言書に書かれた政策や取り組みの進み具合を「見える化」して評価するために、市民又は第三者による評価を実施する

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

（３）カーボンニュートラルシティ HINO を実現するための取り組み（テーマ別）

「提言書（素案）」の段階と「提言書（完成版）」の段階で記載した取り組みの変遷を以下に示します。なお、「提言書（案）」の段階以降では、「提言書（案）」に対する「提言８　事業者④」の意見を反映させるとともに、事務局側で表記ゆれの統一など、軽微な修正を行いました。

モノについて記載した取り組みの変遷（1/16）

【提言２　環境に配慮したモノを普及させる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 環境に配慮した素材（自然由来の素材、脱プラスチックの素材など）、環境に配慮した方法でつくられたモノを選択する	77%	3%	3%	16%	① 環境に配慮した素材（自然由来の素材、脱プラスチックの素材など）、環境に配慮した方法でつくられたモノを選択する
	② プラスチックが使用されていないモノを選択する（プラスチック容器ではなく紙容器に入ったモノなど）	68%	10%	10%	13%	② プラスチックで包装されていないモノを選択する（包装されていないモノ、紙など自然由来の素材で包装されたモノなど）
	③ プラスチックが使用されているモノはバイオマスプラスチックなどに置き換わっているモノを選択する	81%	10%	0%	10%	③ プラスチックが使用されているモノはバイオマスプラスチックなどに置き換わっているモノを選択する
	④ 環境認証マークについて調べる、環境認証マークがついたモノを選択する	97%	0%	0%	3%	④ 環境認証マークについて調べる、環境認証マークがついたモノを選択する
	⑤ 環境に配慮したモノをつくる事業者を応援する、積極的に事業者に意見、提案をあげる	87%	10%	0%	3%	⑤ 環境に配慮したモノをつくる事業者を応援する、積極的に事業者に意見、提案をあげる
事業者	① 環境に配慮したモノをつくり、売り上げに結び付ける	84%	3%	3%	10%	① 環境に配慮したモノをつくり、それをアピールして差別化する
	② 環境配慮にかかる費用（素材の産地に適正な費用を支払うことを含む）を事業者が負担し、価格に転嫁する（消費者にも負担してもらう）	65%	23%	0%	13%	② 環境配慮にかかる費用（素材の産地に適正な費用を支払うことを含む）を事業者が負担し、価格に転嫁する 留意点：環境配慮にかかる費用を消費者にも負担してもらうが、できる限り無駄を減らして消費者の負担を減らす努力をする
	③ 素材の仕入れから販売までの情報（二酸化炭素排出量など）を透明化し、一連の環境配慮に責任を持つ	81%	13%	0%	6%	③ 素材の仕入れから販売までの情報（二酸化炭素排出量など）を透明化し、一連の環境配慮に責任を持つ
	④ 利益最優先のモノづくりをやめる	61%	23%	0%	16%	④ 環境へ負荷をかけることを前提とした利益最優先のモノづくりをやめる（環境を維持できる範囲内で利益を上げる）
	⑤ 環境に配慮した素材を開発する	90%	3%	6%	0%	⑤ 環境に配慮した素材を開発する
	⑥ プラスチックが使用されていないモノをつくる（プラスチック容器ではなく紙容器に入ったモノなど）	74%	10%	13%	3%	⑥ プラスチックが使用されていないモノをつくる（プラスチックではなく紙で包装されたモノなど）
	⑦ 環境認証を取得する、環境認証マークについて周知、アピールする	97%	0%	0%	3%	⑦ 環境認証を取得する、環境認証マークについて周知、アピールする
行　政	① 環境に配慮したモノをつくる事業者を支援する（助成・減税を含む）	94%	3%	0%	3%	① 環境に配慮したモノをつくる事業者を支援する（助成・減税を含む）
	② 環境に配慮したモノをつくる事業者の表彰制度をつくる	71%	19%	0%	10%	② 環境に配慮したモノをつくる事業者の表彰制度をつくる
	③ 環境に配慮したモノをつくる事業者に発注する	65%	19%	3%	13%	③ 業務の発注や物品の購入をする際に、環境への配慮の評価点を反映させる
	④ モノをつくる際の環境情報（二酸化炭素の排出量など）を表示させる	87%	13%	0%	0%	④ モノをつくる際の環境情報（二酸化炭素の排出量など）を表示させる

モノについて記載した取り組みの変遷（2/16）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
行　政	⑤ モノをつくる際の二酸化炭素の排出量に応じた課税をする	58%	19%	0%	23%	⑤ モノをつくる際の二酸化炭素の排出削減量に応じた減税をする
	⑥ 環境に関する新技術の開発を支援する（助成・減税を含む）	97%	0%	0%	3%	⑥ 環境に関する新技術の開発を支援する（助成・減税を含む）
	⑦ 環境に関する規制、罰則を厳しくする（モノをつくる際の二酸化炭素排出量の基準を設定するなど）	68%	16%	0%	16%	⑦ 環境に関する規制、罰則を厳しくする（モノをつくる際の二酸化炭素排出量の基準を設定するなど）
	⑧ 環境認証マークについて周知、啓発する	90%	6%	0%	3%	⑧ 環境認証マークについて周知、啓発する

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

モノについて記載した取り組みの変遷（3/16）

【提言３　環境に配慮した食を普及させる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	② 環境に配慮した方法でつくられた食材（ハウス栽培ではない旬の食材など）、食品を選択する	77%	10%	0%	13%	① 環境に配慮した方法でつくられた食材（ハウス栽培ではない旬の食材など）、食品を選択する
	① 肉類の大量消費をひかえる（代替肉などの選択を含む）	32%	29%	0%	39%	② 行政の指針などをもとに、年齢などに応じて肉類の大量消費を見直す
事業者	① 環境に配慮した方法で果物、野菜をつくる（ハウス栽培ではない旬の果物、野菜など）	68%	16%	0%	16%	① 環境に配慮した方法で果物、野菜をつくる（ハウス栽培ではない旬の果物、野菜など）
						② 環境に配慮した農業へ貢献する
						③ 飲食店やスーパーなどで、季節ごとに旬の素材を使用したメニューを提供する
						④ 代替肉の研究を進める 留意点：健康に影響のある添加物を含まない方法でつくる必要がある
行　政						① 肉類の消費量について、年齢に応じた指針を示す

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

モノについて記載した取り組みの変遷（4/16）

【提言４　モノの生産、無駄な消費を減らす】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 必要なモノを必要な分だけ買う	90%	3%	0%	6%	① 必要なモノを必要な分だけ買う
	② 高くても長く使えるモノ（衣料品など）を買う、大切に長く使う	74%	6%	0%	19%	② 高くても長く使えるモノ（衣料品など）を買う、大切に長く使う
	③ 使い捨てを前提としたモノを買わない	68%	10%	3%	19%	③ 使い捨てを前提としたモノ（衛生や高齢者への配慮の点で使い捨てがやむを得ないものを除く）をできるだけ選択しない

モノについて記載した取り組みの変遷（5/16）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	④ 容器包装が簡素で、ラベルのついていないモノを選択する	71%	19%	3%	6%	④ 容器包装が簡素で、ラベルのついていないモノを選択する
	⑤ 自宅で飲むお茶は自分で入れ、外出先ではマイボトルを持つ（ペットボトル等に入った飲料を買わない）	71%	6%	0%	23%	⑤ できるだけ、自宅で飲むお茶は自分で入れ、外出先ではマイボトルを持つ（ペットボトルの消費を減らす）
	⑥ 電子書籍を選択し、紙の使用量を減らす	26%	35%	3%	35%	⑥ 電子書籍や図書館を利用し、紙の使用量を減らす（電子書籍は、年齢などに応じて利用できる人のみが選択する）
	⑦ 大きなゴミ袋を買わないことでゴミの量を意識する	39%	42%	6%	13%	⑦ ゴミの量を意識する
事業者	① 適正な量をつくる、ロスを減らす	97%	3%	0%	0%	① 適正な量をつくる、ロスを減らす
	② 長く使えるモノ、流行に左右されず長く着られる服をつくる	55%	26%	0%	19%	② 長く使えるモノ、流行に左右されず長く着られる服をつくる（このような商品の価格を抑えて消費者が選択できるようにする、リユースを流行させる）
	③ モノをつくる際に出るゴミを減らす	90%	6%	0%	3%	③ モノをつくる際に出るゴミを減らす
	④ 使い捨てを前提としたモノをつくらない	71%	6%	3%	19%	④ 使い捨てを前提としたモノをつくらない
	⑤ 過剰な容器包装をやめる	94%	3%	0%	3%	⑤ 過剰な容器包装をやめる
	⑥ 通常のモノより詰め替えタイプのモノの値段を安くする	94%	3%	0%	3%	⑥ 通常のモノより詰め替えタイプのモノの値段を安くする
	⑦ 広告より品質向上に資金を使う	68%	16%	3%	13%	⑦ 広告より品質向上に資金を使う
	⑧ 社内資料や広告などの紙の使用量を減らす	90%	3%	0%	6%	⑧ 社内資料や広告などの紙の使用量を減らす
	⑨ 従業員がゴミのでる弁当などを買わないようにする（社員食堂をつくるなど）	45%	6%	6%	42%	⑨ 従業員がゴミのでる弁当などを買わないようにする
行　政	① モノの保証期間を長く設定するように規制する	81%	16%	0%	3%	① モノの保証期間を長く設定するように規制する
	② 過剰な容器包装が目立つ事業者に注意を促す	77%	13%	0%	10%	② 過剰な容器包装が目立つ事業者に注意を促す
	③ モノをシェアする考え方について周知、啓発する	90%	6%	0%	3%	③ モノをシェアする考え方について周知、啓発する
	④ ゴミの排出量の削減目標を明確にし、排出量の推移などを示して啓発する（ゴミ袋に記載するなど）	87%	10%	0%	3%	④ ゴミの排出量の削減目標を明確にし、排出量の推移などを示して啓発する（ゴミ袋に記載するなど）
	⑤ ゴミの有料化を他の自治体にも働きかける（都内全域でルールを統一）	74%	13%	3%	10%	⑤ ゴミの有料化を他の自治体にも働きかける（都内全域でルールを統一）
	⑥ 安全な水道水を提供し、ペットボトル飲料の消費量を減らす	71%	19%	0%	10%	⑥ 水道水の利用をアピールし、ペットボトル飲料の消費量を減らす
	⑦ 手続きを電子化し、紙の使用量を減らす	61%	16%	0%	23%	⑦ 手続きを電子化し、紙の使用量を減らす 留意点：高齢者など電子化への対応が難しい人の選択肢を残す必要がある

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

モノについて記載した取り組みの変遷（6/16）

【提言５　地産地消を普及させる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 国内や地元でつくられたモノを選択する	87%	6%	0%	6%	① 国内や地元でつくられたモノを選択する
	② 地元でとれた食材を選択する	87%	3%	3%	6%	② 地元でとれた食材を選択する
	③ 自治会が中心となって食の自給を進める	52%	29%	0%	19%	③ 自治会や地域で食の自給を進める 留意点：衛生面に配慮する必要がある
事業者	① 国内や地元の素材でモノをつくる	77%	13%	0%	10%	① 国内や地元の素材でモノをつくる
	② 地元でとれた食材をつかう、アピールする	90%	10%	0%	0%	② 飲食店やスーパーにおいて、地元でとれた食材をつかう、アピールする

モノについて記載した取り組みの変遷（7/16）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
行　政	① 地元でつくられたモノ、食材、食品を日野市ブランドとしてアピールする	97%	3%	0%	0%	① 地元でつくられたモノ、食材、食品を日野市ブランドとしてアピールする
	② 地元でとれた食材を売る仕組みをつくる	94%	3%	0%	3%	② 地元でとれた食材を売る仕組みをつくる
	③ 市民農園（市民が自家用野菜などを育てる農園）を増やす	84%	13%	0%	3%	③ 市民農園（市民が自家用野菜などを育てる農園）を増やす
	④ 地産地消を取り入れた食育をする	97%	3%	0%	0%	④ 地産地消を取り入れた食育をする
	⑤ 輸入品への課税を強化する	29%	42%	0%	29%	⑤ 輸入品への課税を強化する 留意点：国内でも得られる資源、モノに限定するなど、生活コストに配慮する必要がある

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

モノについて記載した取り組みの変遷（8/16）

【提言６　環境に配慮した販売方法を普及させる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① プラスチックトレーなどにのった食材、食品を買わない	55%	23%	0%	23%	① できるだけ、プラスチックトレーなどにのった食材、食品を買わない（過剰にプラスチックトレーなどを使用している食材、食品を買わない）
	② マイバックを持ち、レジ袋等をもらわない	94%	3%	0%	3%	② マイバックを持ち、レジ袋などをもらわない
	③ マイ箸を持ち、割りばしをもらわない、使わない	65%	19%	0%	16%	③ マイ箸を持ち、割り箸をもらわない、使わない
事業者	① 環境に配慮したモノ（環境認証マークのついているモノなど）を売っていることを分かりやすく示す	100%	0%	0%	0%	① 環境に配慮したモノ（環境認証マークのついているモノなど）を売っていることを分かりやすく示す
	② モノがつくられる際の二酸化炭素排出量などを値札などに表示する	74%	19%	3%	3%	② モノがつくられる際の二酸化炭素排出量などを値札などに表示する
	③ 包装していないバラ売り、量り売りの売り場を増やす（容器の持ち込みもできるように）	87%	3%	0%	10%	③ 包装していないバラ売り、量り売りの売り場を増やす（容器の持ち込みもできるように）
	④ 古くなったモノの価格を下げる（新しいモノの価格を上げる）	68%	16%	0%	16%	④ 古くなったモノの価格を下げる
	⑤ 環境に配慮したモノを買った際にポイントがつくような仕組みをつくる（バーコード決済と紐づけるなど）	87%	13%	0%	0%	⑤ 環境に配慮したモノを買った際にポイントがつくような仕組みをつくる（バーコード決済と紐づけるなど）
	⑥ 販売の際の過剰包装をやめる、贈答品の包装をコンパクトかつ簡素化する	87%	10%	0%	3%	⑥ 販売の際の過剰包装をやめる、贈答品の包装をコンパクトかつ簡素化する
	⑦ 食材、食品のプラスチックトレーを簡易な袋などに替える	84%	13%	0%	3%	⑦ 食材、食品のプラスチックトレーを環境に配慮した素材でできた容器などに替える
	⑧ 使い捨てのスプーンや割りばしをつけるのをやめる	77%	10%	0%	13%	⑧ 使い捨てのスプーンや割り箸をつけるのをやめる

モノについて記載した取り組みの変遷（9/16）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
行　政	① 環境に配慮したモノを買った際にポイントがつくような仕組みづくりを支援する（バーコード決済と紐づけるなど）	84%	13%	0%	3%	① 環境に配慮したモノを買った際にポイントがつくような仕組みづくりを支援する（バーコード決済と紐づけるなど）
						② 環境に配慮した素材でできた容器の使用を促進するのと同時に、従来のプラスチック容器の使用を廃止する期限を設ける

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

※「提言７　モノの生産、無駄な消費を減らす（再掲）」の取り組みは、提言４を参照。

モノについて記載した取り組みの変遷（10/16）

【提言８　食品ロスを減らす】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 食べきれる分だけ買う、買いだめをしない	81%	3%	3%	13%	① 食べきれる分だけ買う、買いだめをしない
	② 賞味期限、消費期限の古い順に買う、おつとめ品を買う	77%	13%	0%	10%	② 賞味期限、消費期限が近い順に買う、おつとめ品（賞味期限、消費期限が近く値引きしているモノなど）を買う
	③ 冷蔵庫の食材、食品を使い切る	84%	3%	0%	13%	③ 冷蔵庫の食材、食品を使い切る
	④ 食品ロスが少ない方法で調理する、調理方法を人に教える	74%	16%	0%	10%	④ 食品ロスが少ない方法（皮までおいしく食べられるレシピなど）で調理する、調理方法を人に教える
	⑤ オーガニックの果物、野菜を選択し、皮まで食べる	58%	19%	0%	23%	⑤ 少し値段が高くてもオーガニックの果物、野菜を選択し、皮も有効活用する
	⑥ 出された料理を残さず食べきる	61%	19%	3%	16%	⑥ 出された料理を残さず食べきる
事業者	① 食品を必要な量だけつくる	87%	6%	3%	3%	① 食品を必要な量だけつくる
	② 規格外の果物、野菜も仕入れる、品質に問題がないことを示して売る	90%	3%	0%	6%	② 規格外の果物、野菜も仕入れる、品質に問題がないことを示して売る
	③ 賞味期限、消費期限の古い食材、食品の販売場所を分かりやすくする、値段を安くする	94%	0%	0%	6%	③ 賞味期限、消費期限が近い食材、食品の販売場所を分かりやすくする、値段を安くする
	④ 賞味期限、消費期限が長い食品をつくる	68%	16%	13%	3%	④ 賞味期限、消費期限が少しでも長い食品をつくる 留意点：食品添加物を使いすぎないように注意する必要がある
	⑤ 果物、野菜のバラ売り、量り売りをする	81%	6%	3%	10%	⑤ 果物、野菜のバラ売り、量り売りをする
	⑥ 食品ロスが少ない方法で調理する	90%	6%	3%	0%	⑥ 食品ロスが少ない方法で調理する、皮までおいしく食べられるレシピなどを考案し、周知、アピールする
	⑦ 飲食店で少なめのメニューも用意する	77%	13%	0%	10%	⑦ 飲食店で少なめのメニューも用意する
	⑧ 飲食店で食べ残しを持ち帰ることができるようにする	77%	16%	0%	6%	⑧ 飲食店で食べ残しを持ち帰ることができるようにする

モノについて記載した取り組みの変遷（11/16）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
事業者	⑨ パーム油（アブラヤシの果実から得られる植物油）等の使用を減らす	65%	26%	0%	10%	⑨ 環境に配慮していないパーム油※などの使用を減らす ※パーム油は、ポテトチップスやパンなどの加工食品、洗剤、せっけん、化粧品など多くのモノに使用されている。インドネシアやマレーシアでは、パーム油の原料となるアブラヤシを栽培するために、熱帯雨林が大規模に切り開かれ、環境に大きな影響を及ぼしている。
	⑩ 子どもが１人で入れる「子ども食堂」を支援する	84%	16%	0%	0%	⑩ 子どもが１人で入れる「子ども食堂」を支援する
行　政	① 学校給食で食品ロスがでない仕組みをつくる	97%	3%	0%	0%	① 学校給食で食品ロスがでない仕組みをつくる
	② 食品ロスが少ない調理方法について周知、啓発する	97%	3%	0%	0%	② 食品ロスが少ない調理方法について周知、啓発する
	③ 飲食店で食べ残しを持ち帰ることができるようにすることを支援する（規制を緩くするなど）	81%	16%	0%	3%	③ 飲食店で食べ残しを持ち帰ることができるようにすることを支援する（規制を緩くするなど）
	④ フードバンク（安全に食べられるのに売ることができない訳あり食品を企業などから寄贈していただき、困窮世帯などに提供する仕組み）をつくる、普及させるためのイベントを行う	84%	10%	3%	3%	④ フードバンク（安全に食べられるのに売ることができない訳あり食品を企業などから寄贈していただき、困窮世帯などに提供する仕組み）をつくる、普及させるためのイベントを行う

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

※事業者④は、「提言書（案）」の段階では、「賞味期限、消費期限が長い食品をつくる」となっていたが、参加者からの意見を踏まえて修正した。

モノについて記載した取り組みの変遷（12/16）

【提言９　リユース、リサイクルを進める】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① モノを買う際に、リユース、リサイクルできるモノを選択する	81%	6%	3%	10%	① モノを買う際に、リユース、リサイクルできるモノを選択する
	② モノを捨てる前に、他の使い道がないかを考える	84%	6%	0%	10%	② モノを捨てる前に、他の使い道がないかを考える
	③ リユースショップ、フリーマーケット、フリマアプリを利用する（必要なものを買い、不要になったものを売る）	81%	10%	0%	10%	③ リユースショップ、フリーマーケット、フリマアプリを利用する（必要なものを買い、不要になったものを売る）
	④ ゴミの分別方法や分別したモノが何にリサイクルされるかを学び、分別を徹底する	94%	3%	3%	0%	④ ゴミの分別方法や分別したモノが何にリサイクルされるかを学び、分別を徹底する
	⑤ 生ゴミをたい肥化して利用する	74%	13%	0%	13%	⑤ 生ゴミをたい肥化して利用する
事業者	① リサイクル資源を使ってモノや容器包装をつくる	94%	0%	6%	0%	① リサイクル資源を使ってモノや容器包装をつくる
	② 分別しやすくリサイクルしやすいモノや容器包装をつくる（ラベルを剥がしやすくするなど）	90%	3%	6%	0%	② 分別しやすくリサイクルしやすいモノや容器包装をつくる（ラベルを剥がしやすくするなど）
	③ 回収して再度使うことができる容器包装をつくる	84%	10%	3%	3%	③ 回収して再度使うことができる容器包装をつくる
	④ リサイクル等にかかる費用を事業者が負担し、価格に転嫁する（消費者にも負担してもらう）	58%	19%	3%	19%	④ リサイクルなどにかかる費用を表示する
	⑤ 古着の店やリユースショップを増やす（学生服なども取り扱う）	74%	10%	6%	10%	⑤ 古着の店やリユースショップを増やす（学生服なども取り扱う）

モノについて記載した取り組みの変遷（13/16）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
事業者	⑥ 引っ越し業者とリユースショップが連携し、リユースするものを増やす	71%	19%	0%	10%	⑥ 引っ越し業者とリユースショップが連携し、リユースするものを増やす
	⑦ フリマアプリを高齢者でも使いやすいようにする	77%	16%	0%	6%	⑦ フリマアプリを高齢者でも使いやすいようにする
	⑧ コンビニの店頭にあるゴミ箱の分別を細かく分ける	61%	19%	0%	19%	⑧ コンビニの店頭にあるゴミ箱の分別を細かく分ける
	⑨ プラスチックでできているモノや容器包装などを販売している店で回収する、回収できる店を増やす（「容器包装　お返し大作戦！」に協力する）	84%	13%	3%	0%	⑨ プラスチックでできているモノや容器包装などを販売している店で回収する、回収できる店を増やす（「容器包装　お返し大作戦！」に協力する）
	⑩ 家電のリサイクルの仕組みをつくる	84%	10%	6%	0%	（削除）
行　政	① 行政施設でもゴミの分別を徹底する	90%	10%	0%	0%	① 行政施設でもゴミの分別を徹底する
	② ゴミの分別方法を分かりやすくする	90%	6%	3%	0%	② ゴミの分別方法を分かりやすくする
	③ ゴミの分別をより細かくする（都内全域で分別ルールを統一し、リサイクル業者が扱いやすくなるようにする）	87%	3%	3%	6%	③ ゴミの分別をより細かくする（都内全域で分別ルールを統一し、リサイクル業者が扱いやすくなるようにする）
	④ ゴミの分別方法について周知、啓発する	94%	3%	3%	0%	④ ゴミの分別方法について周知、啓発する
	⑤ ゴミの分別が徹底できている家庭に特典をあたえる	58%	23%	0%	19%	⑤ ゴミの分別が徹底できている地域に特典をあたえる 留意点：不公平にならない基準を検討する必要がある
	⑥ ゴミの処理やリサイクルの状況、効果を分かりやすく示す	97%	0%	3%	0%	⑥ ゴミの処理やリサイクルの状況、効果を分かりやすく示す
	⑦ 学校等で先輩から後輩へのお下がりの仕組みをつくる	77%	16%	0%	6%	⑦ 学校などで先輩から後輩へのお下がりの仕組みをつくる
	⑧ 行政施設や公園などに不用品の交換の場などをつくる	81%	13%	0%	6%	⑧ 行政施設や公園などに不用品の交換の場などをつくる
						⑨ 家電4品目のリサイクルの仕組みを参考に、他のモノのリサイクルの仕組みをつくる
	⑨ 容器包装などを事業者が回収することを義務化する	81%	13%	3%	3%	⑩ 容器包装などを事業者が回収することを義務化する
	⑩ 国レベルでプラスチックのリサイクルを進める	90%	3%	3%	3%	⑪ 国レベルでプラスチックのリサイクルを進める
	⑪ ゴミの処理やリサイクルを行う施設の予算を増やす	71%	13%	6%	10%	⑫ ゴミの処理やリサイクルを行う施設の予算を増やす
	⑫ 生ゴミのたい肥化に助成する	68%	16%	0%	16%	⑬ 生ゴミのたい肥化に助成する
	⑬ 生ゴミをたい肥化して利用する市民農園（市民が自家用野菜などを育てる農園）をつくる	81%	16%	0%	3%	⑭ 生ゴミをたい肥化して利用する市民農園（市民が自家用野菜などを育てる農園）をつくる
	⑭ 剪定枝と同じように、細い枝や草・葉も無料で回収し、たい肥等にリサイクルする	77%	16%	0%	6%	⑮ 剪定枝、細い枝、草・葉を回収し、たい肥などにリサイクルする

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

モノについて記載した取り組みの変遷（14/16）

【提言 10　街なかのごみを減らす（海洋プラスチックを減らす）】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① ゴミのポイ捨てをしない	97%	3%	0%	0%	① ゴミのポイ捨てをしない
事業者						① 自動販売機の横に、必ずペットボトルなどの回収ボックスを設置する
						② プラスチック片が流れ出す人工芝を使わないようにする

モノについて記載した取り組みの変遷（15/16）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
行　政	① ゴミのポイ捨てを禁止する条例をつくる	87%	6%	0%	6%	① ゴミのポイ捨てを禁止する条例をつくる
	② ゴミの収集場所で鳥獣対策を行いゴミが散乱しないようにする	87%	10%	3%	0%	② ゴミの収集場所で鳥獣対策を行いゴミが散乱しないようにする（ゴミの出し方のルールを決めて徹底させるなど）
	③ ゴミの収集日を増やしゴミが散乱しないようにする	42%	16%	42%	0%	（削除）

凡例　ハッチがかかった取り組み
「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）
「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの
「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの
上記２つが同じ割合のもの

モノについて記載した取り組みの変遷（16/16）

【提言 11　ゴミの収集、処理の過程で環境に配慮する】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① ゴミを小さくまとめて出す（ゴミ袋や回収車両の稼働台数を減らす）	94%	6%	0%	0%	① ゴミを小さくまとめて出す（ゴミ袋や回収車両の稼働台数を減らす）
行　政	① ディスポーザーの整備を検討する（生ゴミを焼却しなくて済むようになる代わりに下水処理の負荷が増えることについて、総合的に見て環境への影響を検討する）	58%	32%	3%	6%	（削除）

凡例　ハッチがかかった取り組み
「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）
「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの
「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの
上記２つが同じ割合のもの

モビリティについて記載した取り組みの変遷（1/16）

【提言 12　自動車の台数を減らす、走行距離を減らす】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① できるだけ自家用車を持たない、乗らない 留意点①：公共交通機関等を充実させる必要がある 留意点②：自家用車でしか移動できない人へ配慮する必要がある	55%	13%	0%	32%	① 自家用車の使い方を工夫する（できるだけ持たない、乗らないなど） 留意点①：公共交通機関などを充実させる必要がある 留意点②：自家用車でしか移動できない人へ配慮する必要がある
	② カーシェアリングを活用する	74%	13%	0%	13%	② カーシェアリング（会員登録することで、無人のカーステーションにある車をいつでも必要なときに必要な時間だけ利用できるシステム）を活用する
	③ 用事を一度に済ませ、自家用車に乗る回数、走行距離を減らす	65%	19%	0%	16%	③ 用事を一度に済ませ、自家用車に乗る回数、走行距離を減らす

モビリティについて記載した取り組みの変遷（2/16）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	④ 買い物や送迎の際は、近所の人といっしょに1台の自家用車で移動する 留意点：近隣住民と助け合いできる関係性をつくる必要がある	39%	35%	0%	26%	④ 買い物や送迎の際は、近所の人と一緒に1台の自家用車で移動する 留意点：近隣住民と助け合いできる関係性をつくる必要がある
	⑤ 自動車通勤をしない	39%	16%	0%	45%	（削除）
事業者	① 自動車の製造を減らす代わりにそのほかの事業を開拓する	52%	32%	3%	13%	① 自動車の製造を（現状の利益と変わらない程度に）減らす代わりにそのほかの事業を開拓する
	② カーシェアリングを普及させる（ステーションを増やす、アプリ等で使いやすくする）	84%	10%	0%	6%	② カーシェアリングを普及させる（ステーションを増やす、アプリなどで使いやすくする）
	③ 駅やバス停の近くに駐車場を整備して、自家用車と公共交通機関を組み合わせた移動（パーク＆ライド）を促す（自家用車での移動を最寄りの駅又はバス停までの最小限にする）	71%	23%	6%	0%	③ 駅やバス停の近くに駐車場を整備して、自家用車と公共交通機関を組み合わせた移動（パーク＆ライド）を促す（自家用車での移動を最寄りの駅又はバス停までの最小限にする）
	④ 従業員の通勤や出張の際に、自家用車や社用車ではなく公共交通機関を利用させる	68%	23%	0%	10%	④ 従業員の通勤や出張の際に、自家用車や社用車ではなく公共交通機関を利用させる
	⑤ 役員等が運転手付きの社有車を利用しないようにする	58%	32%	3%	6%	（削除）
	⑥ 住宅を売る際に駐車場を完備していることをアピールポイントにしない	39%	45%	0%	16%	（削除）
行　政	① 自家用車の保有台数を制限する（一家に一台までなど）	39%	26%	0%	35%	（削除）
	② 運転免許証を返納した人に特典をあたえる（公共交通機関の無料乗車券など）	77%	13%	0%	10%	① 運転免許証を返納した人に特典をあたえる（公共交通機関の無料乗車券など）
	③ カーシェアリングの普及を支援する	87%	10%	0%	3%	② カーシェアリングの普及を支援する
	④ 自家用車の乗り合いのルールをつくる、ポスター等で周知、啓発する	65%	23%	3%	10%	③ 自家用車の乗り合いのルールをつくる、ポスターなどで周知、啓発する
	⑤ 駅周辺などを自家用車乗り入れ禁止にする（時間帯を指定するなど）	55%	19%	0%	26%	④ 時間帯を指定して、駅周辺などを自家用車乗り入れ禁止にする 留意点：乗り入れ禁止にする時間帯は、生活に支障が出ないように検討する必要がある
	⑥ ノーマイカーデーの制度をつくる	61%	19%	0%	19%	⑤ ノーマイカーデーの制度をつくる
	⑦ 知事等が運転手付きの公有車を利用しないようにする	58%	29%	3%	10%	（削除）
	⑧ 東京都駐車場条例にある「駐車施設の附置義務」を見直す	65%	29%	3%	3%	⑥ 東京都駐車場条例にある「駐車施設の附置義務」を見直す

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

モビリティについて記載した取り組みの変遷（3/16）

【提言 13　環境に配慮した自動車を普及させる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 環境に配慮した自家用車（電気自動車等）に買い換える 留意点①：バッテリー交換などのメンテナンス費用を安くする必要がある 留意点②：電気自動車の充電スポット等を増やす必要がある	71%	13%	0%	16%	① 環境に配慮した自家用車（電気自動車など）に買い替える 留意点①：バッテリー交換などのメンテナンス費用を安くする必要がある 留意点②：電気自動車の充電スポットなどを増やす必要がある 留意点③：購入費用が高いうちは、購入を助成する必要がある

モビリティについて記載した取り組みの変遷（4/16）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	② 自家用車を購入する際は、家族の人数に合った大きさのものを選択する	65%	16%	0%	19%	② 自家用車を購入する際は、家族のライフスタイルに合った適切な大きさのものを選択する
事業者	① 環境に配慮した自動車（電気自動車等）の販売比率を増やす	90%	6%	0%	3%	① 環境に配慮した自動車（電気自動車など）の販売比率を増やす
	② 環境に配慮した自動車（電気自動車等）をもっと魅力的なものにする（良いデザイン、多彩な車種、高性能、低価格など）	84%	13%	3%	0%	② 環境に配慮した自動車（電気自動車など）をもっと魅力的なものにする（良いデザイン、多彩な車種、高性能なバッテリーの搭載、低価格など）
	③ 環境に配慮した自動車（電気自動車等）に買い換える際に割引する	90%	0%	3%	6%	③ 環境に配慮した自動車（電気自動車など）に買い替える際に割引する
	④ 環境に配慮した自動車（電気自動車等）について、既存のガソリン車、ディーゼル車とのスペックの違いを分かりやすく示す	97%	3%	0%	0%	④ 環境に配慮した自動車（電気自動車など）について、既存のガソリン車、ディーゼル車とのスペックの違いを分かりやすく示す
	⑤ 電気自動車の充電スポットを増やす（マンション、ショッピングモール、ガソリンスタンドなど）	90%	0%	6%	3%	⑤ 電気自動車の充電スポットを増やす（マンション、ショッピングモール、ガソリンスタンドなど）
	⑥ ワイヤレスで道路から電気自動車に充電できるシステムを開発する	74%	16%	3%	6%	⑥ ワイヤレスで道路から電気自動車に充電できるシステムを開発する
	⑦ 燃料電池自動車の水素充填スポットを増やす	84%	10%	3%	3%	⑦ 燃料電池自動車の水素充填スポットを増やす
	⑧ 電気自動車の充電スポットの利用料を安く（無料に）する	77%	16%	0%	6%	⑧ 電気自動車の充電スポットの利用料を安く（無料に）する
	⑨ 新しいタイプの車両（自動運転車、超小型車、グリーンスローモビリティなど）を開発する	81%	16%	3%	0%	⑨ 新しいタイプの車両（自動運転車、超小型車、グリーンスローモビリティなど）を開発する
	⑩ 既存のガソリン車、ディーゼル車に入れることができる脱炭素燃料を開発する	81%	13%	3%	3%	⑩ 既存のガソリン車、ディーゼル車に入れることができる脱炭素燃料を開発する
行　政	① 環境に配慮した自動車（電気自動車等）の販売比率を定めて義務化する	81%	6%	0%	13%	① 環境に配慮した自動車（電気自動車など）の販売比率を定めて義務化する（義務化する年を明確に設定する）
	② 環境に配慮した自動車（電気自動車等）の購入に助成する 留意点：不公平にならないように助成の基準を明確にする必要がある	90%	6%	0%	3%	② 環境に配慮した自動車（電気自動車など）の購入を助成する 留意点：不公平にならないように助成の基準を明確にする必要がある
	③ 公有車を環境に配慮した自動車（電気自動車等）に買い換える	94%	3%	0%	3%	③ 公有車を環境に配慮した自動車（電気自動車など）に買い替える
	④ 電気自動車の充電スポットを増やすことを支援する	90%	6%	3%	0%	④ 電気自動車の充電スポットを増やすことを支援する（マンションへの設置費用を行政が負担する）
	⑤ ワイヤレスで道路から電気自動車に充電できるシステムの開発のために実証実験の場を提供する	74%	23%	3%	0%	⑤ ワイヤレスで道路から電気自動車に充電できるシステムの開発のために実証実験の場を提供する
	⑥ 新しいタイプの車両の普及を見据えて道路運送車両法を改正する	84%	13%	0%	3%	⑥ 新しいタイプの車両の普及を見据えて道路運送車両法を改正する
	⑦ 自動車の不正改造の取り締まりを強化する	77%	19%	0%	3%	⑦ 自動車の不正改造の取り締まりを強化する

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

モビリティについて記載した取り組みの変遷（5/16）

【提言 14　環境に配慮した運転を普及させる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 自動車に不要な荷物を載せたままにしない（自動車を軽くして燃費をよくする）	68%	19%	0%	13%	① 自動車に不要な荷物（ゴルフバックなどの重量物）を載せたままにしない（自動車を軽くして燃費をよくする）
	② アイドリングを減らす、加速、減速の少ない運転を心がける	94%	6%	0%	0%	② アイドリングを減らす、加速、減速の少ない運転を心がける
	③ すいている道、時間帯を選んで移動する	77%	6%	0%	16%	③ すいている道、時間帯を選んで移動する

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

モビリティについて記載した取り組みの変遷（6/16）

【提言 15 環境に配慮した公共交通機関を使いやすくする（自家用車や飛行機に依存しない社会）】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① できるだけ公共交通機関を利用する（自家用車に乗らない）	81%	0%	0%	19%	① できるだけ公共交通機関を利用する（自家用車に乗らない）
	② すいている時間帯に公共交通機関を利用する（ピーク時の運行本数を減らす）	55%	19%	0%	26%	（削除）
	③ 長距離移動の際は、飛行機を使わずに鉄道や船舶を使う	29%	19%	3%	48%	（削除）
事業者	① 公共交通機関を使いやすくする（運行本数を増やす、ルートを見直す、ベビーカーも乗せやすい構造にするなど）	97%	0%	3%	0%	① 公共交通機関を使いやすくする（運行本数を増やす、ルートを見直す、ベビーカーも乗せやすい構造にするなど）
	② 利用状況を踏まえながらバスの運行本数や走行距離を減らす（ルートを変更する）	58%	16%	6%	19%	② 利用状況を踏まえながらバスの運行本数や走行距離を見直す 留意点：生活に支障が出ないように本数や走行距離を検討する必要がある
	③ 公共交通機関の利用料を安く（無料に）する、定額制にする	77%	16%	0%	6%	③ 公共交通機関の利用料を安く（無料に）する、定額制にする
	④ 利用者を分散させて混雑を解消する（同じ運行本数で多くの人を運ぶ）	71%	19%	0%	10%	④ 事業所において勤務時間のフレックス制を導入し、公共交通機関の利用者を分散させて混雑を解消する（同じ運行本数で多くの人を運ぶ）
	⑤ 公共交通機関の冷暖房の設定温度を控えめにする	77%	13%	0%	10%	⑤ 公共交通機関の冷暖房の設定温度を控えめにする 留意点：利用者の体調に悪影響を及ぼさない温度にする必要がある
	⑥ バスを小型化して燃費をよくする	61%	26%	0%	13%	⑥ バスを小型化して燃費をよくする
	⑦ バスの屋根に太陽光発電システムを設置する	81%	16%	0%	3%	⑦ バスの屋根に太陽光発電システムを設置する
	⑧ 移動に適した手段、組み合わせを教えてくれるアプリをつくる	94%	6%	0%	0%	⑧ 移動に適した手段、組み合わせを教えてくれるアプリをつくる
行　政	① 公共交通機関を使いやすくする（ミニバスの運行本数を増やす、ルートを見直すなど）	94%	3%	0%	3%	① 公共交通機関を使いやすくする（ミニバスの運行本数を増やす、ルートを見直すなど）
	② バス専用レーン、バス優先レーンを整備して遅延しないようにする	71%	23%	0%	6%	② バス専用レーン、バス優先レーンを整備して遅延しないようにする
	③ 次世代型路面電車システム（LRT）を整備する	65%	23%	6%	6%	③ 次世代型路面電車システム（LRT）を整備する
	④ 公共交通機関の利用料を安く（無料に）する、定額制にするための制度をつくる	71%	23%	0%	6%	④ 公共交通機関の利用料を安く（無料に）する、定額制にするための制度をつくる
	⑤ 公共交通機関を利用する人が得になる仕組みをつくる	77%	16%	0%	6%	⑤ 公共交通機関を利用する人が得になる仕組みをつくる

モビリティについて記載した取り組みの変遷（7/16）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
行　政	⑥ シルバーパスを使いやすくする（乗ることができる交通機関を増やす、交通系ICカードに組み込むなど）	81%	10%	0%	10%	⑥ シルバーパスを使いやすくする（乗ることができる交通機関を増やす、交通系ICカードに組み込むなど）
	⑦ 公共交通機関を利用した生活モデルについて周知、啓発する（チラシを配るなど）	84%	10%	3%	3%	⑦ 公共交通機関を利用した生活モデルについて周知、啓発する（チラシを配るなど）
	⑧ 公共交通機関の車両をリサイクルする	58%	35%	3%	3%	⑧ 公共交通機関の車両をリサイクルする（他の地域への譲渡など）

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

モビリティについて記載した取り組みの変遷（8/16）

【提言 16　新しいタイプの相乗り型交通機関を普及させる（高齢者も移動しやすい社会）】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① タクシーを利用する際、同じ方向に向かう人と相乗りする	55%	26%	0%	19%	① タクシーを利用する際、同じ方向に向かう人と相乗りする（相乗りサービスを利用する）
事業者	① 予約制の相乗りバス（デマンドバス）を普及させる	81%	13%	0%	6%	① 予約制の相乗りバス（デマンドバス）を普及させる
	② 一般のドライバーが自家用車を使って乗客を運ぶ仕組み（共助型ライドシェアシステムなど）を普及させる	61%	29%	3%	6%	② 一般のドライバーが自家用車を使って乗客を運ぶ仕組み（共助型ライドシェアシステムなど）を普及させる
	③ 宅配の配送車などを利用し、目的地が同じ乗客を運ぶ仕組みをつくる	58%	29%	0%	13%	（削除）
行　政	① 予約制の相乗りバス（デマンドバス）の普及を支援する	84%	13%	0%	3%	① 予約制の相乗りバス（デマンドバス）の普及を支援する
	② 介護施設、病院等の送迎車などを利用し、目的地が同じ乗客を運ぶ仕組みをつくる	74%	16%	0%	10%	② 介護施設、病院などの送迎車などを利用し、目的地が同じ乗客を運ぶ仕組みをつくる

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

モビリティについて記載した取り組みの変遷（9/16）

【提言 17　自動車の流れをスムーズにする】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
行　政	① 渋滞が激しい道路を拡幅する、バイパスを整備する	81%	10%	10%	0%	① 渋滞が激しい道路を拡幅する、バイパスを整備する
	② 渋滞が起こりにくくなるように信号機の制御を最適化する（青信号が続くようにするなど）	74%	23%	3%	0%	② 渋滞が起こりにくくなるように信号機の制御を最適化する（青信号が続くようにするなど）
	③ 渋滞を招く路上駐車の取り締まりを強化する	90%	6%	0%	3%	③ 渋滞を招く路上駐車の取り締まりを強化する

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

モビリティについて記載した取り組みの変遷（10/16）

【提言 18　遠くに出かけなくても生活できる魅力的な街をつくる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 近隣住民と助け合いできる関係性をつくる	84%	10%	0%	6%	① 近隣住民と助け合いできる関係性をつくる
	② 高齢者や子育て世代は周辺にお店などがある便利な場所に住む	45%	19%	0%	35%	（行政②に統合）
事業者	① 食材や食品、日用品などの移動販売を普及させる	71%	16%	13%	0%	① 食材や食品、日用品などの移動販売を普及させる
	② 食材や食品、日用品などを近場でも安く買えるようにする（コンビニで販売、大型スーパーをつくるなど）	65%	26%	3%	6%	② 食材や食品、日用品などを近場でも安く買えるようにする（コンビニで販売、大型スーパーをつくるなど）
	③ 集客力のある街づくりをする（道の駅をつくるなど）	68%	19%	10%	3%	③ 集客力のある街づくりをする（道の駅をつくるなど）
	④ 不動産開発の際は周辺の交通機関の整備も含めて行う	81%	16%	3%	0%	④ 不動産開発の際は周辺の交通機関の整備も含めて行う
行　政	① 土日に過ごすことができる商業施設や公園をつくる	74%	16%	6%	3%	① 土日に過ごすことができる商業施設や公園をつくる
	② 自動車に依存せず生活コストが低いコンパクトな街をつくる	77%	13%	0%	10%	② 高齢者や子育て世代で、周辺にお店などがある便利な場所に移りたい人を支援しながら、自動車に依存せず生活コストが低いコンパクトな街をつくる
	③ 保育施設、介護施設などを増やす	68%	19%	6%	6%	③ 保育施設、介護施設などを増やす

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

モビリティについて記載した取り組みの変遷（11/16）

【提言 19　地域ごとの特性を踏まえながら、だれもが移動しやすい街をつくる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 自治会などを通じ、地域ごとの交通手段に関する要望を行政に伝える	87%	6%	0%	6%	① 自治会などを通じ、地域ごとの交通手段に関する要望を行政に伝える
事業者	① 地域ごとの特性を踏まえながら、高齢者も使いやすい交通手段を増やす	84%	10%	3%	3%	① 地域ごとの特性を踏まえながら、高齢者も使いやすい交通手段を増やす
行　政	① 地域ごとの交通手段に関する相談を受ける場を設ける	87%	6%	0%	6%	① 地域ごとの交通手段に関する相談を受ける場を設ける

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

モビリティについて記載した取り組みの変遷（12/16）

【提言 20　徒歩、自転車での移動を増やす（自家用車に依存しない社会）】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① できるだけ、徒歩、自転車で移動する（健康を意識する、自家用車に乗らない） 留意点：安全に移動できる歩道、自転車専用レーンを整備する必要がある	94%	3%	0%	3%	① できるだけ、徒歩、自転車で移動する（健康を意識する、自家用車に乗らない） 留意点：安全に移動できる歩道、自転車専用レーンを整備する必要がある
	② シェアサイクルを活用する	94%	3%	0%	3%	② シェアサイクルを活用する
	③ 電動自転車を活用する	84%	13%	0%	3%	③ 電動自転車を活用する
事業者	① シェアサイクルのポートを増やす（集合住宅、駅前など）	90%	6%	3%	0%	① シェアサイクルのポートを増やす（集合住宅、駅前など）
	② 誰でもシェアサイクルを使えるように車種を増やす（三輪タイプなど）	81%	13%	3%	3%	② 誰でもシェアサイクルを使えるように車種を増やす（三輪タイプなど）
	③ 交通事業者などが駅やバス停の近くに駐輪場を整備する（建物の空きスペースや地下の活用など）	90%	6%	0%	3%	③ 交通事業者などが駅やバス停の近くに駐輪場を整備する（建物の空きスペースや地下の活用など）
	④ 電車内へ自転車を持ち込むことができるようにする	65%	23%	0%	13%	④ 電車内へ自転車を持ち込むことができるようにする 留意点：シェアサイクルのポートを増やすことで同様の効果が得られる場合にはこの取り組みは不要となる
	⑤ 歩いた距離や歩数に応じて特典がたまるアプリなどを事業者がつくる	68%	26%	0%	6%	⑤ 歩いた距離や歩数に応じて特典がもらえるアプリなどを事業者がつくる
	⑥ 足が悪い人でも快適に歩ける靴をつくる	52%	42%	0%	6%	⑥ 足が悪い人でも快適に歩ける技術や環境をつくる
行　政	① 自転車の購入に助成する（自家用車を持たない人限定など）	74%	6%	0%	19%	① 自転車の購入を助成する（自家用車を持たない人限定など）
	② シェアサイクルのポートを増やすのを支援する（集合住宅、駅前など）	87%	10%	3%	0%	② シェアサイクルのポートを増やすのを支援する（集合住宅、駅前など）
	③ 自転車専用レーンをつくる、歩道を広くして段差をなくす（無電柱化など）	94%	0%	6%	0%	③ 自転車専用レーンをつくる、歩道を広くして段差をなくす（無電柱化など）
	④ 自転車専用レーンのマップをつくる	84%	10%	0%	6%	④ 自転車専用レーンのマップをつくる
	⑤ 行政が駅やバス停の近くに駐輪場を整備する（建物の空きスペースや地下の活用など）	94%	0%	3%	3%	⑤ 行政が駅やバス停の近くに駐輪場を整備する（建物の空きスペースや地下の活用など）

モビリティについて記載した取り組みの変遷（13/16）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
行　政	⑥ 自転車のルール違反や盗難の取り締まりを強化する	84%	13%	0%	3%	⑥ 自転車のルール違反や盗難の取り締まりを強化する
	⑦ 歩いた距離や歩数に応じて特典がたまるアプリなどを行政がつくる	71%	26%	0%	3%	⑦ 歩いた距離や歩数に応じて特典がもらえるアプリなどを行政がつくる
	⑧ みどりが多く歩きたくなる街並みをつくる	97%	0%	0%	3%	⑧ みどりが多く歩きたくなる街並みをつくる
	⑨ 各地に動く歩道を整備する	35%	23%	35%	6%	（削除）

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

モビリティについて記載した取り組みの変遷（14/16）

【提言 21　モノを運ぶ距離や量を減らす】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① できるだけネットショップではなく近所の実店舗で買い物をする	48%	29%	0%	23%	（削除）
	② ネットショップで買い物をする際はまとめ買いをして配送車の稼働台数を減らす	84%	3%	0%	13%	① ネットショップで買い物をする際はまとめ買いをして配送車の稼働台数を減らす
	③ 時間指定や置き配（宅配ボックスなど）、宅配ロッカーを活用し、再配達にならないようにする	87%	10%	0%	3%	② 時間指定や置き配（宅配ボックスなど）、宅配ロッカーを活用し、再配達にならないようにする
事業者	① 使いやすくて安い宅配ボックスをつくる、普及させる	87%	6%	3%	3%	① 使いやすくて安い宅配ボックスをつくる、普及させる
	② 宅配ロッカーを増やす、コンビニや郵便局でも受け取れるようにする	87%	6%	0%	6%	② 宅配ロッカーを増やす、コンビニや郵便局でも受け取れるようにする
	③ 宅配の時間指定を細かくして、再配達を防止する	61%	23%	10%	6%	③ 宅配の時間指定を細かくして、再配達を防止する
	④ 宅配の時間を指定するのではなく、不在時間を指定させるようにして、柔軟に効率的なルートで配送できるようにする	61%	32%	0%	6%	④ 宅配の時間を指定するのではなく、不在時間を指定させるようにして、柔軟に効率的なルートで配送できるようにする（時間が指定されていると配送ルートの選択肢が少なくなるが、不在時間が指定されているだけであれば配送ルートの選択肢が増え、効率的なルートで配送できる）
	⑤ 置き配を基本にする、置き配の場合に割引する	71%	19%	0%	10%	⑤ 置き配を基本にする、置き配の場合に割引する
	⑥ 宅配の再配達を有料化する	48%	29%	3%	19%	⑥ 宅配の再配達が環境や運転手に負荷をかけていることを周知して再配達を減らす、それでも減らなければ再配達の有料化を検討する（再々配達以降を有料にするなど）
	⑦ 受け取り方法（場所、時間指定など）を分かりやすく示し、変更しやすくする（アプリの活用など）	77%	16%	6%	0%	⑦ 受け取り方法（場所、時間指定など）を分かりやすく示し、変更しやすくする（アプリの活用など）
	⑧ 宛先が同じ荷物をひとつにまとめて配送する（まとめ買いに対して割引する）、再配達の荷物をひとつにまとめて配送する（事業者間で連携して配送車の稼働台数を減らす）	74%	19%	0%	6%	⑧ 宛先が同じ荷物をひとつにまとめて配送する（まとめ買いに対して割引する）、再配達の荷物をひとつにまとめて配送する（事業者間で連携して配送車の稼働台数を減らす）

モビリティについて記載した取り組みの変遷（15/16）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
事業者	⑨ 再配達が多い人に対して、個別に宅配ボックスなどの案内をする	71%	19%	3%	6%	⑨ 再配達が多い人に対して、個別に宅配ボックスなどの案内をする
	⑩ 製品を小型軽量化する、容器包装を小さくする（配送車の稼働台数を減らす、宅配ボックスに入りやすくする）	77%	16%	0%	6%	⑩ 製品を小型軽量化する、容器包装を小さくする（配送車の稼働台数を減らす、宅配ボックスに入りやすくする）
行　政	① 宅配ボックスの設置を義務化する	58%	29%	0%	13%	① 宅配ボックスの設置を推奨する、設置に助成する
	② 宅配ロッカーの場所などを周知する（広報誌など）	84%	13%	0%	3%	② 宅配ロッカーの場所などを周知する（広報誌など）

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

- **「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの**
- **「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの**
- **上記２つが同じ割合のもの**

※「提言 22　地産地消を普及させる（再掲）」の取り組みは、提言５を参照。

モビリティについて記載した取り組みの変遷（16/16）

【提言 23　環境に配慮した方法でモノを運ぶ】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 環境に配慮した配送業者を選択する	81%	16%	0%	3%	① 環境に配慮した配送業者を選択する
事業者	① 配送車のアイドリングを減らす、加速、減速の少ない運転を心がける	94%	6%	0%	0%	① 配送車のアイドリングを減らす、加速、減速の少ない運転を心がける
	② 長距離配送の際は、飛行機やトラックを使わずに鉄道や船舶を使う、配送が遅くなる分、消費者に対して特典をあたえる（値引きなど）	71%	16%	3%	10%	② 長距離配送の際は、飛行機やトラックを使わずに鉄道や船舶を使う、配送が遅くなる分、消費者に対して特典をあたえる（値引きなど）
	③ 電車に配送の荷物を載せるスペース（車両）を設ける	77%	13%	3%	6%	③ 電車に配送の荷物を載せるスペース（車両）を設ける
	④ ダブル連結トラックなどを活用し、一度に運ぶ量を増やす（労働時間の削減にもつながる）	71%	23%	0%	6%	④ ダブル連結トラックなどを活用し、一度に運ぶ量を増やす（労働時間の削減にもつながる）
	⑤ 環境に配慮したトラック（電気トラック等）に切り替える	87%	13%	0%	0%	⑤ 環境に配慮したトラック（電気トラックなど）に切り替える
	⑥ ドローンなどによる配送を普及させる	65%	32%	3%	0%	⑥ ドローンなどによる配送を普及させる
	⑦ 配送業者が環境情報（二酸化炭素排出量）などを分かりやすく示す（通販サイトにも示す）	81%	16%	3%	0%	⑦ 配送業者が環境情報（二酸化炭素排出量）などを分かりやすく示す（通販サイトにも示す）
	⑧ 簡易な包装にする、包装資材を回収してリサイクルに回す	94%	3%	0%	3%	⑧ 簡易な包装にする、包装資材を回収してリサイクルに回す
行　政	① タイヤの不法投棄などの取り締まりを強化する	81%	19%	0%	0%	① タイヤの不法投棄などの取り締まりを強化する
	② 配送業者（零細企業）に助成する	65%	29%	0%	6%	② 配送業者（零細企業）に助成する

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

- **「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの**
- **「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの**
- **上記２つが同じ割合のもの**

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（1/18）

【提言 24　断熱性の高い省エネ住宅を普及させる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 断熱性の高い省エネ住宅（パッシブデザイン等の採用）に住む	74%	3%	0%	23%	① 自宅の建て替えや転居の際には、断熱性の高い省エネ住宅（パッシブデザインなどの採用）を選択するように努力する
	② 自宅の省エネ改修（壁や窓、ドアの断熱強化など）をする	77%	6%	0%	16%	② 自宅をリフォームする際には、同時に省エネ改修（壁や窓、ドアの断熱強化など）も行うように努力する
事業者	① 家を建てる際に断熱性の高い省エネ住宅を提案する	94%	3%	0%	3%	① 家を建てる際に断熱性の高い省エネ住宅を提案する
	② リフォームする際などに断熱改修を提案する	94%	3%	0%	3%	② リフォームする際などに断熱改修を提案する
	③ 省エネ住宅を建てることや断熱改修をすることの効果をアピールする	100%	0%	0%	0%	③ 省エネ住宅を建てることや断熱改修をすることの効果をアピールする
	④ 住宅の断熱性能を調べることができる機械やアプリなどを開発する	90%	6%	0%	3%	④ 住宅の断熱性能を調べることができる機械やアプリなどを開発する
行　政	① 省エネ住宅を建てることや断熱改修をすることに助成する	100%	0%	0%	0%	① 省エネ住宅を建てることや断熱改修をすることに助成する
	② 省エネ住宅を建てる優良事業者や断熱改修をする優良事業者を登録して紹介する	90%	6%	0%	3%	② 省エネ住宅を建てる優良事業者や断熱改修をする優良事業者を登録して紹介する
	③ 省エネ基準を満たしていない既存住宅の断熱改修を義務化する	52%	10%	0%	39%	（削除）
	④ 省エネ基準を満たしていない集合住宅のオーナーへ課税する	65%	10%	0%	26%	③ 省エネ基準を満たしていない集合住宅のオーナーに助成制度を案内する
	⑤ 戸建住宅、集合住宅のそれぞれにあった対策を検討する	90%	10%	0%	0%	④ 戸建住宅、集合住宅のそれぞれにあった対策を検討する

凡例　ハッチがかかった取り組み
「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）
「逆に CO_2排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの
「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの
上記２つが同じ割合のもの

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（2/18）

【提言 25　省エネ家電、省エネグッズを普及させる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 古い家電を省エネ家電に買い換える	65%	10%	3%	23%	① 古い家電を省エネ家電に買い替えるように努力する 留意点：長期的にみると家計のお得につながることを事業者がアピールする必要がある
	② 自宅の照明をLEDに取り換える	81%	3%	0%	16%	② 自宅の照明をLEDに取り替える
	③ 自宅の大がかりな断熱改修が難しい場合は、DIYにより窓やドアなどを断熱する（隙間テープ、断熱フィルム、簡易内窓など）	81%	6%	3%	10%	③ 自宅の大がかりな断熱改修が難しい場合は、DIYにより窓やドアなどを断熱する（隙間テープ、断熱フィルム、簡易内窓など）
	④ 自宅の窓にすだれ、緑のカーテン、断熱カーテンなどをつける	77%	13%	0%	10%	④ 自宅の窓にすだれ、緑のカーテン、断熱カーテンなどをつける
	⑤ その他さまざまな省エネグッズを活用する（節水シャワーヘッド、人感センサー付き照明など）	71%	19%	0%	10%	⑤ その他さまざまな省エネグッズを活用する（節水シャワーヘッド、人感センサー付き照明など）
	⑥ 家電の点検、掃除を行い、性能を維持する	87%	6%	0%	6%	⑥ 家電の点検、掃除を行い、性能を維持する
	⑦ 省エネグッズのアイディアを事業者に提案する	84%	13%	0%	3%	⑦ 省エネグッズのアイディアを事業者に提案する

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（3/18）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
事業者	① 省エネ家電、省エネグッズを開発する、性能を向上させる	90%	6%	0%	3%	① 省エネ家電、省エネグッズを開発する、性能を向上させる
	② 省エネがどのぐらい家計のお得につながっているのかを分かりやすく示して省エネ家電、省エネグッズを売る	90%	3%	0%	6%	② 省エネがどのぐらい家計のお得につながっているのかを分かりやすく示して省エネ家電、省エネグッズを売る
	③ 家電の適切な買い替え時期を分かりやすく示す（何年以上使用すると、最新の省エネ家電に買い換えた方がトータルで二酸化炭素排出削減につながるのかなど）	94%	6%	0%	0%	③ 家電の適切な買い替え時期を分かりやすく示す（何年以上使用すると、最新の省エネ家電に買い替えた方がトータルで二酸化炭素排出削減につながるのかなど）
	④ 省エネグッズをプレゼントする	65%	23%	6%	6%	④ 省エネグッズをプレゼントする
行　政	① 省エネ家電への買い換え、省エネグッズの購入に助成する、ポイントやクーポンをつける	81%	16%	0%	3%	① 省エネ家電への買い替え、省エネグッズの購入に助成する、ポイントやクーポンをつける
	② 古い家電を買い取り、省エネ家電への買い換えを促す	77%	13%	3%	6%	② 古い家電を買い取り、省エネ家電への買い替えを促す
	③ 家電のリサイクル料金を安くする、省エネ家電に買い換えるなら無料にする	71%	16%	0%	13%	③ 家電のリサイクル料金を安くする、省エネ家電に買い替えるなら無料にする
	④ 優良な省エネグッズを一覧にして紹介する	71%	26%	0%	3%	④ 優良な省エネグッズを一覧にして紹介する
	⑤ 各家庭に優良な省エネグッズを配る	55%	35%	6%	3%	（削除）

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（4/18）

【提言 26　省エネ型ライフスタイルを普及させる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 冷暖房の設定温度を控えめにする（衣服や布団で温度調節をする）、サーキュレーターを併用する	87%	3%	0%	10%	① 冷暖房の設定温度を控えめにする（衣服や布団で温度調節をする）、サーキュレーターを併用する
	② 家族が同じ部屋ですごし、冷暖房の使用を１つの部屋だけにする	68%	23%	0%	10%	② 家族が同じ部屋ですごし、冷暖房の使用を１つの部屋だけにする
	③ 冷蔵庫の設定温度を控えめにする、冷蔵庫に食品を詰めすぎないようにする	74%	16%	3%	6%	③ 冷蔵庫の設定温度を控えめにする、冷蔵庫に食品を詰めすぎないようにする
	④ お風呂に続けて入る、シャワーの時間を短くする、湯船のお湯の量を少なめにする、給湯温度を控えめにする	77%	10%	0%	13%	④ お風呂に続けて入る、シャワーの時間を短くする、湯船のお湯の量を少なめにする、給湯温度を控えめにする
	⑤ 早寝早起きをして夜間のエネルギー消費を減らす	55%	29%	0%	16%	⑤ 早寝早起きをして明るい時間に活動するなど、エネルギー消費を減らす生活を意識する
	⑥ その他さまざまな省エネ行動を行う（待機電力の削減、こまめな消灯、湯たんぽの使用など）	87%	10%	0%	3%	⑥ その他さまざまな省エネ行動を行う（待機電力の削減、こまめな消灯、湯たんぽの使用など）
	⑦ 夏や冬に近所の公共施設や商業施設などですごし、自宅でのエネルギー消費（冷暖房など）を減らす	74%	19%	3%	3%	⑦ 夏や冬に近所の公共施設や商業施設などですごし、自宅でのエネルギー消費（冷暖房など）を減らす
	⑧ 毎月の電力やガスの消費量などを記録して省エネを意識する	90%	6%	0%	3%	⑧ 毎月の電力やガスの消費量などを記録して省エネを意識する
事業者	① 市民の省エネ量や二酸化炭素排出削減量を調べることができる機械やアプリなどを開発する	87%	6%	3%	3%	① 市民の省エネ量や二酸化炭素排出削減量を調べることができる機械やアプリなどを開発する

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（5/18）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
行　政	① 町内放送などで省エネを呼びかける	61%	29%	0%	10%	① 市内放送などで省エネを呼びかける
	② 省エネ家計簿（毎月の電力やガスの消費量などを記録するもの）の活用について周知、啓発する	81%	13%	3%	3%	② 省エネ家計簿（毎月の電力やガスの消費量などを記録するもの）の活用について周知、啓発する
	③ 家庭の省エネ診断を普及させる、全世帯にまわる	61%	19%	6%	13%	③ 家庭の省エネ診断を普及させる、希望した世帯を訪問する
	④ 省エネや二酸化炭素排出削減をした家庭に減税する	68%	23%	0%	10%	④ 省エネや二酸化炭素排出量を削減した家庭に減税する
	⑤ 夏や冬に近所の公共施設や商業施設ですごすことを促し、家庭でのエネルギー消費（冷暖房など）を減らす	68%	23%	3%	6%	⑤ 夏や冬に近所の公共施設や商業施設ですごすことを促し、家庭でのエネルギー消費（冷暖房など）を減らす
	⑥ 市民の省エネ量や二酸化炭素排出削減量を調べることができる機械やアプリなどの開発を支援する（アイディア募集等）	81%	13%	3%	3%	⑥ 市民の省エネ量や二酸化炭素排出削減量を調べることができる機械やアプリなどの開発を支援する（アイディア募集など）
	⑦ サマータイムを導入する	61%	32%	0%	6%	⑦ サマータイムの導入を検討する 留意点：省エネ量や健康へのリスクなど、様々な面で効果を検討する必要がある

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（6/18）

【提言 27　省エネ機器を普及させる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
事業者	① 事業所や店舗の照明をLEDに取り換える	90%	3%	3%	3%	① 事業所や店舗の照明をLEDに取り替える
	② 事業所や店舗の照明に人感センサーを付けて自動で消灯するようにする	81%	6%	3%	10%	② 事業所や店舗の照明に人感センサーを付けて自動で消灯するようにする
行　政						① 省エネ機器について周知、啓発する、相談会を行う

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（7/18）

【提言 28　省エネ型ビジネススタイルを普及させる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
事業者	① 事業所や店舗で省エネに取り組み、内外にアピールする（コスト削減分を福利厚生などで還元して従業員のモチベーションを上げる）	87%	6%	3%	3%	① 事業所や店舗で省エネに取り組み、内外にアピールする（コスト削減分を福利厚生などで還元して従業員のモチベーションを上げる）
	② 残業を減らし（ゼロにし）、夜間のエネルギー消費を減らす	81%	13%	3%	3%	② 残業を減らし（ゼロにし）、夜間のエネルギー消費を減らす

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（8/18）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
事業者	③ 事業所や店舗で使用する機器は、使用していない時間（営業時間外など）に電源を落とす（OA機器のスリープモードの活用など）	94%	3%	0%	3%	③ 事業所や店舗で使用する機器は、使用していない時間（営業時間外など）に電源を落とす（OA機器のスリープモードの活用など）
	④ 事業所や店舗の冷暖房の設定温度を控えめにする（従業員は衣服で温度調整する）	87%	3%	0%	10%	④ 事業所や店舗の冷暖房の設定温度を控えめにする（従業員は衣服で温度調整する）
	⑤ 事業所や店舗で冷暖房時にドアを閉める	84%	6%	0%	10%	⑤ 事業所や店舗で冷暖房時にドアを閉める
	⑥ 食品売り場の冷蔵庫に扉をつける	74%	13%	3%	10%	⑥ 食品売り場の冷蔵庫に扉をつける
	⑦ 事業所や店舗の照明を適切な明るさにする	84%	6%	0%	10%	⑦ 事業所や店舗の照明を適切な明るさにする
	⑧ 店舗の看板の照明を控えめにする	81%	10%	0%	10%	⑧ 店舗の看板の照明を控えめにする
	⑨ 利用者の少ない時間帯の店舗営業をやめる	58%	23%	0%	19%	⑨ 利用者の少ない時間帯の店舗営業を控える
	⑩ シェア店舗（営業時間が異なる店舗がひとつの建物を共有する仕組み）を増やし、建物とエネルギーを効率的に使う	74%	13%	3%	10%	⑩ シェア店舗（営業時間が異なる店舗がひとつの建物を共有する仕組み）を増やし、建物とエネルギーを効率的に使う
行　政	① 利用者の少ない時間帯の営業を制限する	61%	26%	0%	13%	① 利用者の少ない時間帯の営業を制限する 留意点：業種や地域によって、生活に影響がでないような制限の内容を検討する必要がある

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（9/18）

【提言 29　エネルギー消費が少ない街をつくる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
事業者	① 事業所や商業施設で消費するエネルギーを、その建物で得られる再生可能エネルギーを超えない範囲に抑える	71%	19%	3%	6%	① 事業所や商業施設で消費するエネルギーを、その建物で得られる再生可能エネルギーを超えない範囲に抑える
	② トイレの洗浄水を下水再生水に切り換える	74%	16%	0%	10%	② トイレの洗浄水を下水再生水に切り替える
	③ 街灯をLEDに取り換える	97%	0%	0%	3%	③ 街灯をLEDに取り替える
行　政	① 公共施設で消費するエネルギーを、その建物で得られる再生可能エネルギーを超えない範囲に抑える、効果を示してアピールする	87%	3%	0%	10%	① 公共施設で消費するエネルギーを、その建物で得られる再生可能エネルギーを超えない範囲に抑える（カーボンニュートラル）、効果をわかりやすい指標として示してアピールする
	② 市内のエリアごとの二酸化炭素排出削減量を示して意識を向上させる	84%	6%	3%	6%	② 市内のエリアごとの二酸化炭素排出削減量を示して意識を向上させる
	③ 公共施設の冷暖房の設定温度を控えめにする（規制する）	77%	16%	0%	6%	③ 公共施設の冷暖房の設定温度を控えめにする（規制する）
	④ エネルギー消費が少ない街のモデルシティをつくる	87%	10%	0%	3%	④ 公営住宅を中心としたエネルギー消費が少なく雨水を最大限に利用するモデルシティを目指す

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（10/18）

【提言 30　熱をため込まない街、気温が上がっても快適に過ごせる街をつくる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
事業者	① 店舗の前などでドライミスト（霧状の水を蒸発させて周辺を涼しくするもの）を散布する	81%	10%	10%	0%	① 店舗の前などでドライミスト（霧状の水を蒸発させて周辺を涼しくするもの）を散布する
	② 建物や敷地内の舗装の素材を遮熱性にあるものに置き換え、熱をため込まない街をつくる	81%	10%	10%	0%	② 建物や敷地内の舗装の素材を遮熱性のあるものや保水性のあるものに置き替え、熱をため込まない街をつくる
	③ 敷地内の舗装の素材を透水性のあるものに置き換え、街の湧水を保全する	71%	23%	3%	3%	③ 敷地内の舗装の素材を透水性のあるものに置き替え、街の湧水を保全する
行　政	① 歩道などでドライミストを散布する	74%	10%	13%	3%	① 歩道などでドライミストを散布する
	② 道路などの素材を遮熱性にあるものに置き換え、熱をため込まない街をつくる	90%	6%	3%	0%	② 道路などの素材を遮熱性のあるものや保水性のあるものに置き替え、熱をため込まない街をつくる
	③ 道路などの素材を透水性のあるものに置き換え、街の湧水を保全する	74%	16%	6%	3%	③ 道路などの素材を透水性のあるものに置き替え、街の湧水を保全する

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（11/18）

【提言 31　太陽光発電システムを普及させる】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 自宅に太陽光発電システムを設置する	58%	6%	3%	32%	① 自宅に太陽光発電システムを設置する 留意点①：設置することによる効果や金銭的メリットと、生産から廃棄までの過程での環境負荷などのデメリットを丁寧に周知する必要がある 留意点②：設置費用が高いうちは、設置を助成する必要がある
	② 自宅の太陽光発電システムで電気自動車に充電する	65%	13%	0%	23%	② 自宅の太陽光発電システムで余った電気を優先的に電気自動車に充電する
	③ ソーラーモバイルバッテリー（小型の太陽光パネルとバッテリーを組み合わせたもので、スマートフォンの充電などに使う）などを活用する	71%	13%	0%	16%	③ ソーラーモバイルバッテリー（小型の太陽光パネルとバッテリーを組み合わせたもので、スマートフォンの充電などに使う）などを活用する
事業者	① 住宅への太陽光発電システムの設置を提案する（何年後に元が取れるのかなど具体的な数字を使ってアピールする）	84%	6%	3%	6%	① 住宅への太陽光発電システムの設置を提案する（何年後に元が取れるのかなど具体的な数字を使ってアピールする）
	② 集合住宅の屋上に太陽光発電システムを設置する	81%	10%	3%	6%	② 集合住宅の屋上に太陽光発電システムを設置する
	③ 集合住宅のベランダなどに設置できる太陽光発電システムを開発する	81%	10%	3%	6%	③ 集合住宅のベランダなどに設置できる太陽光発電システムを開発する
	④ 事業所や商業施設に太陽光発電システムを設置する	81%	10%	3%	6%	④ 事業所や商業施設に太陽光発電システムを設置する
	⑤ ソーラーシェアリング（農地に太陽光発電システムを設置し、農業と発電の両方を行う仕組み）を普及させる	87%	10%	0%	3%	⑤ ソーラーシェアリング（農地に太陽光発電システムを設置し、農業と発電の両方を行う仕組み）を普及させる
	⑥ 製造やリサイクルの際の環境への負荷が低く、発電効率が高い太陽光発電システムを開発する（ペロブスカイト型パネルなど）	87%	3%	6%	3%	⑥ 製造やリサイクルの際の環境への負荷が低く、発電効率が高い太陽光発電システムを開発する（ペロブスカイト型パネルなど）

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（12/18）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
事業者	⑦ 宇宙空間で稼働する太陽光発電システムを開発する	65%	32%	0%	3%	⑦ 宇宙空間で稼働する太陽光発電システムを開発する 留意点：想定外の環境影響などを生じさせないように検討する必要がある
	⑧ 導入のハードルが低い小規模な太陽光発電システムを開発する	87%	6%	6%	0%	⑧ 導入のハードルが低い小規模な太陽光発電システムを開発する
行　政	① 公共施設や公営住宅に太陽光発電システムを設置する（災害時の電力確保も兼ねる）	94%	6%	0%	0%	① 公共施設や公営住宅に太陽光発電システムを設置し、屋上や敷地内に降った雨水を雑用水に使えるようにする（災害時の電力や雑用水の確保も兼ねる）
	② 未利用地（道路上、線路上など）に太陽光発電システムを設置する	81%	10%	3%	6%	② 未利用地（道路上、線路上など）に太陽光発電システムを設置する 留意点：乱開発を防止するため、発電効率のよい設置地域や場所を考慮したうえで、優先地域から設置を促していく必要がある
	③ 太陽光発電システムの設置に助成する	90%	6%	3%	0%	③ 太陽光発電システムの設置を助成する
	④ 太陽光発電システムの効果や金銭的なメリットをアピールする	87%	10%	3%	0%	④ 太陽光発電システムの効果や金銭的なメリットと、生産から廃棄までの過程での環境負荷などのデメリットを公平に説明したうえでアピールする
	⑤ 太陽光発電システム設置の優良事業者を登録して紹介する	84%	10%	0%	6%	⑤ 太陽光発電システム設置の優良事業者を登録して紹介する
	⑥ ソーラーシェアリングの普及を支援する	84%	13%	0%	3%	⑥ ソーラーシェアリングの普及を支援する
	⑦ 太陽光発電システムで得られた電力の買い取り価格を引き上げる	77%	13%	0%	10%	⑦ 太陽光発電システムで得られた電力の買い取り価格を引き上げる
	⑧ 太陽光発電システムから導線が盗難されることなどへの対策を強化する	84%	10%	3%	3%	⑧ 太陽光発電システムから導線が盗難されることなどへの対策を強化する

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（13/18）

【提言 32　市内の再生可能エネルギーの利用を進める】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① できるだけ再生可能エネルギーを導入している商業施設などを利用する	74%	13%	0%	13%	① できるだけ再生可能エネルギーを導入している商業施設などを利用する
	② 自治会が中心となってエネルギーの自給を進める	71%	23%	0%	6%	② 自治会や地域が中心となってエネルギーの自給を進める（市民が出資して自分たちの手で再生可能エネルギーを活用した発電所「市民電力発電所」をつくるなど）
事業者	① 薪ストーブを普及させる	23%	42%	26%	10%	① 市内又は市近郊の薪を利用した薪ストーブ※を普及させる ※薪ストーブは、雑木林の管理の過程で出てくる木材や、木材の加工の過程でてでてくる端材を利用することで、トータルで見た場合の二酸化炭素の排出量を既存のストーブより減らすことができる
	② 敷地内の再生可能エネルギー（太陽光、風力、小水力など）のみで運営できるテーマパークなどをつくる	58%	26%	13%	3%	② テーマパークなどの施設を作る際は、敷地内の再生可能エネルギー（太陽光、風力、小水力など）のみで運営できる施設にする

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（14/18）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
行　政	① 地形を生かした再生可能エネルギー発電を導入する（用水路を生かした小水力発電など）	87%	10%	0%	3%	① 地形を生かした再生可能エネルギー発電を導入する（用水路を活かした小水力発電など）

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（15/18）

【提言 33　市外の再生可能エネルギーの利用を進める】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 自宅の電力を再生可能エネルギー由来の電力の契約に切り替える	74%	10%	0%	16%	① 自宅の電力を再生可能エネルギー由来の電力の契約に切り替える
事業者	① 発電事業者、送電事業者、小売事業者を完全に分離し、再生可能エネルギー由来の電力を中心に扱う新電力会社と、大手電力会社との競争を公平にする	71%	23%	0%	6%	① 発電事業者、送電事業者、小売事業者を完全に分離し、再生可能エネルギー由来の電力を中心に扱う新電力会社と、大手電力会社との競争を公平にする
	② 電線以外のエネルギー伝達方法を開発する	68%	26%	3%	3%	② 電線以外のエネルギー伝達方法を開発する
行　政	① 公共施設の電力を再生可能エネルギー由来の電力の契約に切り替える	87%	6%	0%	6%	① 公共施設の電力を再生可能エネルギー由来の電力の契約に切り替える

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（16/18）

【提言 34　電力のピークカット、ピークシフトを進める】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 自宅に太陽光発電システムを設置する際に蓄電池も設置し、発電した電力を夜間や曇りの日にも使えるようにする	74%	10%	6%	10%	① 自宅に太陽光発電システムを設置する際に蓄電池も設置し、発電した電力を夜間や曇りの日にも使えるようにする
事業者	① 再生可能エネルギー由来の電力の余剰電力を活用する（蓄電、周辺の施設への融通など）	94%	3%	0%	3%	① 再生可能エネルギー由来の電力の余剰電力を活用する（蓄電、周辺の施設への融通など）
	② 蓄電池のリユース、リサイクルの方法を確立する	100%	0%	0%	0%	② 蓄電池のリユース、リサイクルの方法を確立する

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（17/18）

【提言 35　熱利用の脱炭素化を進める】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① ガスコンロをIHクッキングヒーターに切り替える	32%	29%	3%	35%	① ガスコンロをIHクッキングヒーターに切り替えるなど、熱利用の脱炭素化を図る生活をする
事業者	① 再生可能エネルギーを用いて製造した水素と二酸化炭素からメタンを合成するメタネーションを実用化させ、既存のガス機器を使用したまま熱利用の脱炭素化を進める	81%	10%	6%	3%	① 再生可能エネルギーを用いて製造した水素と二酸化炭素からメタンを合成するメタネーションを実用化させ、既存のガス機器を使用したまま熱利用の脱炭素化を進める

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

エネルギーについて記載した取り組みの変遷（18/18）

【提言 36　未利用エネルギーを活用する、新エネルギーを開発する】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
事業者	① 工場などで発生する熱を利用する（工場内での再利用など）	90%	6%	3%	0%	① 工場などで発生する熱を利用する（工場内での再利用など）
	② 事業所や商業施設などに雪氷を利用した冷房を設置する	58%	32%	3%	6%	（削除）
	③ 新エネルギーを開発する	84%	13%	3%	0%	② 新エネルギーを開発する
行　政	① 下水道の熱を利用する（冷暖房、給湯など）	77%	16%	0%	6%	① 下水道の熱を利用する（冷暖房、給湯など）
	② 可燃ごみ処理施設で発生する熱を利用する（発電、公衆浴場の給湯など）	81%	13%	3%	3%	② 可燃ごみ処理施設で発生する熱を利用する（発電、公衆浴場の給湯など）

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第５回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記２つが同じ割合のもの

その他に記載した取り組みの変遷（1/2）

【提言 37　二酸化炭素の吸収を進める】

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
市　民	① 街のみどりを増やす活動に参加する	94%	3%	0%	3%	① 街のみどりを増やす活動に参加する
	② 自宅の駐車場をなくして（自家用車を手放して）みどりを増やす	39%	32%	0%	29%	（削除）
	③ 自宅のブロック塀を生垣に替える	55%	19%	3%	23%	② 自宅のブロック塀を生垣に替える 留意点：費用を助成するか、新築に限る必要がある
事業者	① 街のみどりを増やす活動に協力する	94%	6%	0%	0%	① 街のみどりを増やす活動に協力する
	② 事業所や商用施設の土地にみどりを増やす	94%	3%	0%	3%	② 事業所や商業施設の土地にみどりを増やす
	③ 二酸化炭素を吸収する装置を開発する	81%	13%	3%	3%	③ 二酸化炭素を吸収する装置を開発する

その他に記載した取り組みの変遷（2/2）

主　体	役割（取り組み） 提言書（素案）段階	提言書（素案）をもとにした投票結果				役割（取り組み） 提言書（完成版） ※赤字：素案以降に変更があった箇所
		提言書に残す	判断がつかない	提言書に残すには修正が必要		
				逆にCO2排出量が増える可能性がある	暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど	
行　政	① 住宅を建てる際に、一定の広さのみどりをつくる（残す）ことを義務づける	68%	10%	0%	23%	① 住宅を建てる際に、一定の広さのみどりをつくる（残す）ことを推奨する 留意点：管理しやすい設計にすることや助成することを検討する必要がある
						② 住宅のブロック塀を生垣に替える費用を助成する
	② 街のみどりを増やす	94%	6%	0%	0%	③ 街のみどりを増やす、既存のみどりを保全する（創出するみどり、保全するみどりの面積に関する目標設定など）
	③ 既存のみどりを保全する	94%	6%	0%	0%	（上記に統合）

凡例　ハッチがかかった取り組み

「提言書に残す」が 60%未満 又は 「提言書に残すには修正が必要」が 20%以上のもの（第 5 回で重点的に確認したもの）

「逆に CO_2 排出量が増える可能性がある」の割合が高いもの

「暮らしに対する制限が大きすぎる、不公平や格差が生じるなど」の割合が高いもの

上記 2 つが同じ割合のもの

Ⅳ アンケートの概要と結果

1 アンケートの概要

日野市気候市民会議の各回の終了後に、会議での理解や議論を深めるとともに、今後の会議の運営に活かすことを目的として、参加者アンケートを行いました。

アンケートの概要と設問の内容を以下に示します。

アンケートの概要

項目	概要
回答方法	「回答用 WEB フォーム」と「回答用紙（Word 版）」の 2 種類を用意
案内方法	各会議の閉会時に口頭で案内
回答期限	第 1 回～第 2 回：7 日間 第 3 回～第 5 回：3 日間※
回答者の数	第 1 回：27 名 第 2 回：26 名 第 3 回：26 名 第 4 回：22 名 第 5 回：20 名
回答	「2 アンケートの結果」参照

※アンケートの結果を迅速に次の回の企画、運営に反映させるため、途中で回答期限を変更した。

アンケートの設問の内容（1/2）

設問	回		
	第 1 回	第 2 回～4 回	第 5 回
1　お名前のイニシャルを記入してください（例：山田 太郎 ⇒ T Y）。	●	●	●
2　本日所属していたグループに○をつけてください。	●	●	●
3　講師及び事業者からの情報提供に対する質問等があれば、ご記入ください。	●	●	
4　グループワークの結果に対する追加の意見があれば、ご記入ください。	●	●	●
5　グループワークの結果に対する感想（共感したこと、わからなかったこと、違うと思ったことなど）をご記入ください。	●	●	●
6　会議に満足していますか。次の中から最も近いものに○をつけてください。 ①満足　②やや満足　③どちらともいえない　④やや不満　⑤不満	●	●	●
7　会議の内容・運営に対する意見・提案・質問があれば、ご記入ください。	●	●	●

アンケートの設問の内容（2/2）

設問	回		
	第１回	第２回～４回	第５回
８　あなたは、脱炭素社会への転換のため、自身の行動を変えることに抵抗はありますか。次の中から最も近いものをひとつ選んでください。 ①抵抗はない　②どちらかと言えば抵抗はない ③どちらかと言えば抵抗がある　④抵抗がある	●		●
９　脱炭素社会への転換は、日野市民の生活の質に、全体としてどのような影響を与えると思いますか。あなた自身の感じ方に近いものを、７段階の中から、ひとつ選んでください。 生活の質に対する脅威となる　１２３４５６７　生活の質を向上させる機会となる	●		●

２ アンケートの結果

アンケートの各設問に対する回答を整理した結果を以下に示します（そのままでは文章の意味が読み取りづらいものや、誤字脱字のみ、事務局側で最低限の修正を行いましたが、その他は基本的に原文のまま掲載しています）。回答に対して事務局から参加者へ示した回答や対応については、赤字で記載しました。

なお、講師及び事業者からの情報提供に対する質問等と、グループワークの結果に対する追加の意見については、「Ⅱ各回の会議の概要とグループワークの結果」に記載しました。

（１）グループワークの結果に対する感想

１）第１回会議

【会議全体に対する感想】

- 本日は準備、そしてスムーズな進行をありがとうございました。参加者の質問に答えていただくことを重要視していただき、スッキリして帰ることができました。また休憩中のお菓子が、疲れて糖分が欲しかった私にとってとっても嬉しかったです。お気遣いありがとうございました。
- 固くなりすぎず、楽しく会議を進められるようにしてくださっていたことが伝わりました。
- 今回は手を挙げた温暖化対策に関心のある市民による会議ですが、分からないことがたくさんあることが知れて良かったと思います。
- とても時宜にかなった会議と参加出来ることに感謝しています。
- 熱意なく参加したが意外とためになっておもしろかった
- まず会議については、大変有意義なものになりました。最終目標の政策への提言に向けて、全体で取り組んでいければと考えています。

・ こんなに気温が上昇してからでは遅いと思いましたが、参加したからには中身のある提言がまとまるようお役に立ちたいと考えています。

【グループワークに対する感想】

・ 皆さんのそれぞれの考えが聞けて、充実してたと思います。
・ 他の人の感想・疑問を知れるのはおもしろい
・ みんな気候変動に関心があると思った　いい形で表現できるよう頑張りたいと思います。
・ 皆さんしっかり考えてくださっていたので、自分自身の意見を見直すことができて良かった。
・ 環境に対して強い関心、知識がある人もない人も、お互いの意見を尊重して話し合うことができて良かった。
・ グループ皆さん同じ方向でとり組んでいるのがわかりよかったと思います
・ みなさん、意外と近い考えや感覚をお持ちなんだなと思いました。
・ 似たような考え方であり、似たような答えが多かった気がします。もう少し違う視点で見れればと思います。
・ 今回、立場の違うメンバーと会話する事により、性別や年代、家庭環境や職種などにより、捉え方にそれぞれの思いの差がある事を感じました。市民みんなにとって平等な政策を出すためにも色んな立場の方の想いを知る事が大切だと感じました。
・ 各グループで視点が多少異なったものの、 社会全体の共通認識として気候変動に危機感を持つべきだという点で通じる部分があったことが興味深かったです。 同時に、そのためのアプローチとしてどのような切り口、手段があるのかということをもっと勉強したいと思います。
・ 様々な意見を共有できてとても有意義なものでした。日本人の意識改革が必要であることや、なぜやるべきことは見えているのにできないのか等共通の疑問も沢山ありました。また疑問点は共通なものだけでなく、世代によって違うものもあり、経験によって生み出される意見もあるのだと感じ、これが日野市の縮図だからこそであり、グループワークだからこそ感じられるものだと思いました。
・ 全体的に、市の年代的な割合に合った構成とのことでしたが、特に 20 代後半～50 代前半での男女同数で参加となると、もう少し具体的な意見が出たかもしれないと思いました。
・ 初の会議で予想していた雰囲気と違っていたので、思っていた事がうまく表現できなかった。
・ 中国、アメリカが主だってやればいいという意見が出た。それは少し違うと思った。

【気候変動に対する意見】

・ 共感した点として、やるべきことはわかっている筈なのになんでやらないのか、という意見が印象的でした。
・ 他の人の意見を聞いて、こういう見方や感じ方があるんだと参考になりました。特に""やるべきことがわかっているのにやってない""の意見に共感しました。新たなことに躊躇してしまうのは日本人の悪い癖ですね。

・ 「人類は化石燃料文化を卒業しようとしている」との先生の言葉に多くの人が共感しました。
・ やはり個人単位での転換では間に合わないと思いました。ある程度は予算を使って思いきった対策をしていただきたいです。
・ 日本だけでなく、海外とも協力して実行していく必要があると感じた。
・ 政治・経済いろいろ複雑で、やっぱりすすめるのがたいへんなんだなと思いました。
・ トップダウンではいい結果は出ないのか？
・ 他のグループで若い人から温暖化について知らない事が多かったとの意見があったが、今後 AI の進歩によるフェイクニュースや SNS などで間違った情報の拡散が懸念される。

2）第 2 回会議

【世代間の意見の違い】

・ 世代の違いによって自分が全く思いつかないような意見や物の見方を知ることができ、大変勉強になりました。
・ 世代間で異なること（教育、生活など）が、話していくうちに明らかになっていったのが面白かった。
・ 今回のモノに対するテーマに関しては、興味や関心の内容が、それぞれ年代によって違うなと、より強く感じました。 それぞれの年代に、より関心の深いテーマで取り組む事により幅広い分野で、サステナブルな取り組みが出来るのかなと思いました。 色んな年代の方の意見が間近で聞けて、とても参考になりましたし、自分にももっと日々に取り組める事があるなと感じられ、為になりました。

【共通の意見】

・ 似たような意見が多く、皆同じ事を考えていると思うと親近感を感じた。
・ どのグループも共通で出てる意見があるのでそこは汲んで欲しいですね。
・ グループ内の方々も、皆んな殆ど同じ様な考えを持ち、又、欧州諸国に比べ、日本国内に於ける環境意識の低さを共感できたと思います。今後益々環境教育・意識の植付が行政の喫緊の急務と痛感します。

【挙げられた取り組みに対する意見】

・ 賞味期限が切れそうな食品をフードバンクへまわす…皆さんそう言っていたが、生活困窮者が期限切れのもののひき受け手になるのはどうなのか…と思った。
・ キッザニアのような施設で子供達に教育をとの意見は CO_2 排出ゼロに逆らうのでは？
・ 私は社会の体制・環境に感心がありますが、共感を感じられませんでした。

【事業者や行政の取り組み】

・ 「企業等や自治体ができること」について意見を出すのがとても難しいと感じました。私たちができることは普段から意識しているからか沢山意見が出ましたが、企業や自治体へ

の要望などはすぐに浮かばず、他の方の意見を聞いて、「確かに」と思うことが多く、もっと勉強をしなければならないと感じました。また、実際できるかどうかは別として面白い意見も沢山出たので、これからの会議も楽しみです。
・ 行政側の案が難しく自分ではあまりアイディアが出なかったが、他の人の意見や他のグループの発表を聞いて気付かされる事が多かった。

【その他の感想】
・ 皆さんそれぞれ素敵なご意見が多く関心する事が多くありました。
・ 項目に沿って、話し合うことができて良かった。残り３回分、多様な意見が出せるように頑張りたい。
・ 良く出来たと思います

3) 第 3 回会議

【共感等】
・ 皆さんと考えていることが同じだったりと、楽しかったです。
・ 世代や立場の違いを超えて共感できる部分も多く、回を重ねるごとに皆自信を持って意見を出せるようになってきたと感じた。
・ モビリティに関する議論で日野市の道路事情について他のグループメンバーと共感する点があった。

【自分自身ですぐ実践できる取り組み】
・ 小さな取り組みであれば、車に乗る回数を減らして自転車や徒歩にしたり等、市民として、すぐに取り組める事が沢山あるんだなと思いました。早速、実行しています。
・ mobility 分野に於ける個人として出来ることは、今直ぐ己自身が率先してやらなければならないことを痛感した（他人任せ、他人事と考えていてはダメ）

【住みよい街づくり等】
・ 皆が暮らしを変えるにあたり、街づくりが大切である事が見えてきたことに、共感した。
・ 日野市は、東京ですが、田舎に近いと思います。日野市の地形とか、人口とか、そういう特性と、環境と考え、住みよい街、他に自慢でき、先導できる自治体を作りたいです。（共感）

【経済面、高齢化等の課題】
・ やはり市民が取り組むにあたっては経済面の問題が大きいのだと実感しました。 正確には環境問題の解決に向けて、 取り組まない人というよりは、取り組めない人へのアプローチが重要になるのかもしれないと考えました。
・ 人の高齢化、世帯の高齢化、自治会の高齢化・機能不全はこの問題を考える上でも障害となる基本問題だと感じました。

【その他の感想】

- 海外では置配が主流の所があり私も賛成派だったが、置配に否定的なグループがあり驚いた。40 名しかいないのに真逆の考えあり、これが市全体になるともっと色々な意見があると予想できたので、物事を決める難しさを痛感した。
- 自家用車に関する話題が多く、視点にやや偏りを感じた。
- EV 車両 10 年以上使用すれば環境負荷が減ると言っていたがバッテリーの寿命が 8 年あたりなのでそこで交換を行うと交換費用が高額になります。乗り換えるにしても購入費用が発生します。そもそも 10 年も乗り続けるかと言う疑問も出ます。どれを選択しても費用の問題が発生します。どんなに燃費や環境負荷の良いものを作成してもそれを維持する為のコストがかかります。車を使用しない選択が一番良いのでしょうが経済の観点から行けばそれも無理だと感じます。プラス面を維持すればマイナス面も存在する事を理解してそのバランスをとりながら行なっていくしか無いのが現状だと感じます。

4) 第 4 回会議

【多様な意見】

- 今回も沢山の考えが出ておもしろかったです。参考になりました
- 電気・水道料金に対する敏感さなど、年代によって大きく違うと思った。
- 十人十色で面白かった。
- みなさんの意見を聞いて、家庭ですぐに取り組める省エネになる取り組みをたくさん知る事ができて良かったです

【エネルギーは難しいテーマ】

- 今日の話題は難しく、市民として出来ることを一生懸命しぼり出しました。出来る範囲でがんばりたいと思いました。
- 難しいテーマでしたが、意見を出し合ううちに理解が深まってきて良かった。

【効果の見える化、情報公開の重要性】

- ソーラーパネルにしても、省エネ家電にしても初期費用が高く、なかなか手を出しにくいという感覚がみんなに共通してあることがわかりました。その根底には、環境に優しいことはわかるが、実際にどれくらい省エネになるのかわからないという見えない部分があるからこそ手を出せない事実があるというのもグループワークによって明らかになりました。これから日本でエネルギーの脱炭素化を進めていく上で自分が使用するエネルギーの可視化は重要な課題になるのではないかと思いました。
- 省エネに関して、個人ができることは多くありますが、その前提として企業や自治体によって情報がもっと共有され、それを私たちが取捨選択していく構図を生み出すことが今後重要になっていくのだとグループワークを通して発見することができました。

【その他】

- 行政の方に対して、補助金を出すならむだにせず、消費者に還元してほしいという意見になるほどと思った。自分たちの税金でまかなわれているのだから、わかりやすいものだとうれしい。
- 日野市の水路の有効活用。太陽光パネルへの開発に国や事業者に対して。(軽減化・料金を安価に)
- 色々な意見が出ていたがその中で実現可能な物はあるのでしょうか。
- 4 回が終わってまだ全員が揃った事がない！各自がもっと自覚が必要だと思いました

5) 第 5 回会議

【気候変動の危機感】

- 気候変動が、まったなしの状況に共感しました。
- 山本理事長の講話は分かりやすくインパクトがあったので多くの市民（国民）に聞いて欲しい。

【視点やスケールによる取り組みの違い】

- 日野市レベルで考えるとこう、全国レベルで考えるとこう、といったように、視点を変えると全く違う意見になるのが興味深かったです。
- 個人で取り組んでいくべきこと、事業者・行政で取り組んでいくべきことのスケール感に差異があり、ここを埋めるのにも問題があると感じました。

【多様な意見】

- 十人十色でいろいろな意見、考えがあることを改めて認識させられた。
- 皆さん環境について色々と考えていてすごいなと思った。

【グループ編成】

- 今回、いつものグループメンバーとは違う方々と議論をすることで、今までとは違う視点の意見も聞くことができ、とても面白かったです。 また、前回までは徐々に同じメンバーと話し合うことにも慣れ、とにかく色々な意見を出さなければ、という雰囲気もありましたが、今回はメンバーが変わったこと、最後の会議であることもあり、今までの提言の数々を冷静に客観的に見ることができたような気がします。実際、「この表現は少し変えた方が良い」など、細かいところまで話し合うことができました。 今回は基本的に提言書の修正点や留意点を考える会議だったので、あまり踏み込んだ話し合いはできず残念でしたが、とても新鮮な気持ちで臨むことができました。
- 初対面の方が多かったが、テーマごとに別れていたので、深い話し合いが出来たと感じた。
- 今までとは違った方々と討論することができてとても楽しく、充実していた。
- 今まで参加していたグループと違って、司会者、書紀、情報提供者のような役割分担ができてしまったなと思った。個人的に話しにくいなと感じ、黙ってしまうことが多かったの

で、今までのグループは恵まれていたのかなと考えさせられた。
・ これまでのグループメンバーとさいごに共に話しが出来なかったことは残念でした。

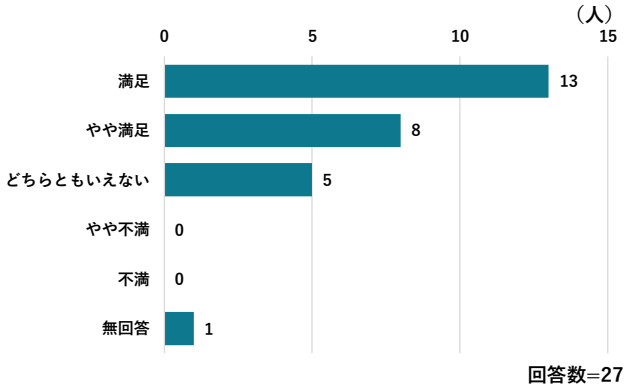
【今後の取り組み】
・ 提案書を折角長時間かけて作成しても、それを直ぐ実行できるものは、取り組まねば会員が努力した甲斐がない（絵に描いた餅で終わらせないことが肝要）。
・ 行政は市民、国民に気候温暖化問題が切迫した緊急事態にあるかを短文で分かり易く広報やネットビラ等で説得することに早急に取り組んで頂きたい。

【とりまとめ方法】
・ 文章は簡潔にまとめた方が良いとは思うが、ニュアンスが伝わりにくくなってしまう難しさもあり、皆が納得できるよう上手くまとめられると良いですね。

【その他】
・ 良く判かりました。
・ 最終回になる事、大変残念です。色々、勉強させて戴きました。本当にありがとうございました。
・ 検討時間が短く、考えを出し切れなかった。
・ エネルギーの長期保存技術の現状について、もう少し詳しく知りたかった。

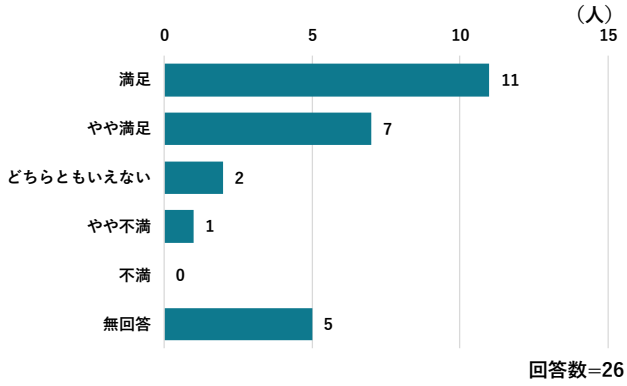
（２）会議の満足度

【第１回】



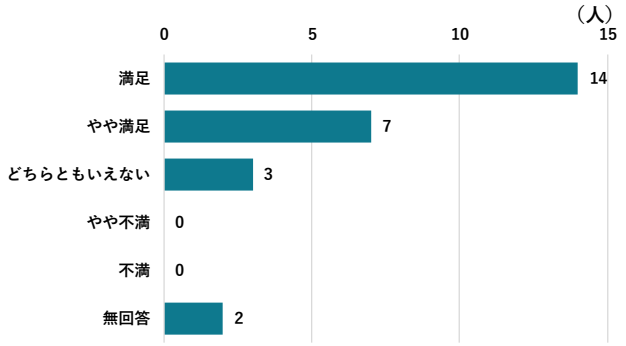
回答数=27

【第２回】



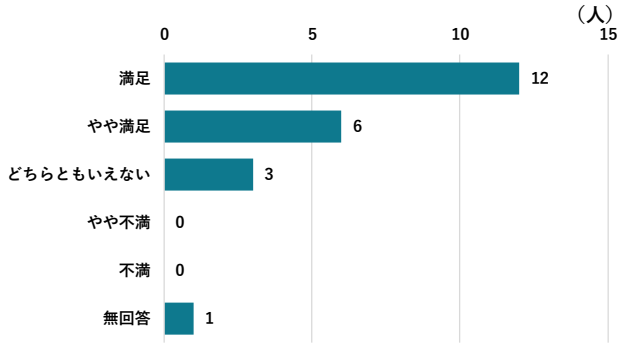
回答数=26

【第３回】



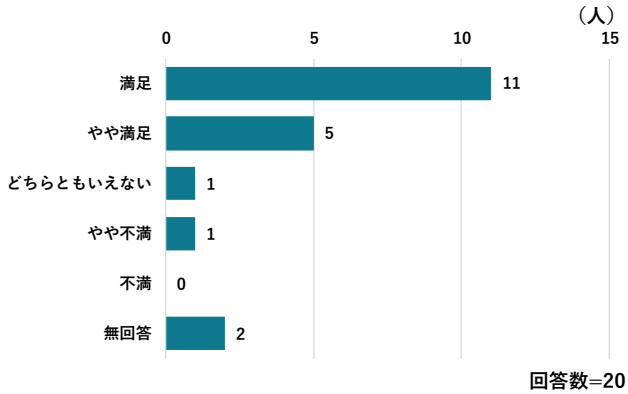
回答数=26

【第４回】



回答数=22

【第５回】



回答数=20

(３) 会議の内容・運営に対する意見・提案・質問

ｌ) 第ｌ回会議

【会議の時間】

・ グループで話す時間が不足
・ グループワークでの議論時間がもう少し時間延長して欲しい。
・ 考えたり書いたりする時間が少ない。全体の流れの中で仕方ないのかもしれませんが。これから話し合いが始まればもっと時間が必要になると思います。

⇒（対応）第１回は、全５回の流れなど説明しなくてはいけない内容が多かったため、グループワークの時間を短めに設定していましたが、第２回以降は取り組みを考えることが中心となりますので、グループワークの時間を長めに設定します。

・ ４時間は長いと思います。
・ 全体の時間はもう少し短くするか、休憩の回数を増やした方が良いと思いました。

⇒（対応）第２回以降は、休憩の回数を少し多めに設定するように心がけます。

【会議の進め方】

・ アドバイザーの話は面白いところもあり、もう少しゆっくり話していただけると良いなと思いました。
・ ビジュアルによる情報が多くなく、会議中のスピード感に、ついていくのは、なかなかハードルが高いなと思いました。
・ 短時間（慣れてないので）での回答がなかなか難しい。今後の回は、ある程度事前に質問の内容が分かっていると、考えを整理しやすく、会議に臨みやすいと思いました。

⇒（対応）第１回は、クラウドサービスの準備が間に合わなかったため、事前に資料を配付することができませんでしたが、第２回以降は、できるだけ事前に当日説明する資料を共有するとともに、わかりやすい情報提供になるように心がけます。

・ 参加者からの質問がない場合は、傍聴されてる側からの質問を頂くのもよいなと感じました。

⇒（対応）質疑応答はできる限り参加者の疑問を解消する時間として使いたいと考えています。グループワーク中でも随時講師に対する質問ができますので、質疑応答の際に質問がでない場合には、その分グループワークの時間を長くします。

【グループワークの進め方】

・ この問題は、対象範囲が広く、ある程度範囲を絞っての議題としないと、抽象的な意見の交換に終始してしまう印象です。

⇒（対応）第２回以降で取り組みを考える際には、あらかじめ模造紙に取り組みの分野を記載しておくことで、具体的な意見交換をしていただけるように工夫します。

・ 難しいテーマであり、場合によっては政治的な意見や感情的な意見が出ることが予想されます。グループワークが良いとは思えないのと一般公開するのはどうかと思います。

⇒（対応）第１回で三上先生からお話いただきましたように、様々な経験や背景を持った人が集まって話し合うことで、多くの人が納得できる解決策の種を見つけることができるという考えでグループワークを行っていきたいと思います。なお、会議の内容を一般公開する際には、グループワーク中の議論は除外して公開する考えです。

・ 高齢者がメンバーにおり、隣の人の名前を言う自己紹介は良くなかった。 自由にやった方が場が馴染むと思った。
・ グループワークをする際に、書き方や進め方などスタッフの方にもっと積極的にアドバイスいただきたかったです。

⇒（対応）グループワークの進め方は、第２回以降も皆さまのご意見を伺いながら、少しずつより良い形に変えていきたいと考えています。

【資料の提供】

・ プロジェクターが小さくて、老眼かつ近眼の私には資料が見づらかった。
・ 事前に会議の内容の資料が欲しい。 （プロジェクターに映す資料だけでも）
・ もう少し議題に対応した資料が欲しいです、出来るなら書面で
・ 資料はたしかに手元にほしいと感じました。
・ 全員で進めていくにあたって、特に高齢の方が講義内容についていけていないと感じました。 おそらく、一部スライドの文字が小さくて見えないなど些細なことで徐々に理解が追いつかなくなったのかと思います。 ペーパーレスという考えもありますが、希望者には事前にスライド資料を配るということをしても良いのかなと思いました。

⇒（対応）第１回は、クラウドサービスの準備が間に合わなかったため、事前に資料を配付することができませんでしたが、第２回以降は、できるだけ事前に当日説明する資料を共有するとともに、どうしてもスクリーンが見えづらい方のために、資料を印刷したものを数部用意します。

【その他】

・ 良い機会を与えていただきました。少し部屋が寒かったです

⇒（対応）部屋の温度等、できる限り皆さまが議論に集中できるような環境づくりを心がけます。

【オンライン】

・ 基本は最終まで、直接会議場所に出向く予定ですが、体調不良の出ていないコロナ陽性や万一の都合などのいざと言う際に、参加者募集の案内に書かれていたオンライン参加の併用開催というのを見たのですが、詳しく知りたいです。

⇒（回答）感染症対策としてやむを得ない場合など、どうしても会場で参加できない回に限

ってはオンラインでご参加いただくこともできます。その場合は、ご自宅の PC やタブレットなどを使用して Zoom で会場と接続していただきます。ただし、講義の際のスライドが見えにくい、音声が聞き取りづらい、グループワークで他の参加者とコミュニケーションをとりづらいというデメリットは避けられませんので、感染症対策としてやむを得ない場合以外は、できる限り会場でご参加いただけるよう予定の確保をお願いいたします。

【会場】

・ 会場は毎回異なりますか？

⇒（回答）第２回以降の会場は下記を予定しています。

第２回（9/3）　日野市役所 505 会議室
第３回（10/1）日野市役所 505 会議室
第４回（11/5）多摩動物公園
（京王線、多摩モノレール「多摩動物公園駅」下車、徒歩１分）
第５回（12/10）多摩平の森ふれあい館　※その後、日野市役所へ変更
（JR 中央線「豊田駅」下車、徒歩８分）

2）第２回会議

【グループワークの時間（短い）】

・ 少し時間が足りなかったので、もう少し時間が欲しい
・ グループワークの時間が少し足りなかったです。
・ グループワークの時間が足りていません。
・ 課題を少なくして、もう少し話し合う方が良いと思います。

【発表の時間（短い）】

・ 発表の場も少し時間をかけてほしい
・ 最後の各グループの発表は、もう少し時間に余裕があっても良かったと思う。

【グループワークと発表の時間（長い）】

・ グループ討論や、発表時間がやや長い。発表に至っては時間が殆どのグループで守られていない。

⇒（対応）第３回以降は、前半の説明や情報提供の時間を少し短くし、グループワークと発表の時間を少し長く設定します。

【グループワークで出す意見の具体例】

・ グループ討議での個々の検討事項は、予め会員の人達に知らせておいた方が、意見が出し易いのでは（その場で言うよりは）
・ 今回グループワークの課題が抽象的で、最初どういう意見を出せばいいのか戸惑いの時間がありました。抽象的な課題の場合、指針として一つでいいので一例をあげていただける

と時間のロスなく話し合いが進むのではないかと思いました。

・　グループの協議する内容が具体的に知りたい　参考解答があれば助かります

⇒（対応）第３回以降にグループワークで議論する内容は、会議の１週間前を目途に参加者にお知らせします。また、意見の具体例については、グループワークの進め方を説明する際に紹介します（意見を誘導してしまわないように、ごく一部のみ紹介）。

【グループワークで出す意見の項目】

・　項目ごとに分けてくださったので、前回よりも具体的な話し合いができてよかった。

・　グループワークであらかじめ分類されていたので、１回目よりやりやすかったです。 いつもこちらの事を考えて進めていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

【発表方法】

・　どういう内容で発表を行うかまでグループで話し合う必要があると感じました。１回目、２回目共に発表者にすべてを任せていた感じがしたので。

・　発表を３分以内に終らせる為には、予め事務局から発表の統一した仕方（手順）を知らしめておいては（発表者にも個人差があるので、どうしても長くなってしまう。）

⇒（対応）第３回以降は、グループワークの進め方を説明する際に発表方法も共有します。

【終了時刻】

・　出来れば予定終了時刻に終わらせて欲しい。

⇒（対応）第３回以降は、予定通り終了できるように心がけます。

【とりまとめ方法】

・　意見が多かったので、少し簡素化して欲しい。

・　この後、どのように提言を決めていくのか 先が想像できなくて不安というか、疑問というか、これで良いのかと思っている。

⇒（対応）第３回において、これまでのグループワークの結果がどのように提言書の形になるのか、イメージを説明します。

【その他】

・　意見交換の際に使用した、模造紙は会議終了後どうなっているのでしょうか？捨てているのならば、少しもったいないなと思ってしまいました。

⇒（回答）模造紙は必要最小限の枚数のみを使用するように心がけていますが、最終的には廃棄されることになります（リサイクルされやすいように溶解処理）。

・　お忙しい中、運営ありがとうございます。 今回の市役所への入館の仕方が、日曜な為、分かりづらかったので、入館の仕方や場所など前もって示していただけると助かります。

⇒（対応）第３回以降は、分かりやすい案内になるように心がけます。

・ 今回は休憩時間を３回取っていただき 身体を動かすことができました トイレ休憩は勿論ですが軽いストレッチを皆さんで１回位できると良いと思います

⇒（対応）第３回以降は、休憩時間中に軽いストレッチをして頂けるように案内します。

・ このような会議を催す事自体が日野市の温暖化対策を大きく進めることにつながると思います。運営大変だと思いますが引き続きよろしくお願いします。

3）第３回会議

【時間配分等】

・ 今回は時間の配分を工夫していただき、とても良かったと思う。
・ 早めに進行してくださろうとする姿勢を感じられました。ありがたかったです。
・ グループワークの時間が前回よりゆっくりとれてよかったです
・ 今日は時間がたっぷりあって、グループで考えをすり合わせる？ことができました。この時程、有難いです。
・ グループワークでの配慮に感謝します。 今回は時間も長く例もあったので、私のグループでは今までで一番意見が出たように感じました。

【検討する項目】

・ グループワークの項目を減らした方がいいのではないか。項目が多いと案が出しづらいではないかと思いました。
・ 項目が分けられていて分かりやすくて良かったです。ただ少し項目が多い為全て抽象的な意見で終わった印象でした。項目を少し減らし、減らした分の時間を、意見をまとめ、今後はこうしていきたいなど具体的なまとめや企業等に対する具体策などを考える時間に当たれたら良いのかなと感じました

⇒（対応）第１回に江守先生からお話がありましたように、脱炭素化を実現するためには社会の大転換が必要と考えており、必然的に検討いただく項目が多くなってしまっています。第４回については、必要な項目を網羅しながらも少し負担が減るように工夫しました。

・ 事務局に作成してもらった小項目について、重なる項目などがあったため、次回からは模造紙に貼らないで配布していただきたいです。

⇒（回答）説明が不足していましたが、検討項目は貼って剝がせるタイプのシールでとめているだけですので、グループごとにとりまとめがしやすいように、適宜移動していただいて構いません。

【情報提供等】

・ 第３回、事前の資料提供等々 予め内容に触れることができ理解しやすく 提案事項を考えるのに役立ちました
・ 今回、入場の案内もしていただき、グループワークのセッティングまで丁寧にして下さり、

とても参加しやすかったです。ありがとうございました。 そして、今回のモビリティのテーマは資料を読み込んでいても難しく、参加まで心配でしたが、井原先生のお話が分かりやすく、また面白く進めて下さり、とても楽しい情報提供の時間となりました。ありがとうございます。

・ とても良い時間でした。 井原先生のお話しをもっと詳しく時間をかけて聞けたら良いなと思いました！みなさまありがとうございました

【参加者の出欠管理】

・ ３回目になってだいぶ慣れて来ました。最初の１回しか来ない人とか初めて来た人が居たりして、５回参加して初めて成立するものなのでは？参加のフォローお願いします

⇒（対応）欠席者には、個別にご連絡を差し上げるなど、フォローしていきます。

【会場】

・ 会議場は同じ所の方がいいと思う

・ 次回は、何故に多摩動物公園の動物ホールにされたのかその理由をお聞かせ下さい

⇒（回答）半年以上前から会議室の調整に入っていたのですが、どうしても他の利用者との調整がつかず、全５回を同じ会場で開催することができませんでした。第４回、５回はこれまでと異なる会場で実施させて頂きますが、ご了承をお願いいたします。

【アンケート】

・ アンケートは、スマホを持たない、使えない人の為にもパソコンのメール等でも返信できる様にして頂きたい。

⇒（対応）アンケート用紙は、事前にメール又はクラウドサービスで配付することにしました。パソコンで回答したい場合には、ワードファイルに回答をご記入いただき、メールでの提出をお願いいたします。

【その他】

・ ３回目になるので何となく進行の仕方が見えてきた感がある。まだ問題点はあるがそれを１つずつクリアして行けば更に良い会議になると感じる。

・ 今回のモビリティに関する議題は一番わかりやすく、グループワークもやりやすかった。１，２回は時間も少なく、グループワーク自体が何に繋がってゆくのか、よくわからず不安だったが、場に慣れたのもあり、方向性がわかってきた気がしました。

・ ふと思ったのが、例で挙げた EV 車のように項目ごとに個人・市・国で考えたらとてもわかりやすかったです。 ただあくまでこれは私個人の意見なので、全体に下ろさなくて大丈夫です。 次回から個人・市・国と関連づけて考えてみたいと思います。

4）第 4 回会議

【時間配分や進行】

・ 休憩時間など、丁度良かったです。
・ 時間、長すぎです。
・ 休憩は 3 回ご用意いただいていますが、2 回目をなくして 1 回目を 10 分にしても良いのかなと思いました。
・ 発表のトップが A（前のグループ）からまたは F （後ろのグループ）からのみでしたが、A から→B から→C からと順番にトップを入れかえると良かった。 （ A から（第 1 回）→F から（第 2 回） →B から（第 3 回） →E から（第 4 回）など）

⇒（対応）皆さまのご意見を踏まえ、最終回についても時間配分や進行については工夫していきたいと思います。

【内容が難しい】

・ 全体的に内容が難しかったので解り易い説明でお願いします。
・ 事業者説明が理解しにくかった。
・ 情報提供は、第 2 回、第 3 回に比べるとあまり参考にならなかった。

⇒（対応）皆さまのご意見を踏まえ、最終回についても分かりやすい説明となるように工夫していきたいと思います。

【会場】

・ 寒かったです。
・ 動物園での開催は新鮮で良かったです。
・ いつも、ご苦労様です。 その都度、会場が変わる事も私としては気分も変わり、また日野市のスポットなどを知る事が出来て、楽しめています。また、改めて多摩動物公園にも行きたいと思います

【その他】

・ 気候問題は、既に多くの場で議論されているので、無難にまとめるだけでなく、日野市民ならではの斬新な意見が盛り込まれると良いなと思う。
・ 富士電機の事業内容はとても新鮮でした。（特に地熱発電）
・ 本日もありがとうございました
・ よかったです。

5）第 5 回会議

【会議の時間、事前の準備】

・ 前半の話し合いが短く、もっと深掘りすることが出来たのではないかと思った。
・ もしこのような会議をもう一度開くのであればもう少し時間を増やした方が良いと思い

ます。

・ 考える時間、話し合う時間不足。レクチャーは予めやって勉強する時間を与えてもらうと、もっとよく考えられたと思う。

・ 会議の運営方法として、事前（会議の数日前）にグループ分けを示し、グループ毎に具体的に何を議論し、討議するのかを、もう少し詳しく説明しておいた方が意見が出しやすいのでは。

・ 参加者が抽選で選ばれた一般人であるため、会議参加希望の意志は持っているものの政治家や、役所職員や、専門家でない、いわば素人であるため、議論の前提となる知識の不足や、議論の方法、表現の仕方など不慣れであるため、もう少し長い会議期間があった方が良かったと感じました。

⇒（回答）貴重なご意見を頂きありがとうございます。ご指摘のとおり、気候変動はとても広範囲にわたるテーマを取り扱う問題であるため、どうしても議論する時間が足りなくなるという課題がありました。今後に生かしていきたいと思います。

【会議の手法】

・ 情報提供は素晴らしかったと思います。気候変動界隈の重鎮からのお話、地元で実際に温暖化対策に取り組んでおられる事業者様の具体的かつ他では入手できないようなお話を聞くことができ素晴らしかったです。ただ議論の方法にグループワークを採用したのはどうかと思います。せっかくミニ日野市として年代などがバランスされている 40 人を 6 グループに分けて議論させることは、参加者に発言の機会を多く与えるということはわかるのですが、グループが少数であるためどのグループも標準的な意見を出さざるを得ず内容が重複し小さくまとまってしまうと思いますし、個性的な意見が出てきづらくなると考えます。40 人であればふつうの会議形式のほうが良いと考えました。また透明性を確保するためだと思いますが、傍聴は無かった方がよいと思います。参加者が普通の一市民であるため匿名性を確保したほうがいろいろな議論が伸び伸びとできたと考えます。また、提言を取りまとめるために投票制度を取り入れたのは市民会議発祥のフランスでの手法を踏襲したものだと考えますが、今回市民会議は政策決定ではなくあくまでも政策立案への参考であることを考えると投票は意味がないと考えます。また今回会議の進行方法についてすでにいくつかの地方公共団体で先行して行われた市民会議と同じ手法になっているため、その結果も先行団体と代り映えのない結果になってしまうと危惧します。他団体とは異なる手法で日野市の個性を生かした会議を進めていただきたかったと思いました。

⇒（回答）貴重なご意見を頂きありがとうございます。ご指摘のとおり会議の手法には様々なものがあり、それぞれメリット・デメリットがありますので、今後に生かしていきたいと思います。

なお、複数の自治体で気候市民会議が行われていますが、会議の手法や成果については、実はかなりバリエーションが豊富で、日野市気候市民会議もオリジナリティがあるものであったという点を補足させて頂きます。日野市気候市民会議は、市民、事業者、行政の取り組みを詳細に検討した点、最終的に提言書に記載する取り組み数が非常に多い点、前提となる考え方をしっかり文章にした点などに特徴があります。

振り返ってみると、その分皆さまのご負担が大きかったと考えています。

【提言書の形式】

・ 今回の会議の成果が今後の日野市が温暖化対策の政策をより良いものにするための提言とのことであるため、あえて提言を整理する必要はなく、ありのままの議論の議事録をそのまま残した方がよいと考えました。素人意見、議論になることはわかっていることなので、実効性のない意見や、矛盾した意見、あるいは表現不足で意味の分からないような意見、変わった意見などたくさん出てくるわけですが、それこそが日野市民の本音でもありますので、それをあえてきれいに整理する必要は全くないと考えます。またアイディアの書かれた付箋をもとに提言を整理していますが、そのアイディアは市民の議論を背景に急いで書かれたものなので、議論が十分反映されていない可能性があります。ありのままの議事録とその概要を取りまとめるだけでいいのではないでしょうか、提言の背景の議論や、少数意見、変わった意見こそが日野市の政策策定の参考になるのではないかと考えます。

⇒（対応）ありのままの議論の過程を残すという視点を踏まえ、別途、会議の実施状況などを整理した報告書を作成し、そちらに提言書（素案）の時点の取り組み一覧と投票結果、それが提言書（案）でどのように変更されたのかという過程を整理して掲載する方向で調整します。

【会議の意義】

・ ミニ日野市を作るという市民会議のアイディアが大変すばらしいと思いました。普段声を聞くことができないサイレントマジョリティーの声を聞くことができるのは有意義だと思いました。想像していた以上に多様性があり熱心に討議し楽しかったです。

・ 今回の気候会議は大きな意義があったと思います。日野市の強い思いが市民に伝わったと思います。頻繁に市長自ら会議を主導して先頭に立ち、この危機に対応しようという姿勢が素晴らしいと思いました。所管される環境保全課様も本当に一生懸命で、又休日の開催であるため日野市の他の職場の方たちも応援に入られ、日野市と日野市民の一体感を感じました。第５回会議での山本良一教授の危機的な‘気候転換点’を超えつつある状況であるとのお話がありましたが、私は今回の”日野市気候市民会議“の開催こそが、地球温暖化防止への大きな転換点になると信じています。本年は大変暑く人々の意識も大きく変わってきたことを実感します。このタイミングでの日野市の取り組みが時代の潮目が変わった転換点であることは間違いないと思います。この会議を起点に気候変動に対しての反撃が始まると確信しています。日野市の取り組みを市民は最大限支援すると思いますし、私自身も努力をしてまいりたいと考えます。きっと 2040 年には涼しい夏が戻ってくると信じています。ありがとうございました。

【会議の体制】

・ 会議はやはりプロの企業に運営を任せないとできなかったのでしょうか？市職の方が KnowHow を研修して、手づくりできればよかったと思いました。

⇒（回答）これまで日野市で行ってきたワークショップのなかでも、非常に大規模かつ特殊

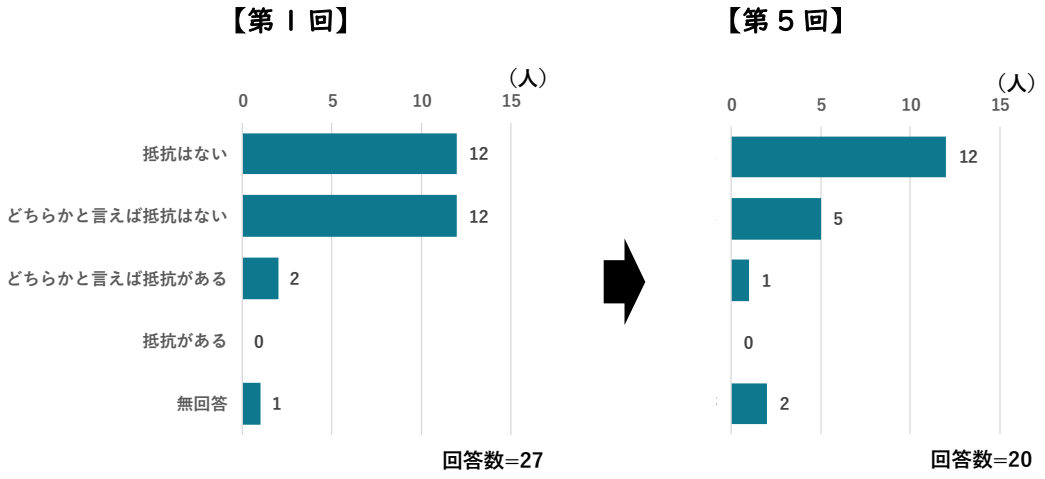
なものでしたので、今回は一部の運営を委託しました。そのなかでもグループファシリテーターは日野市職員が試行錯誤しながら取り組み、少しでも KnowHow を蓄積できたと思いますので、今後に生かしていきたいと思います。

【その他】

- 参加者の周囲（傍聴している関係者）の雑談が少し気になりました。
- １回目、２回目は、ちょっと不安もありあまり理解出来ない部分もありましたが回を重ねる事に充実して大変良かったです。
- 全５回、毎回とても楽しませていただきました。これからも意識高く環境問題に取り組みます。
- IT オンチなので想像以上に大変でしたが、とても良い経験良い勉強をさせていただき、ありがとうございました。
- 休憩やタイムキーパーなど気にしながら進めてもらい、ありがとうございました。
- いつもたくさん準備して下さり、感謝しています。
- 字が小さく良く見えなかった私に拡大コピーをして戴いた事に感謝です。気づかいありがとうございました。

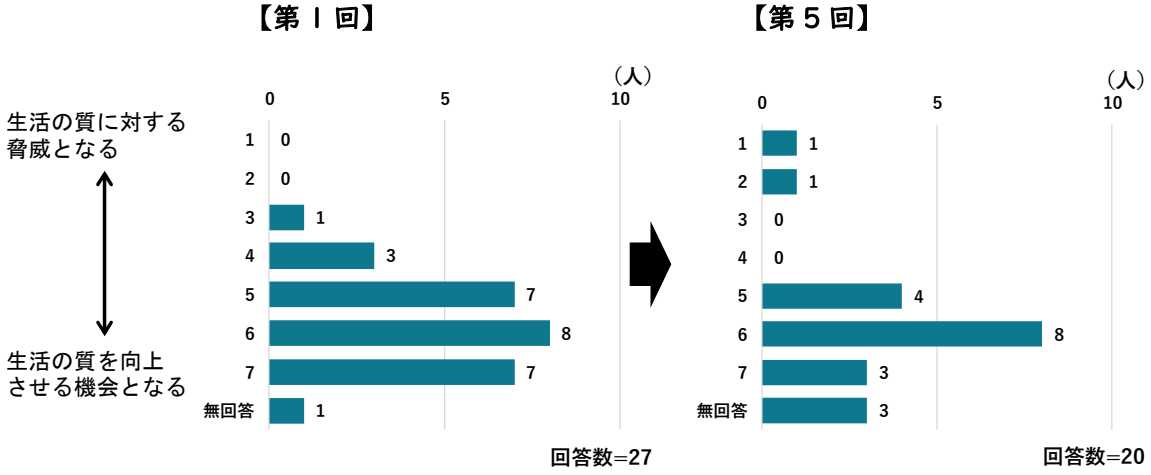
(４) 自身の行動を変えることに対する抵抗の具合

あなたは、脱炭素社会への転換のため、自身の行動を変えることに抵抗はありますか。



(５) 脱炭素社会への転換が生活の質に与える影響の認識

脱炭素社会への転換は、日野市民の生活の質に、全体としてどのような影響を与えると思いますか。



Ⅴ 日野市気候市民会議からの提言

1 日野市気候市民会議の提言を受けた日野市の動き

全５回の会議を通じた市民の議論により、とりまとめた提言は 37 個、取り組みは 390 個にもなります。

日野市はこの提言の内容を精査して、行政の取り組みについて財源や人的資源などから、優先順位をつけて事業化していきます。また、実施が困難なものについては、その理由を明らかにして、説明していきます。市民と事業者の取り組みについても、周知を図りながら、行政の動きと併せて「ロードマップ」を策定し、気候変動対策の推進をしていく予定です。

2 日野市気候市民会議からの提言（提言書より）

(1) カーボンニュートラルシティＨＩＮＯを実現するための前提となる考え方

カーボンニュートラルシティ HINO を実現するため、前提として下記の考え方が必要です。

（１）環境問題を教育や家庭、政治、行政で取り上げる

（２）現時点で取り組めることを洗い出し、すぐにでも実行に移す

（３）社会と意識の「大転換」を起こす

（４）本提言書に書かれた取り組みの進み具合を評価する

また、これらの考え方に沿って取り組みを進めるためには、環境問題を社会に浸透させ、協力し合いながらこの問題に取り組む必要があり、市民、事業者、行政には、下記の役割が必要です。

提言１ 環境問題を社会に浸透させ、協力し合いながらこの問題に取り組む（1/2）

主　体	役割（取り組み）
市　民	① 環境問題について正しい知識、意識を持つ、変化に対応するように努力する ② 環境問題について家庭内で子どもと話す ③ 環境問題について地域で話す、勉強会をする、詳しい人に質問する ④ 環境に配慮した事業者、環境問題に対して取り組む団体を応援する ⑤ 行政や政治に興味を持ち、環境問題に対する取り組みなどに協力する、説明の場を求める ⑥ 選挙の際、環境問題に真剣に取り組む国会議員や市議会議員などに投票する ⑦ 人は健全な地球環境が保たれていないと生きていけないことを認識し、足るを知るという考えを大切にする
事業者	① 環境問題の解決につながるビジネスを行う、知見や技術を共有する ② 事業者単位でカーボンニュートラルを実現する ③ 環境問題に対する取り組みの効果を分かりやすく示す ④ 環境問題の周知、啓発や、環境問題に対する取り組みをメディアや CM、SNS、店舗などで発信する ⑤ 環境問題について知る、取り組むためのイベントを行う ⑥ 環境問題に対する取り組みのための助成金を正しく活用する（助成金分は利益にせず、社会に還元する）

提言Ⅰ 環境問題を社会に浸透させ、協力し合いながらこの問題に取り組む（2/2）

主　体	役割（取り組み）
行　政	①　環境問題に対する市民や事業者への指導を強化する ②　環境問題に対する市民や事業者の取り組みを広報などで紹介する ③　環境問題の現状や取り組みを、広報や掲示物、メディア、CM、SNS などで分かりやすく伝える ④　環境問題に対してみんなで取り組めるようなキャンペーンを企画する、スローガンをかかげる ⑤　環境問題を学校教育に取り入れる（「環境」という教科を追加する、年何回以上授業を行うなどをルール化する）、行政や地域の大人も学校教育に参加する ⑥　既存の施設（カワセミハウスやクリーンセンターなど）を活用し、子どもが環境問題を学ぶことができるようにする（親子で参加できる場や機会を提供する、体験の機会を提供する） ⑦　市民（全員）が環境問題を学ぶ場（イベント、講演会、セミナー、勉強会、学校などでの授業、事業者の取り組みの見学など）を増やす、市民や事業者にも企画や開催に協力してもらう ⑧　市民が環境問題を話し合う場（気候市民会議など）をさらに増やす、少数者、少数派の意見も取り入れる仕組みをつくる ⑨　事業者と行政が連携して環境問題に対して取り組む ⑩　市民と事業者、事業者と事業者をつないで環境問題に対して取り組む仕組みをつくる ⑪　周辺の自治体と連携、情報交換しながら環境問題に対して取り組む ⑫　環境に配慮することが得になる仕組みをつくる ⑬　環境問題に関して市民が分かりやすい基準をつくる、日野市独自の認証マークをつくる 留意点：認証マークは、何のためのマークであるかを一目でわかるようにする必要がある ⑭　カーボンニュートラルを実現するプロジェクトチームを作る ⑮　環境問題に関して何でも気軽に相談できる窓口を作る、誰一人取り残されない仕組みをつくる ⑯　公共施設の二酸化炭素の排出量とそれに対する評価、その後に必要となる取り組みを定期的に公表する（施設単位でカーボンニュートラルを達成する） ⑰　環境問題に対する市民、事業者の取り組みや研究開発を支援する（助成・減税を含む）、環境に配慮している事業に優先的に助成する 留意点：助成による取り組みの成果が社会に還元されるような制度設計とする（助成金分が単に事業者の利益とならないように） ⑱　議員が環境問題を政策として取り上げ、周知、啓発する ⑲　国が中心となって環境問題に対する取り組みを進める ⑳　古い慣習に縛られずに、ゴミ有料化と同じような大胆な政策を立案し、実行する ㉑　本提言書をもとに啓発資料としてとりまとめたものなどを駅や公共施設、商業施設など、多くの人の目に留まる場所で配布する、事業者への説明会を開催して周知する ㉒　本提言書に書かれた政策や取り組みの進み具合を「見える化」して評価するために、市民又は第三者による評価を実施する

(２) モノに関する取り組み

気候市民会議の第２回に「モノ」、第３回に「モビリティ」、第４回に「エネルギー」というテーマを設定し、それぞれの分野の専門家と事業者から情報提供を受けました。また、それらの情報提供を踏まえ、カーボンニュートラルシティＨＩＮＯを実現するための取り組みについて市民同士で議論しました。

このようにして挙げられた取り組みをもとに、第５回で、市民、事業者、行政の役割や、取り組みを進める際の留意点などを再度議論し、提言と取り組みをとりまとめました。

カーボンニュートラルシティＨＩＮＯを実現するためには、ここで取り上げたすべてのテーマに沿って取り組みを進める必要があり、市民、事業者、行政には、下記の役割が必要です。

Ⅰ) 生産と消費

提言２　環境に配慮したモノを普及させる（1/2）

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　環境に配慮した素材（自然由来の素材、脱プラスチックの素材など）、環境に配慮した方法でつくられたモノを選択する ②　プラスチックで包装されていないモノを選択する（包装されていないモノ、紙など自然由来の素材で包装されたモノなど） ③　プラスチックが使用されているモノはバイオマスプラスチックなどに置き換わっているモノを選択する ④　環境認証マークについて調べる、環境認証マークがついたモノを選択する ⑤　環境に配慮したモノをつくる事業者を応援する、積極的に事業者に意見、提案をあげる
事業者	①　環境に配慮したモノをつくり、それをアピールして差別化する ②　環境配慮にかかる費用（素材の産地に適正な費用を支払うことを含む）を事業者が負担し、価格に転嫁する 留意点：環境配慮にかかる費用を消費者にも負担してもらうが、できる限り無駄を減らして消費者の負担を減らす努力をする ③　素材の仕入れから販売までの情報（二酸化炭素排出量など）を透明化し、一連の環境配慮に責任を持つ ④　環境へ負荷をかけることを前提とした利益最優先のモノづくりをやめる（環境を維持できる範囲内で利益を上げる） ⑤　環境に配慮した素材を開発する ⑥　プラスチックが使用されていないモノをつくる（プラスチックではなく紙で包装されたモノなど） ⑦　環境認証を取得する、環境認証マークについて周知、アピールする

提言２　環境に配慮したモノを普及させる（2/2）

主　体	役割（取り組み）
行　政	①　環境に配慮したモノをつくる事業者を支援する（助成・減税を含む） ②　環境に配慮したモノをつくる事業者の表彰制度をつくる ③　業務の発注や物品の購入をする際に、環境への配慮の評価点を反映させる ④　モノをつくる際の環境情報（二酸化炭素の排出量など）を表示させる ⑤　モノをつくる際の二酸化炭素の排出削減量に応じた減税をする ⑥　環境に関する新技術の開発を支援する（助成・減税を含む） ⑦　環境に関する規制、罰則を厳しくする（モノをつくる際の二酸化炭素排出量の基準を設定するなど） ⑧　環境認証マークについて周知、啓発する

提言３　環境に配慮した食を普及させる

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　環境に配慮した方法でつくられた食材（ハウス栽培ではない旬の食材など）、食品を選択する ②　行政の指針などをもとに、年齢などに応じて肉類の大量消費を見直す
事業者	①　環境に配慮した方法で果物、野菜をつくる（ハウス栽培ではない旬の果物、野菜など） ②　環境に配慮した農業へ貢献する ③　飲食店やスーパーなどで、季節ごとに旬の素材を使用したメニューを提供する ④　代替肉の研究を進める 留意点：健康に影響のある添加物を含まない方法でつくる必要がある
行　政	①　肉類の消費量について、年齢に応じた指針を示す

提言４　モノの生産、無駄な消費を減らす（1/2）

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　必要なモノを必要な分だけ買う ②　高くても長く使えるモノ（衣料品など）を買う、大切に長く使う ③　使い捨てを前提としたモノ（衛生や高齢者への配慮の点で使い捨てがやむを得ないものを除く）をできるだけ選択しない ④　容器包装が簡素で、ラベルのついていないモノを選択する ⑤　できるだけ、自宅で飲むお茶は自分で入れ、外出先ではマイボトルを持つ（ペットボトルの消費を減らす） ⑥　電子書籍や図書館を利用し、紙の使用量を減らす（電子書籍は、年齢などに応じて利用できる人のみが選択する） ⑦　ゴミの量を意識する
事業者	①　適正な量をつくる、ロスを減らす ②　長く使えるモノ、流行に左右されず長く着られる服をつくる（このような商品の価格を抑えて消費者が選択できるようにする、リユースを流行させる） ③　モノをつくる際に出るゴミを減らす ④　使い捨てを前提としたモノをつくらない ⑤　過剰な容器包装をやめる ⑥　通常のモノより詰め替えタイプのモノの値段を安くする ⑦　広告より品質向上に資金を使う ⑧　社内資料や広告などの紙の使用量を減らす ⑨　従業員がゴミのでる弁当などを買わないようにする

提言４　モノの生産、無駄な消費を減らす（2/2）

主　体	役割（取り組み）
行　政	①　モノの保証期間を長く設定するように規制する ②　過剰な容器包装が目立つ事業者に注意を促す ③　モノをシェアする考え方について周知、啓発する ④　ゴミの排出量の削減目標を明確にし、排出量の推移などを示して啓発する（ゴミ袋に記載するなど） ⑤　ゴミの有料化を他の自治体にも働きかける（都内全域でルールを統一） ⑥　水道水の利用をアピールし、ペットボトル飲料の消費量を減らす ⑦　手続きを電子化し、紙の使用量を減らす 留意点：高齢者など電子化への対応が難しい人の選択肢を残す必要がある

提言５　地産地消を普及させる

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　国内や地元でつくられたモノを選択する ②　地元でとれた食材を選択する ③　自治会や地域で食の自給を進める 留意点：衛生面に配慮する必要がある
事業者	①　国内や地元の素材でモノをつくる ②　飲食店やスーパーにおいて、地元でとれた食材をつかう、アピールする
行　政	①　地元でつくられたモノ、食材、食品を日野市ブランドとしてアピールする ②　地元でとれた食材を売る仕組みをつくる ③　市民農園（市民が自家用野菜などを育てる農園）を増やす ④　地産地消を取り入れた食育をする ⑤　輸入品への課税を強化する 留意点：国内でも得られる資源、モノに限定するなど、生活コストに配慮する必要がある

２) 販売方法

提言６　環境に配慮した販売方法を普及させる（1/2）

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　できるだけ、プラスチックトレーなどにのった食材、食品を買わない（過剰にプラスチックトレーなどを使用している食材、食品を買わない） ②　マイバックを持ち、レジ袋などをもらわない ③　マイ箸を持ち、割り箸をもらわない、使わない

提言６　環境に配慮した販売方法を普及させる（2/2）

主　体	役割（取り組み）
事業者	①　環境に配慮したモノ（環境認証マークのついているモノなど）を売っていることを分かりやすく示す ②　モノがつくられる際の二酸化炭素排出量などを値札などに表示する ③　包装していないバラ売り、量り売りの売り場を増やす（容器の持ち込みもできるように） ④　古くなったモノの価格を下げる ⑤　環境に配慮したモノを買った際にポイントがつくような仕組みをつくる（バーコード決済と紐づけるなど） ⑥　販売の際の過剰包装をやめる、贈答品の包装をコンパクトかつ簡素化する ⑦　食材、食品のプラスチックトレーを環境に配慮した素材でできた容器などに替える ⑧　使い捨てのスプーンや割り箸をつけるのをやめる
行　政	①　環境に配慮したモノを買った際にポイントがつくような仕組みづくりを支援する（バーコード決済と紐づけるなど） ②　環境に配慮した素材でできた容器の使用を促進するのと同時に、従来のプラスチック容器の使用を廃止する期限を設ける

3) 廃棄、再利用、資源循環

提言７　モノの生産、無駄な消費を減らす（再掲）

市民、事業者、行政の役割は、「提言４」を参照

提言８　食品ロスを減らす（1/2）

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　食べきれる分だけ買う、買いだめをしない ②　賞味期限、消費期限が近い順に買う、おつとめ品（賞味期限、消費期限が近く値引きしているモノなど）を買う ③　冷蔵庫の食材、食品を使い切る ④　食品ロスが少ない方法（皮までおいしく食べられるレシピなど）で調理する、調理方法を人に教える ⑤　少し値段が高くてもオーガニックの果物、野菜を選択し、皮も有効活用する ⑥　出された料理を残さず食べきる

提言８　食品ロスを減らす（2/2）

主　体	役割（取り組み）
事業者	①　食品を必要な量だけつくる ②　規格外の果物、野菜も仕入れる、品質に問題がないことを示して売る ③　賞味期限、消費期限が近い食材、食品の販売場所を分かりやすくする、値段を安くする ④　賞味期限、消費期限が少しでも長い食品をつくる 留意点：食品添加物を使いすぎないように注意する必要がある ⑤　果物、野菜のバラ売り、量り売りをする ⑥　食品ロスが少ない方法で調理する、皮までおいしく食べられるレシピなどを考案し、周知、アピールする ⑦　飲食店で少なめのメニューも用意する ⑧　飲食店で食べ残しを持ち帰ることができるようにする ⑨　環境に配慮していないパーム油※などの使用を減らす ※パーム油は、ポテトチップスやパンなどの加工食品、洗剤、せっけん、化粧品など多くのモノに使用されている。インドネシアやマレーシアでは、パーム油の原料となるアブラヤシを栽培するために、熱帯雨林が大規模に切り開かれ、環境に大きな影響を及ぼしている。 ⑩　子どもが１人で入れる「子ども食堂」を支援する
行　政	①　学校給食で食品ロスがでない仕組みをつくる ②　食品ロスが少ない調理方法について周知、啓発する ③　飲食店で食べ残しを持ち帰ることができるようにすることを支援する（規制を緩くするなど） ④　フードバンク（安全に食べられるのに売ることができない訳あり食品を企業などから寄贈していただき、困窮世帯などに提供する仕組み）をつくる、普及させるためのイベントを行う

提言９　リユース、リサイクルを進める（1/2）

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　モノを買う際に、リユース、リサイクルできるモノを選択する ②　モノを捨てる前に、他の使い道がないかを考える ③　リユースショップ、フリーマーケット、フリマアプリを利用する（必要なものを買い、不要になったものを売る） ④　ゴミの分別方法や分別したモノが何にリサイクルされるかを学び、分別を徹底する ⑤　生ゴミをたい肥化して利用する
事業者	①　リサイクル資源を使ってモノや容器包装をつくる ②　分別しやすくリサイクルしやすいモノや容器包装をつくる（ラベルを剥がしやすくするなど） ③　回収して再度使うことができる容器包装をつくる ④　リサイクルなどにかかる費用を表示する ⑤　古着の店やリユースショップを増やす（学生服なども取り扱う） ⑥　引っ越し業者とリユースショップが連携し、リユースするものを増やす ⑦　フリマアプリを高齢者でも使いやすいようにする ⑧　コンビニの店頭にあるゴミ箱の分別を細かく分ける ⑨　プラスチックでできているモノや容器包装などを販売している店で回収する、回収できる店を増やす（「容器包装　お返し大作戦！」に協力する）

提言9　リユース、リサイクルを進める（2/2）

主　体	役割（取り組み）
行　政	①　行政施設でもゴミの分別を徹底する ②　ゴミの分別方法を分かりやすくする ③　ゴミの分別をより細かくする（都内全域で分別ルールを統一し、リサイクル業者が扱いやすくなるようにする） ④　ゴミの分別方法について周知、啓発する ⑤　ゴミの分別が徹底できている地域に特典をあたえる 留意点：不公平にならない基準を検討する必要がある ⑥　ゴミの処理やリサイクルの状況、効果を分かりやすく示す ⑦　学校などで先輩から後輩へのお下がりの仕組みをつくる ⑧　行政施設や公園などに不用品の交換の場などをつくる ⑨　家電４品目のリサイクルの仕組みを参考に、他のモノのリサイクルの仕組みをつくる ⑩　容器包装などを事業者が回収することを義務化する ⑪　国レベルでプラスチックのリサイクルを進める ⑫　ゴミの処理やリサイクルを行う施設の予算を増やす ⑬　生ゴミのたい肥化に助成する ⑭　生ゴミをたい肥化して利用する市民農園（市民が自家用野菜などを育てる農園）をつくる ⑮　剪定枝、細い枝、草・葉を回収し、たい肥などにリサイクルする

提言 10　街なかのごみを減らす（海洋プラスチックを減らす）

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　ゴミのポイ捨てをしない
事業者	①　自動販売機の横に、必ずペットボトルなどの回収ボックスを設置する ②　プラスチック片が流れ出す人工芝を使わないようにする
行　政	①　ゴミのポイ捨てを禁止する条例をつくる ②　ゴミの収集場所で鳥獣対策を行いゴミが散乱しないようにする（ゴミの出し方のルールを決めて徹底させるなど）

提言 11　ゴミの収集、処理の過程で環境に配慮する

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　ゴミを小さくまとめて出す（ゴミ袋や回収車両の稼働台数を減らす）

(3) モビリティに関する取り組み

1) 自家用車、社有車、公有車

提言 12　自動車の台数を減らす、走行距離を減らす

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　自家用車の使い方を工夫する（できるだけ持たない、乗らないなど） 留意点①：公共交通機関などを充実させる必要がある 留意点②：自家用車でしか移動できない人へ配慮する必要がある ②　カーシェアリング（会員登録することで、無人のカーステーションにある車をいつでも必要なときに必要な時間だけ利用できるシステム）を活用する ③　用事を一度に済ませ、自家用車に乗る回数、走行距離を減らす ④　買い物や送迎の際は、近所の人と一緒に 1 台の自家用車で移動する 留意点：近隣住民と助け合いできる関係性をつくる必要がある
事業者	①　自動車の製造を（現状の利益と変わらない程度に）減らす代わりにそのほかの事業を開拓する ②　カーシェアリングを普及させる（ステーションを増やす、アプリなどで使いやすくする） ③　駅やバス停の近くに駐車場を整備して、自家用車と公共交通機関を組み合わせた移動（パーク＆ライド）を促す（自家用車での移動を最寄りの駅又はバス停までの最小限にする） ④　従業員の通勤や出張の際に、自家用車や社用車ではなく公共交通機関を利用させる
行　政	①　運転免許証を返納した人に特典をあたえる（公共交通機関の無料乗車券など） ②　カーシェアリングの普及を支援する ③　自家用車の乗り合いのルールをつくる、ポスターなどで周知、啓発する ④　時間帯を指定して、駅周辺などを自家用車乗り入れ禁止にする 留意点：乗り入れ禁止にする時間帯は、生活に支障が出ないように検討する必要がある ⑤　ノーマイカーデーの制度をつくる ⑥　東京都駐車場条例にある「駐車施設の附置義務」を見直す

提言 13　環境に配慮した自動車を普及させる（1/2）

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　環境に配慮した自家用車（電気自動車など）に買い替える 留意点①：バッテリー交換などのメンテナンス費用を安くする必要がある 留意点②：電気自動車の充電スポットなどを増やす必要がある 留意点③：購入費用が高いうちは、購入を助成する必要がある ②　自家用車を購入する際は、家族のライフスタイルに合った適切な大きさのものを選択する

提言 I3　環境に配慮した自動車を普及させる（2/2）

主　体	役割（取り組み）
事業者	①　環境に配慮した自動車（電気自動車など）の販売比率を増やす ②　環境に配慮した自動車（電気自動車など）をもっと魅力的なものにする（良いデザイン、多彩な車種、高性能なバッテリーの搭載、低価格など） ③　環境に配慮した自動車（電気自動車など）に買い替える際に割引する ④　環境に配慮した自動車（電気自動車など）について、既存のガソリン車、ディーゼル車とのスペックの違いを分かりやすく示す ⑤　電気自動車の充電スポットを増やす（マンション、ショッピングモール、ガソリンスタンドなど） ⑥　ワイヤレスで道路から電気自動車に充電できるシステムを開発する ⑦　燃料電池自動車の水素充填スポットを増やす ⑧　電気自動車の充電スポットの利用料を安く（無料に）する ⑨　新しいタイプの車両（自動運転車、超小型車、グリーンスローモビリティなど）を開発する ⑩　既存のガソリン車、ディーゼル車に入れることができる脱炭素燃料を開発する
行　政	①　環境に配慮した自動車（電気自動車など）の販売比率を定めて義務化する（義務化する年を明確に設定する） ②　環境に配慮した自動車（電気自動車など）の購入を助成する 留意点：不公平にならないように助成の基準を明確にする必要がある ③　公有車を環境に配慮した自動車（電気自動車など）に買い替える ④　電気自動車の充電スポットを増やすことを支援する（マンションへの設置費用を行政が負担する） ⑤　ワイヤレスで道路から電気自動車に充電できるシステムの開発のために実証実験の場を提供する ⑥　新しいタイプの車両の普及を見据えて道路運送車両法を改正する ⑦　自動車の不正改造の取り締まりを強化する

提言 I4　環境に配慮した運転を普及させる

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　自動車に不要な荷物（ゴルフバックなどの重量物）を載せたままにしない（自動車を軽くして燃費をよくする） ②　アイドリングを減らす、加速、減速の少ない運転を心がける ③　すいている道、時間帯を選んで移動する

2）公共交通機関など

提言 I5 環境に配慮した公共交通機関を使いやすくする（自家用車や飛行機に依存しない社会）

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　できるだけ公共交通機関を利用する（自家用車に乗らない）
事業者	①　公共交通機関を使いやすくする（運行本数を増やす、ルートを見直す、ベビーカーも乗せやすい構造にするなど） ②　利用状況を踏まえながらバスの運行本数や走行距離を見直す 留意点：生活に支障が出ないように本数や走行距離を検討する必要がある ③　公共交通機関の利用料を安く（無料に）する、定額制にする ④　事業所において勤務時間のフレックス制を導入し、公共交通機関の利用者を分散させて混雑を解消する（同じ運行本数で多くの人を運ぶ） ⑤　公共交通機関の冷暖房の設定温度を控えめにする 留意点：利用者の体調に悪影響を及ぼさない温度にする必要がある ⑥　バスを小型化して燃費をよくする ⑦　バスの屋根に太陽光発電システムを設置する ⑧　移動に適した手段、組み合わせを教えてくれるアプリをつくる
行　政	①　公共交通機関を使いやすくする（ミニバスの運行本数を増やす、ルートを見直すなど） ②　バス専用レーン、バス優先レーンを整備して遅延しないようにする ③　次世代型路面電車システム（LRT）を整備する ④　公共交通機関の利用料を安く（無料に）する、定額制にするための制度をつくる ⑤　公共交通機関を利用する人が得になる仕組みをつくる ⑥　シルバーパスを使いやすくする（乗ることができる交通機関を増やす、交通系 IC カードに組み込むなど） ⑦　公共交通機関を利用した生活モデルについて周知、啓発する（チラシを配るなど） ⑧　公共交通機関の車両をリサイクルする（他の地域への譲渡など）

提言 I6　新しいタイプの相乗り型交通機関を普及させる（高齢者も移動しやすい社会）

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　タクシーを利用する際、同じ方向に向かう人と相乗りする（相乗りサービスを利用する）
事業者	①　予約制の相乗りバス（デマンドバス）を普及させる ②　一般のドライバーが自家用車を使って乗客を運ぶ仕組み（共助型ライドシェアシステムなど）を普及させる
行　政	①　予約制の相乗りバス（デマンドバス）の普及を支援する ②　介護施設、病院などの送迎車などを利用し、目的地が同じ乗客を運ぶ仕組みをつくる

3) 街づくり

提言 17　自動車の流れをスムーズにする

主　体	役割（取り組み）
行　政	①　渋滞が激しい道路を拡幅する、バイパスを整備する ②　渋滞が起こりにくくなるように信号機の制御を最適化する（青信号が続くようにするなど） ③　渋滞を招く路上駐車の取り締まりを強化する

提言 18　遠くに出かけなくても生活できる魅力的な街をつくる

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　近隣住民と助け合いできる関係性をつくる
事業者	①　食材や食品、日用品などの移動販売を普及させる ②　食材や食品、日用品などを近場でも安く買えるようにする（コンビニで販売、大型スーパーをつくるなど） ③　集客力のある街づくりをする（道の駅をつくるなど） ④　不動産開発の際は周辺の交通機関の整備も含めて行う
行　政	①　土日に過ごすことができる商業施設や公園をつくる ②　高齢者や子育て世代で、周辺にお店などがある便利な場所に移りたい人を支援しながら、自動車に依存せず生活コストが低いコンパクトな街をつくる ③　保育施設、介護施設などを増やす

提言 19　地域ごとの特性を踏まえながら、だれもが移動しやすい街をつくる

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　自治会などを通じ、地域ごとの交通手段に関する要望を行政に伝える
事業者	①　地域ごとの特性を踏まえながら、高齢者も使いやすい交通手段を増やす
行　政	①　地域ごとの交通手段に関する相談を受ける場を設ける

4) 徒歩、自転車

提言 20　徒歩、自転車での移動を増やす（自家用車に依存しない社会）（1/2）

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　できるだけ、徒歩、自転車で移動する（健康を意識する、自家用車に乗らない） 留意点：安全に移動できる歩道、自転車専用レーンを整備する必要がある ②　シェアサイクルを活用する ③　電動自転車を活用する
事業者	①　シェアサイクルのポートを増やす（集合住宅、駅前など） ②　誰でもシェアサイクルを使えるように車種を増やす（三輪タイプなど） ③　交通事業者などが駅やバス停の近くに駐輪場を整備する（建物の空きスペースや地下の活用など） ④　電車内へ自転車を持ち込むことができるようにする 留意点：シェアサイクルのポートを増やすことで同様の効果が得られる場合にはこの取り組みは不要となる ⑤　歩いた距離や歩数に応じて特典がもらえるアプリなどを事業者がつくる ⑥　足が悪い人でも快適に歩ける技術や環境をつくる

提言 20　徒歩、自転車での移動を増やす（自家用車に依存しない社会）(2/2)

主　体	役割（取り組み）
行　政	①　自転車の購入を助成する（自家用車を持たない人限定など） ②　シェアサイクルのポートを増やすのを支援する（集合住宅、駅前など） ③　自転車専用レーンをつくる、歩道を広くして段差をなくす（無電柱化など） ④　自転車専用レーンのマップをつくる ⑤　行政が駅やバス停の近くに駐輪場を整備する（建物の空きスペースや地下の活用など） ⑥　自転車のルール違反や盗難の取り締まりを強化する ⑦　歩いた距離や歩数に応じて特典がもらえるアプリなどを行政がつくる ⑧　みどりが多く歩きたくなる街並みをつくる

5) 物流

提言 21　モノを運ぶ距離や量を減らす

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　ネットショップで買い物をする際はまとめ買いをして配送車の稼働台数を減らす ②　時間指定や置き配（宅配ボックスなど)、宅配ロッカーを活用し、再配達にならないようにする
事業者	①　使いやすくて安い宅配ボックスをつくる、普及させる ②　宅配ロッカーを増やす、コンビニや郵便局でも受け取れるようにする ③　宅配の時間指定を細かくして、再配達を防止する ④　宅配の時間を指定するのではなく、不在時間を指定させるようにして、柔軟に効率的なルートで配送できるようにする（時間が指定されていると配送ルートの選択肢が少なくなるが、不在時間が指定されているだけであれば配送ルートの選択肢が増え、効率的なルートで配送できる） ⑤　置き配を基本にする、置き配の場合に割引する ⑥　宅配の再配達が環境や運転手に負荷をかけていることを周知して再配達を減らす、それでも減らなければ再配達の有料化を検討する（再々配達以降を有料にするなど） ⑦　受け取り方法（場所、時間指定など）を分かりやすく示し、変更しやすくする（アプリの活用など） ⑧　宛先が同じ荷物をひとつにまとめて配送する（まとめ買いに対して割引する)、再配達の荷物をひとつにまとめて配送する（事業者間で連携して配送車の稼働台数を減らす） ⑨　再配達が多い人に対して、個別に宅配ボックスなどの案内をする ⑩　製品を小型軽量化する、容器包装を小さくする（配送車の稼働台数を減らす、宅配ボックスに入りやすくする）
行　政	①　宅配ボックスの設置を推奨する、設置に助成する ②　宅配ロッカーの場所などを周知する（広報誌など）

提言 22　地産地消を普及させる（再掲）

市民、事業者、行政の役割は、「提言５」を参照

提言 23　環境に配慮した方法でモノを運ぶ

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　環境に配慮した配送業者を選択する
事業者	①　配送車のアイドリングを減らす、加速、減速の少ない運転を心がける ②　長距離配送の際は、飛行機やトラックを使わずに鉄道や船舶を使う、配送が遅くなる分、消費者に対して特典をあたえる（値引きなど） ③　電車に配送の荷物を載せるスペース（車両）を設ける ④　ダブル連結トラックなどを活用し、一度に運ぶ量を増やす（労働時間の削減にもつながる） ⑤　環境に配慮したトラック（電気トラックなど）に切り替える ⑥　ドローンなどによる配送を普及させる ⑦　配送業者が環境情報（二酸化炭素排出量）などを分かりやすく示す（通販サイトにも示す） ⑧　簡易な包装にする、包装資材を回収してリサイクルに回す
行　政	①　タイヤの不法投棄などの取り締まりを強化する ②　配送業者（零細企業）に助成する

(4) エネルギーに関する取り組み

1) 市民の省エネ

提言 24　断熱性の高い省エネ住宅を普及させる

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　自宅の建て替えや転居の際には、断熱性の高い省エネ住宅（パッシブデザインなどの採用）を選択するように努力する ②　自宅をリフォームする際には、同時に省エネ改修（壁や窓、ドアの断熱強化など）も行うように努力する
事業者	①　家を建てる際に断熱性の高い省エネ住宅を提案する ②　リフォームする際などに断熱改修を提案する ③　省エネ住宅を建てることや断熱改修をすることの効果をアピールする ④　住宅の断熱性能を調べることができる機械やアプリなどを開発する
行　政	①　省エネ住宅を建てることや断熱改修をすることに助成する ②　省エネ住宅を建てる優良事業者や断熱改修をする優良事業者を登録して紹介する ③　省エネ基準を満たしていない集合住宅のオーナーに助成制度を案内する ④　戸建住宅、集合住宅のそれぞれにあった対策を検討する

提言 25　省エネ家電、省エネグッズを普及させる

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　古い家電を省エネ家電に買い替えるように努力する 留意点：長期的にみると家計のお得につながることを事業者がアピールする必要がある ②　自宅の照明を LED に取り替える ③　自宅の大がかりな断熱改修が難しい場合は、DIY により窓やドアなどを断熱する（隙間テープ、断熱フィルム、簡易内窓など） ④　自宅の窓にすだれ、緑のカーテン、断熱カーテンなどをつける ⑤　その他さまざまな省エネグッズを活用する（節水シャワーヘッド、人感センサー付き照明など） ⑥　家電の点検、掃除を行い、性能を維持する ⑦　省エネグッズのアイディアを事業者に提案する
事業者	①　省エネ家電、省エネグッズを開発する、性能を向上させる ②　省エネがどのぐらい家計のお得につながっているのかを分かりやすく示して省エネ家電、省エネグッズを売る ③　家電の適切な買い替え時期を分かりやすく示す（何年以上使用すると、最新の省エネ家電に買い替えた方がトータルで二酸化炭素排出削減につながるのかなど） ④　省エネグッズをプレゼントする
行　政	①　省エネ家電への買い替え、省エネグッズの購入に助成する、ポイントやクーポンをつける ②　古い家電を買い取り、省エネ家電への買い替えを促す ③　家電のリサイクル料金を安くする、省エネ家電に買い替えるなら無料にする ④　優良な省エネグッズを一覧にして紹介する

提言 26　省エネ型ライフスタイルを普及させる

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　冷暖房の設定温度を控えめにする（衣服や布団で温度調節をする）、サーキュレーターを併用する ②　家族が同じ部屋ですごし、冷暖房の使用を１つの部屋だけにする ③　冷蔵庫の設定温度を控えめにする、冷蔵庫に食品を詰めすぎないようにする ④　お風呂に続けて入る、シャワーの時間を短くする、湯船のお湯の量を少なめにする、給湯温度を控えめにする ⑤　早寝早起きをして明るい時間に活動するなど、エネルギー消費を減らす生活を意識する ⑥　その他さまざまな省エネ行動を行う（待機電力の削減、こまめな消灯、湯たんぽの使用など） ⑦　夏や冬に近所の公共施設や商業施設などですごし、自宅でのエネルギー消費（冷暖房など）を減らす ⑧　毎月の電力やガスの消費量などを記録して省エネを意識する
事業者	①　市民の省エネ量や二酸化炭素排出削減量を調べることができる機械やアプリなどを開発する
行　政	①　市内放送などで省エネを呼びかける ②　省エネ家計簿（毎月の電力やガスの消費量などを記録するもの）の活用について周知、啓発する ③　家庭の省エネ診断を普及させる、希望した世帯を訪問する ④　省エネや二酸化炭素排出量を削減した家庭に減税する ⑤　夏や冬に近所の公共施設や商業施設ですごすことを促し、家庭でのエネルギー消費（冷暖房など）を減らす ⑥　市民の省エネ量や二酸化炭素排出削減量を調べることができる機械やアプリなどの開発を支援する（アイディア募集など） ⑦　サマータイムの導入を検討する 留意点：省エネ量や健康へのリスクなど、様々な面で効果を検討する必要がある

2）事業者の省エネ

提言 27　省エネ機器を普及させる

主　体	役割（取り組み）
事業者	①　事業所や店舗の照明を LED に取り替える ②　事業所や店舗の照明に人感センサーを付けて自動で消灯するようにする
行　政	①　省エネ機器について周知、啓発する、相談会を行う

提言 28　省エネ型ビジネススタイルを普及させる

主　体	役割（取り組み）
事業者	①　事業所や店舗で省エネに取り組み、内外にアピールする（コスト削減分を福利厚生などで還元して従業員のモチベーションを上げる） ②　残業を減らし（ゼロにし）、夜間のエネルギー消費を減らす ③　事業所や店舗で使用する機器は、使用していない時間（営業時間外など）に電源を落とす（OA 機器のスリープモードの活用など） ④　事業所や店舗の冷暖房の設定温度を控えめにする（従業員は衣服で温度調整する） ⑤　事業所や店舗で冷暖房時にドアを閉める ⑥　食品売り場の冷蔵庫に扉をつける ⑦　事業所や店舗の照明を適切な明るさにする ⑧　店舗の看板の照明を控えめにする ⑨　利用者の少ない時間帯の店舗営業を控える ⑩　シェア店舗（営業時間が異なる店舗がひとつの建物を共有する仕組み）を増やし、建物とエネルギーを効率的に使う
行　政	①　利用者の少ない時間帯の営業を制限する 留意点：業種や地域によって、生活に影響がでないような制限の内容を検討する必要がある

3）街の省エネ

提言 29　エネルギー消費が少ない街をつくる

主　体	役割（取り組み）
事業者	①　事業所や商業施設で消費するエネルギーを、その建物で得られる再生可能エネルギーを超えない範囲に抑える ②　トイレの洗浄水を下水再生水に切り替える ③　街灯を LED に取り替える
行　政	①　公共施設で消費するエネルギーを、その建物で得られる再生可能エネルギーを超えない範囲に抑える（カーボンニュートラル）、効果をわかりやすい指標として示してアピールする ②　市内のエリアごとの二酸化炭素排出削減量を示して意識を向上させる ③　公共施設の冷暖房の設定温度を控えめにする（規制する） ④　公営住宅を中心としたエネルギー消費が少なく雨水を最大限に利用するモデルシティを目指す

提言 30　熱をため込まない街、気温が上がっても快適に過ごせる街をつくる

主　体	役割（取り組み）
事業者	①　店舗の前などでドライミスト（霧状の水を蒸発させて周辺を涼しくするもの）を散布する ②　建物や敷地内の舗装の素材を遮熱性のあるものや保水性のあるものに置き替え、熱をため込まない街をつくる ③　敷地内の舗装の素材を透水性のあるものに置き替え、街の湧水を保全する
行　政	①　歩道などでドライミストを散布する ②　道路などの素材を遮熱性のあるものや保水性のあるものに置き替え、熱をため込まない街をつくる ③　道路などの素材を透水性のあるものに置き替え、街の湧水を保全する

4) エネルギー転換

提言 31　太陽光発電システムを普及させる

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　自宅に太陽光発電システムを設置する 留意点①：設置することによる効果や金銭的メリットと、生産から廃棄までの過程での環境負荷などのデメリットを丁寧に周知する必要がある 留意点②：設置費用が高いうちは、設置を助成する必要がある ②　自宅の太陽光発電システムで余った電気を優先的に電気自動車に充電する ③　ソーラーモバイルバッテリー（小型の太陽光パネルとバッテリーを組み合わせたもので、スマートフォンの充電などに使う）などを活用する
事業者	①　住宅への太陽光発電システムの設置を提案する（何年後に元が取れるのかなど具体的な数字を使ってアピールする） ②　集合住宅の屋上に太陽光発電システムを設置する ③　集合住宅のベランダなどに設置できる太陽光発電システムを開発する ④　事業所や商業施設に太陽光発電システムを設置する ⑤　ソーラーシェアリング（農地に太陽光発電システムを設置し、農業と発電の両方を行う仕組み）を普及させる ⑥　製造やリサイクルの際の環境への負荷が低く、発電効率が高い太陽光発電システムを開発する（ペロブスカイト型パネルなど） ⑦　宇宙空間で稼働する太陽光発電システムを開発する 留意点：想定外の環境影響などを生じさせないように検討する必要がある ⑧　導入のハードルが低い小規模な太陽光発電システムを開発する
行　政	①　公共施設や公営住宅に太陽光発電システムを設置し、屋上や敷地内に降った雨水を雑用水に使えるようにする（災害時の電力や雑用水の確保も兼ねる） ②　未利用地（道路上、線路上など）に太陽光発電システムを設置する 留意点：乱開発を防止するため、発電効率のよい設置地域や場所を考慮したうえで、優先地域から設置を促していく必要がある ③　太陽光発電システムの設置を助成する ④　太陽光発電システムの効果や金銭的なメリットと、生産から廃棄までの過程での環境負荷などのデメリットを公平に説明したうえでアピールする ⑤　太陽光発電システム設置の優良事業者を登録して紹介する ⑥　ソーラーシェアリングの普及を支援する ⑦　太陽光発電システムで得られた電力の買い取り価格を引き上げる ⑧　太陽光発電システムから導線が盗難されることなどへの対策を強化する

提言 32　市内の再生可能エネルギーの利用を進める

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　できるだけ再生可能エネルギーを導入している商業施設などを利用する ②　自治会や地域が中心となってエネルギーの自給を進める（市民が出資して自分たちの手で再生可能エネルギーを活用した発電所「市民電力発電所」をつくるなど）
事業者	①　市内又は市近郊の薪を利用した薪ストーブ※を普及させる ※薪ストーブは、雑木林の管理の過程で出てくる木材や、木材の加工の過程でてでてくる端材を利用することで、トータルで見た場合の二酸化炭素の排出量を既存のストーブより減らすことができる ②　テーマパークなどの施設を作る際は、敷地内の再生可能エネルギー（太陽光、風力、小水力など）のみで運営できる施設にする
行　政	①　地形を生かした再生可能エネルギー発電を導入する（用水路を活かした小水力発電など）

提言 33　市外の再生可能エネルギーの利用を進める

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　自宅の電力を再生可能エネルギー由来の電力の契約に切り替える
事業者	①　発電事業者、送電事業者、小売事業者を完全に分離し、再生可能エネルギー由来の電力を中心に扱う新電力会社と、大手電力会社との競争を公平にする ②　電線以外のエネルギー伝達方法を開発する
行　政	①　公共施設の電力を再生可能エネルギー由来の電力の契約に切り替える

提言 34　電力のピークカット、ピークシフトを進める

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　自宅に太陽光発電システムを設置する際に蓄電池も設置し、発電した電力を夜間や曇りの日にも使えるようにする
事業者	①　再生可能エネルギー由来の電力の余剰電力を活用する（蓄電、周辺の施設への融通など） ②　蓄電池のリユース、リサイクルの方法を確立する

提言 35　熱利用の脱炭素化を進める

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　ガスコンロを IH クッキングヒーターに切り替えるなど、熱利用の脱炭素化を図る生活をする
事業者	①　再生可能エネルギーを用いて製造した水素と二酸化炭素からメタンを合成するメタネーションを実用化させ、既存のガス機器を使用したまま熱利用の脱炭素化を進める

提言 36　未利用エネルギーを活用する、新エネルギーを開発する

主　体	役割（取り組み）
事業者	①　工場などで発生する熱を利用する（工場内での再利用など） ②　新エネルギーを開発する
行　政	①　下水道の熱を利用する（冷暖房、給湯など） ②　可燃ごみ処理施設で発生する熱を利用する（発電、公衆浴場の給湯など）

(５) その他の取り組み

提言 37　二酸化炭素の吸収を進める

主　体	役割（取り組み）
市　民	①　街のみどりを増やす活動に参加する ②　自宅のブロック塀を生垣に替える 留意点：費用を助成するか、新築に限る必要がある
事業者	①　街のみどりを増やす活動に協力する ②　事業所や商業施設の土地にみどりを増やす ③　二酸化炭素を吸収する装置を開発する
行　政	①　住宅を建てる際に、一定の広さのみどりをつくる（残す）ことを推奨する 留意点：管理しやすい設計にすることや助成することを検討する必要がある ②　住宅のブロック塀を生垣に替える費用を助成する ③　街のみどりを増やす、既存のみどりを保全する（創出するみどり、保全するみどりの面積に関する目標設定など）

日野市気候市民会議　実施の記録

2024 年 3 月発行

発行　日野市 環境共生部 環境保全課
編集　アオイ環境株式会社